

第2部 調査結果

I 高齢者向け調査の結果

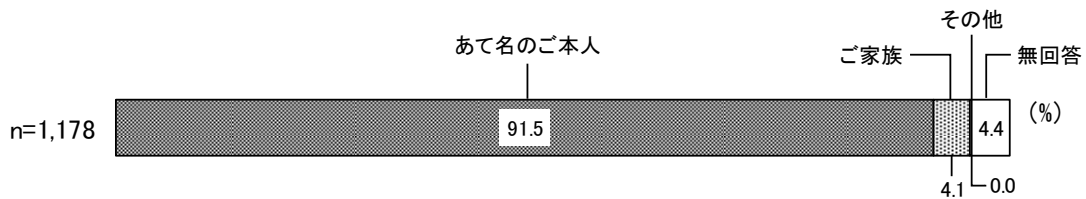
ア 高齢者の生活実態調査（調査A）

本調査は、区内にお住まいの60歳以上の方を対象としており、有効回答数は1,178件、回収率は58.9%であった。

1. 回答者の属性（状況）

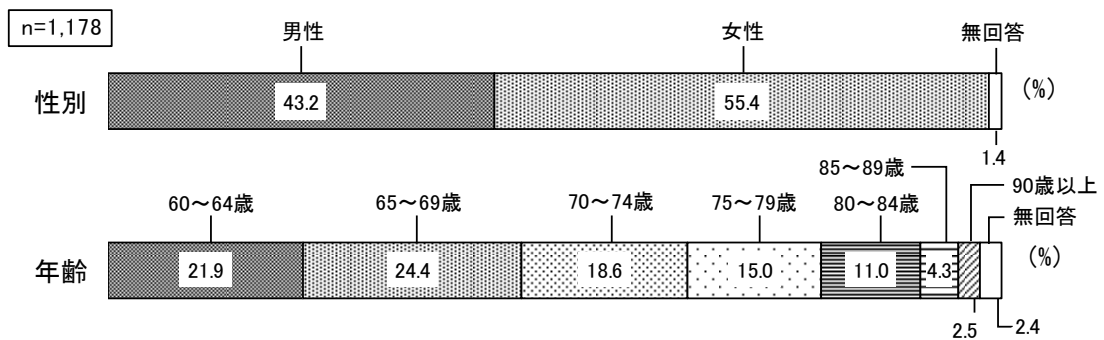
(1) 調査票の記入者

問1：調査票を記入されたのはどなたですか。



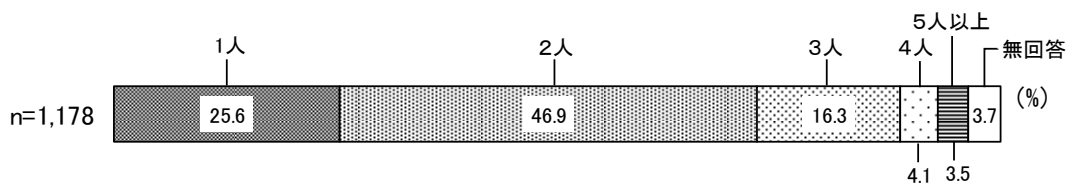
(2) 性別・年齢

問2：あなたの性別と、平成28年11月1日現在の満年齢を記入してください。



(3) 世帯

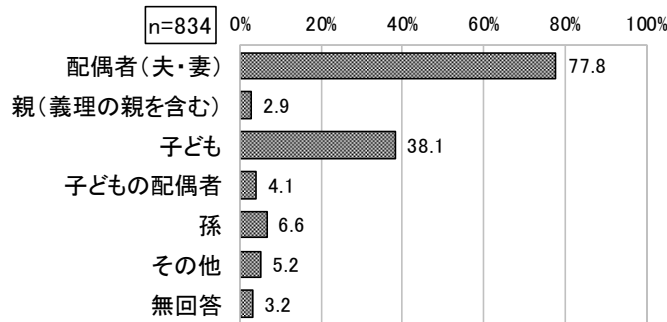
問3：あなたの世帯は、あなたを含めて何人で暮らしていますか。[世帯の人数__人]



(4) 同居者の続柄

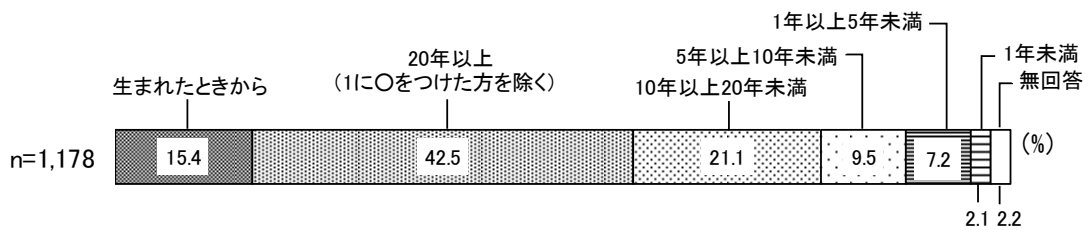
【問3で2人以上で暮らしている方】

問3-1：同居している方の続柄をお聞きします。【複数回答】



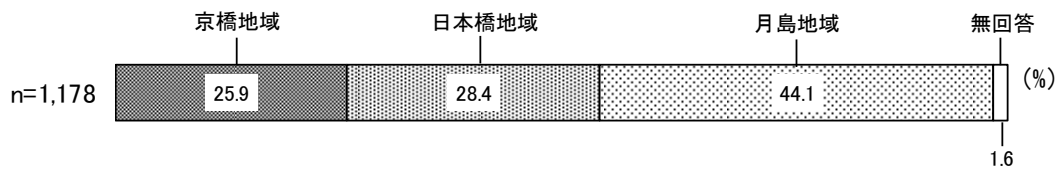
(5) 居住期間

問4：あなたは、どのくらい中央区に住んでいますか。



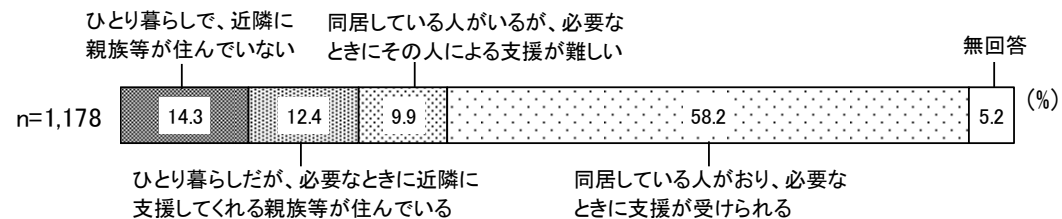
(6) 居住地域

問5：現在あなたのお住まいになっている地域はどこですか。



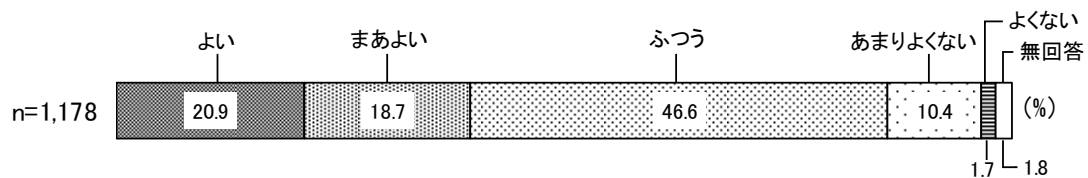
(7) 生活状況

問6：現在のあなたの生活状況をお聞きします。



(8) 健康状態

問7：あなたは、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。



2. 高齢者に対する認識

(1) 高齢者意識

① 本人の高齢者意識

問8：あなたは、自分を高齢者だと感じていますか。

●自分を高齢者だと感じていない人が52.0%



本人の高齢者意識（性別・年代別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)		
			1 はい	2 いいえ	無回答
全体		1,178 100.0	518 44.0	612 52.0	48 4.1
性別	男性	509 100.0	203 39.9	283 55.6	23 4.5
	女性	653 100.0	309 47.3	319 48.9	25 3.8
年代別	60～64歳	258 100.0	36 14.0	219 84.9	3 1.2
	65～69歳	287 100.0	77 26.8	199 69.3	11 3.8
	70～74歳	219 100.0	106 48.4	103 47.0	10 4.6
	75～79歳	177 100.0	117 66.1	46 26.0	14 7.9
	80～84歳	129 100.0	99 76.7	25 19.4	5 3.9
	85～89歳	51 100.0	45 88.2	4 7.8	2 3.9
	90歳以上	29 100.0	25 86.2	1 3.4	3 10.3

性別で見ると、男性は女性と比べて、自分を高齢者と感じていない割合が高い。

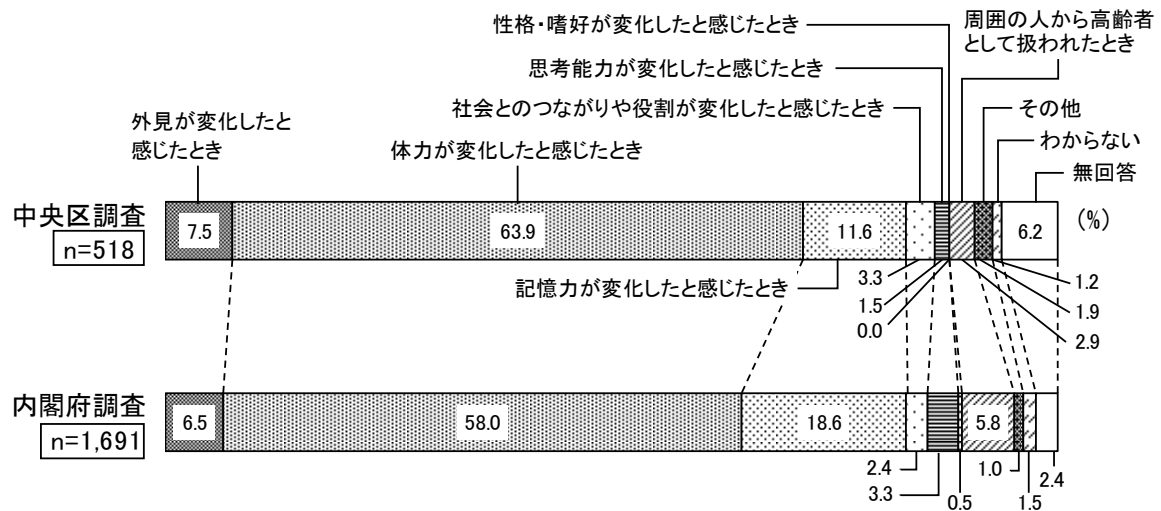
年代別で見ると、75歳以上は74歳以下の年代と比べて、自分を高齢者と感じている割合が高い。

② 高齢者意識を感じるとき

【問8で「1. はい」と回答の方】

問8-1 自分が高齢者だと感じるのはどのようなときですか。最もあてはまるものを、お答えください。

● 「体力が変化したと感じたとき」が63.9%



中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区の高齢者は全国の高齢者と比べて、「体力が変化したと感じたとき」の割合が高く、「記憶力が変化したと感じたとき」の割合が低い。

内閣府調査について

内閣府調査とは、内閣府が平成26年に実施した「高齢者の日常生活に関する意識調査」を指し、平成6年、平成11年、平成16年、平成21年に引き続き5回目の実施となる。

本調査は、日常生活の状況、生活の満足度、衣食住をはじめ、家事、外出、日常的楽しみ、日常生活の情報に関する満足度など、高齢者の日常生活全般の実態と意識を把握し、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的としている。

図中表記：内閣府調査

調査対象：全国の60歳以上（平成26年10月1日現在）の男女6,000人

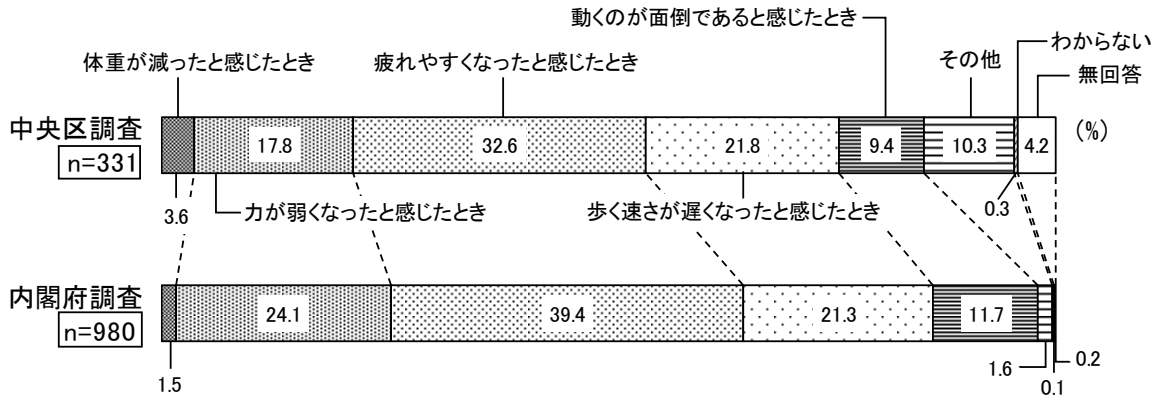
有効回収数：3,893票（64.9%）

③ 体力の変化を感じる時

【問8-1で「2. 体力が変化を感じたとき」と回答の方】

問8-2：体力の変化をどのようなときに感じますか。最もあてはまるものを、お答えください。

● 「疲れやすくなったと感じたとき」が32.6%



<その他の回答>

- 歩けなくなった ○平らな所で転ぶようになった ○食事量が少なくなった
- 目、耳が悪くなった ○消化機能が悪くなった ○病気が多く通院が増えた

中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区の高齢者は全国の高齢者と比べて、「力が弱くなったと感じたとき」や「疲れやすくなったと感じたとき」の割合が低い。

体力の変化を感じる時（性別）

		全体	体力の変化を感じる時							
			1	2	3	4	5	6	7	
			体重が減ったと感じたとき	力が弱くなったと感じたとき	疲れやすくなったと感じたとき	歩く速さが遅くなったと感じたとき	動くのが面倒であると感じたとき	その他	わからない	無回答
全体		331 100.0	12 3.6	59 17.8	108 32.6	72 21.8	31 9.4	34 10.3	1 0.3	14 4.2
性別	男性	127 100.0	4 3.1	29 22.8	32 25.2	33 26.0	12 9.4	13 10.2	0 0.0	4 3.1
	女性	199 100.0	8 4.0	29 14.6	76 38.2	37 18.6	18 9.0	20 10.1	1 0.5	10 5.0

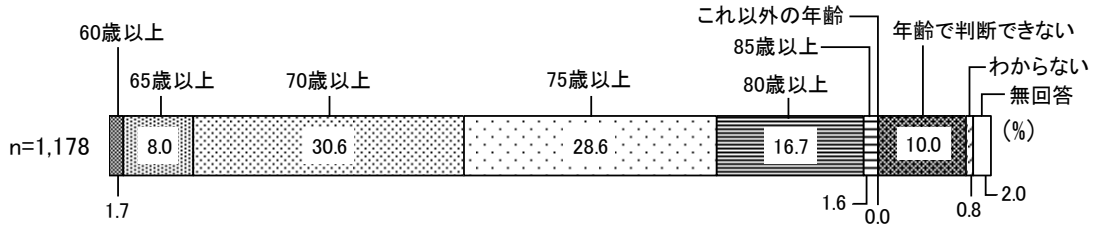
性別で見ると、男性は女性と比べて、「力が弱くなったと感じたとき」や「歩く速さが遅くなったと感じたとき」の割合が高く、「疲れやすくなったと感じたとき」の割合が低い。

(2) 「高齢者」に対する年齢意識

① 「高齢者」だと思う年齢

問9：あなたは、「高齢者」とは何歳以上だと思いますか。

● 「70歳以上」（30.6%）が最も多く、次いで「75歳以上」（28.6%）



「高齢者」だと思う年齢（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

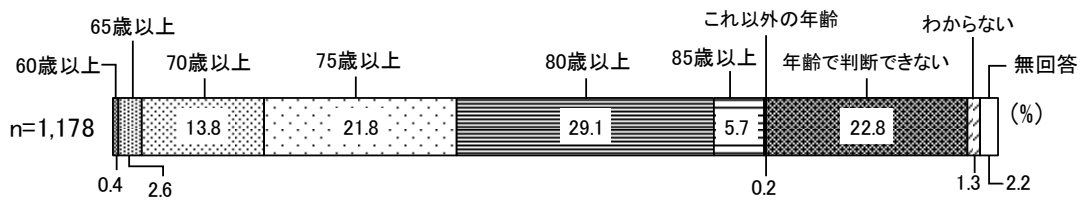
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	これ以外の年齢	年齢で判断できない	わからない	無回答
全体	全体	1,178	94	360	337	197	19	0	118	10	23
		100.0	8.0	30.6	28.6	16.7	1.6	0.0	10.0	0.8	2.0
性別	男性	509	46	174	153	66	10	0	36	3	12
		100.0	9.0	34.2	30.1	13.0	2.0	0.0	7.1	0.6	2.4
性別	女性	653	46	183	179	127	8	0	81	7	11
		100.0	7.0	28.0	27.4	19.4	1.2	0.0	12.4	1.1	1.7

性別で見ると、女性は男性と比べて、「80歳以上」や「年齢で判断できない」の割合が高く、「70歳以上」の割合が低い。

② 「支えられるべき高齢者」だと思ふ年齢

問10：あなたは、一般的に「支えられるべき高齢者」とは何歳以上だと思いますか。

● 「80歳以上」が29.1%



「支えられるべき高齢者」だと思ふ年齢（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	わからない	無回答	
		60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	これ以外の年齢	年齢で判断できない			
全体	1,178	5	31	163	257	343	67	2	269	15	26	
	100.0	0.4	2.6	13.8	21.8	29.1	5.7	0.2	22.8	1.3	2.2	
性別	男性	509	4	15	93	128	133	33	0	85	4	14
	100.0	0.8	2.9	18.3	25.1	26.1	6.5	0.0	16.7	0.8	2.8	
女性	653	1	16	66	128	203	32	2	182	11	12	
	100.0	0.2	2.5	10.1	19.6	31.1	4.9	0.3	27.9	1.7	1.8	

性別で見ると、女性は男性と比べて、「年齢で判断できない」の割合が高い。

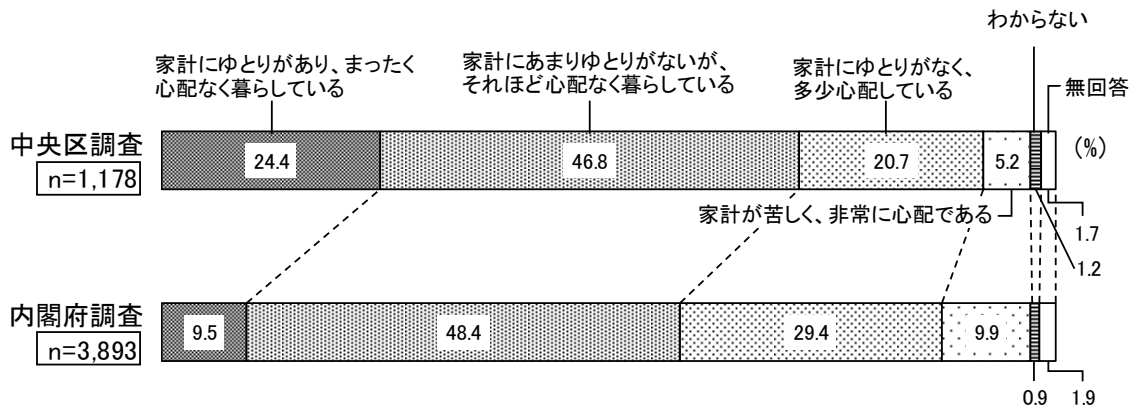
3. 経済状況や就労状態

(1) 主観的な経済状況

① 経済状況についての認識

問11：あなたは、ご自身の経済的な暮らし向きについてどのように感じていますか。

●「家計にあまりゆとりがないが、それほど心配なく暮らしている」（46.8%）が最も多く、次いで「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」（24.4%）



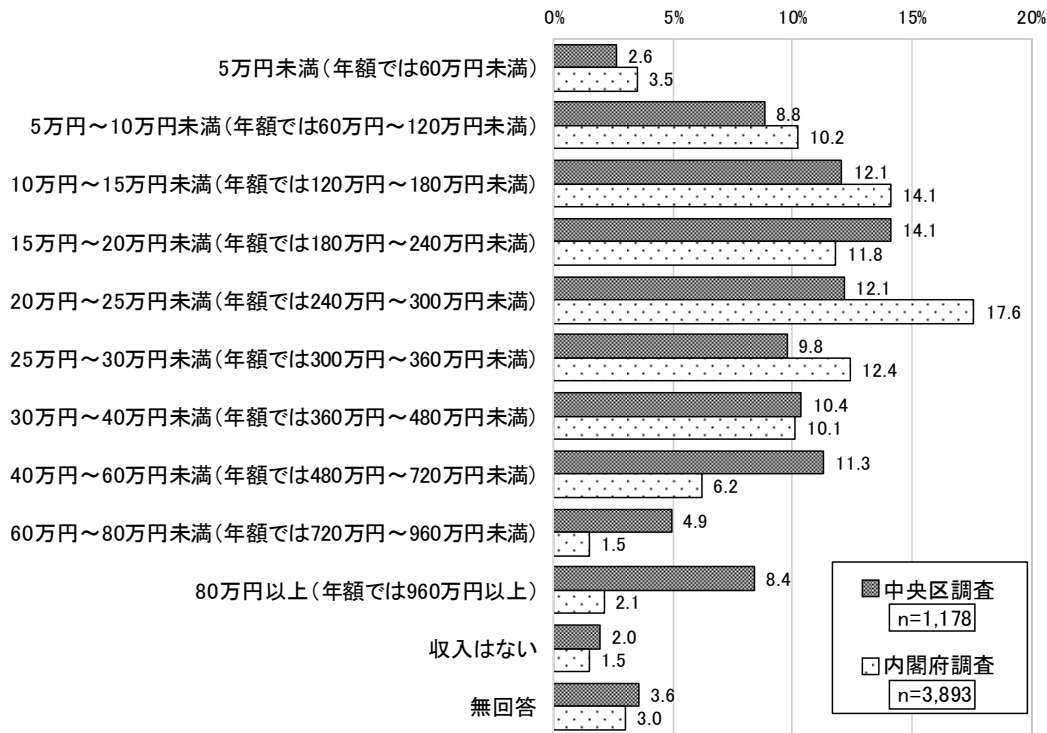
中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区では心配なく暮らしている経済状況の人が多い。

② 1か月あたりの平均収入

問12：あなたの収入（年金を含む）、をすべて合計すると、税込みで1か月あたりの平均額（ボーナス含む）はいくらくらいになりますか。

※ご夫婦の場合はお二人の収入の合計をお答えください。

● 「40万円～60万円未満」、「60万円～80万円未満」、「80万円以上」が合わせて24.6%と、全国と比べ高い



中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区では内閣府の調査で最も多かった「20万円～25万円未満」の割合がそれほど高くなく、代わりに「収入が40万円以上」の割合が高い。

1か月あたりの平均収入（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
		5万円未満 (年額では60万円未満)	5万円～10万円未満 (年額では60万円～120万円未満)	10万円～15万円未満 (年額では120万円～180万円未満)	15万円～20万円未満 (年額では180万円～240万円未満)	20万円～25万円未満 (年額では240万円～300万円未満)	25万円～30万円未満 (年額では300万円～360万円未満)	30万円～40万円未満 (年額では360万円～480万円未満)	40万円～60万円未満 (年額では480万円～720万円未満)	60万円～80万円未満 (年額では720万円～960万円未満)	80万円以上 (年額では960万円以上)	収入はない	無回答	
全体		1,178 100.0	31 2.6	104 8.8	142 12.1	166 14.1	143 12.1	115 9.8	122 10.4	133 11.3	58 4.9	99 8.4	23 2.0	42 3.6
性別	男性	509 100.0	6 1.2	25 4.9	46 9.0	65 12.8	66 13.0	53 10.4	62 12.2	68 13.4	32 6.3	61 12.0	9 1.8	16 3.1
	女性	653 100.0	24 3.7	78 11.9	93 14.2	100 15.3	76 11.6	61 9.3	58 8.9	64 9.8	23 3.5	36 5.5	14 2.1	26 4.0

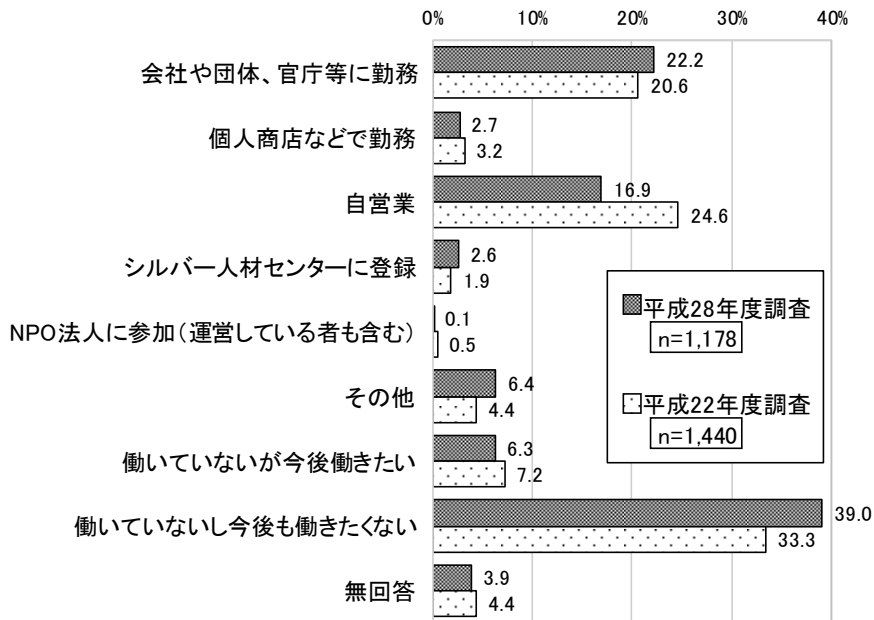
性別で見ると、女性は男性と比べて、「5万円～15万円未満（年額では60万円～180万円未満）」の割合が高く、「80万円以上（年額では960万円以上）」の割合が低い。

(2) 就労状況

① 現在の職種

問13：あなたは現在、働いていますか。

●平成22年度調査と比べて「働いていないし今後も働きたくない」が39.0%と増えている。一方、「自営業」が16.9%と減っている



現在の職種（性別・地域別）

		全体	現在の職種								無回答
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			会社や団体、官庁等に勤務	個人商店などで勤務	自営業	シルバー人材センターに登録	NPO法人に参加（運営している者も含む）	その他	働いていないが今後働きたい	働いていないし今後も働きたくない	
全体		1,178 100.0	261 22.2	32 2.7	199 16.9	31 2.6	1 0.1	75 6.4	74 6.3	459 39.0	46 3.9
性別	男性	509 100.0	156 30.6	8 1.6	108 21.2	12 2.4	1 0.2	26 5.1	35 6.9	148 29.1	15 2.9
	女性	653 100.0	99 15.2	22 3.4	90 13.8	19 2.9	0 0.0	48 7.4	39 6.0	306 46.9	30 4.6
地域別	京橋地域	305 100.0	58 19.0	8 2.6	71 23.3	11 3.6	0 0.0	15 4.9	17 5.6	120 39.3	5 1.6
	日本橋地域	335 100.0	70 20.9	9 2.7	76 22.7	7 2.1	1 0.3	21 6.3	22 6.6	110 32.8	19 5.7
	月島地域	519 100.0	125 24.1	13 2.5	51 9.8	13 2.5	0 0.0	38 7.3	35 6.7	223 43.0	21 4.0

性別で見ると、男性は女性と比べて、「会社や団体、官庁等に勤務」、「自営業」の割合が高い。女性は男性と比べて、「働いていないし今後も働きたくない」の割合が高い。

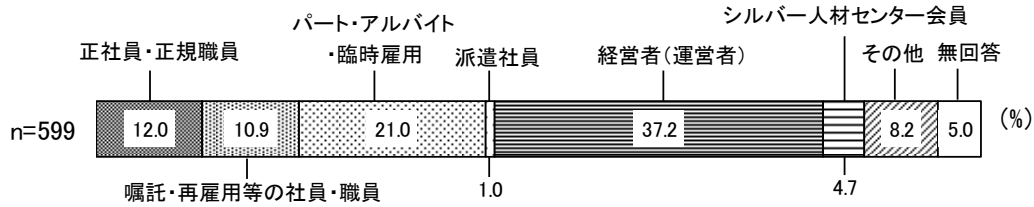
地域別で見ると、京橋地域、日本橋地域は月島地域に比べて、「自営業」の割合が高い。

② 現在の就労形態

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」と回答の方】

問13-1：現在働いている方にうかがいます。現在の就労形態は何ですか。

● 「経営者（運営者）である」が37.2%



<その他の回答>

- 不動産収入・家賃収入 ○株収入 ○事業専従者 ○アドバイザー・コンサル・顧問・会長
- フリー

現在の就労形態（性別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7		
		正社員・正規職員である	嘱託・再雇用等の社員・職員である	パート・アルバイト・臨時雇用である	派遣社員である	経営者(運営者)である	シルバー人材センター会員である	その他	無回答	
全体		599 100.0	72 12.0	65 10.9	126 21.0	6 1.0	223 37.2	28 4.7	49 8.2	30 5.0
性別	男性	311 100.0	34 10.9	50 16.1	34 10.9	3 1.0	147 47.3	13 4.2	19 6.1	11 3.5
	女性	278 100.0	36 12.9	15 5.4	88 31.7	3 1.1	74 26.6	15 5.4	28 10.1	19 6.8

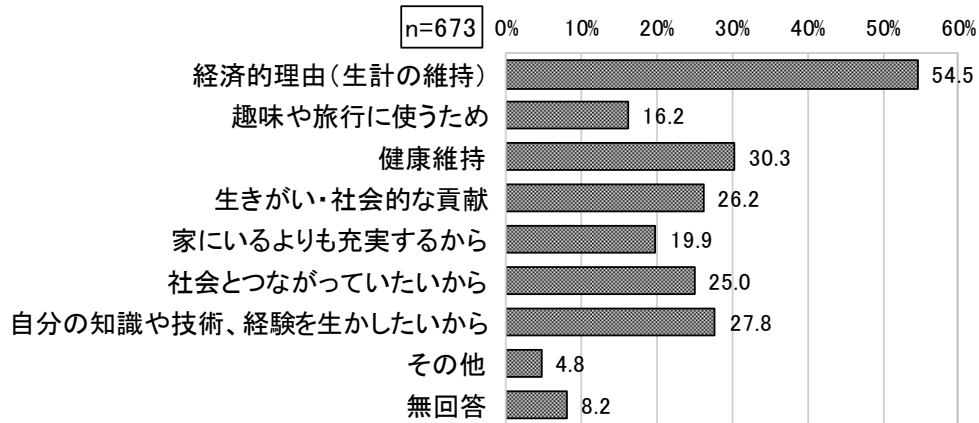
性別で見ると、男性は女性と比べて、「嘱託・再雇用等の社員・職員である」や「経営者（運営者）である」の割合が高い。女性は男性と比べて、「パート・アルバイト・臨時雇用である」の割合が高い。

③ 就労目的・理由

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」、「働いていないが今後働きたい」と回答の方】

問13-2：仕事をしている（またはしたい）目的・理由は何ですか。【複数回答】

● 「経済的理由（生計の維持）」（54.5%）が最も多く、次いで「健康維持」（30.3%）



就労目的・理由（性別・年代別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8		
全体		経済的理由 (生計の維持)	趣味や旅行 に使うため	健康維持	生きがい・社 会的な貢献	家にいるより も充実する から	社会とつな がっていた いから	自分の知識 や技術、経 験を生かし たいから	その他	無回答	
全体		673 100.0	367 54.5	109 16.2	204 30.3	176 26.2	134 19.9	168 25.0	187 27.8	32 4.8	55 8.2
性別	男性	346 100.0	203 58.7	59 17.1	107 30.9	98 28.3	66 19.1	89 25.7	113 32.7	14 4.0	23 6.6
	女性	317 100.0	157 49.5	47 14.8	94 29.7	73 23.0	66 20.8	78 24.6	70 22.1	18 5.7	32 10.1
年代別	60～64歳	209 100.0	144 68.9	37 17.7	49 23.4	56 26.8	45 21.5	55 26.3	66 31.6	8 3.8	11 5.3
	65～69歳	188 100.0	108 57.4	37 19.7	66 35.1	53 28.2	43 22.9	57 30.3	56 29.8	5 2.7	9 4.8
	70～74歳	116 100.0	57 49.1	17 14.7	40 34.5	18 15.5	21 18.1	25 21.6	23 19.8	7 6.0	12 10.3
	75～79歳	76 100.0	28 36.8	9 11.8	27 35.5	22 28.9	10 13.2	18 23.7	18 23.7	5 6.6	8 10.5
	80～84歳	43 100.0	13 30.2	4 9.3	11 25.6	13 30.2	9 20.9	8 18.6	13 30.2	5 11.6	4 9.3
	85～89歳	12 100.0	4 33.3	1 8.3	3 25.0	5 41.7	2 16.7	3 25.0	3 25.0	1 8.3	4 33.3
	90歳以上	11 100.0	2 18.2	1 9.1	3 27.3	2 18.2	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	5 45.5

性別で見ると、男性は女性と比べて、「経済的理由（生計の維持）」や「生きがい・社会的な貢献」、
「自分の知識や技術、経験を生かしたいから」の割合が高い。

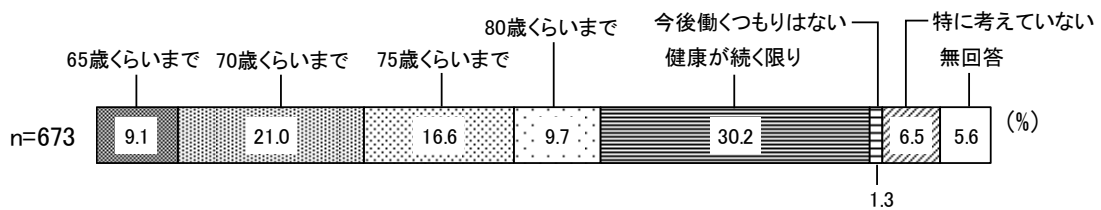
年代別で見ると、「経済的理由（生計の維持）」の割合は年代が若いほど高い傾向にある。「健康維持」
は65～79歳で割合が高い。

④ 働いていたいと思う年齢

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」、「働いていないが今後働きたい」と回答の方】

問13-3：何歳くらいまで仕事をしたいですか。

● 「健康が続く限り」が30.2%、「70歳くらいまで」が21.0%



働いていたいと思う年齢（性別・年代別）

		全体	1 2 3 4 5 6 7							上段:実数(人) 下段:構成比(%)	
			65歳くらいまで	70歳くらいまで	75歳くらいまで	80歳くらいまで	健康が続く限り	今後働くつもりはない	特にかえていない	無回答	
全体		673 100.0	61 9.1	141 21.0	112 16.6	65 9.7	203 30.2	9 1.3	44 6.5	38 5.6	
性別	男性	346 100.0	30 8.7	80 23.1	67 19.4	41 11.8	93 26.9	4 1.2	16 4.6	15 4.3	
	女性	317 100.0	31 9.8	57 18.0	43 13.6	24 7.6	107 33.8	5 1.6	27 8.5	23 7.3	
年代別	60～64歳	209 100.0	56 26.8	71 34.0	20 9.6	2 1.0	42 20.1	2 1.0	7 3.3	9 4.3	
	65～69歳	188 100.0	4 2.1	62 33.0	48 25.5	6 3.2	50 26.6	0 0.0	14 7.4	4 2.1	
	70～74歳	116 100.0	0 0.0	1 0.9	41 35.3	21 18.1	37 31.9	1 0.9	9 7.8	6 5.2	
	75～79歳	76 100.0	1 1.3	0 0.0	1 1.3	30 39.5	28 36.8	3 3.9	7 9.2	6 7.9	
	80～84歳	43 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.0	30 69.8	2 4.7	3 7.0	5 11.6	
	85～89歳	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	8 66.7	1 8.3	0 0.0	2 16.7	
	90歳以上	11 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	3 27.3	0 0.0	2 18.2	4 36.4	

性別で見ると、女性は男性と比べて、「健康が続く限り」の割合が高い。

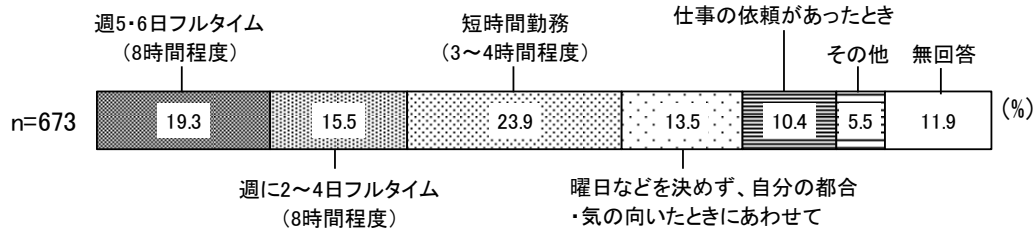
年代別で見ると、89歳まで年代が上がるほど「健康が続く限り」の割合が高くなる傾向にある。

⑤ 希望する働き方

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」、「働いていないが今後働きたい」と回答の方】

問13-4：今後（定年前の方は定年退職後）どのような働き方を望みますか。

● 「短時間勤務（3～4時間程度）で働く」が23.9%



希望する働き方（性別）

		上段:実数(人) 下段:構成比(%)							
		1	2	3	4	5	6		
全体		週5・6日フルタイム (8時間程度)で働く	週に2～4日フルタイム (8時間程度)で働く	短時間勤務 (3～4時間程度)で働く	曜日などを決めず、自分の都合・気の向いたときにあわせて働く	仕事の依頼があったときに働く	その他	無回答	
全体	673 100.0	130 19.3	104 15.5	161 23.9	91 13.5	70 10.4	37 5.5	80 11.9	
性別	男性	346 100.0	86 24.9	67 19.4	62 17.9	43 12.4	39 11.3	17 4.9	32 9.2
	女性	317 100.0	43 13.6	35 11.0	96 30.3	47 14.8	30 9.5	18 5.7	48 15.1

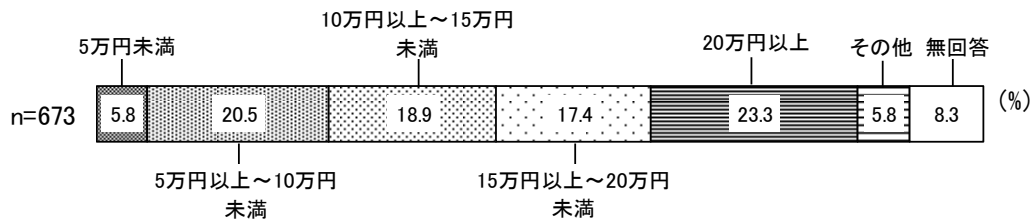
性別で見ると、男性は女性と比べて、「週5・6日フルタイム（8時間程度）で働く」及び「週に2～4日フルタイム（8時間程度）で働く」の割合が高く、「短時間勤務（3～4時間程度）で働く」の割合が低い。

⑥ 希望する収入

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」、「働いていないが今後働きたい」と回答の方】

問13-5：年金受給額とは別に、就労によって月にどのくらいの収入を得たいと思いますか。

● 「20万円以上」と「5万円以上～10万円未満」がそれぞれ20%以上



希望する収入（性別）

		全体	希望する収入						
			1 5万円未満	2 5万円以上～ 10万円未満	3 10万円以上 ～15万円未 満	4 15万円以上 ～20万円未 満	5 20万円以上	6 その他	無回答
全体		673 100.0	39 5.8	138 20.5	127 18.9	117 17.4	157 23.3	39 5.8	56 8.3
性別	男性	346 100.0	9 2.6	51 14.7	63 18.2	67 19.4	109 31.5	28 8.1	19 5.5
	女性	317 100.0	29 9.1	86 27.1	61 19.2	49 15.5	45 14.2	10 3.2	37 11.7

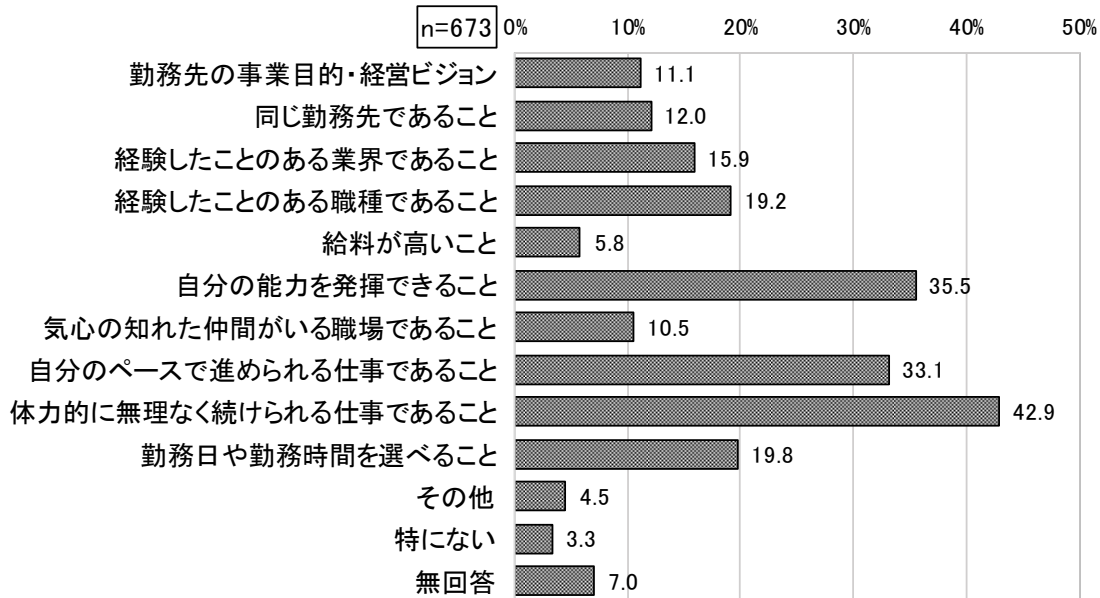
性別で見ると、男性は女性と比べて、「20万円以上」の割合が高い。女性は男性と比べて、「5万円未満」や「5万円以上～10万円未満」の割合が高い。

⑦ 働く上で重視すること

【問13で「会社や団体、官庁等に勤務」、「個人商店などで勤務」、「自営業」、「シルバー人材センターに登録」、「NPO法人に参加（運営している者も含む）」、「その他」、「働いていないが今後働きたい」と回答の方】

問13-6：現在働く上で、重視していることは何ですか。【複数回答：3つまで】

● 「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が42.9%



働く上で重視すること（性別）

		全体	重視すること												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
			勤務先の事業目的・経営ビジョン	同じ勤務先であること	経験したことのある業界であること	経験したことのある職種であること	給料が高いこと	自分の能力を発揮できること	気心の知れた仲間がいる職場であること	自分のペースで進められる仕事であること	体力的に無理なく続けられる仕事であること	勤務日や勤務時間を選べること	その他	特にない	無回答
全体		673 100.0	75 11.1	81 12.0	107 15.9	129 19.2	39 5.8	239 35.5	71 10.5	223 33.1	289 42.9	133 19.8	30 4.5	22 3.3	47 7.0
性別	男性	346 100.0	43 12.4	43 12.4	80 23.1	76 22.0	30 8.7	143 41.3	34 9.8	123 35.5	136 39.3	52 15.0	15 4.3	7 2.0	15 4.3
	女性	317 100.0	29 9.1	37 11.7	26 8.2	48 15.1	9 2.8	93 29.3	37 11.7	94 29.7	148 46.7	78 24.6	14 4.4	15 4.7	32 10.1

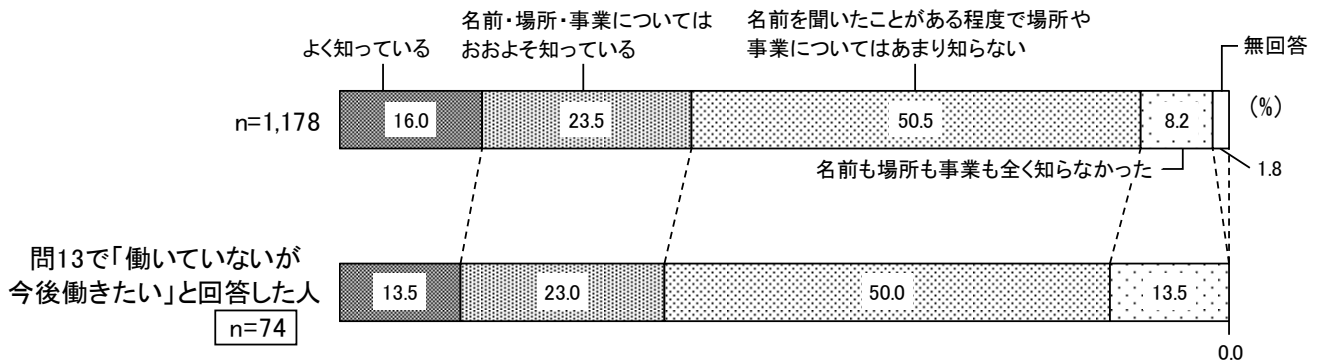
性別で見ると、男性は女性と比べて、「経験したことのある業界であること」や「経験したことのある職種であること」、「自分の能力を発揮できること」の割合が高い。女性は男性と比べて、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」や「勤務日や勤務時間を選べること」の割合が高い。

(3) 中央区の施設について

① 「中央区シルバー人材センター」に対する認識

問14：あなたは、「中央区シルバー人材センター」をご存じですか。

● 「名前を聞いたことがある程度で場所や事業についてはあまり知らない」が50.5%

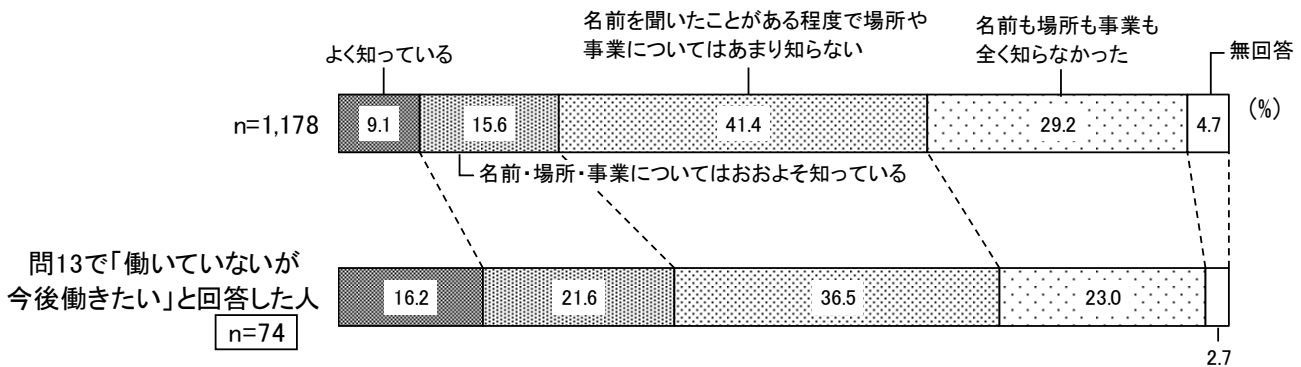


働いていないが今後働きたい人は全体と比べて、「よく知っている」の割合がやや低く、「名前も場所も事業も全く知らなかった」の割合がやや高い。

② 無料職業紹介所「シルバーワーク中央」に対する認識

問15：あなたは、無料職業紹介所「シルバーワーク中央」をご存知ですか。

● 「名前を聞いたことがある程度で場所や事業についてはあまり知らない」が41.4%



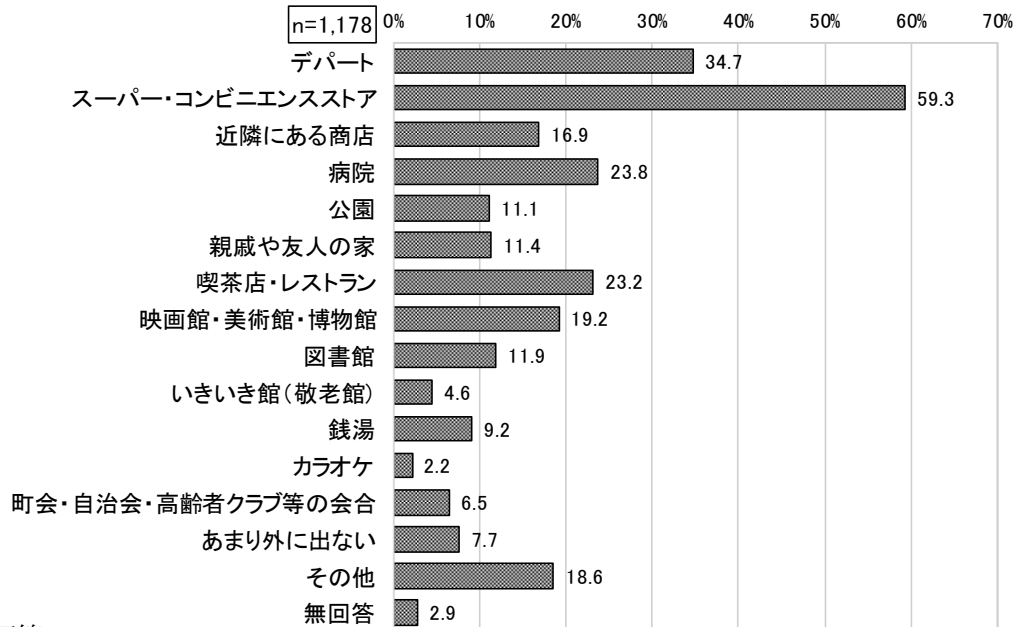
働いていないが今後働きたい人は全体と比べて、「よく知っている」及び「名前・場所・事業についてはおおよそ知っている」の割合が高く、「名前を聞いたことがある程度で場所や事業についてはあまり知らない」や「名前も場所も事業も全く知らなかった」の割合が低い。

4. 外出や楽しみ

(1) 外出先

問16：あなたは、普段どこへ出かけることが多いですか。（仕事を除く）【複数回答：3つまで】

●「スーパー・コンビニエンスストア」（59.3%）が最も多く、次いで「デパート」（34.7%）



<その他の回答>

○スポーツジム（またはクラブ） ○ゴルフ場

外出先（性別・年代別）

		上段：実数(人) 下段：構成比(%)																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
	全体	デパート	スーパー・コンビニエンスストア	近隣にある商店	病院	公園	親戚や友人の家	喫茶店・レストラン	映画館・美術館・博物館	図書館	いきいき館(敬老館)	銭湯	カラオケ	町会・自治会・高齢者クラブ等の会合	あまり外に出ない	その他	無回答	
全体	1,178 100.0	409 34.7	698 59.3	199 16.9	280 23.8	131 11.1	134 11.4	273 23.2	226 19.2	140 11.9	54 4.6	108 9.2	26 2.2	77 6.5	91 7.7	219 18.6	34 2.9	
性別	男性	509 100.0	130 25.5	278 54.6	72 14.1	108 21.2	80 15.7	28 5.5	136 26.7	88 17.3	57 11.2	14 2.8	49 9.6	12 2.4	37 7.3	40 7.9	112 22.0	23 4.5
	女性	653 100.0	273 41.8	410 62.8	125 19.1	168 25.7	49 7.5	104 15.9	131 20.1	136 20.8	81 12.4	40 6.1	57 8.7	14 2.1	38 5.8	49 7.5	105 16.1	10 1.5
年代別	60～69歳	545 100.0	188 34.5	334 61.3	97 17.8	81 14.9	60 11.0	70 12.8	139 25.5	131 24.0	66 12.1	10 1.8	42 7.7	9 1.7	17 3.1	44 8.1	106 19.4	16 2.9
	70～79歳	396 100.0	136 34.3	235 59.3	60 15.2	106 26.8	48 12.1	48 12.1	86 21.7	68 17.2	54 13.6	32 8.1	38 9.6	13 3.3	33 8.3	22 5.6	68 17.2	11 2.8
	80～89歳	180 100.0	63 35.0	99 55.0	34 18.9	70 38.9	15 8.3	14 7.8	34 18.9	22 12.2	15 8.3	10 5.6	22 12.2	4 2.2	20 11.1	15 8.3	37 20.6	6 3.3
	90歳以上	29 100.0	11 37.9	16 55.2	6 20.7	16 55.2	4 13.8	0 0.0	4 13.8	1 3.4	1 3.4	2 6.9	3 10.3	0 0.0	5 17.2	7 24.1	4 13.8	0 0.0

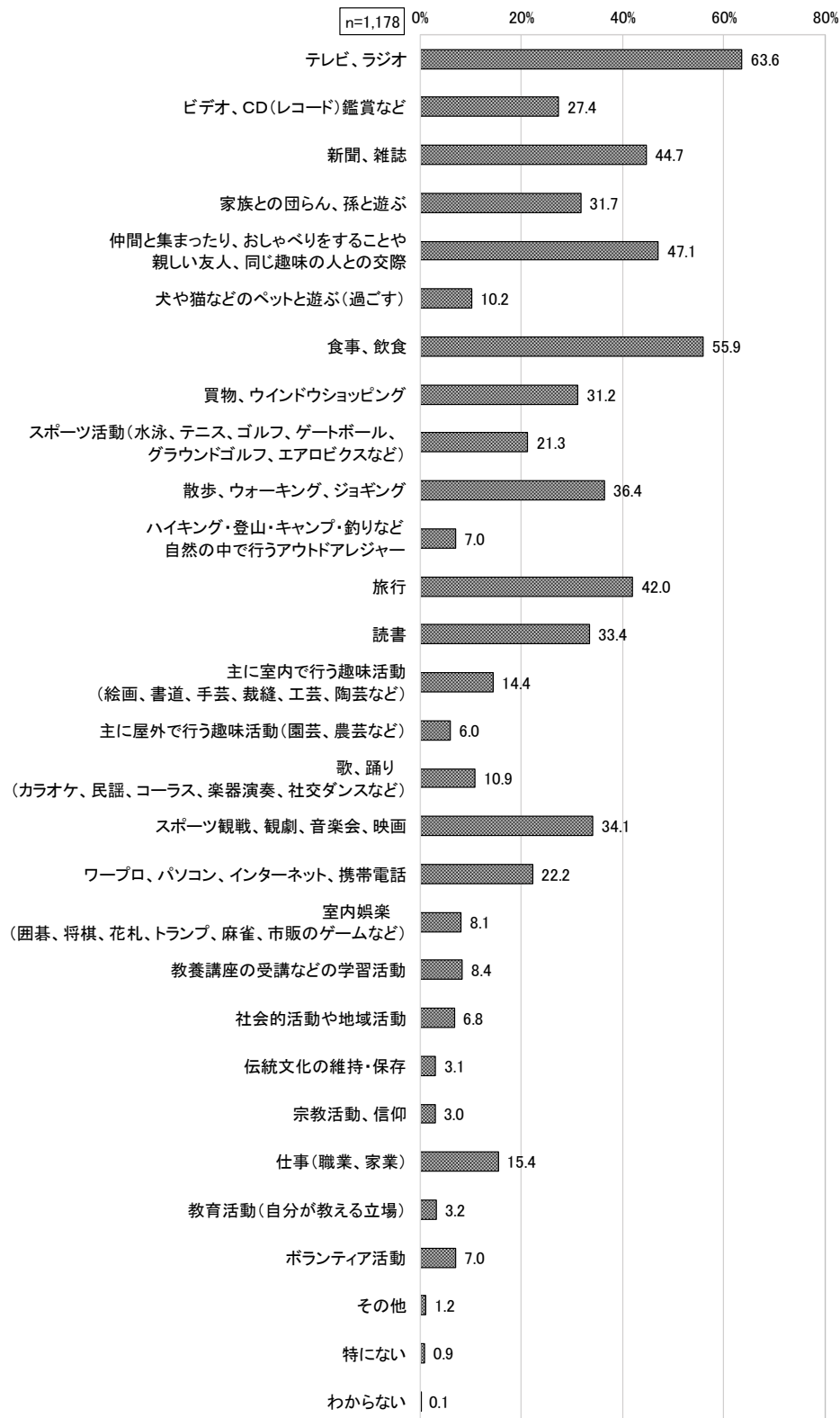
性別で見ると、男性は女性と比べて、「公園」や「喫茶店・レストラン」の割合が高く、「デパート」や「スーパー・コンビニエンスストア」、「親戚や友人の家」の割合が低い。

年代別で見ると、年代が上がるほど「病院」の割合が高い。どの年代においても「デパート」や「スーパー・コンビニエンスストア」、「近隣にある商店」の割合の変化は少ない。

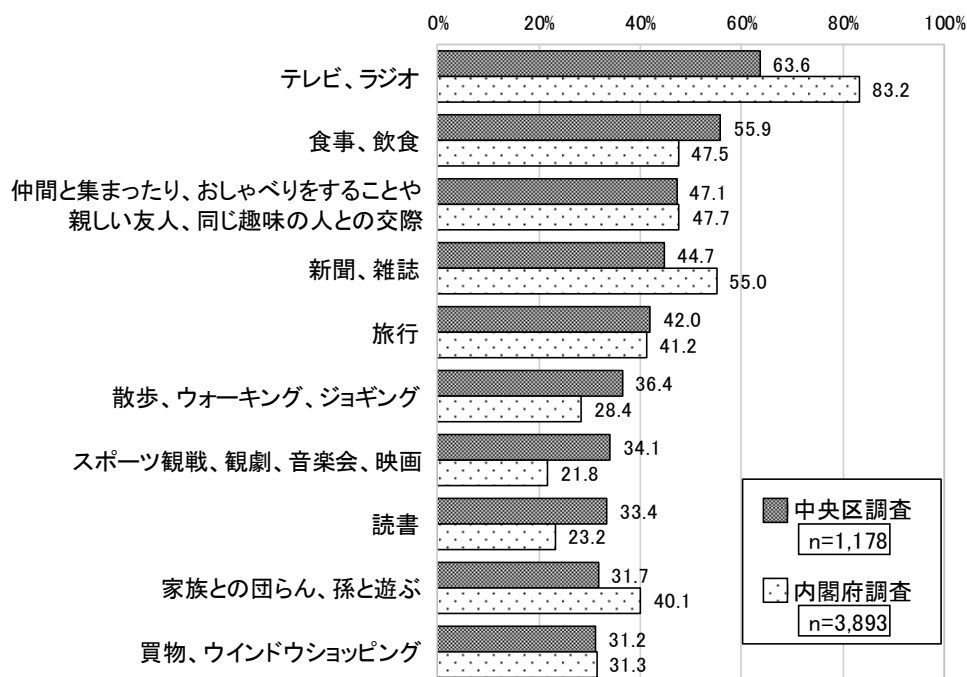
(2) 日頃の楽しみ

問 17-1：あなたが普段の生活で楽しいことは何ですか。【複数回答】

●「テレビ・ラジオ」（63.6%）が最も多く、次いで「食事・飲食」（55.9%）



日頃の楽しみ（内閣府調査との比較）

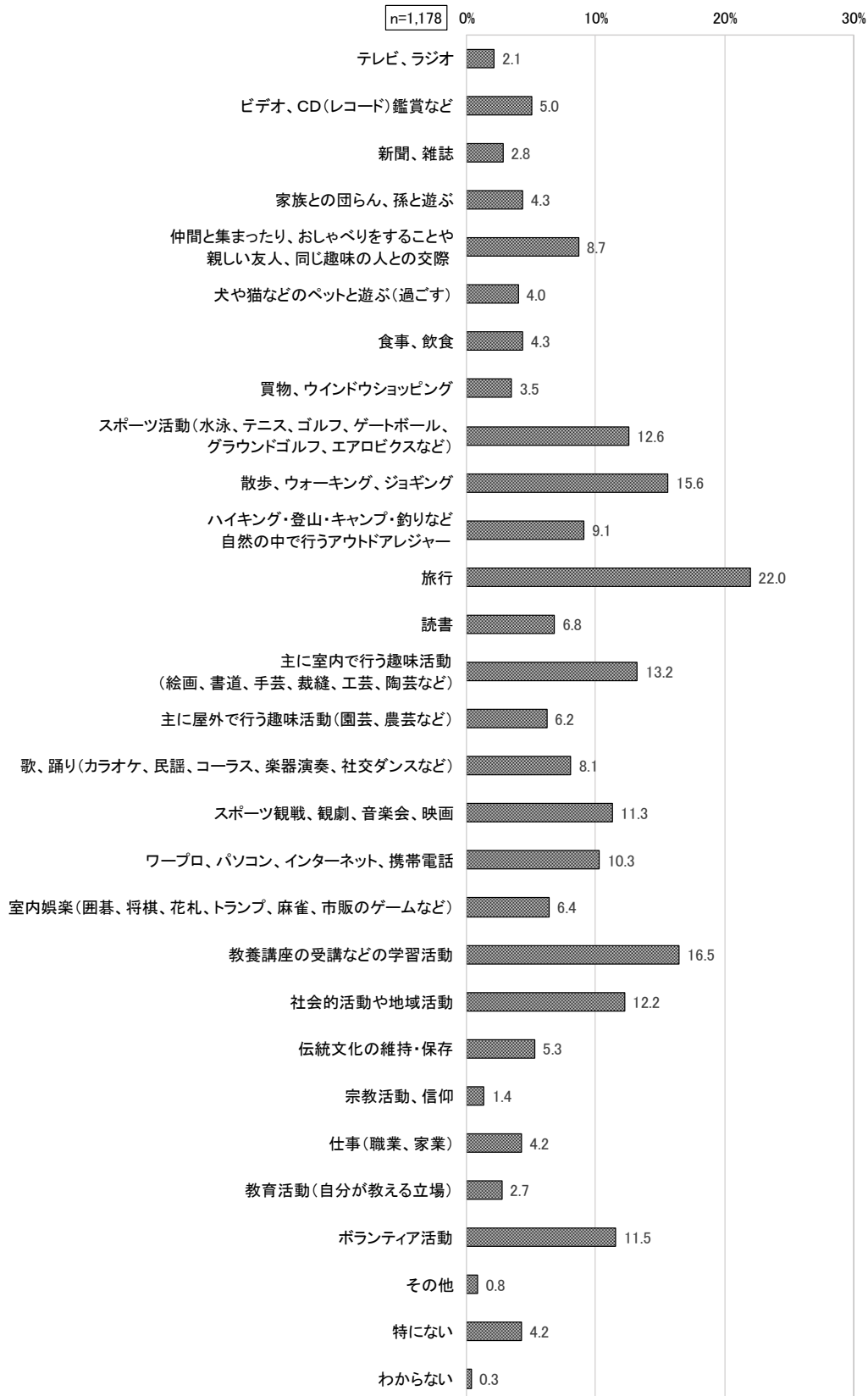


中央区の調査結果で30%以上が日頃の楽しみとしてあげた項目と内閣府の調査結果を比較すると、中央区の高齢者は全国の高齢者と比べて、「食事、飲食」や「散歩、ウォーキング、ジョギング」、「スポーツ観戦、観劇、音楽会、映画」、「読書」の割合が高く、「テレビ、ラジオ」や「新聞、雑誌」、「家族との団らん、孫と遊ぶ」の割合が低い。

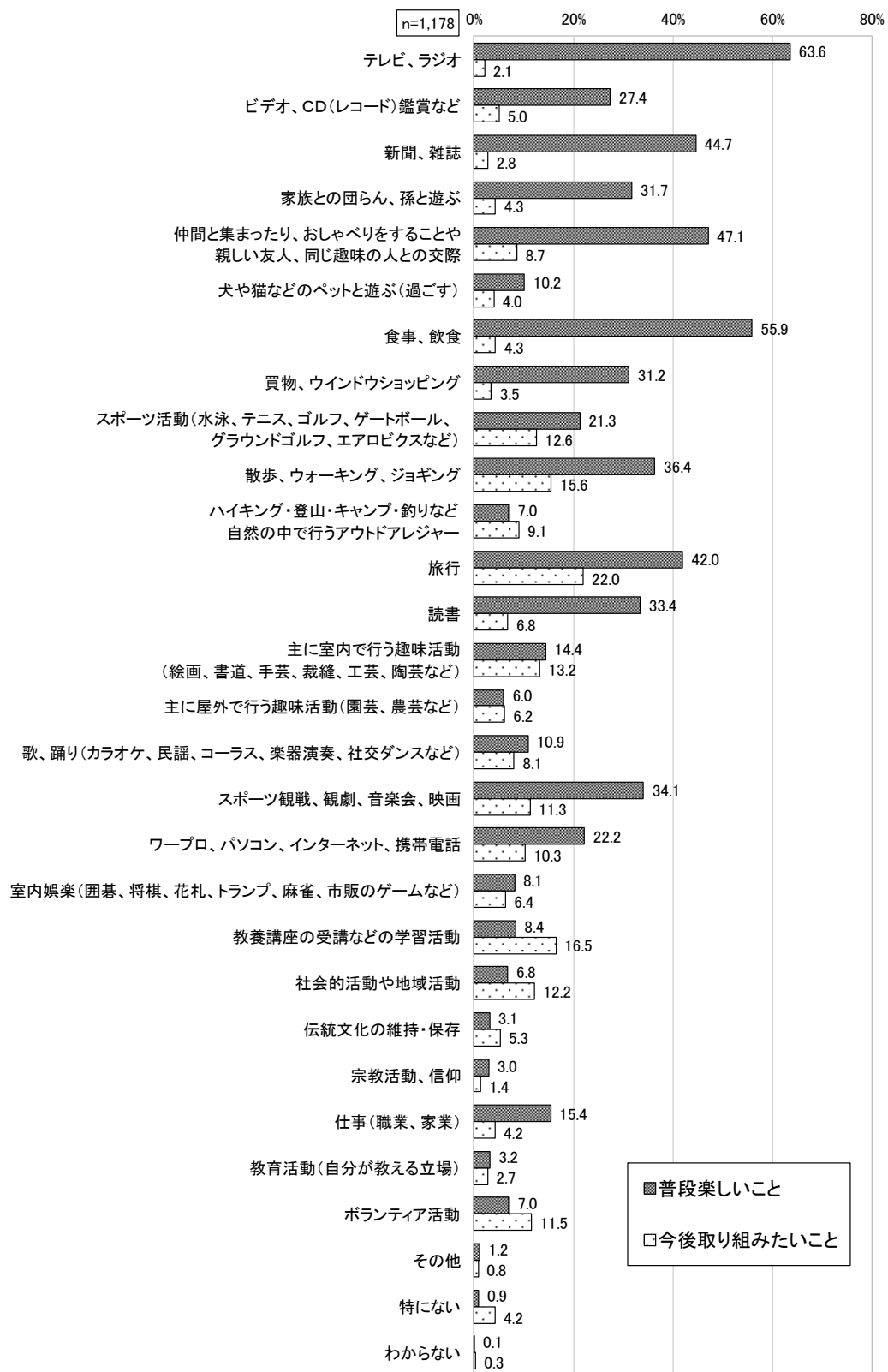
(3) 今後取り組みたいこと

問 17-2：あなたが今後取り組みたいことは何ですか。【複数回答】

●「旅行」（22.0%）が最も多く、次いで「教養講座の受講などの学習活動」（16.5%）



「普段楽しいこと」と「今後取り組みたいこと」の比較



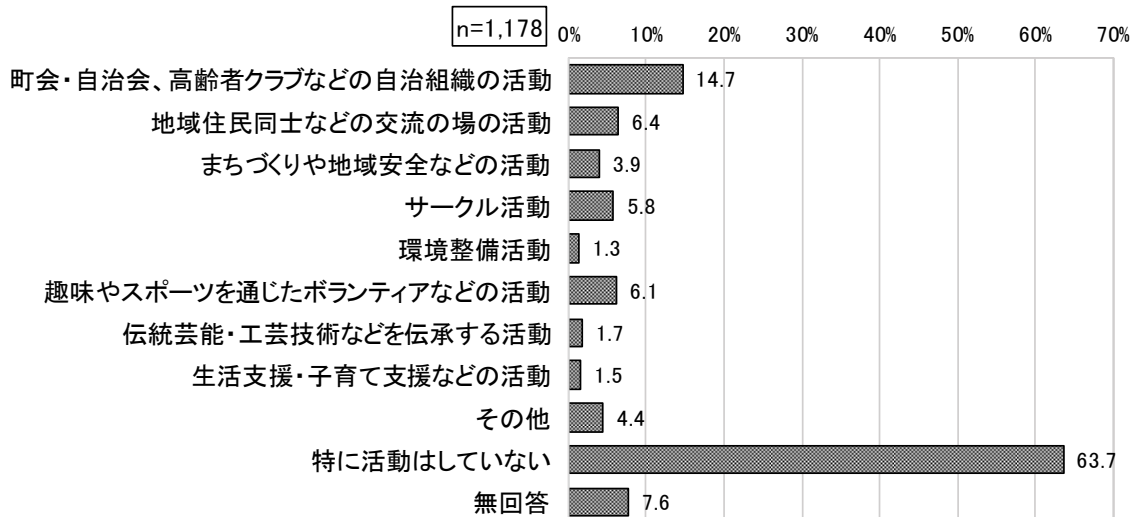
「普段楽しいこと」より「今後取り組みたいこと」の割合が高いのは、「教養講座の受講などの学習活動」や「社会的な活動や地域活動」、「ボランティア活動」などである。

5. 社会的な活動や地域活動への参加状況

(1) 社会的な活動や地域活動への参加状況

問18：あなたは現在、支援したり運営したりする側（担い手）として、何らかの社会的活動や地域活動を行っていますか。【複数回答】

●「特に活動はしていない」が63.7%



社会的な活動や地域活動への参加状況（年代別）

	全体	上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答	
		町会・自治会、高齢者クラブなどの自治組織の活動	地域住民同士などの交流の場の活動	まちづくりや地域安全などの活動	サークル活動	環境整備活動	趣味やスポーツを通じたボランティアなどの活動	伝統芸能・工芸技術などを伝承する活動	生活支援・子育て支援などの活動	その他	特に活動はしていない	無回答	
全体	1,178 100.0	173 14.7	75 6.4	46 3.9	68 5.8	15 1.3	72 6.1	20 1.7	18 1.5	52 4.4	750 63.7	90 7.6	
年代別	60～64歳	258 100.0	28 10.9	10 3.9	10 3.9	9 3.5	1 0.4	14 5.4	3 1.2	7 2.7	9 3.5	186 72.1	9 3.5
	65～69歳	287 100.0	34 11.8	16 5.6	7 2.4	20 7.0	1 0.3	16 5.6	5 1.7	2 0.7	13 4.5	198 69.0	18 6.3
	70～74歳	219 100.0	40 18.3	20 9.1	15 6.8	11 5.0	7 3.2	15 6.8	4 1.8	6 2.7	10 4.6	130 59.4	16 7.3
	75～79歳	177 100.0	31 17.5	14 7.9	8 4.5	15 8.5	5 2.8	12 6.8	3 1.7	1 0.6	8 4.5	97 54.8	19 10.7
	80～84歳	129 100.0	26 20.2	11 8.5	4 3.1	10 7.8	1 0.8	11 8.5	4 3.1	2 1.6	10 7.8	69 53.5	10 7.8
	85～89歳	51 100.0	5 9.8	0 0.0	1 2.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	30 58.8	13 25.5
	90歳以上	29 100.0	5 17.2	1 3.4	1 3.4	2 6.9	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19 65.5	4 13.8

年代別で見ると、70～84歳及び90歳以上は他の年代と比べて、「町会・自治会、高齢者クラブなどの自治組織の活動」の割合が高い。60歳代及び90歳以上は他の年代と比べて、「特に活動はしていない」の割合が高い。

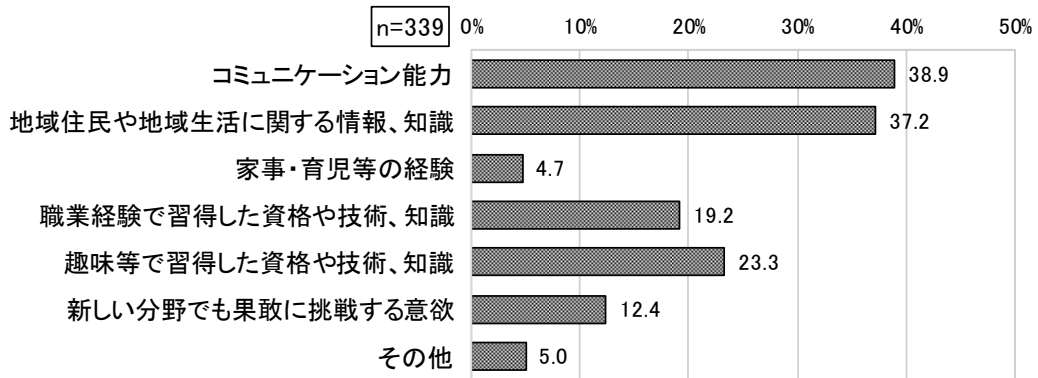
(2) 現在行っている活動について

① 役立っている能力・知識

【問 18 で何らかの社会的活動や地域活動を行っていると回答の方】

問 18-1：現在行っている社会的活動や地域活動において役立っている能力、知識についてあてはまるものは何ですか。【複数回答】

● 「コミュニケーション能力」または「地域住民や地域生活に関する情報、知識」が 4 割弱



<その他の回答>

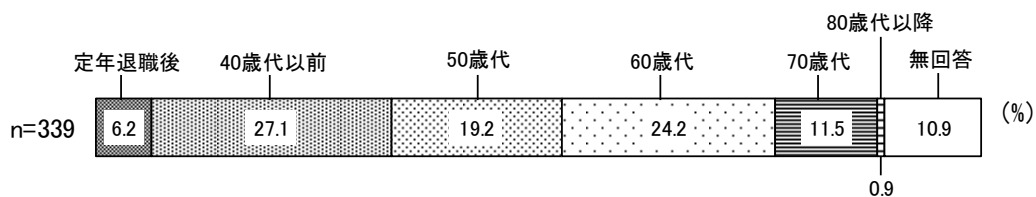
- 歌の出前 ○スポーツ（水泳指導、ランニングの伴走） ○商店会振興のための努力
- 小学校登校の見守りパトロール ○町会の仕事 ○持続性、責任感 など

② 活動を始めた時期

【問 18 で何らかの社会的活動や地域活動を行っていると回答の方】

問 18-2：現在行っている社会的活動や地域活動を始めた時期はいつ頃ですか。複数の活動をしている場合は、最も古いものについてお答えください。

● 「40 歳代以前」 (27.1%) が最も多く、次いで「60 歳代」 (24.2%)



活動を始めた時期（性別・世帯人数別・地域別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		全体	1	2	3	4	5	6	無回答
			定年退職後	40歳代以前	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以降	
全体		339 100.0	21 6.2	92 27.1	65 19.2	82 24.2	39 11.5	3 0.9	37 10.9
性別	男性	144 100.0	12 8.3	52 36.1	19 13.2	36 25.0	9 6.3	2 1.4	14 9.7
	女性	190 100.0	9 4.7	39 20.5	45 23.7	44 23.2	30 15.8	1 0.5	22 11.6
世帯人数別	1人	84 100.0	5 6.0	18 21.4	15 17.9	11 13.1	21 25.0	1 1.2	13 15.5
	2人	149 100.0	9 6.0	35 23.5	28 18.8	48 32.2	13 8.7	2 1.3	14 9.4
	3人以上	95 100.0	7 7.4	36 37.9	19 20.0	21 22.1	4 4.2	0 0.0	8 8.4
地域別	京橋地域	85 100.0	1 1.2	28 32.9	16 18.8	19 22.4	10 11.8	0 0.0	11 12.9
	日本橋地域	106 100.0	6 5.7	35 33.0	25 23.6	19 17.9	11 10.4	0 0.0	10 9.4
	月島地域	141 100.0	14 9.9	28 19.9	22 15.6	41 29.1	18 12.8	3 2.1	15 10.6

性別で見ると、男性は女性と比べて、「40歳代以前」の割合が高い。女性は男性と比べて、「50歳代」や「70歳代」の割合が高い。

世帯人数別で見ると、1人世帯は他の世帯人数と比べて、「70歳代」の割合が高い。2人世帯は他の世帯人数と比べて「60歳代」の割合が高い。3人以上の世帯は他の世帯人数と比べて、「40歳代以前」の割合が高い。

地域別で見ると、京橋地域と日本橋地域は月島地域と比べて、「40歳代以前」の割合が高い。月島地域は他の地域と比べて、「60歳代」の割合が高い。

③ 活動に対する支払額

【問18で何らかの社会的活動や地域活動を行っている方】

問18-3：現在行っている社会的な活動や地域活動は有償ですか。複数の活動をしている場合は、最も力を入れている活動についてお答えください。

● 「完全に無償」が62.5%

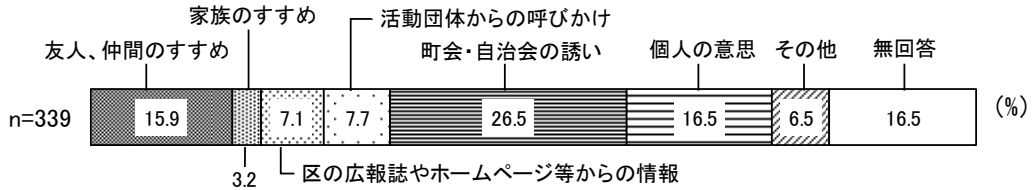


④ 活動を始めたきっかけ

【問 18 で何らかの社会的活動や地域活動を行っていると回答の方】

問 18-4：現在行っている社会的な活動や地域活動を始めたきっかけは何ですか。複数の活動をしている場合は、最も力を入れている活動についてお答えください。

● 「町会・自治会の誘い」が26.5%



<その他の回答>

- 新聞報道 ○昔の職場の人との付き合い、職場の趣味のサークルの延長OB会
- 商店会会員のすすめ ○近所の人に依頼されて ○恩師に誘われて
- 先代よりの引継ぎ ○健康維持のため

活動を始めたきっかけ（性別・地域別）

上段: 実数(人)
下段: 構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	無回答	
		友人、仲間のすすめ	家族のすすめ	区の情報誌やホームページ等からの情報	活動団体からの呼びかけ	町会・自治会の誘い	個人の意思 (問題意識や解決したい課題があったため)	その他		
全体	339	54	11	24	26	90	56	22	56	
	100.0	15.9	3.2	7.1	7.7	26.5	16.5	6.5	16.5	
性別	男性	144	22	2	4	9	50	26	11	20
	100.0	15.3	1.4	2.8	6.3	34.7	18.1	7.6	13.9	
性別	女性	190	32	9	20	16	39	28	11	35
	100.0	16.8	4.7	10.5	8.4	20.5	14.7	5.8	18.4	
地域別	京橋地域	85	10	5	3	8	21	17	6	15
	100.0	11.8	5.9	3.5	9.4	24.7	20.0	7.1	17.6	
	日本橋地域	106	16	2	9	4	38	17	3	17
	100.0	15.1	1.9	8.5	3.8	35.8	16.0	2.8	16.0	
地域別	月島地域	141	28	4	12	13	30	19	12	23
	100.0	19.9	2.8	8.5	9.2	21.3	13.5	8.5	16.3	

性別で見ると、男性は女性と比べて、「町会・自治会の誘い」の割合が高く、「区の情報誌やホームページ等からの情報」の割合が低い。

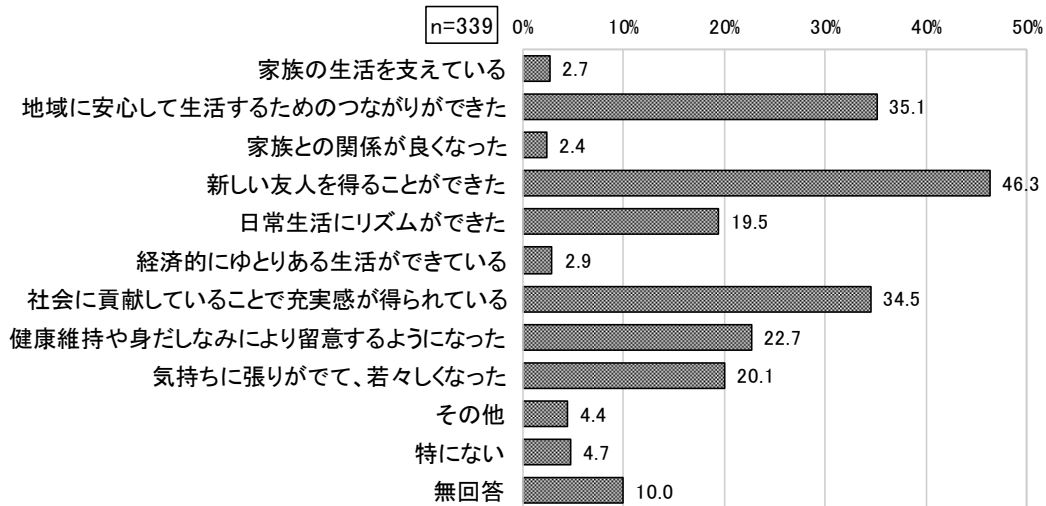
地域別で見ると、京橋地域は他の地域と比べて、「個人の意思（問題意識や解決したい課題があったため）」の割合が高い。日本橋地域は他の地域と比べて、「町会・自治会の誘い」の割合が高い。月島地域は他の地域と比べて、「友人、仲間のすすめ」の割合が高い。

⑤ 活動をしていてよかったこと

【問18で何らかの社会的活動や地域活動を行っているとお答えの方】

問18-5：現在、社会的な活動や地域活動をしていてよかったと思うことは何ですか。複数の活動をしている場合は、最も力を入れている活動についてお答えください。【複数回答】

●「新しい友人を得ることができた」が46.3%



<その他の回答>

- 生きがいを感じる ○いろいろな考え方や人生を知ることができた
- 自己の能力や意欲を成長させることができる ○責任感を持てるようになった
- 健康に気をつけるようになった ○人に教える喜びを感じ、自分も勉強になる
- 他の団体との交流ができた ○自身の目標達成感 ○新しい知識を得ることができた

活動をしていてよかったこと（性別・世帯人数別）

		上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	
		家族の生活を支えている	地域に安心して生活するためのつながりができた	家族との関係が良くなった	新しい友人を得ることができた	日常生活にリズムができた	経済的にゆとりある生活ができている	社会に貢献していることで充実感が得られている	健康維持や身だしなみにより留意するようになった	気持ちに張りがでて、若々しくなった	その他	特になし	無回答	
全体		339 100.0	9 2.7	119 35.1	8 2.4	157 46.3	66 19.5	10 2.9	117 34.5	77 22.7	68 20.1	15 4.4	16 4.7	34 10.0
性別	男性	144 100.0	6 4.2	58 40.3	5 3.5	65 45.1	20 13.9	6 4.2	59 41.0	32 22.2	24 16.7	2 1.4	5 3.5	10 6.9
	女性	190 100.0	3 1.6	59 31.1	3 1.6	91 47.9	46 24.2	4 2.1	56 29.5	43 22.6	43 22.6	13 6.8	11 5.8	23 12.1
世帯人数別	1人	84 100.0	0 0.0	24 28.6	0 0.0	39 46.4	24 28.6	4 4.8	25 29.8	22 26.2	25 29.8	6 7.1	3 3.6	11 13.1
	2人	149 100.0	8 5.4	60 40.3	5 3.4	67 45.0	26 17.4	3 2.0	60 40.3	33 22.1	26 17.4	7 4.7	6 4.0	14 9.4
	3人以上	95 100.0	1 1.1	33 34.7	3 3.2	45 47.4	16 16.8	3 3.2	29 30.5	20 21.1	15 15.8	2 2.1	7 7.4	7 7.4

性別で見ると、男性は女性と比べて、「地域に安心して生活するためのつながりができた」や「社会に貢献していることで充実感が得られている」の割合が高い。女性は男性と比べて、「日常生活にリズムができた」や「気持ちに張りがでて、若々しくなった」の割合が高い。

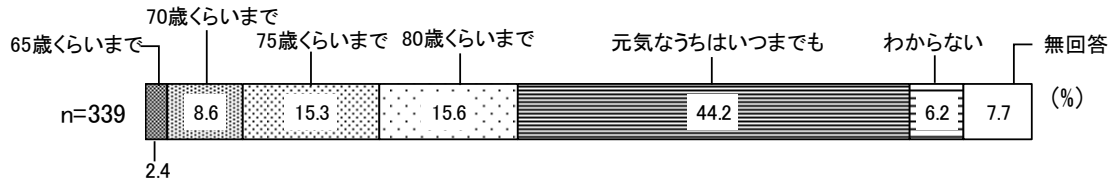
世帯人数別で見ると、1人世帯は他の世帯人数と比べて、「日常生活にリズムができた」の割合が高い。2人世帯は他の世帯人数と比べて、「地域に安心して生活するためのつながりができた」や「社会に貢献していることで充実感が得られている」の割合が高い。

⑥ 活動を続けたい年齢

【問 18 で何らかの社会的活動や地域活動を行っている方と回答の方】

問 18-6：何歳まで社会的な活動や地域活動を続けたいですか。

● 「元気なうちはいつまでも」が 44.2%



活動を続けたい年齢（性別・世帯人数別）

上段：実数(人)

下段：構成比(%)

		全体	1	2	3	4	5	6	無回答
			65歳くらいまで	70歳くらいまで	75歳くらいまで	80歳くらいまで	元気なうちはいつまでも	わからない	
全体		339 100.0	8 2.4	29 8.6	52 15.3	53 15.6	150 44.2	21 6.2	26 7.7
性別	男性	144 100.0	3 2.1	18 12.5	27 18.8	26 18.1	60 41.7	3 2.1	7 4.9
	女性	190 100.0	5 2.6	11 5.8	25 13.2	27 14.2	87 45.8	17 8.9	18 9.5
世帯人数別	1人	84 100.0	1 1.2	5 6.0	10 11.9	12 14.3	43 51.2	6 7.1	7 8.3
	2人	149 100.0	6 4.0	11 7.4	25 16.8	21 14.1	66 44.3	7 4.7	13 8.7
	3人以上	95 100.0	1 1.1	12 12.6	17 17.9	19 20.0	35 36.8	7 7.4	4 4.2

性別で見ると、男性は女性と比べて、「70歳くらいまで」から「80歳くらいまで」の割合が高い。女性は男性と比べ、「わからない」の割合が高い。

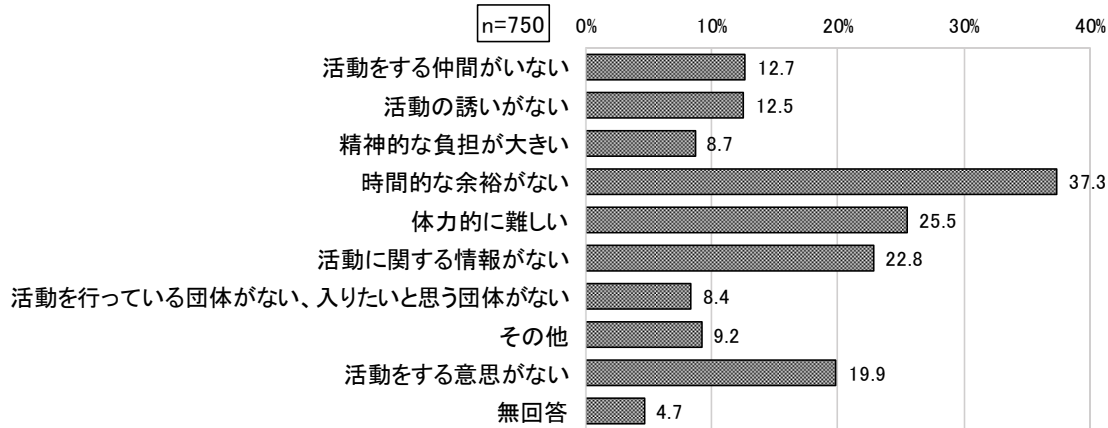
世帯人数別で見ると、1人世帯は全体と比べて、「元気なうちはいつまでも」の割合が高い。3人以上の世帯は他の世帯と比べて、「70歳くらいまで」や「80歳くらいまで」の割合が高い。

(3) 社会的な活動等を行っていない理由

【問 18 で「10. 特に活動はしていない」と回答の方】

問 18-7：現在、支援したり運営したりする側（担い手）として社会的な活動や地域活動をしていない理由は何ですか。【複数回答】

● 「時間的な余裕がない」が 37.3%



<その他の回答>

- 病気のため ○仕事が忙しい・仕事をしないと生活できない ○長期にわたりやってきたから休みたい
- 介護のため ○孫の世話で時間がない ○定年退職後の人生を楽しみたいため
- 年齢的に難しい ○地域活動にも責任を持つ必要がありそれを考えると負担が重く感じる
- 役立てる能力、知識がない

社会的な活動等を行っていない理由（性別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

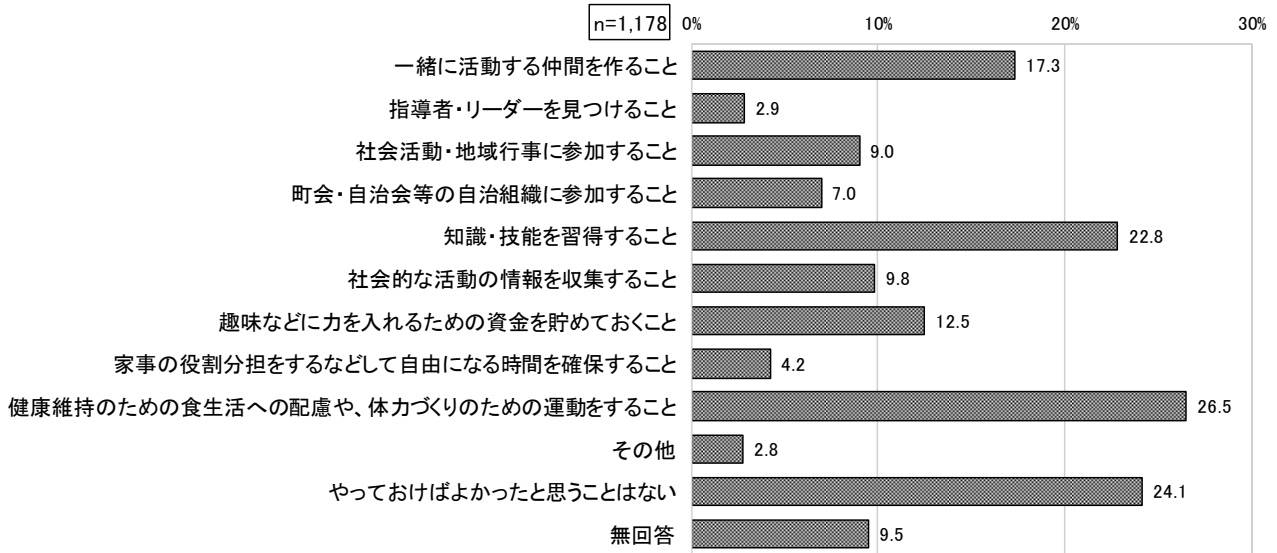
		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
全体		活動をする仲間がいない	活動の誘いがない	精神的な負担が大きい	時間的な余裕がない	体力的に難しい	活動に関する情報がない	活動を行っている団体がない、入りたいと思う団体がない	その他	活動をする意思がない	無回答	
全体		750 100.0	95 12.7	94 12.5	65 8.7	280 37.3	191 25.5	171 22.8	63 8.4	69 9.2	149 19.9	35 4.7
性別	男性	337 100.0	52 15.4	50 14.8	25 7.4	119 35.3	72 21.4	90 26.7	34 10.1	27 8.0	80 23.7	14 4.2
	女性	402 100.0	43 10.7	44 10.9	39 9.7	156 38.8	117 29.1	80 19.9	29 7.2	42 10.4	66 16.4	20 5.0

性別で見ると、男性は女性と比べて、「活動に関する情報がない」や「活動をする意思がない」の割合が高い。女性は男性と比べて、「体力的に難しい」の割合が高い。

(4) 以前からやっておけばよかったこと

問19：あなたが、今より活躍するために、もっと以前からやっておけばよかったと思うことは何ですか。
【複数回答】

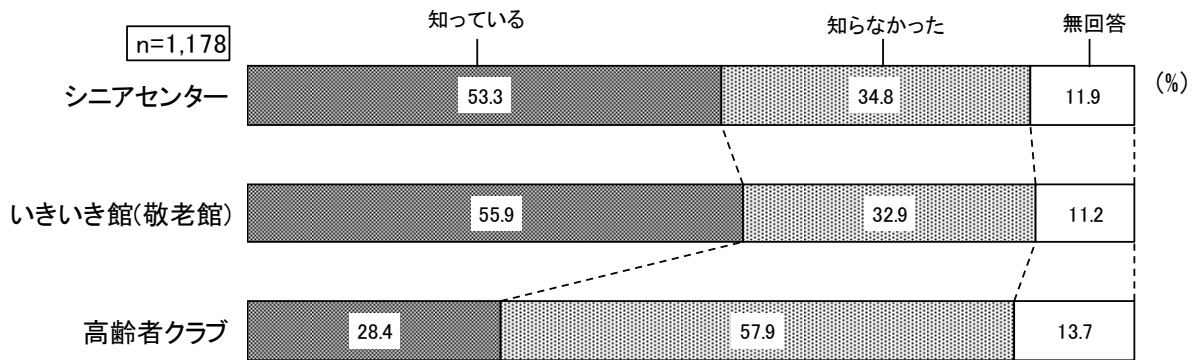
●「健康維持のための食生活への配慮や、体力づくりのための運動をすること」が26.5%



(5) 中央区の高齢者施設について

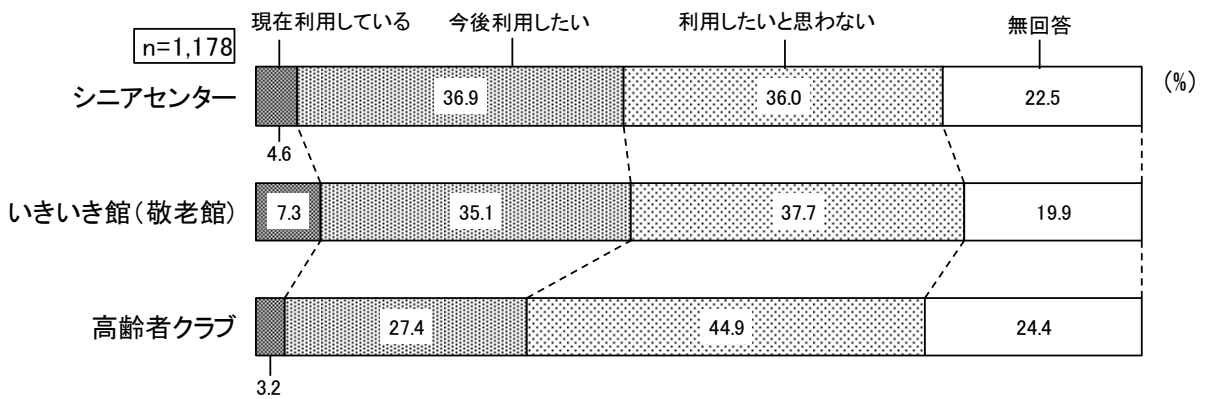
① 認知度

問 20-1：中央区の高齢者を対象とした次のような施設・団体をご存知ですか。



② 利用意向

問 20-2：中央区の高齢者を対象とした次のような施設・団体を利用したいと思いますか。



【中央区の高齢者施設・団体】

シニアセンター	区内在住、在勤の中高齢者が豊かな経験と知識・技能を生かし、積極的な社会活動への参加と生きがい活動の充実を図るための施設
いきいき館（敬老館）	区内に居住する60歳以上の高齢者の憩いの場としての役割に加え、健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりなどを推進する施設
高齢者クラブ	同じ地域に居住する高齢者で構成され、会員相互の親睦を深めるとともに、社会奉仕活動、生きがいを高める各種活動、健康づくりのための活動等を自主的に行う組織

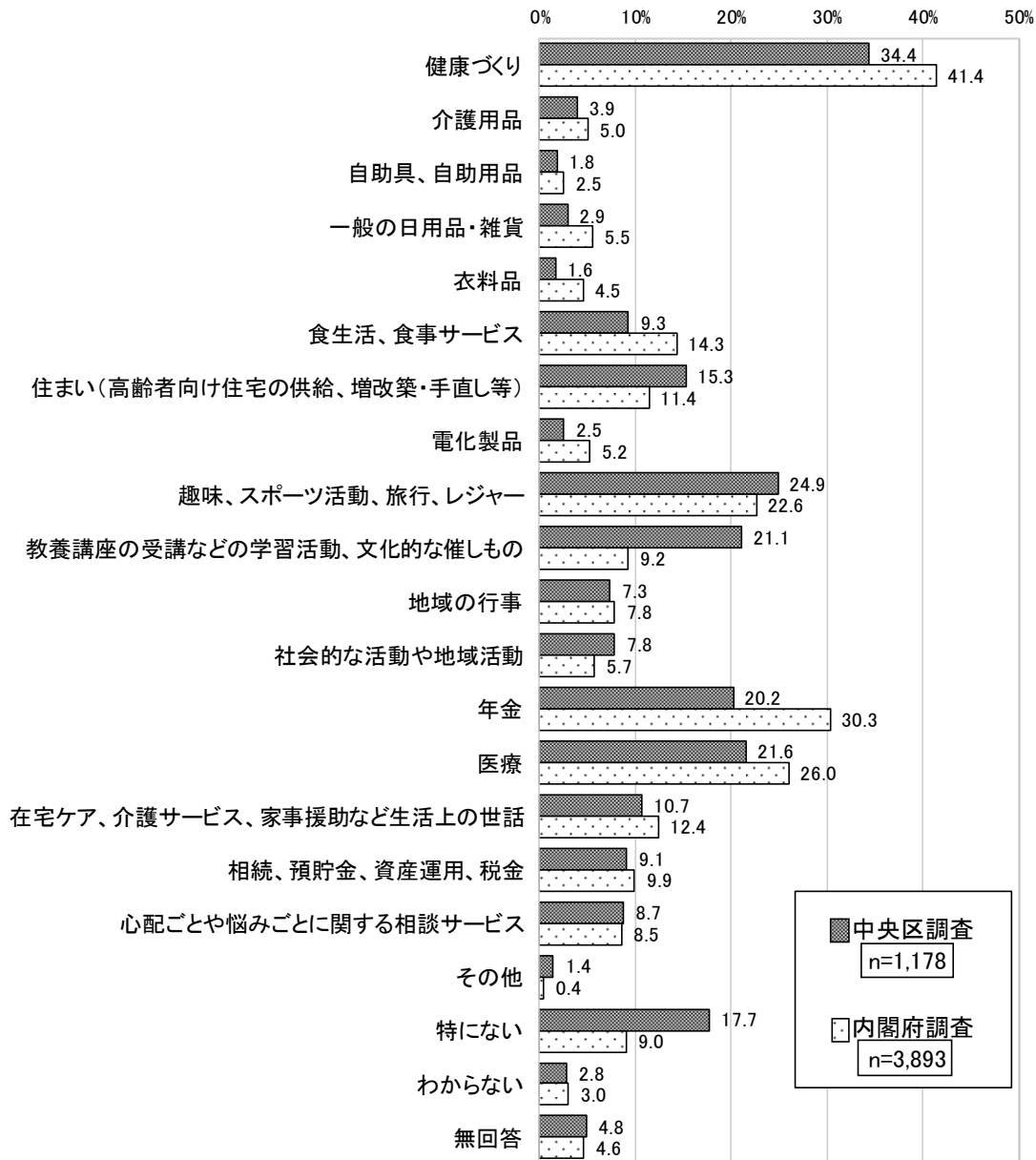
6. 日常生活に関する情報

(1) 日常生活でさらに希望する情報

問21：あなたが日常生活に関する情報で、もっと欲しいと思う内容は何か。【複数回答】

●全国と比べると「教養講座の受講などの学習活動、文化的な催しもの」の割合が高い

日常生活でさらに希望する情報（内閣府調査との比較）

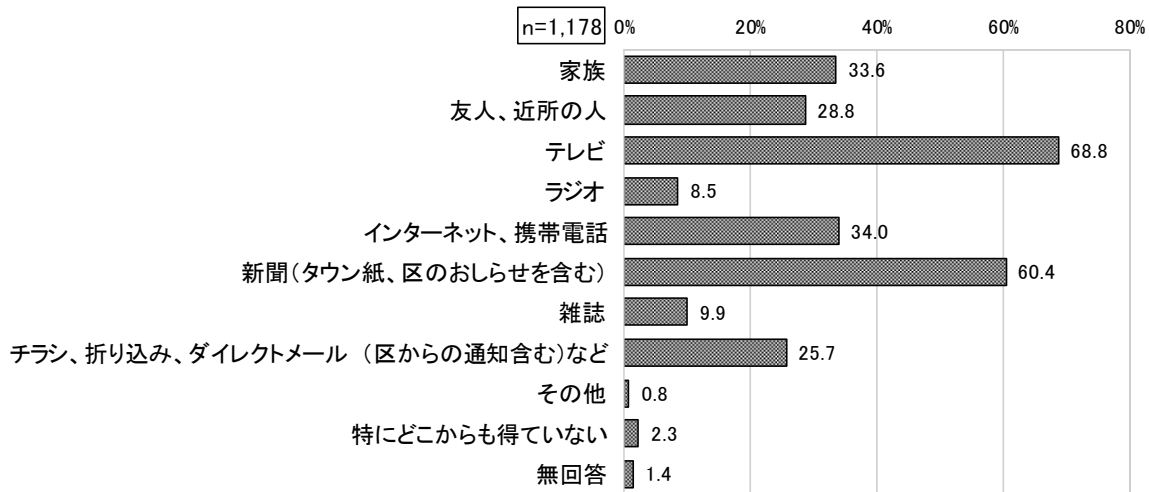


中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区の高齢者は全国の高齢者と比べて、「教養講座の受講などの学習活動、文化的な催しもの」、「特にない」の割合が高く、「健康づくり」や「年金」の割合が低い。

(2) 日常生活に関する情報の入手先

問22：あなたは、日常生活に関する情報をどこから得ていますか。【複数回答：3つまで】

● 「テレビ」と「新聞」がいずれも6割以上



日常生活に関する情報の入手先（性別・年代別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
		家族	友人、近所の人	テレビ	ラジオ	インターネット、携帯電話	新聞(タウン紙、区のおしらせを含む)	雑誌	チラシ、折り込み、ダイレクトメール(区からの通知含む)など	その他	特にどこからも得ていない	無回答	
全体	1,178 100.0	396 33.6	339 28.8	810 68.8	100 8.5	401 34.0	712 60.4	117 9.9	303 25.7	9 0.8	27 2.3	16 1.4	
性別	男性	509 100.0	162 31.8	93 18.3	347 68.2	50 9.8	215 42.2	314 61.7	57 11.2	115 22.6	5 1.0	12 2.4	9 1.8
	女性	653 100.0	229 35.1	240 36.8	453 69.4	50 7.7	180 27.6	388 59.4	58 8.9	184 28.2	4 0.6	15 2.3	7 1.1
年代別	60～64歳	258 100.0	87 33.7	72 27.9	183 70.9	12 4.7	166 64.3	128 49.6	21 8.1	47 18.2	1 0.4	2 0.8	3 1.2
	65～69歳	287 100.0	89 31.0	79 27.5	189 65.9	25 8.7	117 40.8	178 62.0	27 9.4	75 26.1	2 0.7	6 2.1	0 0.0
	70～74歳	219 100.0	83 37.9	81 37.0	144 65.8	23 10.5	51 23.3	137 62.6	25 11.4	66 30.1	3 1.4	4 1.8	4 1.8
	75～79歳	177 100.0	54 30.5	56 31.6	125 70.6	14 7.9	36 20.3	115 65.0	19 10.7	58 32.8	1 0.6	8 4.5	1 0.6
	80～84歳	129 100.0	42 32.6	33 25.6	87 67.4	17 13.2	15 11.6	80 62.0	15 11.6	33 25.6	1 0.8	6 4.7	4 3.1
	85～89歳	51 100.0	22 43.1	6 11.8	39 76.5	5 9.8	3 5.9	37 72.5	6 11.8	12 23.5	0 0.0	1 2.0	3 5.9
	90歳以上	29 100.0	13 44.8	4 13.8	23 79.3	4 13.8	0 0.0	21 72.4	0 0.0	6 20.7	1 3.4	0 0.0	1 3.4

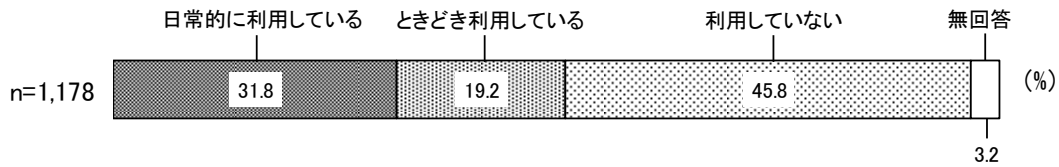
性別で見ると、男性は女性と比べて、「インターネット、携帯電話」の割合が高い。女性は男性と比べ、「友人、近所の人」「チラシ、折り込み、ダイレクトメール（区からの通知含む）など」の割合が高い。

年代別で見ると、85歳以上は他の年代と比べて、「家族」「新聞（タウン紙、区のおしらせを含む）」の割合が高い。また、年代が上がるにつれ、「インターネット、携帯電話」の割合が低くなる。

(3) 情報収集のためのインターネット利用頻度

問 23：あなたは、情報収集の手段として、インターネットを利用していますか。

●利用の有無がほぼ半数に分かれたが、利用している人がやや多い

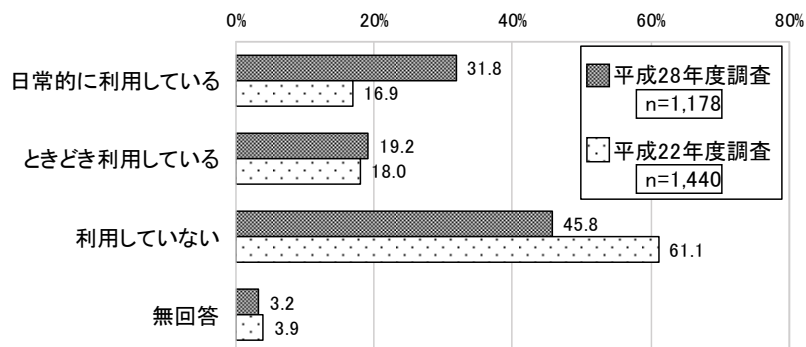


情報収集のためのインターネット利用頻度（性別・性・年代別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)			
			1 日常的に利用 している	2 ときどき利用 している	3 利用していない	無回答
全体		1,178 100.0	375 31.8	226 19.2	539 45.8	38 3.2
性別	男性	509 100.0	218 42.8	91 17.9	188 36.9	12 2.4
	女性	653 100.0	151 23.1	132 20.2	345 52.8	25 3.8
性・年代別	男性 60～64歳	118 100.0	81 68.6	22 18.6	14 11.9	1 0.8
	男性 65～74歳	223 100.0	94 42.2	44 19.7	82 36.8	3 1.3
	男性 75～84歳	126 100.0	35 27.8	23 18.3	65 51.6	3 2.4
	男性 85歳以上	35 100.0	1 2.9	2 5.7	27 77.1	5 14.3
	女性 60～64歳	140 100.0	70 50.0	37 26.4	31 22.1	2 1.4
	女性 65～74歳	283 100.0	66 23.3	66 23.3	142 50.2	9 3.2
	女性 75～84歳	180 100.0	15 8.3	23 12.8	130 72.2	12 6.7
	女性 85歳以上	45 100.0	0 0.0	5 11.1	38 84.4	2 4.4

性別で見ると、男性は女性と比べて、インターネットを「日常的に利用している」の割合が高い。
また、性・年代別で見ると、75歳以上は男女とも「利用していない」の割合が高い。

情報収集のためのインターネット利用頻度（平成22年度調査との比較）



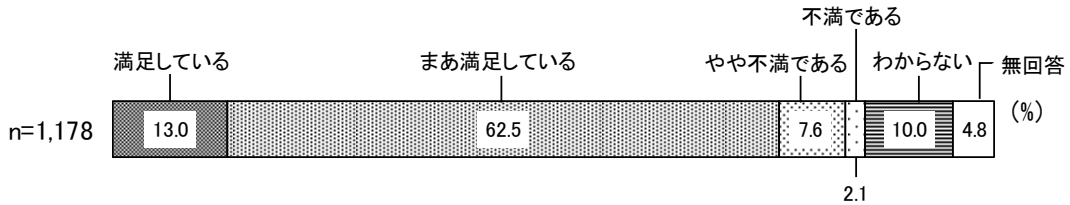
平成22年度の調査と比べて、「日常的に利用している」の割合が14.9ポイント増え、インターネットの利用頻度は上がっている。

(4) 情報に対する満足度

① 満足度

問24：あなたは、日常生活に関する情報に満足していますか。

●「満足している」と「まあ満足している」を合わせると75.5%

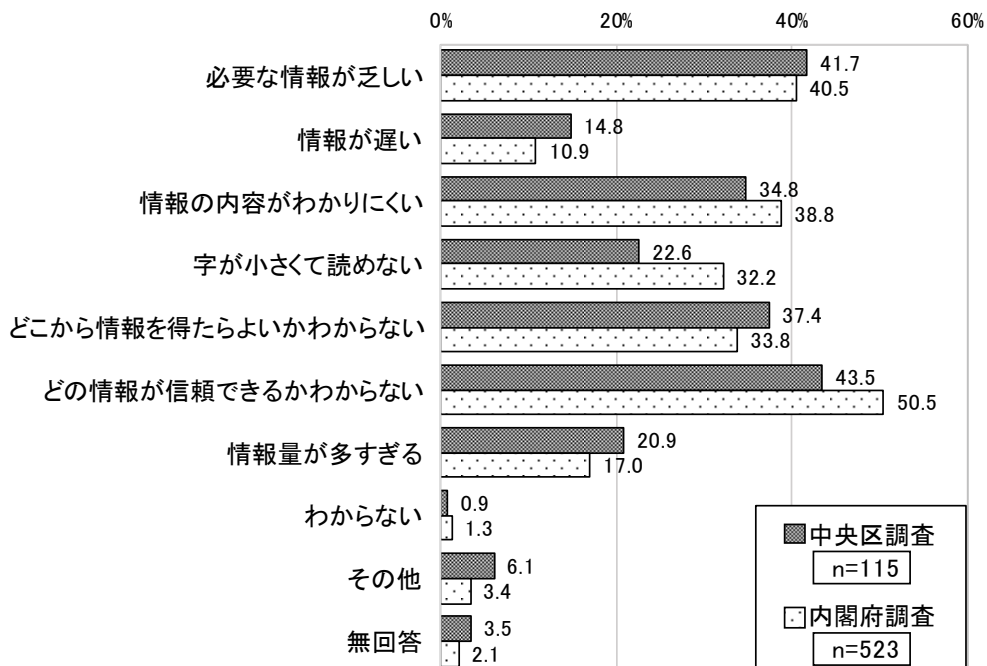


② 不満の内容

【問24で「3. やや不満である」、「4. 不満である」と回答の方】

問24-1：不満の内容は何ですか。【複数回答】

●「どの情報が信頼できるかわからない」(43.5%)が最も多いが、全国と比べるとその割合は低い



中央区と内閣府の調査結果を比較すると、中央区の高齢者は全国の高齢者と比べて、「字が小さくて読めない」や「どの情報が信頼できるかわからない」の割合が低い。

7. 健康教室や健康づくり事業への参加状況

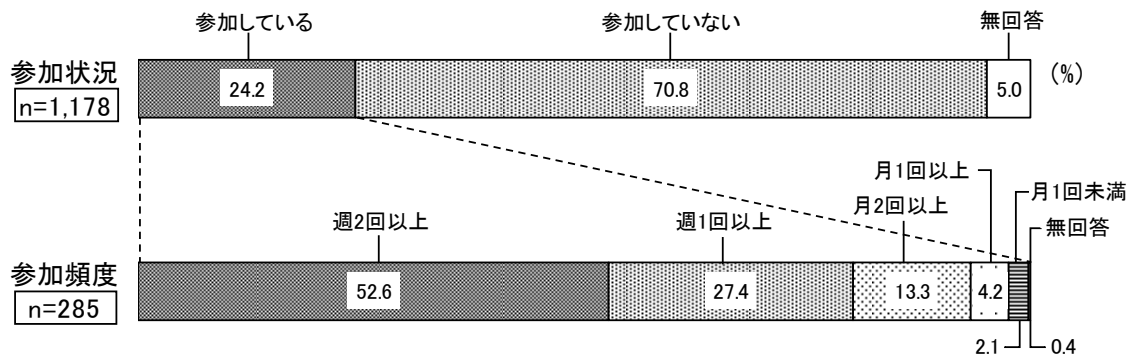
(1) 参加状況

問 25：あなたは、健康づくりのためにスポーツクラブや体操教室等（行政主催・民間主催を問わない）に参加していますか。

【問 25 で「参加している」と回答の方】

問 25-1：参加頻度は、どの程度ですか。

●参加率は男性よりも女性の方が高く、参加頻度は「週2回以上」が52.6%



参加状況（性別・年代別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)		
			1 参加している	2 参加していない	無回答
全体		1,178 100.0	285 24.2	834 70.8	59 5.0
性別	男性	509 100.0	86 16.9	393 77.2	30 5.9
	女性	653 100.0	194 29.7	430 65.8	29 4.4
年代別	60～64歳	258 100.0	53 20.5	195 75.6	10 3.9
	65～69歳	287 100.0	78 27.2	196 68.3	13 4.5
	70～74歳	219 100.0	59 26.9	147 67.1	13 5.9
	75～79歳	177 100.0	50 28.2	118 66.7	9 5.1
	80～84歳	129 100.0	29 22.5	95 73.6	5 3.9
	85～89歳	51 100.0	7 13.7	38 74.5	6 11.8
	90歳以上	29 100.0	4 13.8	23 79.3	2 6.9

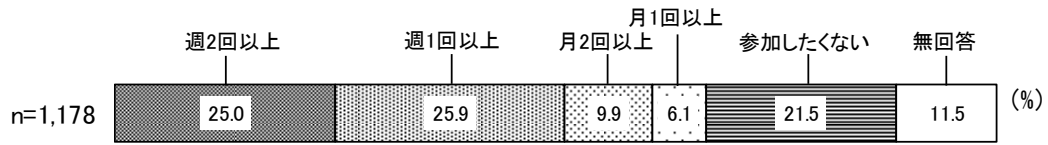
性別で見ると、男性は女性と比べて、「参加していない」の割合が高い。

年代別で見ると、65～79歳は他の年代と比べて、「参加している」の割合が高い。

(2) 理想の参加頻度

問26：あなたが参加したい理想の頻度はどの程度ですか。

● 「週1回以上」と「週2回以上」を合わせると50.9%



理想の参加頻度（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		全体	1	2	3	4	5	無回答
			週2回以上	週1回以上	月2回以上	月1回以上	参加したくない	
全体		1,178 100.0	295 25.0	305 25.9	117 9.9	72 6.1	253 21.5	136 11.5
性別	男性	509 100.0	116 22.8	117 23.0	44 8.6	36 7.1	140 27.5	56 11.0
	女性	653 100.0	176 27.0	181 27.7	71 10.9	35 5.4	111 17.0	79 12.1

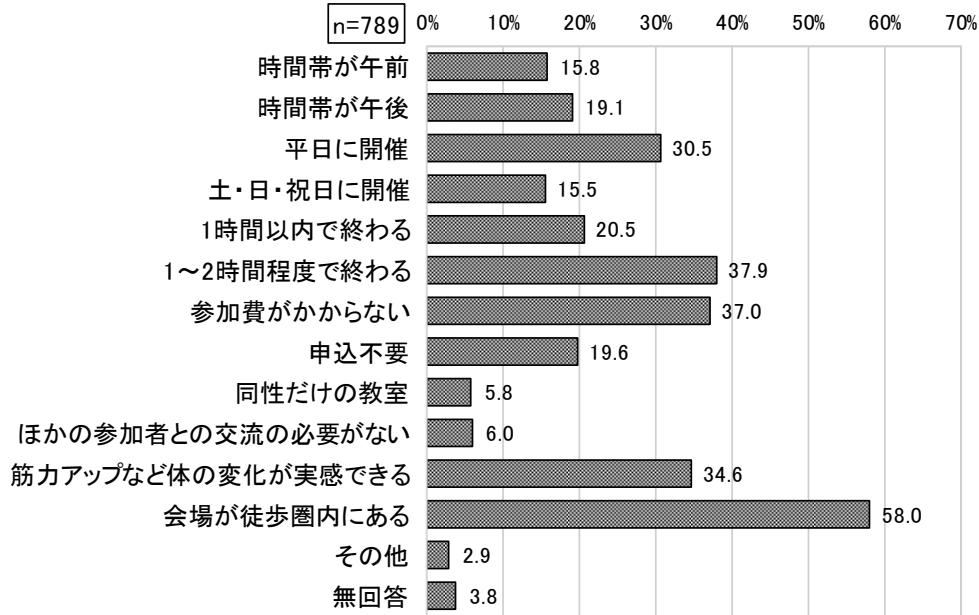
性別で見ると、男性は女性と比べて、「参加したくない」の割合が高い。

(3) 参加条件

【問26で「週2回以上」、「週1回以上」、「月2回以上」、「月1回以上」と回答の方】

問26-1：スポーツクラブや体操教室等（行政主催・民間主催を問わない）に参加しようと思う条件は何ですか。【複数回答】

●「会場が徒歩圏内にある」が58.0%



参加条件（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		時間帯が午前	時間帯が午後	平日に開催	土・日・祝日に開催	1時間以内で終わる	1～2時間程度で終わる	参加費がかからない	申込不要	同性だけの教室	ほかの参加者との交流の必要がない	変化が実感できる	筋力アップなど体の変化が実感できる	会場が徒歩圏内にある	その他	
全体		789	125	151	241	122	162	299	292	155	46	47	273	458	23	30
		100.0	15.8	19.1	30.5	15.5	20.5	37.9	37.0	19.6	5.8	6.0	34.6	58.0	2.9	3.8
性別	男性	313	33	45	76	74	58	110	117	46	3	18	91	158	9	12
		100.0	10.5	14.4	24.3	23.6	18.5	35.1	37.4	14.7	1.0	5.8	29.1	50.5	2.9	3.8
性別	女性	463	91	100	162	46	102	183	169	106	42	27	178	294	14	18
		100.0	19.7	21.6	35.0	9.9	22.0	39.5	36.5	22.9	9.1	5.8	38.4	63.5	3.0	3.9

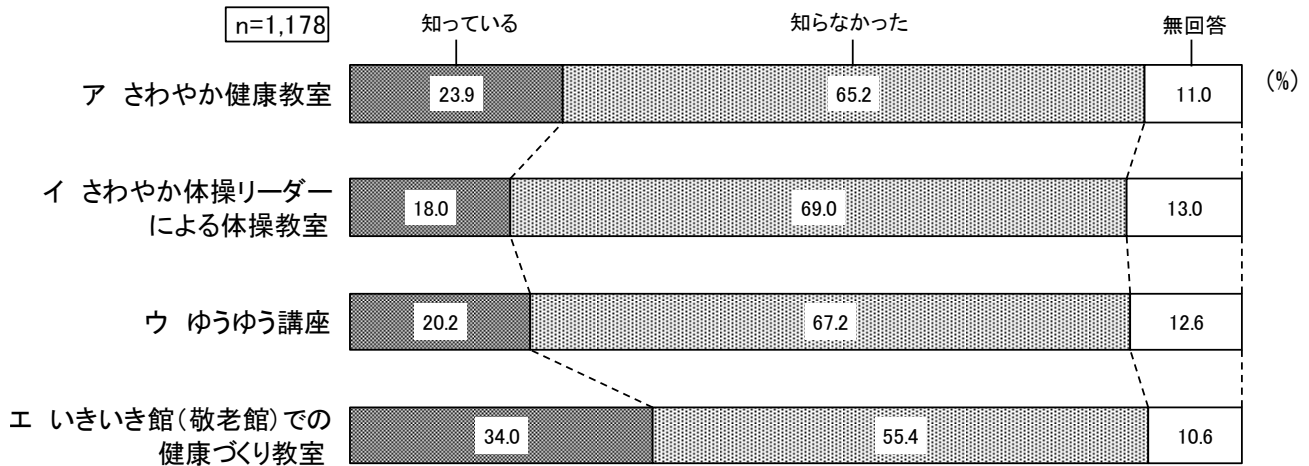
性別で見ると、男性は女性と比べて、「土・日・祝日に開催」の割合が高い。女性は男性と比べて、「時間帯が午前」や「平日に開催」、「申込不要」、「筋力アップなど体の変化が実感できる」、「会場が徒歩圏内にある」の割合が高い。

(4) 中央区の高齢者健康づくり事業

① 高齢者健康づくり事業の認知度

問27：あなたは、中央区が行っている次のような高齢者健康づくり事業をご存知ですか。

● 「いきいき館（敬老館）での健康づくり教室」の認知度（34.0%）が最も高い



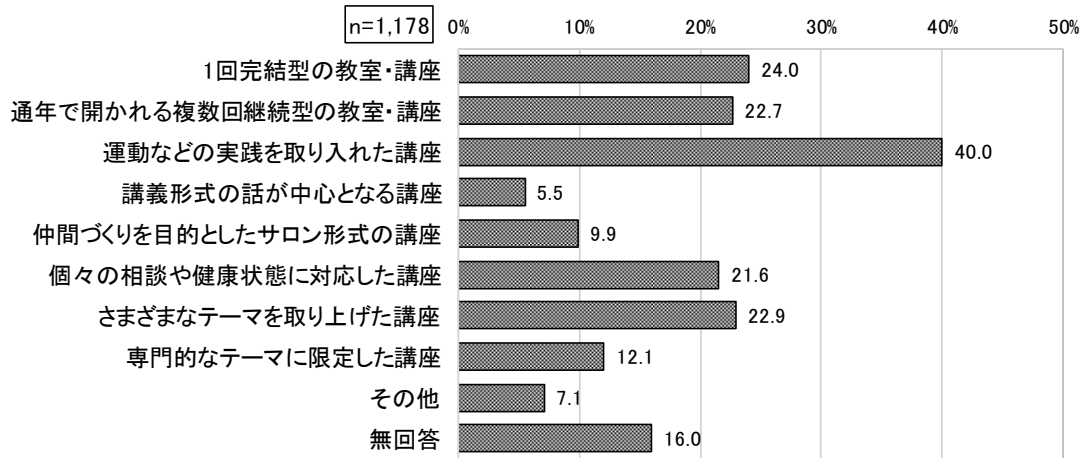
【中央区の高齢者健康づくり事業】

さわやか健康教室	元気な高齢者を対象に、身体機能の維持・向上を目的としたマシントレーニングを行う教室
さわやか体操リーダーによる体操教室	さわやか健康教室修了者など元気な高齢者を対象に、区民ボランティア「さわやか体操リーダー」が筋力向上のための体操を行う教室
悠悠講座	元気な高齢者を対象に、楽しみながら自然と健康づくりにつなげることを目的とし、コーラスや脳トレ、運動などを行う1回完結型の講座
いきいき館（敬老館）での健康づくり教室	ヨガや太極拳、ロコモ体操など、いきいき館（敬老館）で主催している教室

② 参加したいと思う健康づくり事業

問28：あなたは、どのような健康づくり事業なら参加したいと思いますか。【複数回答：3つまで】

●「運動などの実践を取り入れた講座」が40.0%



<その他の回答>

- 集団行動等を強制されない自由な講座
- 少人数の講座
- ダイエットの実践講座
- 自分で決めた時刻にできる講座
- 栄養学の基本的知識が学べる講座
- ヨガ講座
- グランドゴルフ、テレビ体操、ゴム体操
- 病気にならないための予防の講座

参加したいと思う健康づくり事業（性別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	
		講座回数 1回完結型の 教室・講座	継続型の 教室・講座 複数回	運動などの 実践を取り 入れた講座	講義形式の 話を中心 とする講座	仲間づくり サロン形式 の講座	個々の相談 や健康状態 に対応した 講座	さまざまな テーマを 取り上げた 講座	専門的な テーマに 限定した 講座	その他		
全体	1,178 100.0	283 24.0	267 22.7	471 40.0	65 5.5	117 9.9	254 21.6	270 22.9	142 12.1	84 7.1	188 16.0	
性別	男性	509 100.0	99 19.4	107 21.0	189 37.1	28 5.5	52 10.2	108 21.2	101 19.8	67 13.2	41 8.1	86 16.9
	女性	653 100.0	179 27.4	154 23.6	275 42.1	37 5.7	60 9.2	141 21.6	163 25.0	73 11.2	43 6.6	102 15.6

性別で見ると、女性は男性と比べて、「1回完結型の教室・講座」や「運動などの実践を取り入れた講座」、「さまざまなテーマを取り上げた講座」の割合が高い。

8. 交流サロン・趣味の講座・サークル活動への参加状況

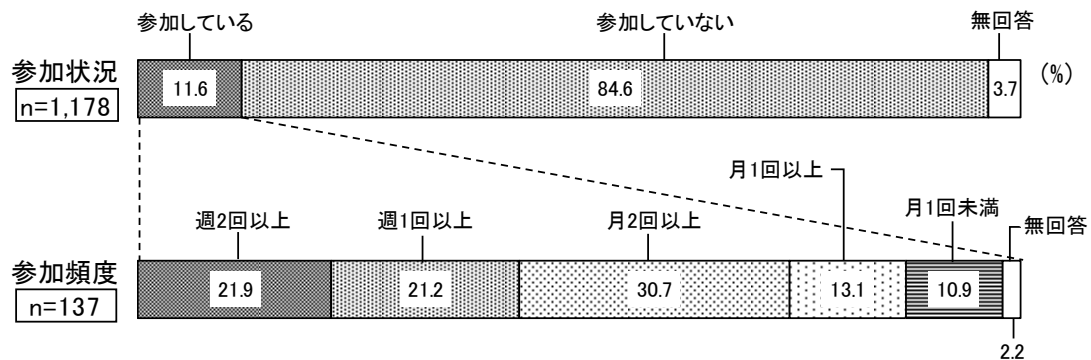
(1) 参加状況

問 29：あなたは、友達づくりや生きがいのために地域住民同士が集う交流サロンや趣味の講座、サークル活動等に参加していますか。

【問29で「参加している」と回答の方】

問 29-1：参加頻度は、どの程度ですか。

● 「参加している」が11.6%、そのうち参加頻度は「月2回以上」が30.7%



参加状況（性別・年代別）

		全体	参加状況		
			1 参加している	2 参加していない	無回答
全体		1,178 100.0	137 11.6	997 84.6	44 3.7
性別	男性	509 100.0	34 6.7	464 91.2	11 2.2
	女性	653 100.0	102 15.6	519 79.5	32 4.9
年代別	60～64歳	258 100.0	8 3.1	244 94.6	6 2.3
	65～69歳	287 100.0	30 10.5	243 84.7	14 4.9
	70～74歳	219 100.0	33 15.1	179 81.7	7 3.2
	75～79歳	177 100.0	29 16.4	143 80.8	5 2.8
	80～84歳	129 100.0	24 18.6	99 76.7	6 4.7
	85～89歳	51 100.0	6 11.8	40 78.4	5 9.8
	90歳以上	29 100.0	6 20.7	23 79.3	0 0.0

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

性別で見ると、男性は9割以上が参加していない。

年代別で見ると、60～64歳は9割以上が参加していない。60歳から84歳までは年代が上がるにつれて「参加している」の割合が高くなる。

(2) 理想の参加頻度

問30：あなたが参加したい理想の頻度はどの程度ですか。

●「週1回以上」（21.4%）が最も多く、「週2回以上」から「月1回以上」までを合わせると60.9%



理想の参加頻度（性別・年代別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

	全体	1	2	3	4	5	無回答	
		週2回以上	週1回以上	月2回以上	月1回以上	参加したくない		
全体	1,178 100.0	86 7.3	252 21.4	193 16.4	186 15.8	329 27.9	132 11.2	
性別	男性	509 100.0	31 6.1	112 22.0	72 14.1	74 14.5	171 33.6	49 9.6
	女性	653 100.0	54 8.3	134 20.5	117 17.9	111 17.0	155 23.7	82 12.6
年代別	60～64歳	258 100.0	7 2.7	43 16.7	53 20.5	62 24.0	75 29.1	18 7.0
	65～69歳	287 100.0	16 5.6	66 23.0	48 16.7	51 17.8	78 27.2	28 9.8
	70～74歳	219 100.0	18 8.2	63 28.8	32 14.6	31 14.2	54 24.7	21 9.6
	75～79歳	177 100.0	31 17.5	37 20.9	28 15.8	19 10.7	42 23.7	20 11.3
	80～84歳	129 100.0	9 7.0	21 16.3	23 17.8	17 13.2	40 31.0	19 14.7
	85～89歳	51 100.0	3 5.9	9 17.6	4 7.8	0 0.0	20 39.2	15 29.4
	90歳以上	29 100.0	1 3.4	4 13.8	1 3.4	4 13.8	13 44.8	6 20.7

性別で見ると、男性は女性と比べて、「参加したくない」の割合が高い。

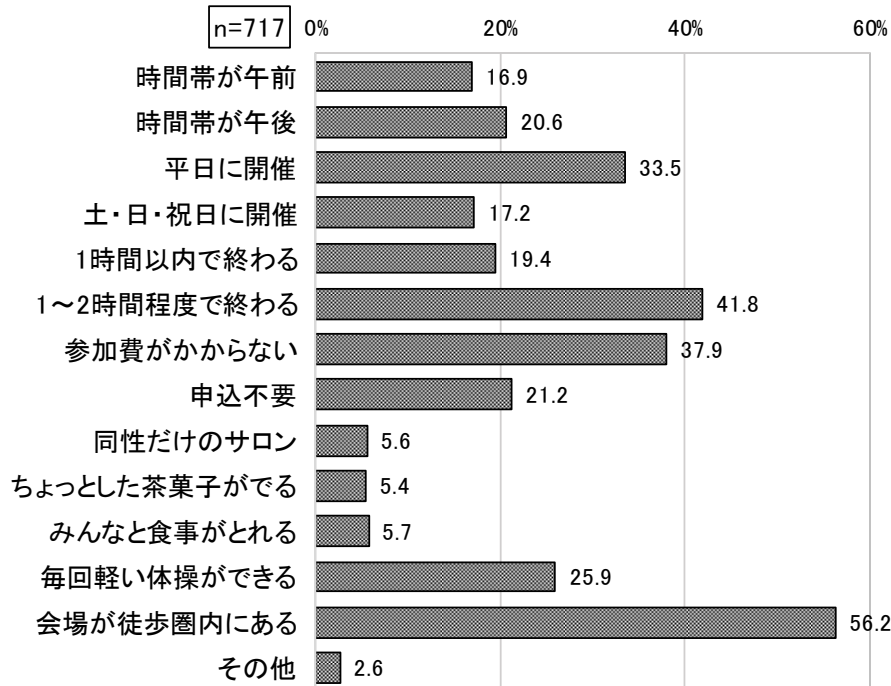
年代別で見ると、70～74歳は他の年代と比べて、「週1回以上」の割合が高い。75～79歳は他の年代と比べて、「週2回以上」の割合が高い。また、85歳以上は他の年代と比べて、「参加したくない」の割合が高い。

(3) 参加条件

【問30で「1.週2回以上」～「4.月1回以上」と回答の方】

問30-1：付問30-1 地域住民同士が集う交流サロンや趣味の講座、サークル活動等に参加しようと思う条件は何ですか。【複数回答】

●「会場が徒歩圏内にある」が56.2%



参加条件（性別）

		上段:実数(人) 下段:構成比(%)															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
		時間帯が午前	時間帯が午後	平日に開催	土・日・祝日に開催	1時間以内で終わる	1～2時間程度で終わる	参加費がかからない	申込不要	同性だけのサロン	ちょっとした茶菓子がでる	みんなと食事がとれる	毎回軽い体操ができる	会場が徒歩圏内にある	その他	無回答	
全体	717	121	148	240	123	139	300	272	152	40	39	41	186	403	19	25	
	100.0	16.9	20.6	33.5	17.2	19.4	41.8	37.9	21.2	5.6	5.4	5.7	25.9	56.2	2.6	3.5	
性別	男性	289	39	50	80	77	48	127	101	52	3	15	13	53	134	8	8
		100.0	13.5	17.3	27.7	26.6	16.6	43.9	34.9	18.0	1.0	5.2	4.5	18.3	46.4	2.8	2.8
性別	女性	416	80	94	156	44	88	168	163	97	36	24	27	129	261	11	17
		100.0	19.2	22.6	37.5	10.6	21.2	40.4	39.2	23.3	8.7	5.8	6.5	31.0	62.7	2.6	4.1

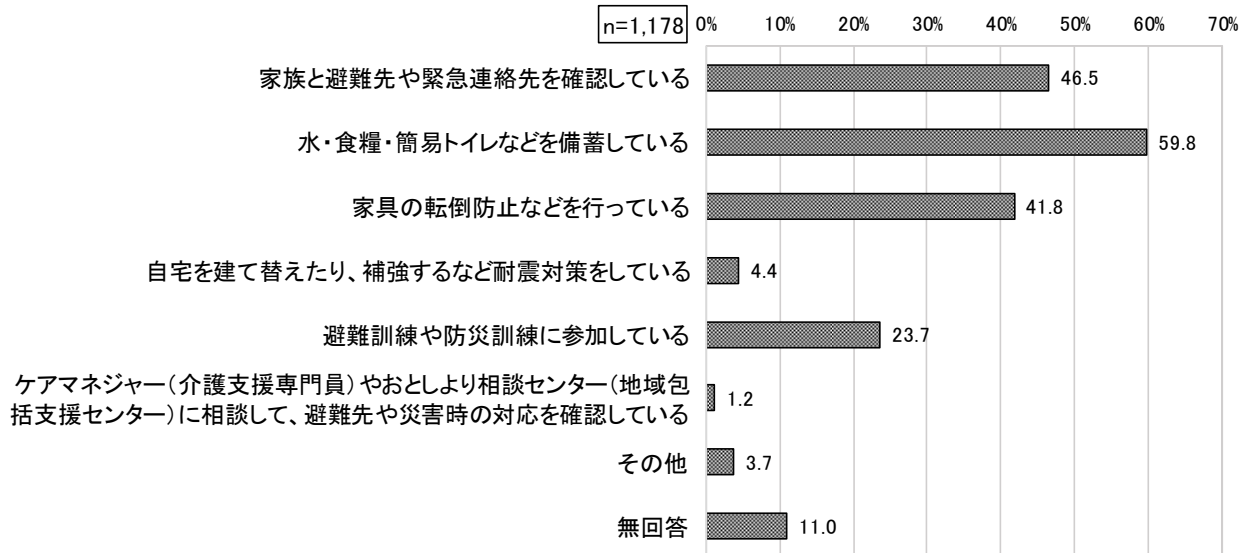
性別で見ると、男性は女性と比べて、「土・日・祝日に開催」の割合が高い。女性は男性と比べて、「時間帯が午前」や「平日に開催」、「申込不要」、「毎回軽い体操ができる」、「会場が徒歩圏内にある」の割合が高い。

9. 災害時の対応

(1) 災害への備え

問31：あなたは、地震などの災害に備えてどのようなことをしていますか。【複数回答】

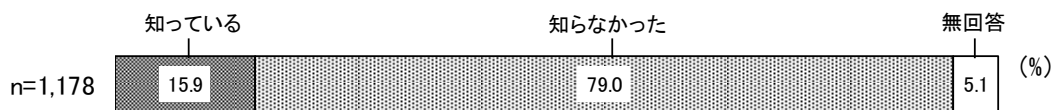
● 「水・食糧・簡易トイレなどを備蓄している」 (59.8%) が最も多い



(2) 「中央区災害時地域たすけあい名簿」の認知度

問32：あなたは、「中央区災害時地域たすけあい名簿」についてご存知ですか。

● 「知らなかった」が79.0%



中央区災害時地域たすけあい名簿

災害時に自力で避難したり生活することが困難な方を登録し、安否確認や避難誘導等の支援及び支援のための体制づくりに役立てることを目的とした名簿。

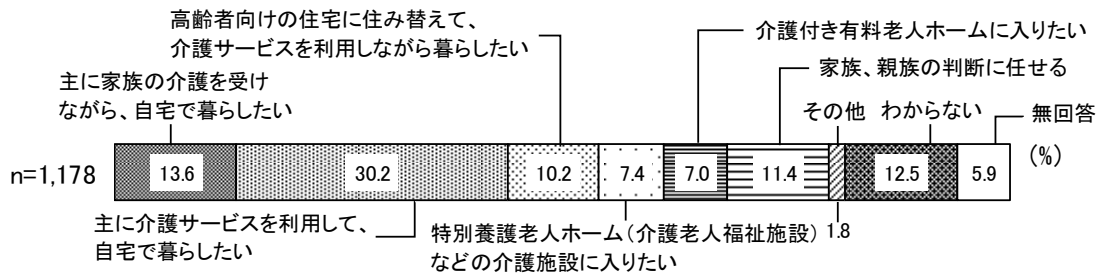
本人の同意がある方の名簿情報を、警察、消防、民生・児童委員、防災区民組織、介護サービス事業者に平常時からあらかじめ提供している。

10. 今後の介護の希望等

(1) 今後希望する介護

問33：あなたは、今後、どのような介護を希望しますか。

●43.8%が自宅での介護を希望



「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」と「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」を合わせた自宅での介護を希望する割合は43.8%である。

今後希望する介護（性別・年代別）

		上段:実数(人) 下段:構成比(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8		
		主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスを利用しながら暮らしたい	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)などの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	家族、親族の判断に任せる	その他	わからない	無回答	
全体		1,178 100.0	160 13.6	356 30.2	120 10.2	87 7.4	83 7.0	134 11.4	21 1.8	147 12.5	70 5.9
性別	男性	509 100.0	94 18.5	126 24.8	47 9.2	34 6.7	32 6.3	71 13.9	7 1.4	71 13.9	27 5.3
	女性	653 100.0	64 9.8	226 34.6	71 10.9	50 7.7	48 7.4	62 9.5	14 2.1	76 11.6	42 6.4
年代別	60～64歳	258 100.0	31 12.0	72 27.9	34 13.2	10 3.9	18 7.0	26 10.1	2 0.8	54 20.9	11 4.3
	65～69歳	287 100.0	25 8.7	90 31.4	33 11.5	27 9.4	22 7.7	32 11.1	2 0.7	40 13.9	16 5.6
	70～74歳	219 100.0	33 15.1	83 37.9	20 9.1	18 8.2	17 7.8	19 8.7	6 2.7	17 7.8	6 2.7
	75～79歳	177 100.0	25 14.1	54 30.5	13 7.3	15 8.5	13 7.3	24 13.6	6 3.4	12 6.8	15 8.5
	80～84歳	129 100.0	25 19.4	32 24.8	10 7.8	8 6.2	7 5.4	20 15.5	1 0.8	11 8.5	15 11.6
	85～89歳	51 100.0	13 25.5	13 25.5	4 7.8	3 5.9	0 0.0	7 13.7	2 3.9	4 7.8	5 9.8
	90歳以上	29 100.0	3 10.3	8 27.6	3 10.3	1 3.4	2 6.9	5 17.2	2 6.9	4 13.8	1 3.4

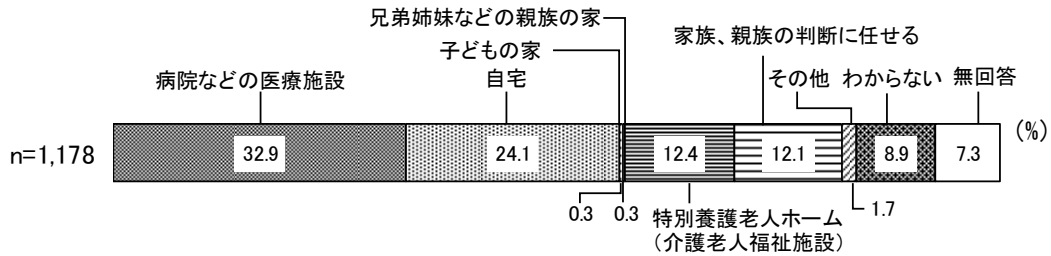
性別で見ると、男性は女性と比べて、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が高い。女性は男性と比べて、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」の割合が高い。

年代別で見ると、60歳代は他の年代と比べて、「わからない」の割合が高い。70～74歳は他の年代と比べて、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」の割合が高く、「家族、親族の判断に任せる」の割合が低い。80～89歳は他の年代と比べて、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が高い。

(2) 終末期に介護を受けたい場所

問 34：あなたは、病気が治る可能性がなくなり、終末期になった場合、どこで介護を受けたいと思いますか。

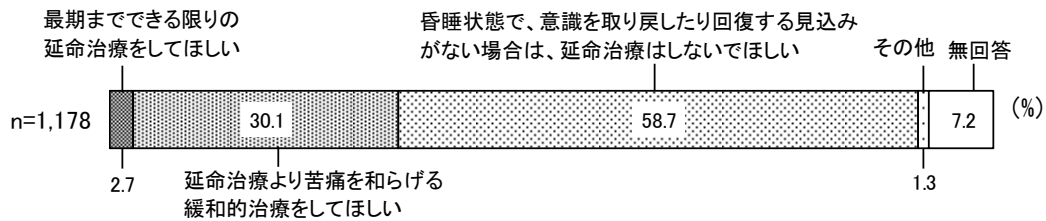
● 「病院などの医療施設」で受けたい人が 32.9%



(3) 延命治療について

問 35：あなたは、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。

● 「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」が 58.7%



「最期までできる限りの延命治療をしてほしい」は2.7%となっている。

(4) 家族・周囲へ意向を伝えたかどうか

問 36：あなたは、今後の医療や介護について自分が望むことを、ご家族や周囲の方と話し合っていますか。

● 「話し合っていない」がやや多く 53.1%

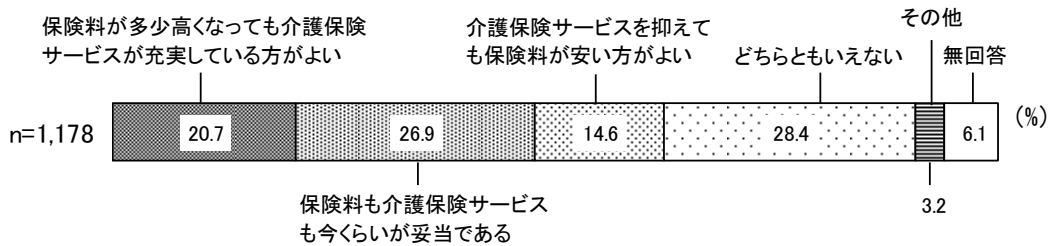


11. 今後の高齢者保健福祉施策

(1) 介護保険サービスと介護保険料のあり方

問 37：今後、高齢者が増加していくにつれて介護保険料が高くなることが想定されますが、あなたは、今後の介護保険料のあり方についてどう思いますか。

●「今くらいが妥当である」（26.9%）及び「どちらともいえない」（28.4%）の割合が高い



介護保険サービスと介護保険料のあり方（性別・年代別）

		全体	割合 (%)					無回答
			1	2	3	4	5	
			保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい	保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	介護保険サービスを抑えても保険料が安い方がよい	どちらともいえない	その他	
全体		1,178	24.4	31.7	17.2	33.5	3.8	7.2
			20.7	26.9	14.6	28.4	3.2	6.1
性別	男性	509	11.2	14.7	9.0	11.5	1.8	2.7
		100.0	22.0	28.9	17.7	22.6	3.5	5.3
女性	653	12.7	16.7	8.0	21.4	2.0	4.5	
	100.0	19.4	25.6	12.3	32.8	3.1	6.9	
年代別	60～64歳	258	5.8	4.7	3.3	9.7	1.1	1.2
		100.0	22.5	18.2	12.8	37.6	4.3	4.7
	65～69歳	287	5.7	7.5	4.5	8.1	1.7	1.2
		100.0	19.9	26.1	15.7	28.2	5.9	4.2
	70～74歳	219	3.7	6.8	3.8	5.6	0.6	1.4
		100.0	16.9	31.1	17.4	25.6	2.7	6.4
	75～79歳	177	3.8	6.5	1.8	3.7	0.3	1.6
		100.0	21.5	36.7	10.2	20.9	1.7	9.0
80～84歳	129	2.9	3.5	2.3	3.5	0.0	0.7	
	100.0	22.5	27.1	17.8	27.1	0.0	5.4	
85～89歳	51	1.0	1.3	0.9	1.3	0.0	0.6	
	100.0	19.6	25.5	17.6	25.5	0.0	11.8	
90歳以上	29	0.9	0.8	0.1	0.7	0.0	0.4	
	100.0	31.0	27.6	3.4	24.1	0.0	13.8	

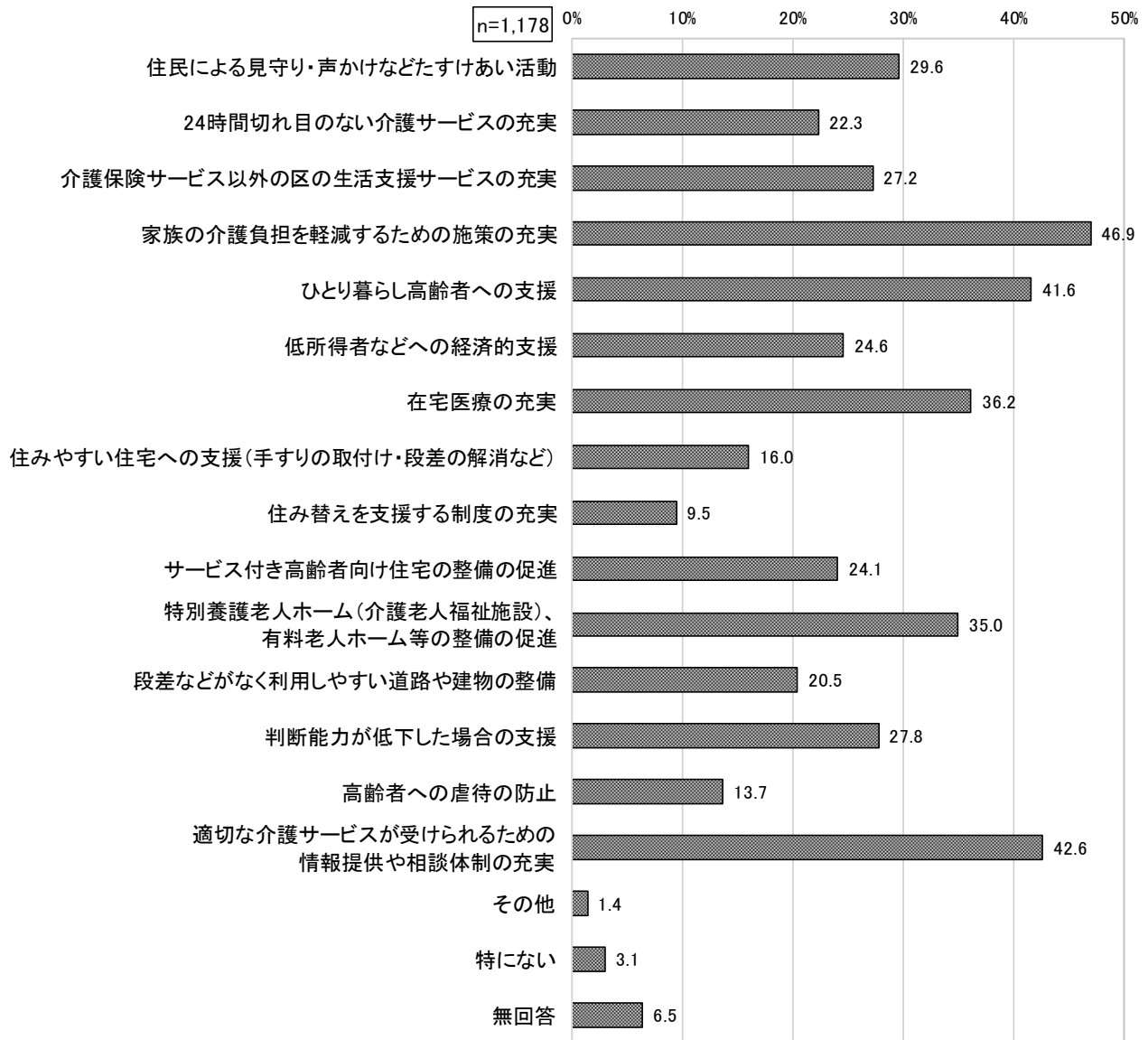
性別で見ると、男性は女性と比べて、「介護保険サービスを抑えても保険料が安い方がよい」の割合が高い。女性は男性と比べて、「どちらともいえない」の割合が高い。

年代別で見ると、60～64歳は他の年代と比べて、「どちらともいえない」の割合が高い。75～79歳は他の年代と比べて、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」の割合が高く、「介護保険サービスを抑えても保険料が安い方がよい」、「どちらともいえない」の割合が低い。

(2) 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策

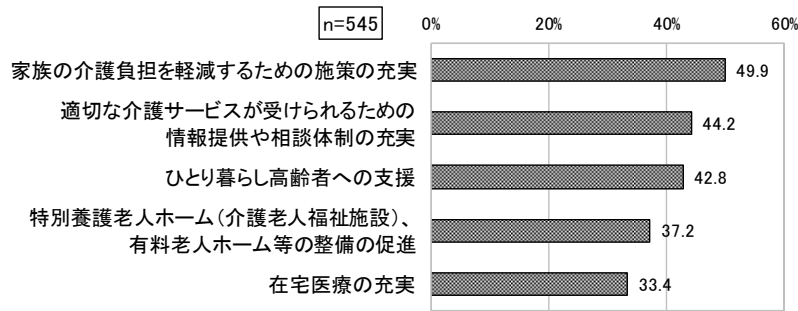
問 38：住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で中央区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。【複数回答】

●「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」が46.9%、「適切な介護サービスが受けられるための情報提供や相談体制の充実」が42.6%

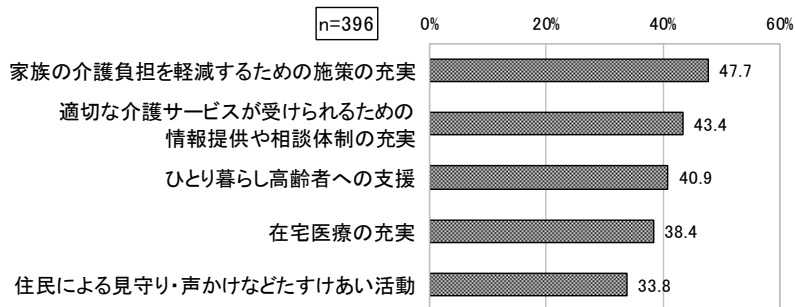


今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（年代別上位5項目）

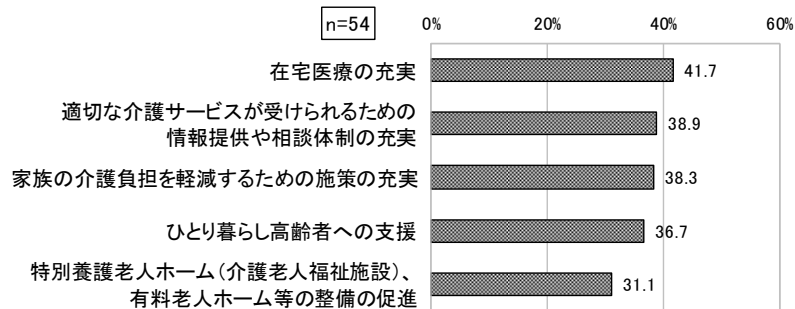
ア 60～69歳



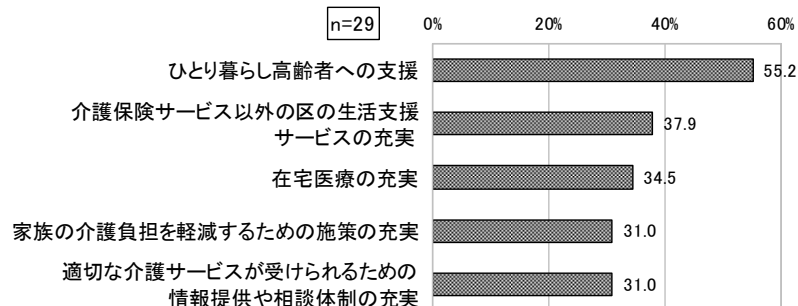
イ 70～79歳



ウ 80～89歳



エ 90歳以上



(3) 高齢者向けサービスに関する自由意見

問39：高齢者向けサービスなどに関するご意見をご自由にお書きください。【自由記述】

【① 高齢者施策のあり方・考え方について】

- 高齢者を囲いの中に入れようとせず、高齢者が表に出るチャンスを与えてほしい。知識や体力の充分な高齢者はたくさんいるはずである。
- 高齢者の中にも高学歴者、インテリが多いことを忘れないでサービスを企画してほしい。
- まちや施設に高齢者や障害者がいるのが当たり前と思える社会になってほしい。道路のちょっとしたゆがみや段差などを改善してほしい。
- 区の高齢者福祉は手厚くセーフティネットも充実しているが、自助努力も必要だと思う。情報収集の能力も高め、健康に留意して社会参加やボランティア、運動することが必要だと思う。
- お金を払いたくないがサービスを受けたいというのは高齢者のエゴであり、若い人への負担増加となる。サービスを受ける高齢者は感謝の気持ちを持ってサービスを受けようになりたい。
- 高齢者向けサービスという形式ではなく、あらゆる世代の人に対するサービスとして実施しなければ、何がその人にとって必要なことなのかという思いに至らないのではないかと。

【② 仕事・就労・経済について】

- 年齢に関係なく働ける人は働けば良いという社会になるとよい。
- 単に高齢者と言っても一人ひとりが違った状態なので対応もさまざまと思うが、経済格差が老後に厳しく反映されるようになる事態は避けたいものだと思う。

【③ 高齢者の外出・外出支援、高齢者の運転問題に関して】

- 高齢者は足がだんだん不自由になるのでバスやタクシーを充実してほしい。中央区のバスは一方通行で回数が少ない。地下鉄はエレベーターが少なくラッシュアワー時など危険である。
- 地下鉄の階段しかない出入口にエレベーター、エスカレーターを装備してほしい。病院寄りの地下鉄の駅等に高齢者が多いがエレベーターやエスカレーターがない。
- 日々感じているのは、歩道と車道の段差である。ベビーカーではとても歩きにくかったのが、これが車イスだったらと考えるとゾッとする。
- 高齢者の運転による事故防止のため運転講習会等を地域の警察署単位で半年に1回程度やってほしい。高齢者が免許を返納するのではなく、正しい運転方法等を警察が指導する機会を設けてほしい。

【④ 趣味・娯楽について】

- 区の高齢者向けの施設・設備は豊かであると感じ、ありがたいことといつも思う。毎年の観劇招待や敬老買物券などは、区の高齢者への配慮があってこそと思い、心理的にも区への信頼感が生まれている。

【⑤ 助け合い、地域コミュニティ、交流の場について】

- マンション住まいをして3年になるが、いまだに顔を合わせ、挨拶できる人が2~3人しかいない。自分自身が動いてコミュニティとのかかわりのきっかけをみつけていきたい。年を重ねることの辛さは、経験しないとわからないものである。
- 1人暮らしは淋しいので、「元気に暮らしていますか？」と自宅にどなたか声をかけて頂くとうれしい。
- 銭湯の充実。皆お風呂は好きだと思う。温泉に行けなくなったという人のためにも、銭湯に援助をしてより楽しい集いの場になればと思う。

- 病気や介護の必要のない高齢者の家庭にも定期的に訪問して、安否確認や時に話し相手になってくれるような体制づくりを望む。身近な地域の住民同士のつながりがあればよいが、なかなかマンション住まいだと疎縁になりやすいと思われる。

【⑥ 高齢者の生活支援について】

- 外食する高齢者が利用しやすい宅配のあるレストランがもっと増えるとよい。
- 弁当配達が充実すると、個人との対面で急病等への対処ができる。

【⑦ 相談・情報、成年後見制度について】

- 元気なうちに将来の心配事を気軽に相談できる場所や安心できる成年後見人がほしい。
- その時の状況に合った介護を親身になって相談にのってもらえるようにしてほしい。
- 情報提供の充実（情報不足）と、諸手続き（申請）の窓口の一元化が望ましい。

【⑧ 健康づくり、介護予防について】

- 健康寿命を延伸するため区主催のウォーキング教室を開催してほしい。歩くことは、健康維持に最適な運動である。
- 高齢者が寝たきりにならないよう、介護保険サービスを使わないようにするために、日頃から高齢者の健康を維持するためのスポーツ活動（体操教室）を増やしてほしい。

【⑨ 介護保険制度や介護サービスについて】

- 介護保険サービスを利用して限度額を超えた時の支援を充実させてほしい。
- 車いすに乗せて押すことよりも自力で歩けるための訓練やリハビリの充実が必要。鍛えたくとも要介護認定を受けなければできない。できる限り自力で生きていけるような介護サービスが必要。
- 病気で体が不自由になった時に安心して自宅で過ごせるような制度の充実を望む。
- 自宅で生涯を終えられるような支援が欲しい。自宅を担保にして後の生活支援費を精算できるような制度があれば嬉しい。
- 男性でも利用しやすいデイサービスがあるとよい。
- 親の介護をしたとき、一人でいろいろ判断をしないといけないことも多く、身体的に精神的にも疲れた。家族介護者に対する支援も必要だと思う。
- 認知症を介護する家族の負担が減るようなサービスや施策をお願いしたい。

【⑩ 高齢期の住まい、入居施設について】

- 最後まで一人で生活できるようなサービス付き高齢者向け住宅が欲しいと思う。その中にコンビニ等もあり、食事する場所もあり、子どもたちやペットとも一緒に暮らせ、医療もある住まい。
- 高齢者の住まいと高齢者向け住宅の住み替え情報の提供や、有料老人ホームの整備促進、特別養護老人ホームの増設・充実をお願いしたい。
- 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備の促進、判断能力が低下した場合の支援や適切な介護サービスが受けられるための情報提供や相談体制の充実が必要である。
- 手頃な価格で入れる老人施設がたくさんできれば嬉しい。

【⑩ 今後の高齢者保健福祉施策について】

- 中央区の高齢者向けのサービスは他区より大変充実している。今後ともより良き方向へ活動してほしい。
- 特別養護老人ホーム、有料老人ホームも介護の質は結局介護者である人で決まる。国内で見つけることが出来なければ、言葉が多少不自由でも外国の人でも良いのではないか。
- 高齢者の増加に見合う施策の対応は行政の大きな役割だと思う。
- 医療機関の受診方法や移動に対する介助サービスの専門的知識をもった人員の育成を願う。
- 高齢者のみを対象とした施設づくりではなく、多世代交流型の機能を備えたユニバーサルな施設・サービスを提供することをめざしてほしい。
- あまり過剰なサービスは財政負担が大きくなるので考えた方がよいと思う。個人の負担で行う場合は自由だが、区の負担はなるべく少なくする方がよいと思う。
- 自分が高齢者だと自覚する年齢や行動は、人によって10歳くらいの差があると思う。もう少し段階的で柔軟な施策がほしい。

イ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（調査B）

本調査の対象は、要介護認定を受けていない 65 歳以上の方（基本チェックリストにより、生活機能に低下が見られた方及び要支援認定者を含む）から抽出した 2,546 人で、有効回答数は 1,655 件、回収率は 65.0%であった。

※本調査は、国から「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」として示された設問（問 1～問 60）及び区の独自の項目（問 61～問 71）により構成される。

1. 回答者の属性

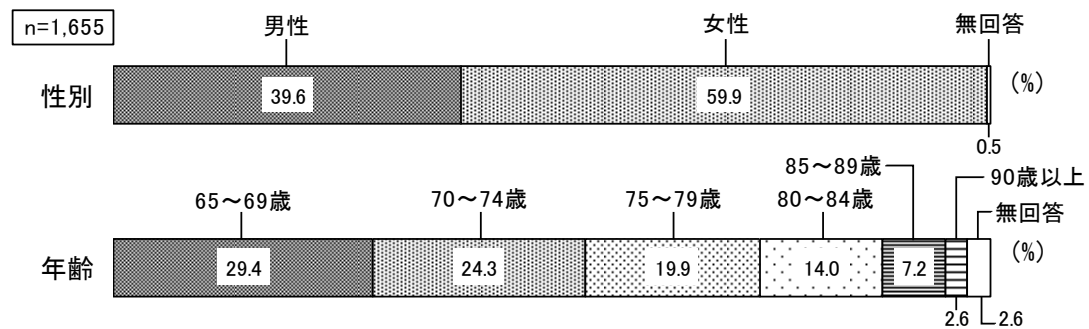
(1) 調査票の記入者

問 1：調査票を記入されたのはどなたですか。



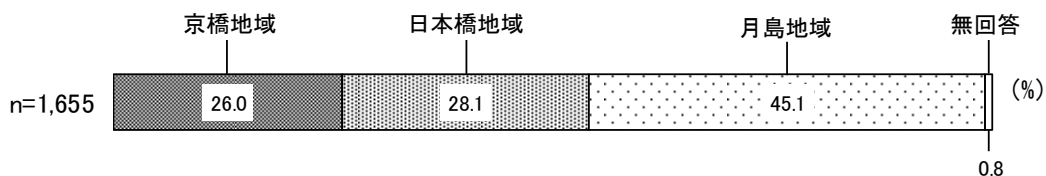
(2) 性別・年齢

問 2：あなたの性別と、平成 28 年 11 月 1 日現在の満年齢を記入してください。



(3) 居住地

問 3：あなたがお住まいになっている地域はどこですか。

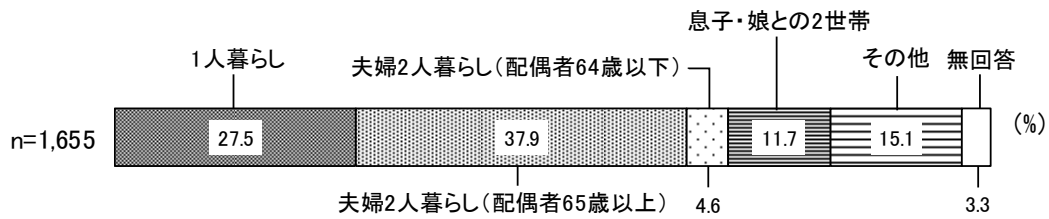


2. 家族・生活

(1) 家族構成

問4：あなたの家族構成をお教えてください。

●「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」を合わせた高齢者のみの世帯が65.4%

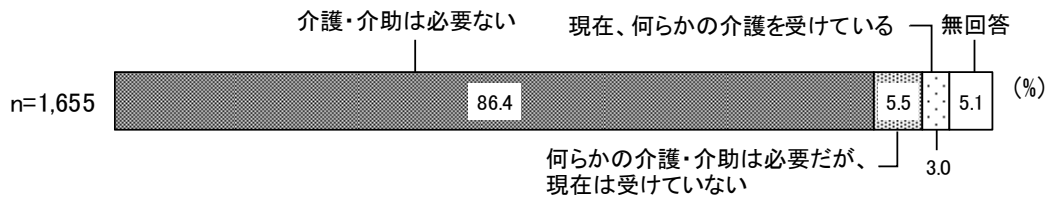


(2) 介護・介助の状況

① 介護・介助の有無

問5：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

●介護・介助が必要な人の割合は 8.5%



「介護・介助は必要ない」（86.4%）が最も多く、一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた介護・介助が必要な人の割合は 8.5% である。

介護・介助の有無（家族構成別）

		全体	上段:実数(人)			下段:構成比(%)
			1	2	3	
			介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
全体		1,655	1,430	91	50	84
		100.0	86.4	5.5	3.0	5.1
家族構成別	1人暮らし	455	375	40	19	21
		100.0	82.4	8.8	4.2	4.6
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	627	571	20	14	22
		100.0	91.1	3.2	2.2	3.5
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	76	72	1	2	1
	100.0	94.7	1.3	2.6	1.3	
	息子・娘との2世帯	193	158	16	7	12
	100.0	81.9	8.3	3.6	6.2	
	その他	250	215	7	8	20
	100.0	86.0	2.8	3.2	8.0	

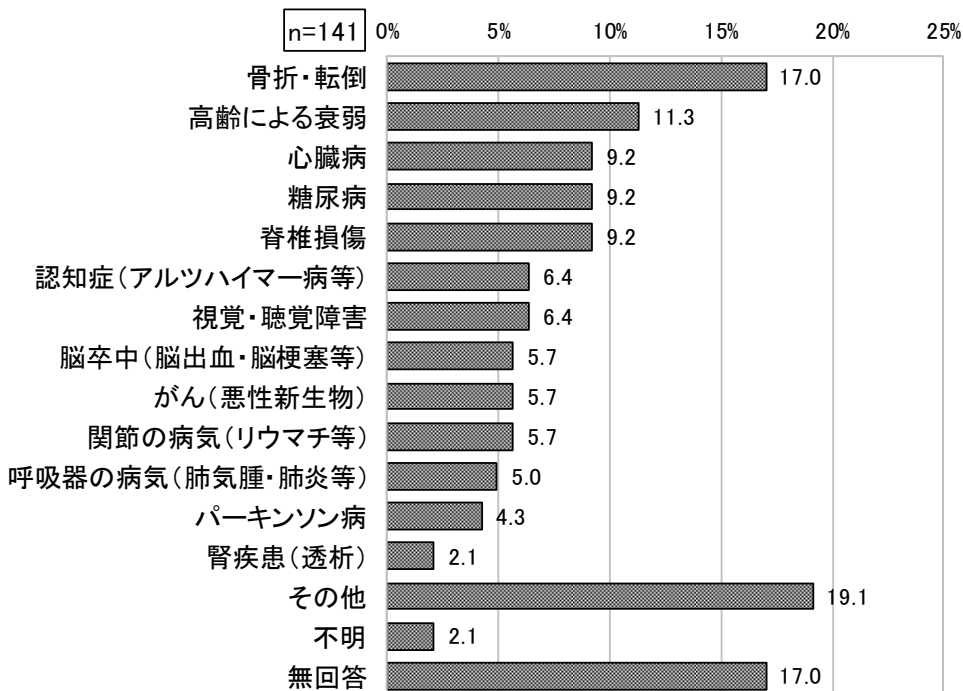
家族構成別で見ると、全体と比べて、夫婦2人暮らしは「介護・介助は必要ない」の割合が高い。また、1人暮らし及び息子・娘との2世帯は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」がやや高い。

【問5で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答の方】（問5-1、問5-2）

② 介護・介助が必要となった主な原因

問5-1：介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。【複数回答】

●介護・介助が必要となった主な原因は「骨折・転倒」（17.0%）が最も多い



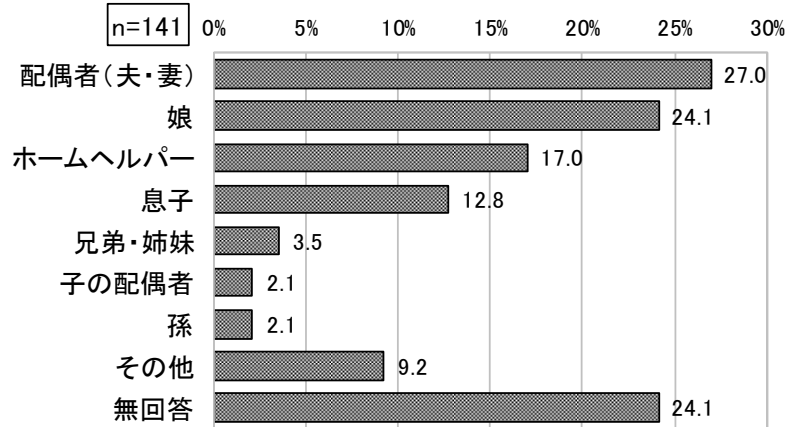
<その他の回答>

- 膝関節症 ○高血圧 ○自律神経失調症 ○骨粗しょう症

③ 主な介護・介助者

問 5-2：主にどなたの介護、介助を受けていますか。【複数回答】

●主な介護・介助者は「配偶者」が27.0%、「娘」が24.1%



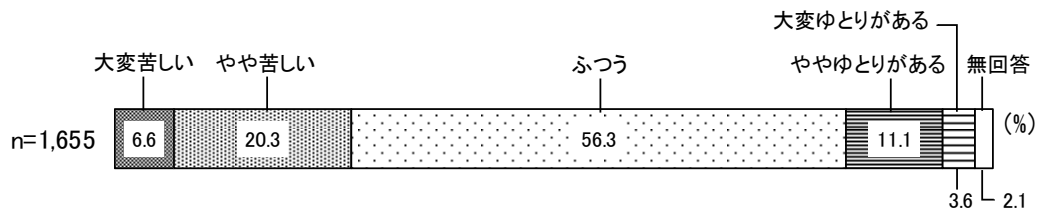
<その他の回答>

○訪問看護師 ○虹のサービス ○友人 ○ボランティア

(3) 主観的な経済状況

問 6：現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

●「ふつう」(56.3%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(20.3%)



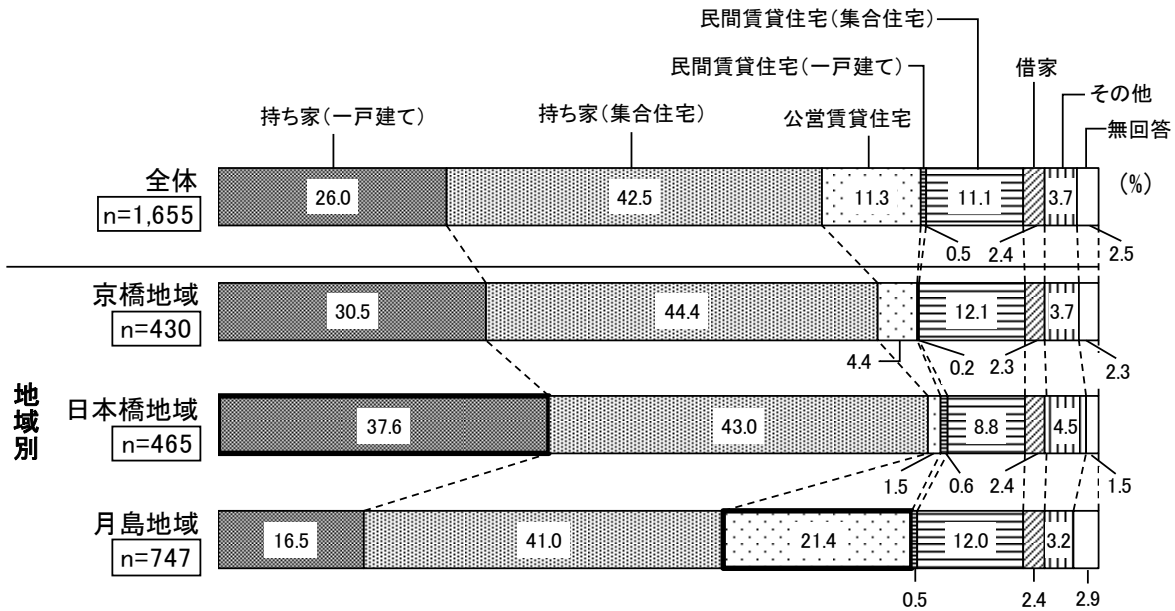
「ふつう」(56.3%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(20.3%)である。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると26.9%である。

(4) 住まい

問7：お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

●集合住宅が64.9%、一戸建てが26.5%

住まい（全体・地域別）



「持ち家（集合住宅）」が42.5%で最も多い。「持ち家（集合住宅）」、「公営賃貸住宅」、「民間賃貸住宅（集合住宅）」を合わせた集合住宅は64.9%、「持ち家（一戸建て）」、「民間賃貸住宅（一戸建て）」を合わせた一戸建ては26.5%である。

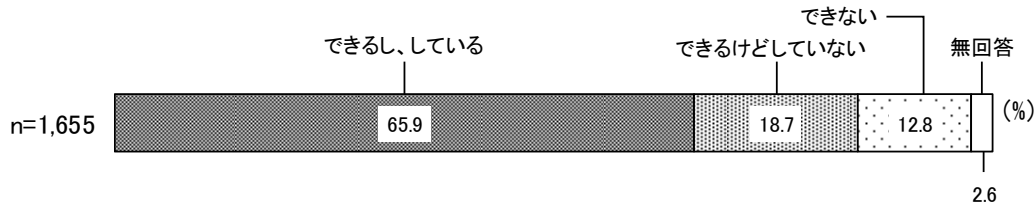
地域別で見ると、日本橋地域では全体と比べて、「持ち家（一戸建て）」（37.6%）の割合が高く、月島地域では全体と比べて、「公営賃貸住宅」（21.4%）の割合が高い。

3. 運動器機能・閉じこもり傾向

(1) 運動器機能

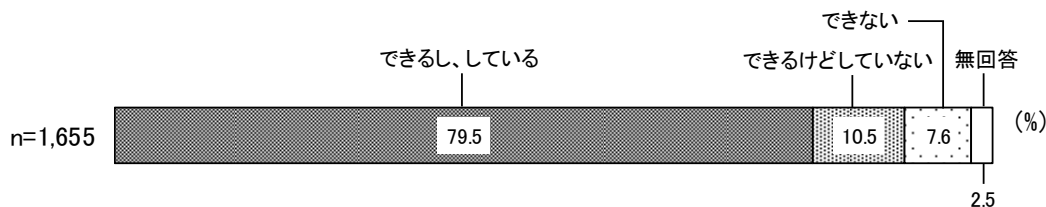
① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

問 8：階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。



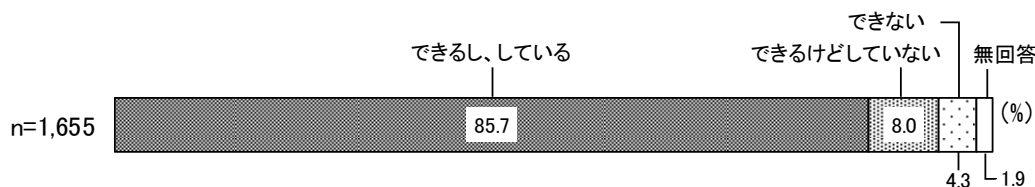
② 椅子に座った状態から何もつかまらず立ち上がる

問 9：椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。



③ 15分位続けて歩くこと

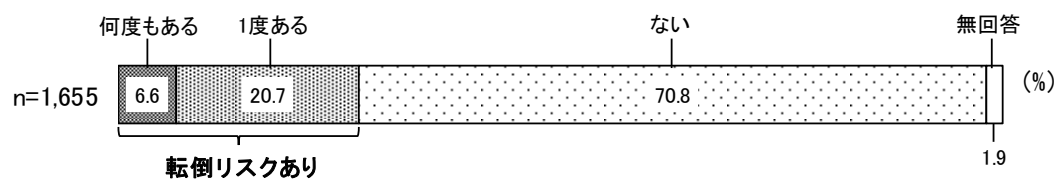
問 10：15分位続けて歩いていますか。



④ 過去1年間に転んだ経験

問 11：過去1年間に転んだ経験がありますか。

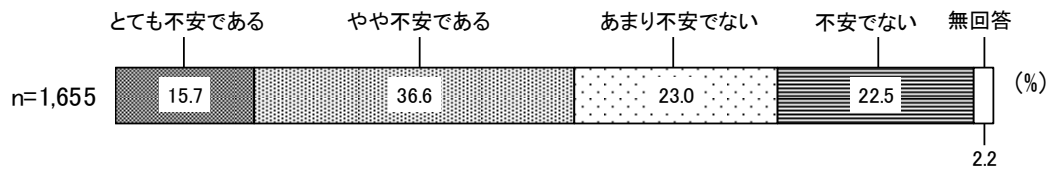
● 転倒リスクのある（「何度もある」または「1度ある」と回答）割合は 27.3%



⑤ 転倒に対する不安度

問 12：転倒に対する不安は大きいですか。

● 「とても不安がある」と「やや不安がある」を合わせると 52.3%



転倒に対する不安度（転倒経験別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		全体	1	2	3	4	無回答
			とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	
全体		1,655 100.0	260 15.7	605 36.6	381 23.0	372 22.5	37 2.2
転倒経験別	何度もある	110 100.0	51 46.4	48 43.6	8 7.3	2 1.8	1 0.9
	1度ある	342 100.0	74 21.6	190 55.6	54 15.8	24 7.0	0 0.0
	ない	1172 100.0	134 11.4	367 31.3	317 27.0	345 29.4	9 0.8

転倒経験別で見ると、転倒経験が多いほど転倒に対する不安度が高い。

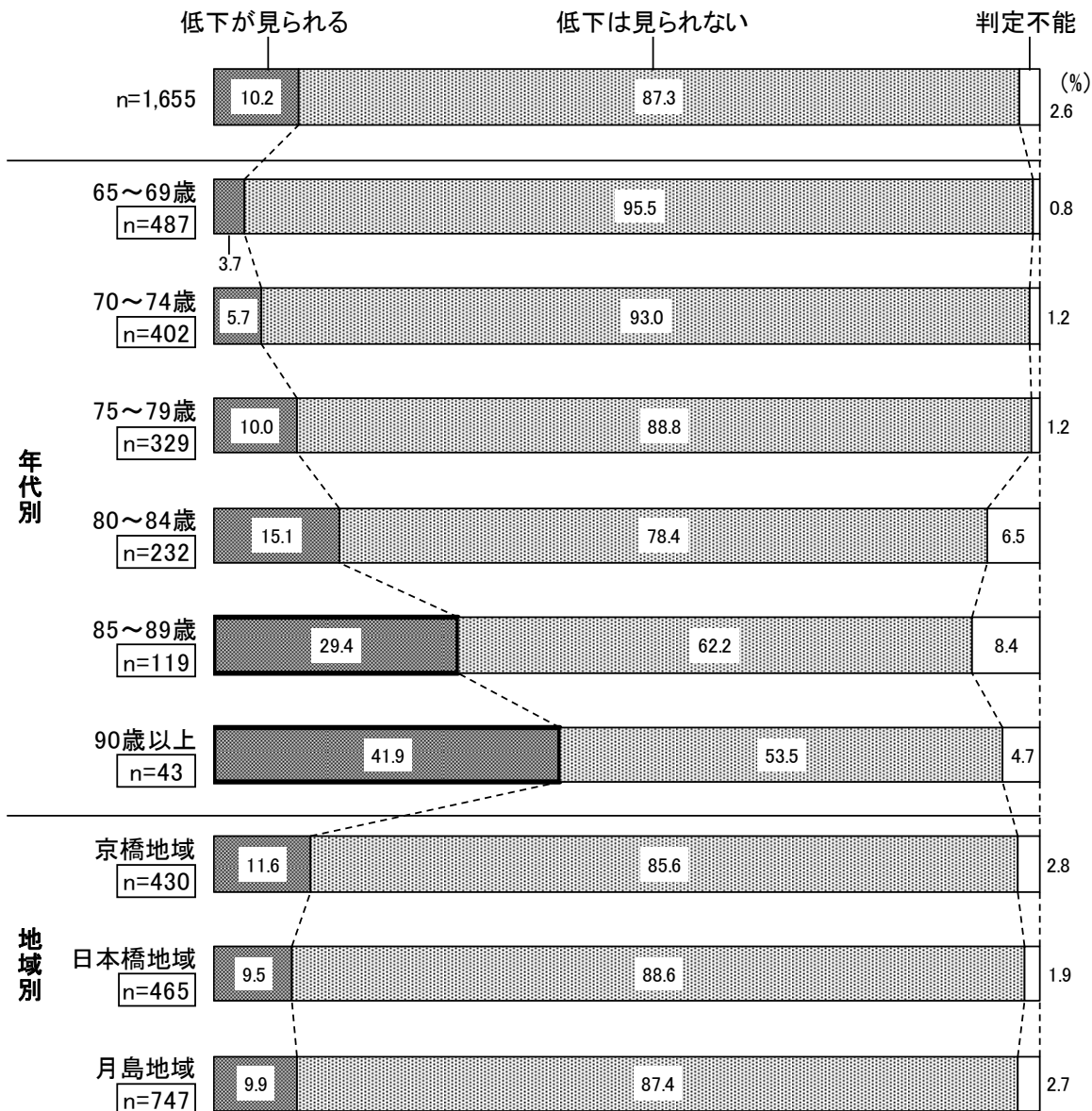
■運動器機能評価

問8～12のうち、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能に低下が見られると判断

設 問	該当項目
問8：階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	「できない」
問9：椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	
問10：15分位続けて歩いていますか。	
問11：過去1年間に転んだ経験がありますか。	「何度もある」または「1度ある」
問12：転倒に対する不安は大きいですか。	「とても不安である」または「やや不安である」

●運動器機能に低下が見られる割合は10.2%

運動器機能評価（全体・年代別・地域別）



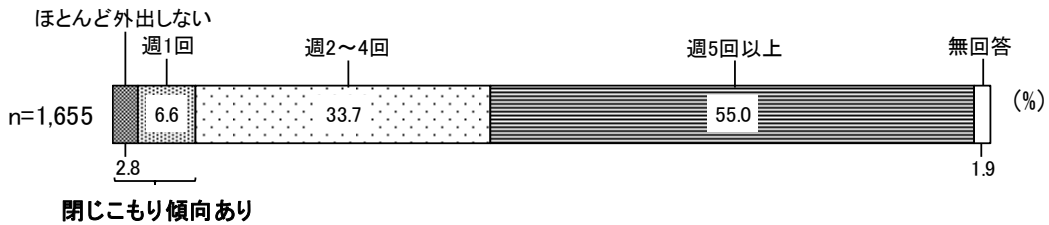
年代別で見ると、年齢が高くなるほど運動器機能に低下が見られ、特に85歳以上での割合が高い。また、地域別で見ると、3地域ともに大きな差は見られない。

(2) 閉じこもり傾向

① 外出の頻度

問 13：週に1回以上は外出していますか。

●閉じこもり傾向がある人は9.4%



「週5回以上」（55.0%）が最も多く、次いで「週2～4回」（33.7%）である。「ほとんど外出しない」または「週1回」を合わせた閉じこもり傾向がある人は9.4%である。

外出の頻度（地域別・住まい別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)		
			1 週1回以下 (閉じこもり傾向あり)	2 週2回以上 (閉じこもり傾向なし)	3 無回答
全体		1,655	156	1,467	32
			9.4	88.6	1.9
地域別	京橋地域	430	39	381	10
		100.0	9.1	88.6	2.3
	日本橋地域	465	41	419	5
	100.0	8.8	90.1	1.1	
	月島地域	747	75	657	15
	100.0	10.0	88.0	2.0	
住まい別	持ち家 (一戸建て)	430	57	372	1
		100.0	13.3	86.5	0.2
	持ち家 (集合住宅)	704	45	655	4
		100.0	6.4	93.0	0.6
	公営賃貸住宅	187	18	168	1
		100.0	9.6	89.8	0.5
	民間賃貸住宅 (一戸建て)	9	1	8	0
		100.0	11.1	88.9	0.0
	民間賃貸住宅 (集合住宅)	184	16	167	1
	100.0	8.7	90.8	0.5	
借家	39	6	33	0	
	100.0	15.4	84.6	0.0	
その他	61	10	51	0	
	100.0	16.4	83.6	0.0	

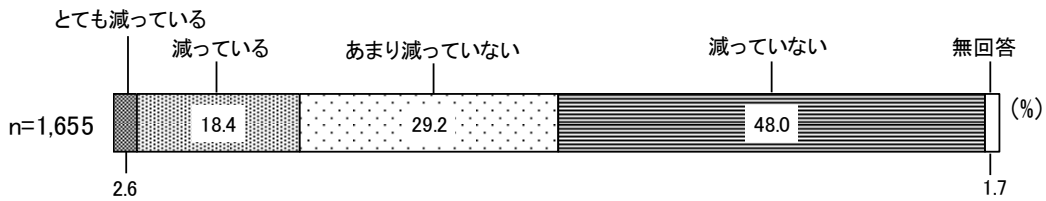
地域別で見ると、3地域ともに大きな差は見られない。

また、住まい別で見ると、持ち家（一戸建て）や借家は全体と比べて、閉じこもり傾向がある割合が高い。

② 外出の回数が減っているか

問 14：昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

●外出の回数が「とても減っている」と「減っている」を合わせると 21.0%



「減っていない」（48.0%）が最も多く、次いで「あまり減っていない」（29.2%）である。外出の回数が「とても減っている」と「減っている」を合わせると 21.0%である。

外出の回数が減っているか（転倒経験別）

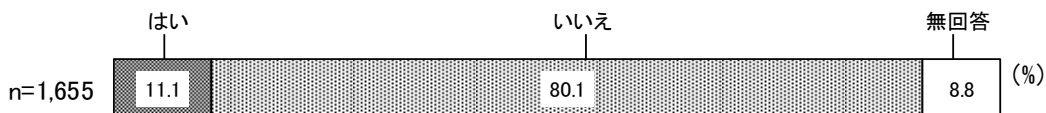
		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)				
			1 とても減っている	2 減っている	3 あまり減っていない	4 減っていない	無回答
全体		1,655 100.0	43 2.6	305 18.4	484 29.2	795 48.0	28 1.7
転倒経験別	何度もある	110 100.0	14 12.7	37 33.6	29 26.4	30 27.3	0 0.0
	1度ある	342 100.0	10 2.9	87 25.4	126 36.8	119 34.8	0 0.0
	ない	1172 100.0	19 1.6	180 15.4	327 27.9	644 54.9	2 0.2

転倒経験別で見ると、転倒経験が何度もある人は全体と比べて、外出の回数が減っている。

③ 外出を控えているかどうか

問 15：外出を控えていますか。

●外出を控えている人は 11.1%

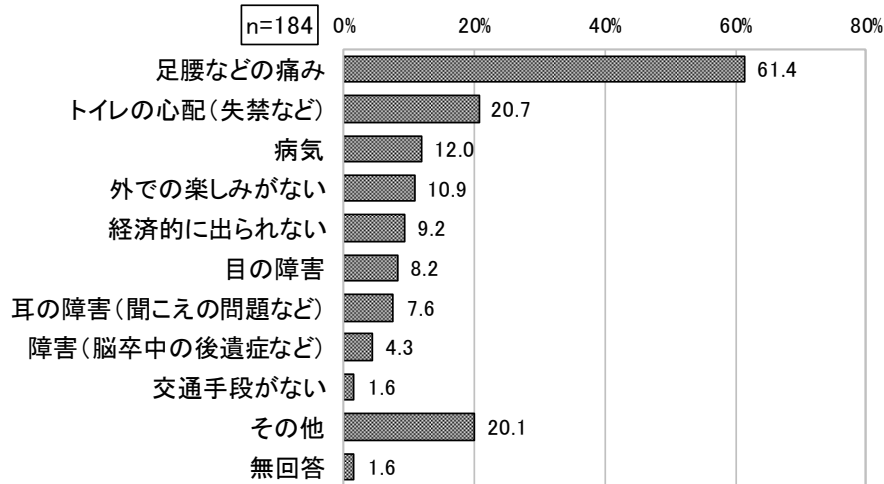


④ 外出を控えている理由

【問 15 で「1. はい」と回答の方】

問 15-1：外出を控えている理由は、次のどれですか。【複数回答】

●外出を控えている理由は「足腰などの痛み」（61.4%）が最も多い



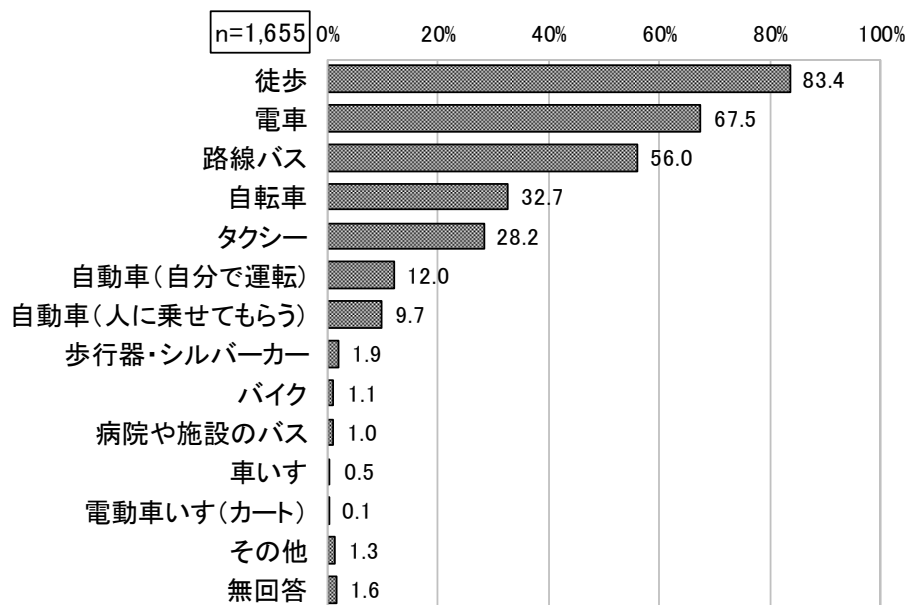
<その他の回答>

○ふらつき ○転ぶのが怖い ○1人では不安

⑤ 外出する際の移動手段

問 16：外出する際の移動手段は何ですか。【複数回答】

●外出する際の移動手段は「徒歩」が83.4%



4. 栄養状態・口腔機能

(1) 栄養状態

① 身長・体重・BMI

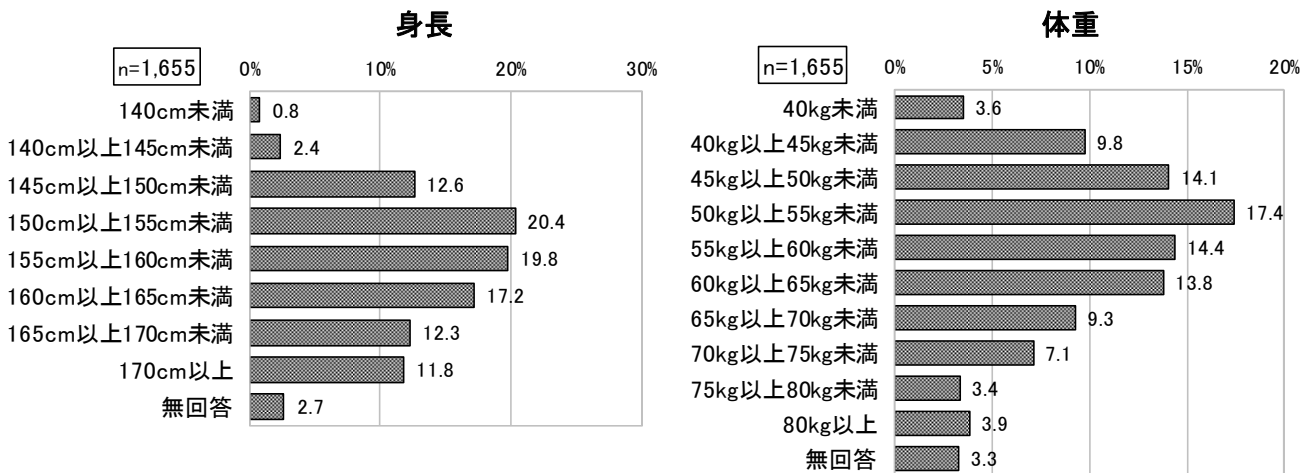
問 17：身長 [c m] ・ 体重 [k g] (数量)

●低体重（BMI 18.5 未満）は 9.8%

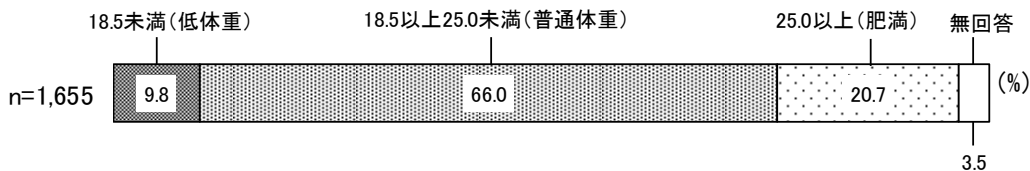
BMI（ボディマス指数）：体重と身長の関係から肥満度を表す体格指数

・ BMI = 体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))

・ 18.5 未満：低体重 / 18.5～25 未満：普通体重 / 25 以上：肥満



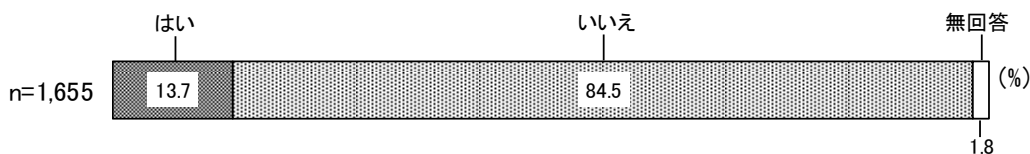
BMI



② 6 か月間での体重減少の有無

問 23：6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。

●6 か月間に体重減少があった人は 13.7%



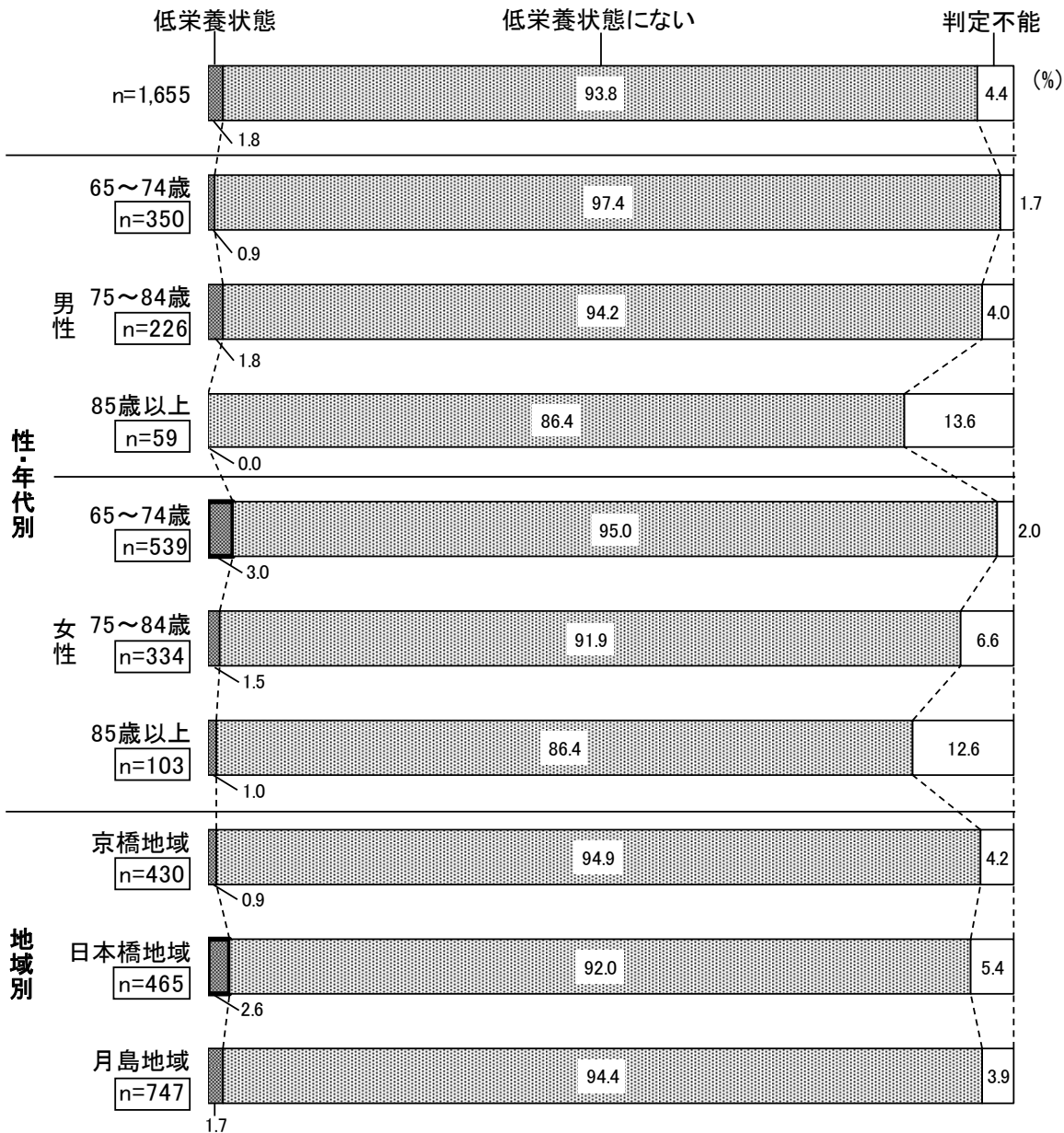
■栄養状態の評価

問 17 及び問 23 とともに該当する選択肢が回答された場合、「低栄養状態」と判断

設 問	該当項目
問 17：BMI（体重(kg)÷（身長(m)×身長(m)）	18.5未満
問 23：6 か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか。	「はい」

●低栄養状態の人は全体の 1.8%

栄養状態の評価（全体・性・年代別・地域別）



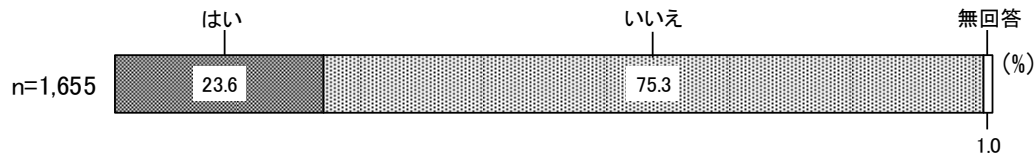
性・年代別及び地域別で見ると、全体と比べて大きな差は見られないが、女性の65～74歳及び日本橋地域で低栄養状態の割合がやや高い。

(2) 口腔機能**① 咀嚼機能**

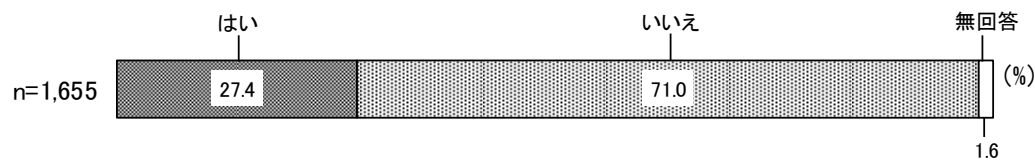
問 18：半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

●咀嚼機能の低下が疑われる人は 24.3%**② 嚥下機能**

問 19：お茶や汁物等でむせることがありますか。

●嚥下機能の低下が疑われる人は 23.6%**③ 肺炎発症リスク**

問 20：口の渇きが気になりますか。

●肺炎発症リスクがある人は 27.4%

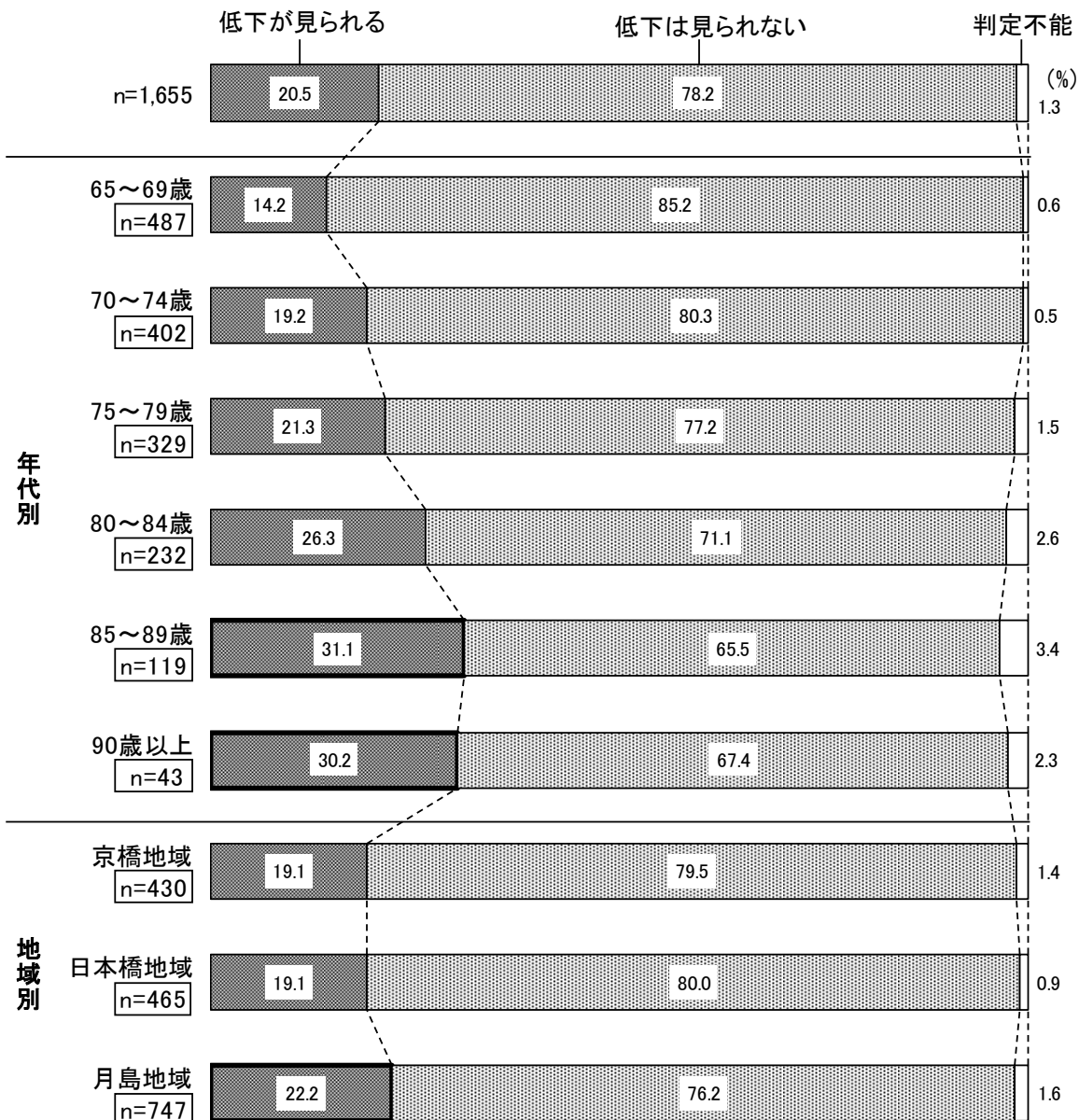
■口腔機能評価

問 18～20 のうち、2 問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能に低下が見られると判断

設 問	該当項目
問 18：半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	「はい」
問 19：お茶や汁物等でむせることがありますか。	
問 20：口の渇きが気になりますか。	

●口腔機能に低下が見られる人は全体の 20.5%

口腔機能評価（全体・年代別・地域別）



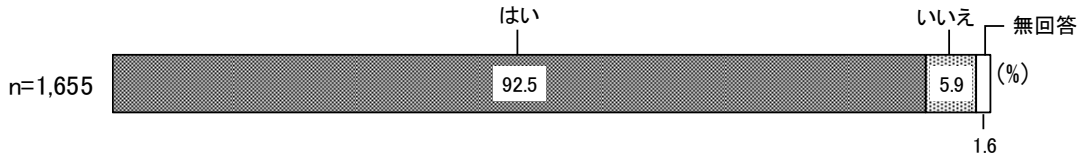
年代別で見ると、年齢が高くなるほど口腔機能に「低下が見られる」割合が高くなり、特に 85 歳以上で 30%を超える。

また、地域別で見ると、月島地域は全体と比べて、「低下が見られる」割合がやや高い。

(3) 口腔ケア

問 21：歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

●毎日歯磨きをしていない人は 5.9%

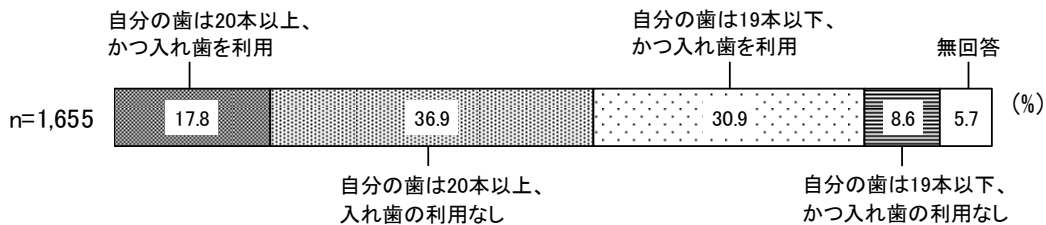


(4) 入れ歯の有無や噛み合わせ

① 入れ歯の有無と歯数

問 22：あなたの歯の数と入れ歯の利用状況をお聞きします。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

●入れ歯を利用している人は 48.7%



「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」（36.9%）が最も多い。一方で、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」（30.9%）と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（17.8%）を合わせた入れ歯を利用している人は 48.7%である。

また、自分の歯が 20 本以上の人は 54.7%である。

入れ歯の有無と歯数（介護の必要性別）

		上段:実数(人)					無回答
		下段:構成比(%)					
		1	2	3	4		
全体		自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし		
全体		1,655	611	511	143	95	
		100.0	36.9	30.9	8.6	5.7	
介護の必要性別	介護の必要なし	1,430	564	425	116	70	
		100.0	39.4	29.7	8.1	4.9	
	介護が必要だが受けていない	91	17	17	39	12	6
	100.0	18.7	18.7	42.9	13.2	6.6	
	介護を受けている	50	11	23	3	3	
	100.0	20.0	22.0	46.0	6.0	6.0	

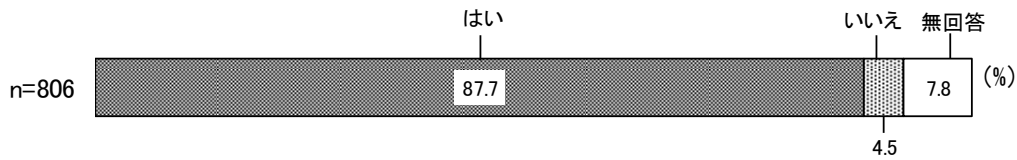
介護の必要性別で見ると、介護が必要な人は「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高い。

② 入れ歯の管理

【問 22 で「入れ歯を利用」と回答の方】

問 22-2：毎日入れ歯の手入れをしていますか。

●毎日入れ歯の手入れをしていない人は 4.5%



③ 咬合状態

問 22-1：噛み合わせは良いですか。

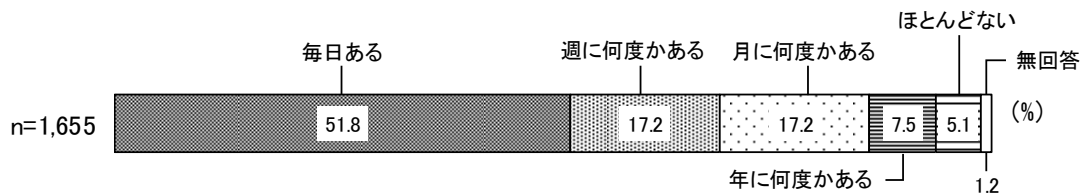
●噛み合わせが良くない人は 9.5%



(5) 孤食の状況（人と食事をする機会）

問 24：どなたかと食事をもにすることはありますか。

●人と食事をする機会が「ほとんどない」が 5.1%、「年に何度かある」が 7.5%



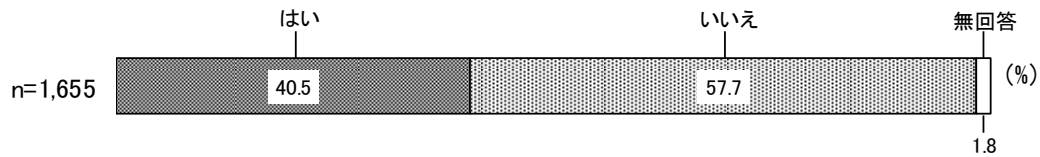
「毎日ある」（51.8%）が最も多く、次いで「週に何度かある」及び「月に何度かある」がそれぞれ 17.2%である。

5. 日常生活動作や社会的役割等

(1) 認知機能の状況

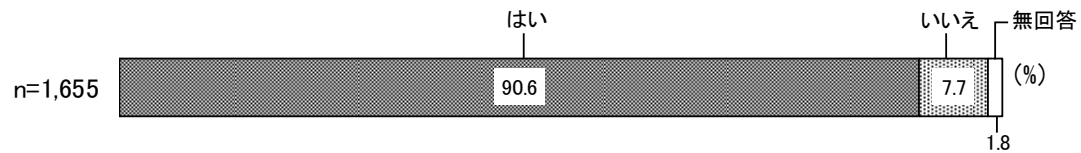
① 物忘れ

問 25：物忘れが多いと感じますか。



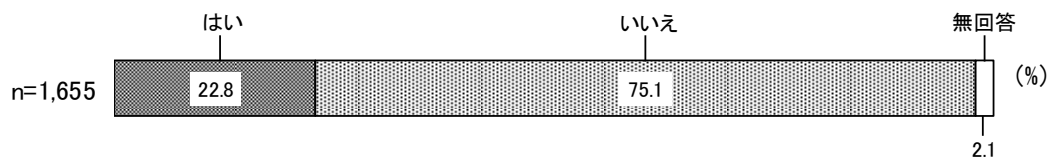
② 自分で電話をかけられるか

問 26：自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。



③ 日にちの認識

問 27：今日が何月何日かわからない時がありますか。

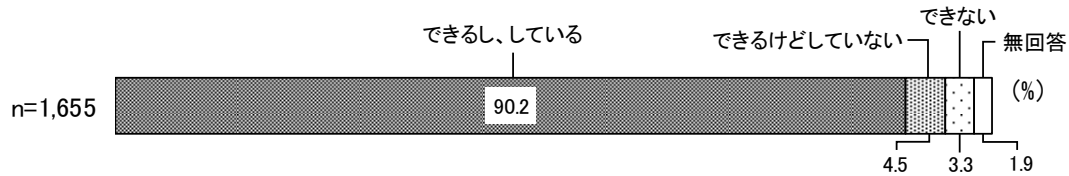


(2) 手段的日常生活動作（IADL）

※手段的日常生活動作(IADL:Instrumental Activities of Daily Living)とは、モノや道具を使ってする生活能力のことをいい、日常の動作より応用的な動作が必要な活動（バスに乗って買い物に行く、食事の支度をするなど）を指す。

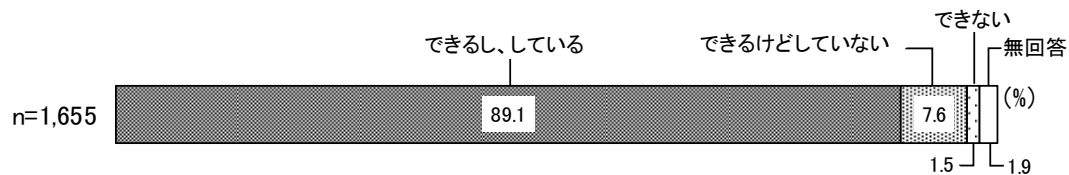
① 交通手段を使って1人で外出できるか

問 28：バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。



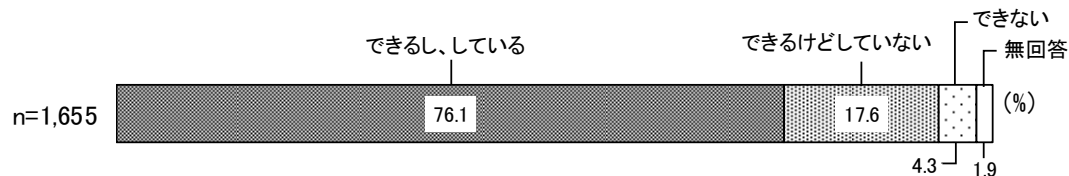
② 自分で買物ができるか

問 29：自分で食品・日用品の買物をしていますか。



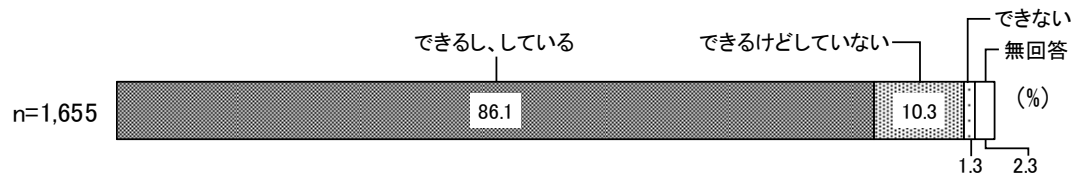
③ 自分で食事の用意ができるか

問 30：自分で食事の用意をしていますか。



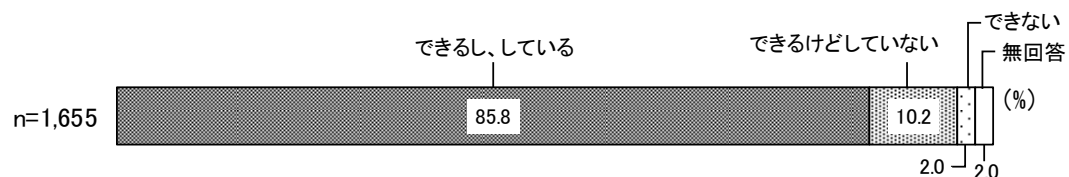
④ 自分で請求書の支払いができるか

問 31：自分で請求書の支払いをしていますか。



⑤ 自分で預貯金の出し入れができるか

問 32：自分で預貯金の出し入れをしていますか。



■手段的日常生活動作（IADL）の評価

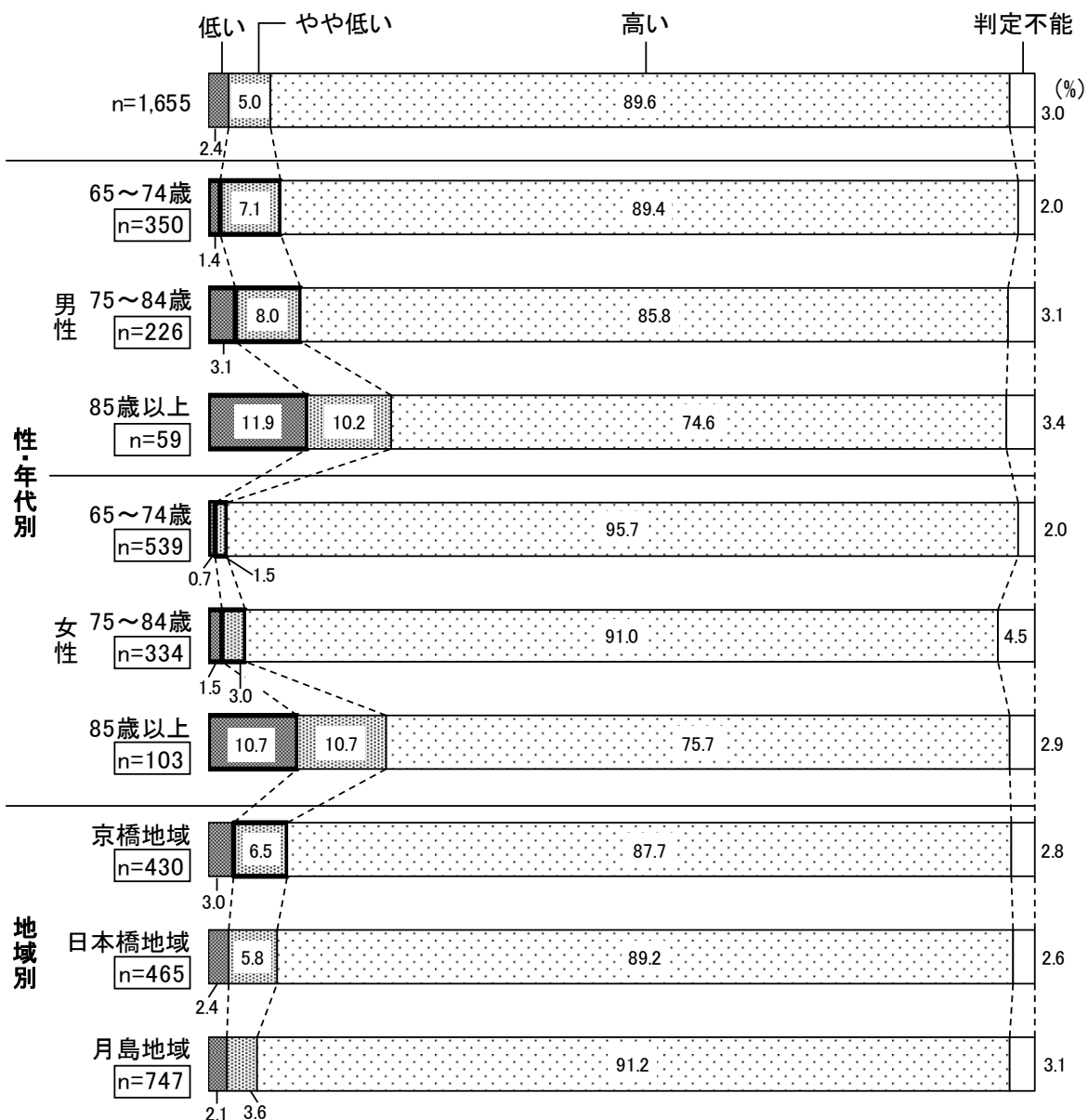
問 28～32 の選択肢と配点による合計で手段的日常生活動作の評価を行う。

5 点を「高い」、4 点を「やや低い」、3 点以下を「低い」と評価する。

設 問	該当項目と配点
問 28：バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。	「できるし、している」または 「できるけど、していない」：1点 「できない」：0点
問 29：自分で食品・日用品の買物をしていますか。	
問 30：自分で食事の用意をしていますか。	
問 31：自分で請求書の支払いをしていますか。	
問 32：自分で預貯金の出し入れをしていますか。	

●手段的日常生活動作（IADL）の評価が「低い」人は全体の2.4%

手段的日常生活動作（IADL）の評価（全体・性・年代別・地域別）



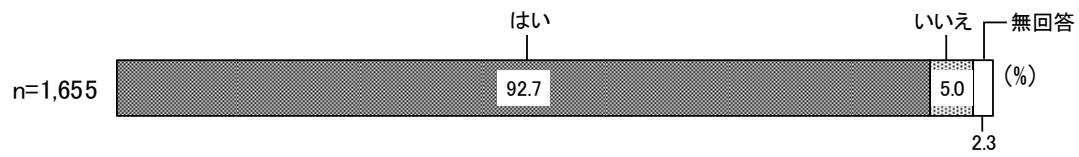
性・年代別で見ると、男女とも85歳以上になるとIADLの評価が「低い」割合が高くなる。また、65歳～84歳では、男性は女性と比べて、IADLの評価が「低い」割合が高い。

地域別で見ると、京橋地域は全体と比べ、「やや低い」の割合が若干高い。

(3) 知的能動性の状況

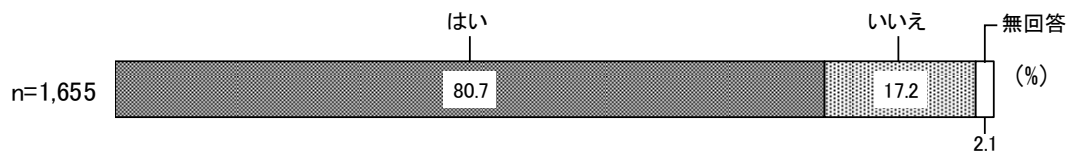
① 年金などの書類が書けるか

問 33：年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。



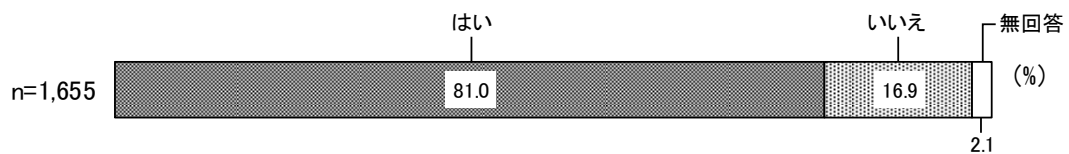
② 新聞を読んでいるか

問 34：新聞を読んでいますか。



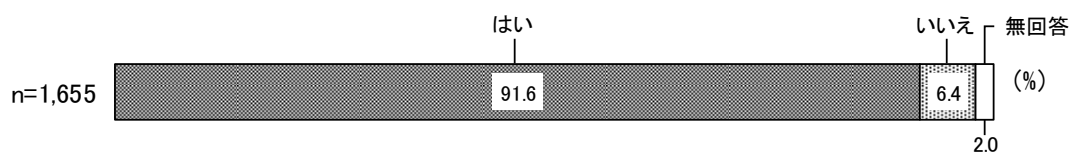
③ 本や雑誌を読んでいるか

問 35：本や雑誌を読んでいますか。



④ 健康についての記事や番組に関心があるか

問 36：健康についての記事や番組に関心がありますか。



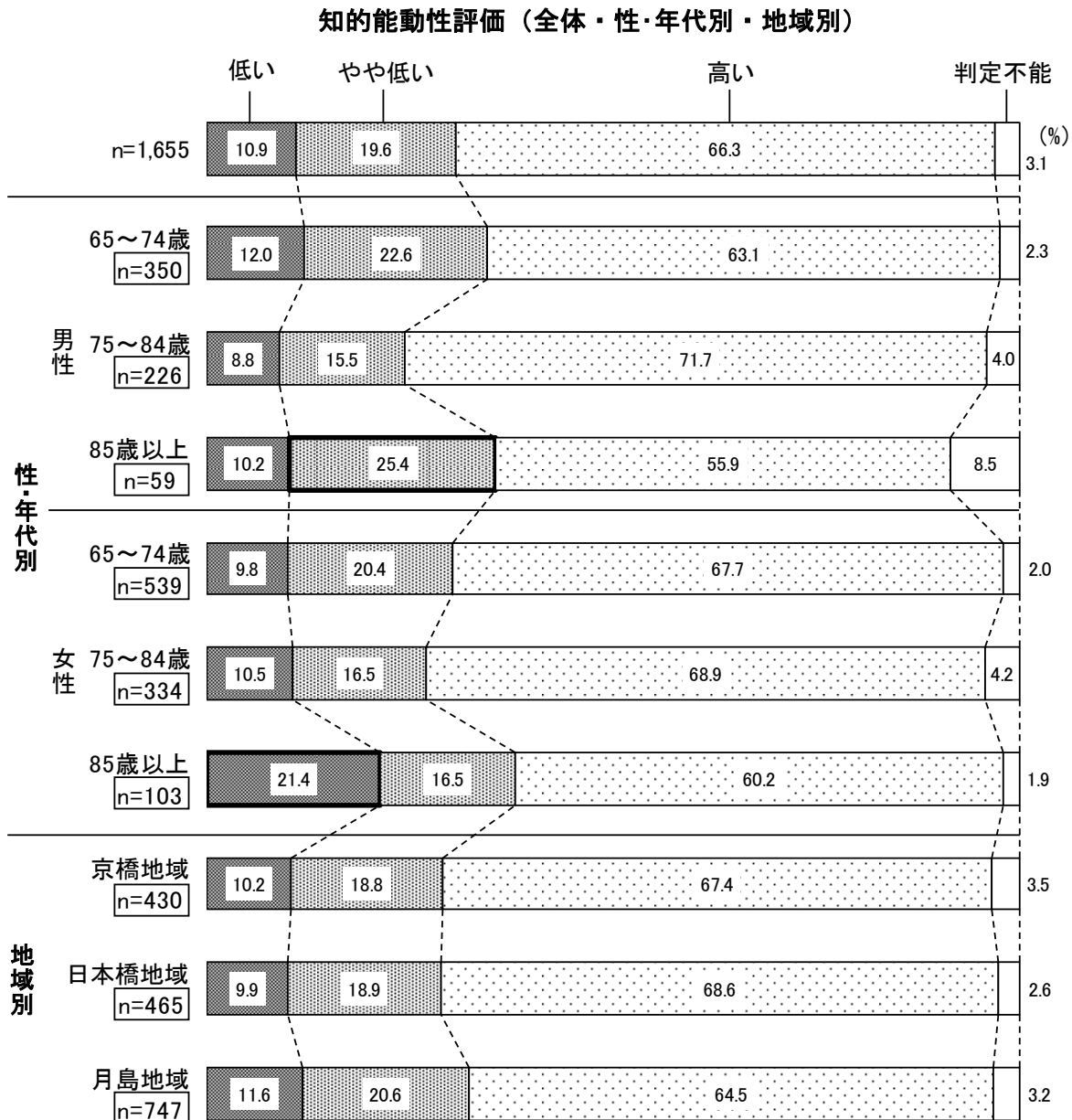
■知的能動性の評価

問 33～36 の選択肢と配点による合計で知的能動性の評価を行う。

4 点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」と評価する。

設 問	該当項目と配点
問 33：年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	「はい」：1 点 「いいえ」：0 点
問 34：新聞を読んでいますか。	
問 35：本や雑誌を読んでいますか。	
問 36：健康についての記事や番組に関心がありますか。	

●知的能動性の評価が「低い」人は全体の 10.9%



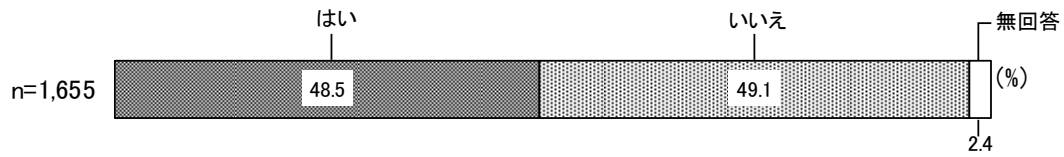
性・年代別で見ると、男性の 85 歳以上は全体と比べて、評価が「やや低い」の割合が高く、女性の 85 歳以上は全体と比べて、評価が「低い」の割合が高い。

また、地域別で見ると、3 地域ともに大きな差は見られない。

(4) 社会的役割の状況

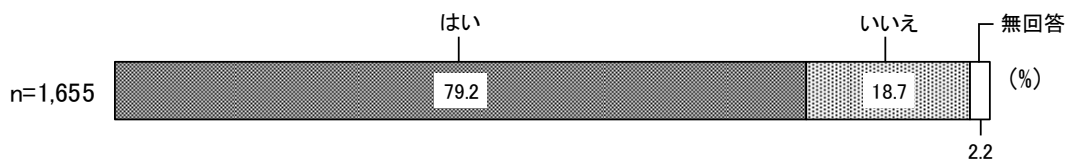
① 友人の家を訪ねているか

問 37：友人の家を訪ねていますか。



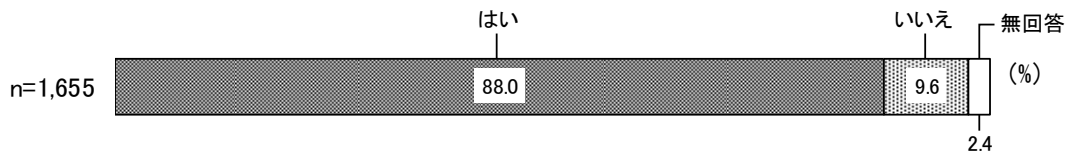
② 家族や友人の相談にのっているか

問 38：家族や友人の相談にのっていますか。



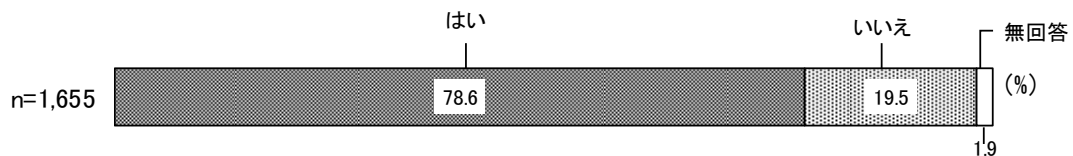
③ 病人を見舞うことができるか

問 39：病人を見舞うことができますか。



④ 若い人に自分から話しかけることがあるか

問 40：若い人に自分から話しかけることがありますか。



■社会的役割の評価

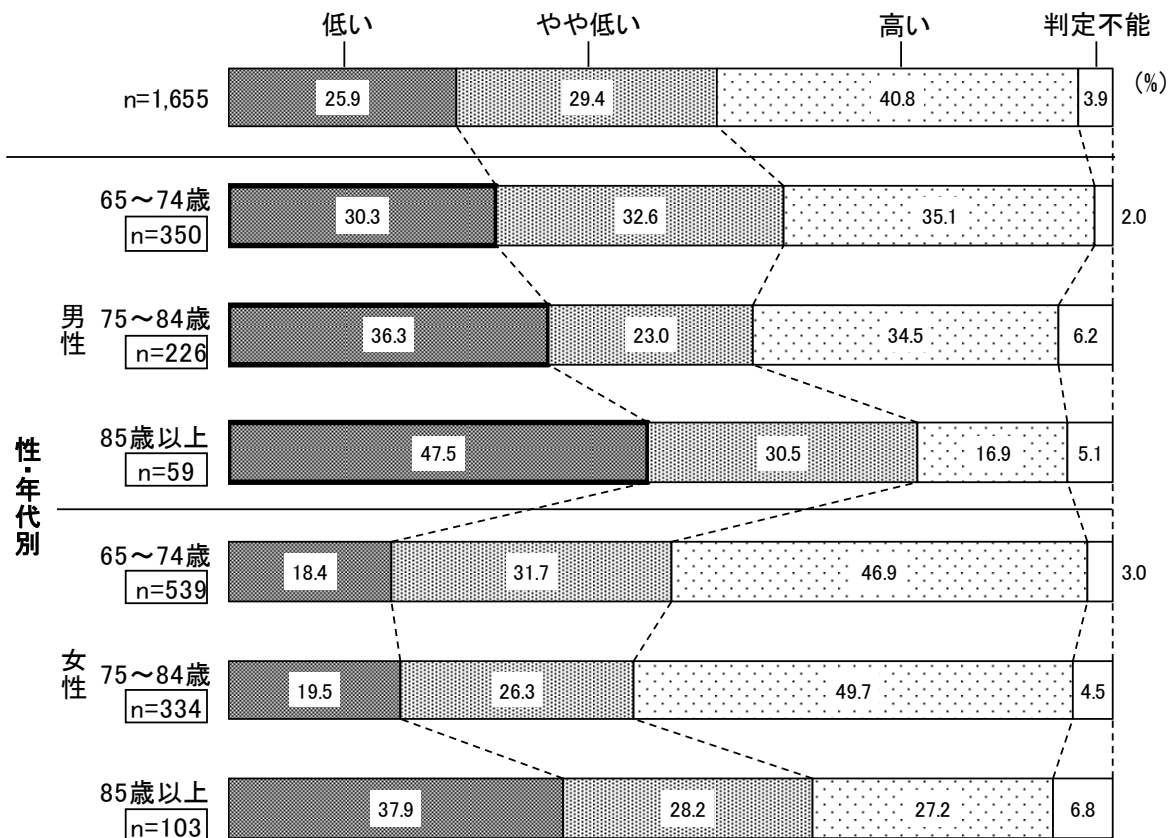
問 37～40 の選択肢と配点による合計で社会的役割の評価を行う。

4 点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」と評価する。

設 問	該当項目と配点
問 37：友人の家を訪ねていますか。	「はい」：1 点 「いいえ」：0 点
問 38：家族や友人の相談にのっていますか。	
問 39：病人を見舞うことができますか。	
問 40：若い人に自分から話しかけることがありますか。	

●社会的役割の評価が「低い」人は全体の 25.9%

社会的役割の評価（全体・性・年代別）



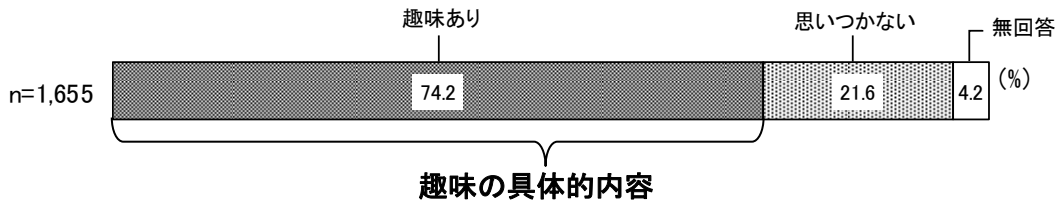
性・年代別で見ると、男性は女性と比べて、いずれの年代でも社会的役割の評価が「低い」割合が高い。

(5) 趣味・生きがい

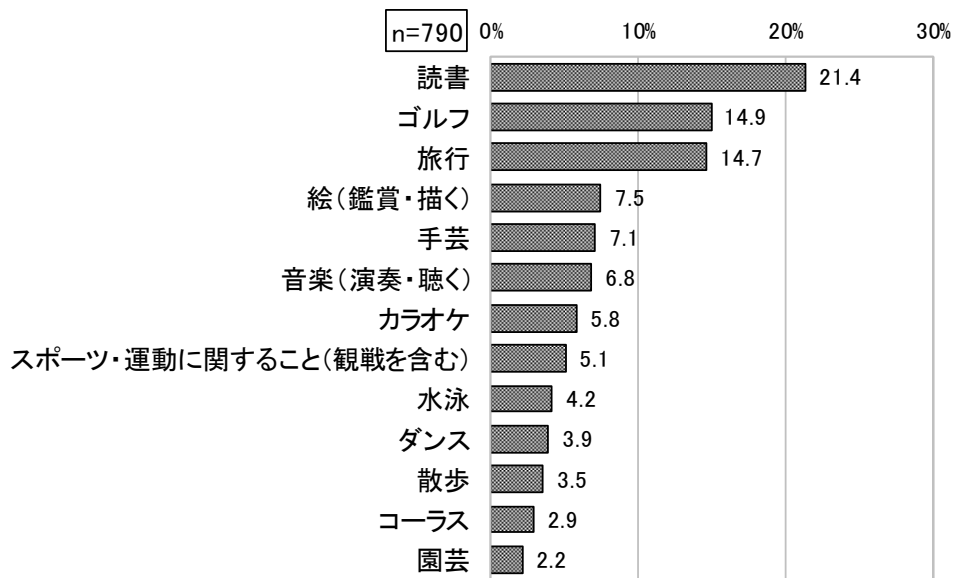
① 趣味の有無

問 41：趣味はありますか。

● 「趣味あり」が 74.2%、「思いつかない」が 21.6%



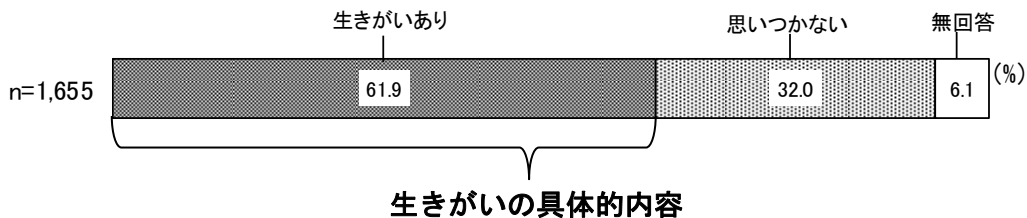
趣味の具体的内容



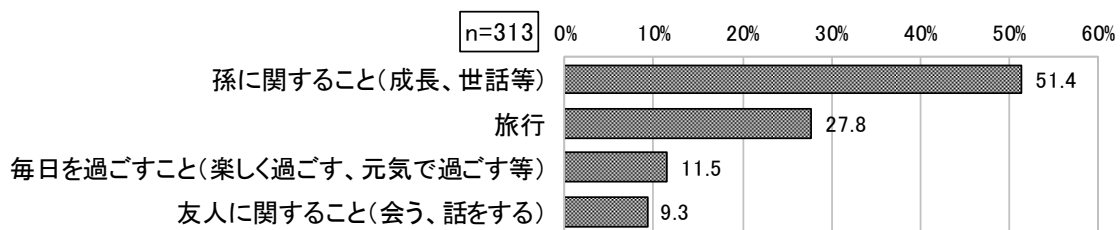
② 生きがいの有無

問 42：生きがいはありますか。

● 「生きがいあり」が 61.9%、「思いつかない」が 32.0%



生きがいの具体的内容

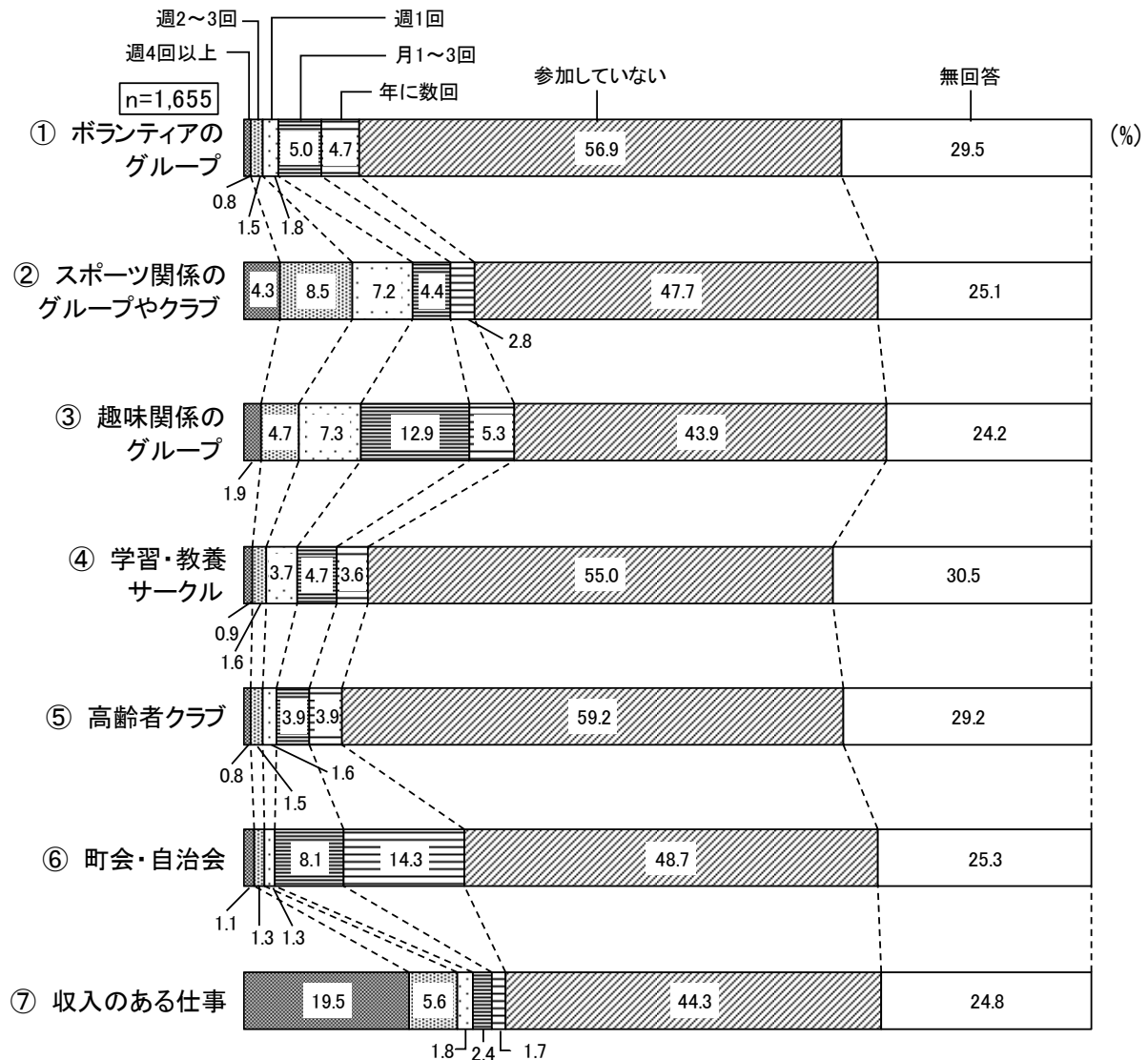


6. 地域での活動

(1) 社会参加の状況

問 43：以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

●参加率が高いのは「趣味関係のグループ」（32.1%）、「収入のある仕事」（31.0%）



参加している（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた）割合が高い活動は、「趣味関係のグループ」が32.1%、「収入のある仕事」が31.0%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が27.2%、「町会・自治会」が26.1%である。

参加頻度が高い「週4回以上」の割合が高い活動は、「収入のある仕事」が19.5%、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」が4.3%である。

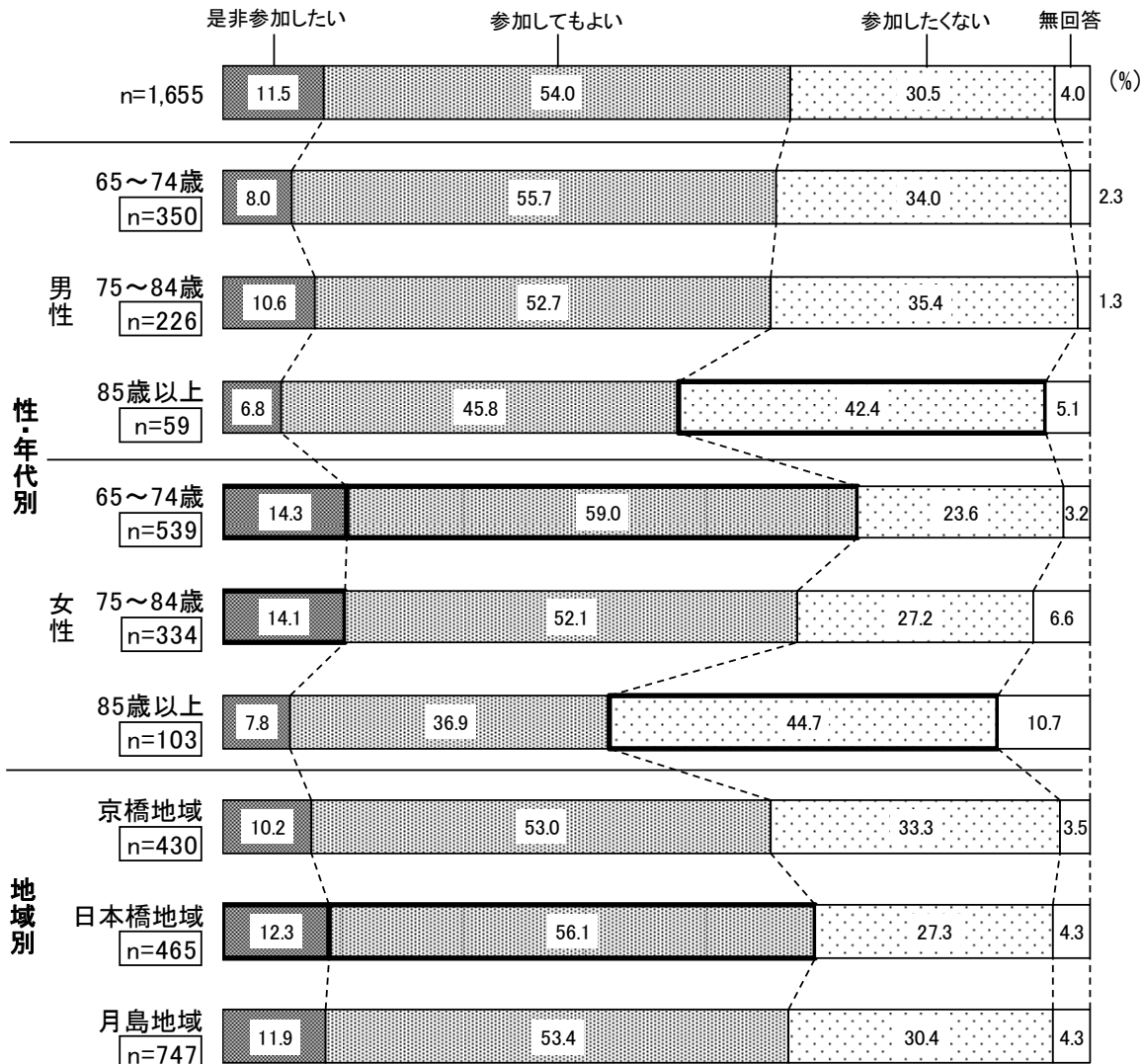
(2) 地域づくりへの参加意向

① 参加者として

問 44：地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

●参加者として「是非参加したい」が11.5%、「参加してもよい」が54.0%

参加者としての参加意向（全体・性・年代別・地域別）



性・年代別で見ると、女性の65～84歳は全体と比べて「是非参加したい」の割合が高く、特に女性の65～74歳は「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると73.3%である。一方、男女ともに85歳以上では「参加したくない」の割合が高い。

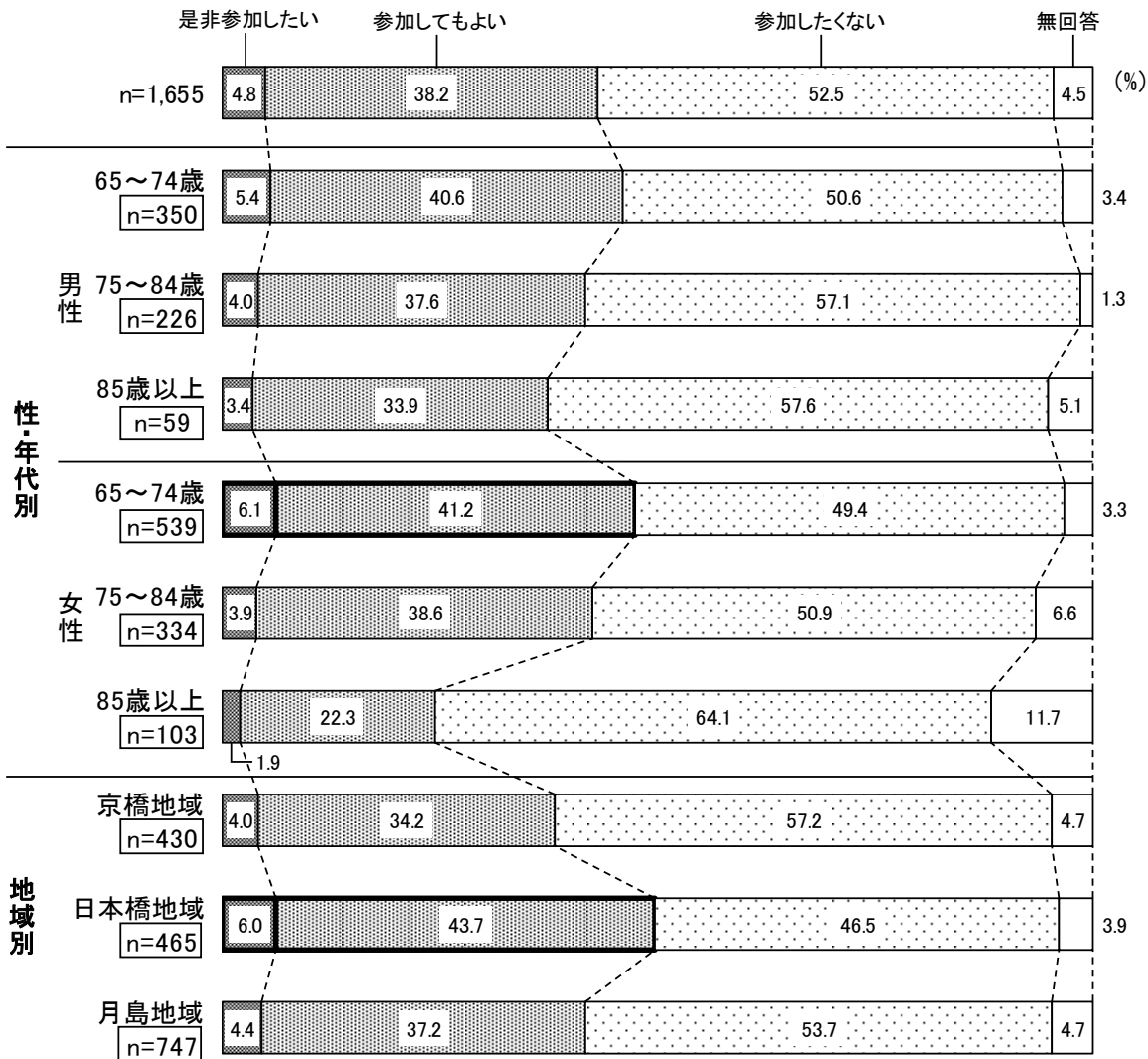
また、地域別で見ると、日本橋地域は他の地域と比べて「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合がやや高い。

② 企画・運営者として

問 45：地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

●企画運営者として「是非参加したい」が4.8%、「参加してもよい」が38.2%

企画・運営者としての参加意向（全体・性・年代別・地域別）



性・年代別で見ると、女性の65～74歳は全体と比べて「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合がやや高い。

また、地域別で見ると、日本橋地域は他の地域と比べて「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合がやや高い。

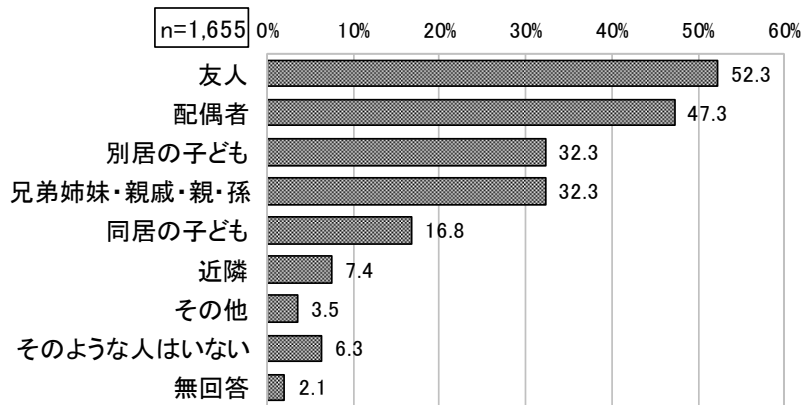
7. たすけあいの状況

(1) 相談相手や世話役

① 愚痴を聞いてくれる人

問 46：あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はいますか。【複数回答】

●愚痴を聞いてくれる人は「友人」（52.3%）が最も多く、次いで「配偶者」（47.3%）



愚痴を聞いてくれる人（性別）

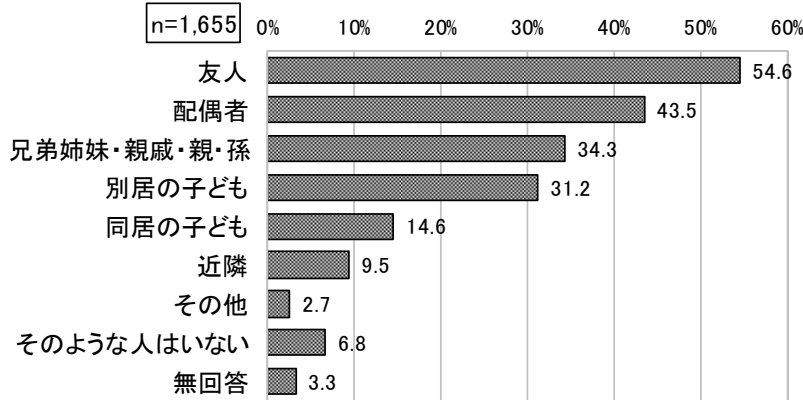
		n	上段:実数(人) 下段:構成比(%)								
			1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども	4 親兄弟姉妹・親戚・孫	5 近隣	6 友人	7 その他	8 いそ ない よう な 人 は	無 回 答
全体		1,655	782	278	535	535	123	866	58	104	34
		100.0	47.3	16.8	32.3	32.3	7.4	52.3	3.5	6.3	2.1
性別	男性	655	423	65	161	132	21	247	18	70	16
		100.0	64.6	9.9	24.6	20.2	3.2	37.7	2.7	10.7	2.4
	女性	992	354	213	372	402	100	616	40	34	18
		100.0	35.7	21.5	37.5	40.5	10.1	62.1	4.0	3.4	1.8

性別で見ると、男性は「配偶者」が64.6%に対し、女性は35.7%と約30ポイントの差がある。また、女性は全体と比べて、「友人」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」及び「別居の子ども」の割合が高い。

② 愚痴を聞いてあげる人

問 47：反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はいますか。【複数回答】

● 「友人」（54.6%）が最も多く、次いで「配偶者」（43.5%）



愚痴を聞いてあげる人（性別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)								
			1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども	4 親・兄弟姉妹・親戚・孫	5 近隣	6 友人	7 その他	8 いそ な い よ う な 人 は	無 回 答
全体		1,655 100.0	720 43.5	241 14.6	517 31.2	568 34.3	157 9.5	903 54.6	44 2.7	112 6.8	55 3.3
性別	男性	655 100.0	412 62.9	77 11.8	180 27.5	148 22.6	29 4.4	258 39.4	16 2.4	69 10.5	25 3.8
	女性	992 100.0	303 30.5	164 16.5	336 33.9	419 42.2	127 12.8	642 64.7	28 2.8	43 4.3	30 3.0

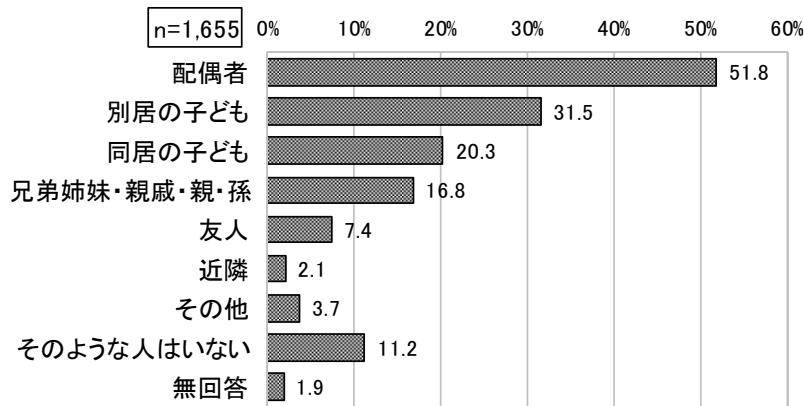
性別で見ると、男性は「配偶者」が62.9%に対し、女性は30.5%と約30ポイントの差がある。女性は全体と比べて、「友人」及び「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が高い。

③ 看病してくれる人

問 48：あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。

【複数回答】

●看病してくれる人は「配偶者」が51.8%、同居と別居を合わせた「子ども」が51.8%

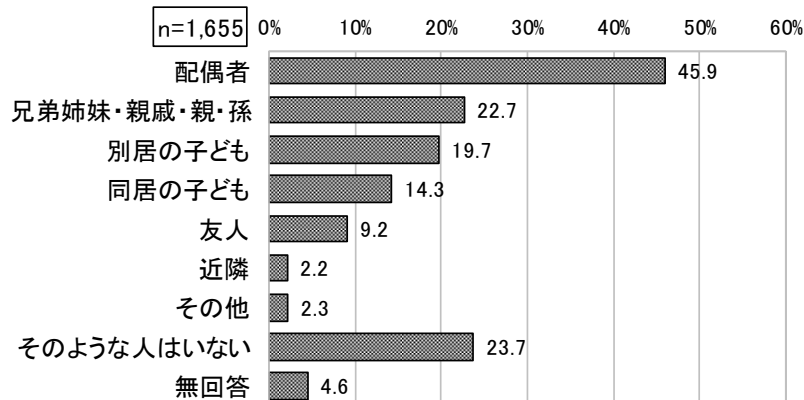


「配偶者」(51.8%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(31.5%)、「同居の子ども」(20.3%)である。同居と別居を合わせた子どもは51.8%である。

④ 看病してあげる人

問 49：反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。【複数回答】

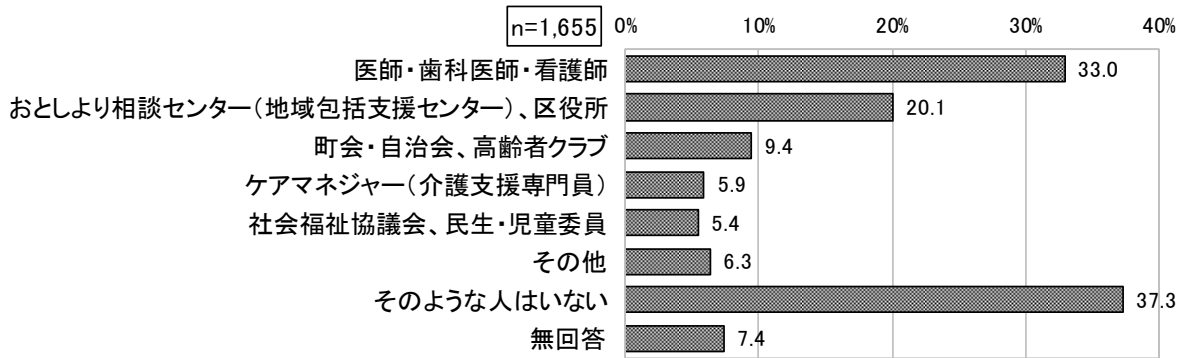
●看病してあげる人は「配偶者」が45.9%、「そのような人はいない」が23.7%



(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

問 50：家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。【複数回答】

- 「そのような人はいない」（37.3%）が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」（33.0%）

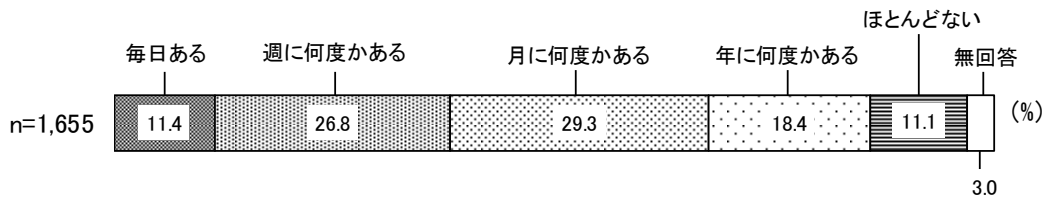


(3) 友人関係

① 友人・知人に会う頻度

問 51：友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

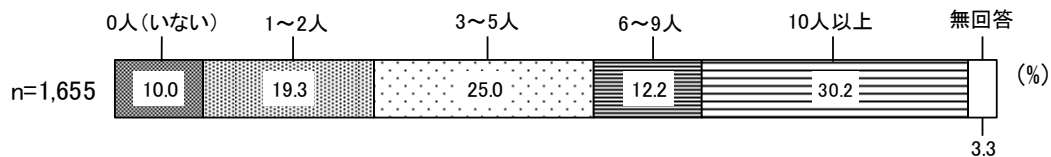
- 「月に何度かある」（29.3%）が最も多い



② 1か月に会った友人・知人の実人数

問 52：この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

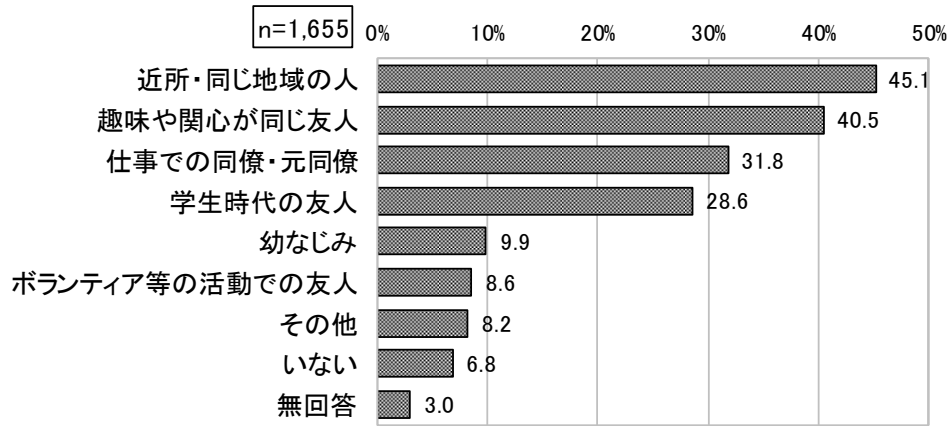
- 「10人以上」（30.2%）が最も多い



③ よく会う友人・知人との関係

問 53：よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。【複数回答】

●「近所・同じ地域の人」（45.1%）が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（40.5%）



<その他の回答>

- PTA時代の友人
- スポーツジムの友人
- 子どもを通しての友人
- 老人ホームの住人
- いきいき館（敬老館）の友人

よく会う友人・知人との関係（性別・地域別）

		n	割合 (%)								
			1	2	3	4	5	6	7	8	無回答
			近所・同じ地域の	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体		1,655	45.1	9.9	28.6	31.8	40.5	8.6	8.2	6.8	3.0
性別	男性	655	36.2	9.5	30.7	42.9	33.4	6.6	6.9	9.2	3.1
	女性	992	51.0	10.3	27.3	24.6	45.0	9.9	9.0	5.3	3.0
地域別	京橋地域	430	46.5	14.2	29.5	30.2	42.8	9.1	6.3	5.8	3.5
	日本橋地域	465	50.5	9.5	32.0	30.8	40.4	9.2	9.5	6.2	2.6
	月島地域	747	40.7	7.9	25.8	33.7	39.0	7.9	8.7	7.8	2.9

性別で見ると、男性は女性と比べて、「仕事での同僚・元同僚」の割合が高い。一方、女性は男性と比べて、「近所・同じ地域の人」及び「趣味や関心が同じ友人」の割合が高い。

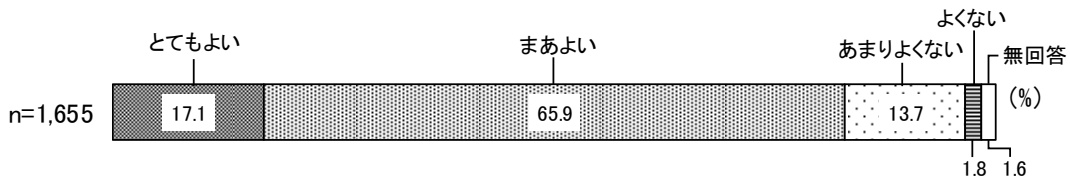
また、地域別で見ると、京橋地域は他の地域と比べて「幼なじみ」の割合が高く、日本橋地域は他の地域と比べて「近所・同じ地域の人」の割合が高い。

8. 健康

(1) 主観的健康感

問 54：現在のあなたの健康状態はいかがですか。

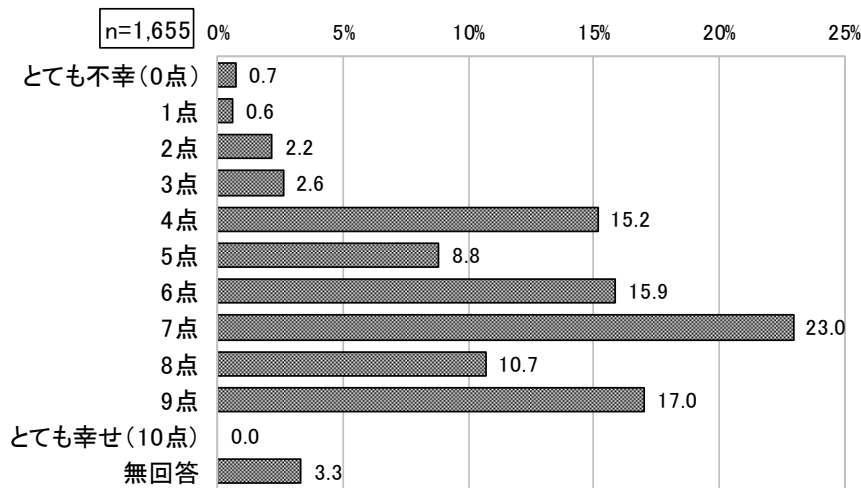
● 「とてもよい」と「まあよい」を合わせると 83.0%



(2) 主観的幸福感

問 55：あなたは、現在どの程度幸せですか。

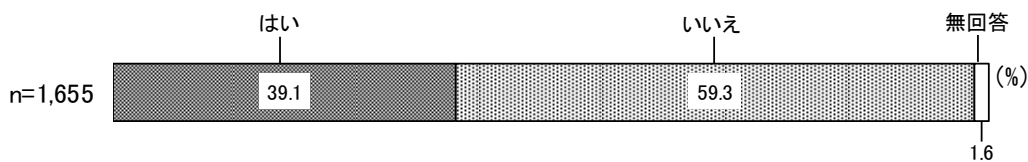
● 「7点」以上が 50.7%、平均点は 6.34 点



(3) うつの状況

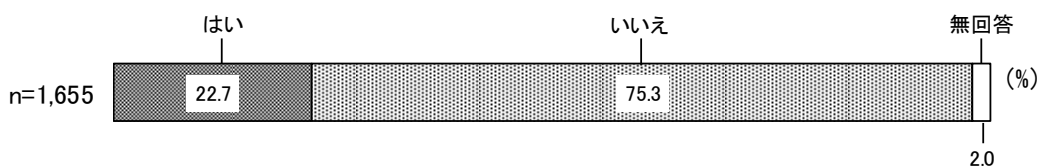
① 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか

問 56：この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。



② 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあるか

問 57：この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。



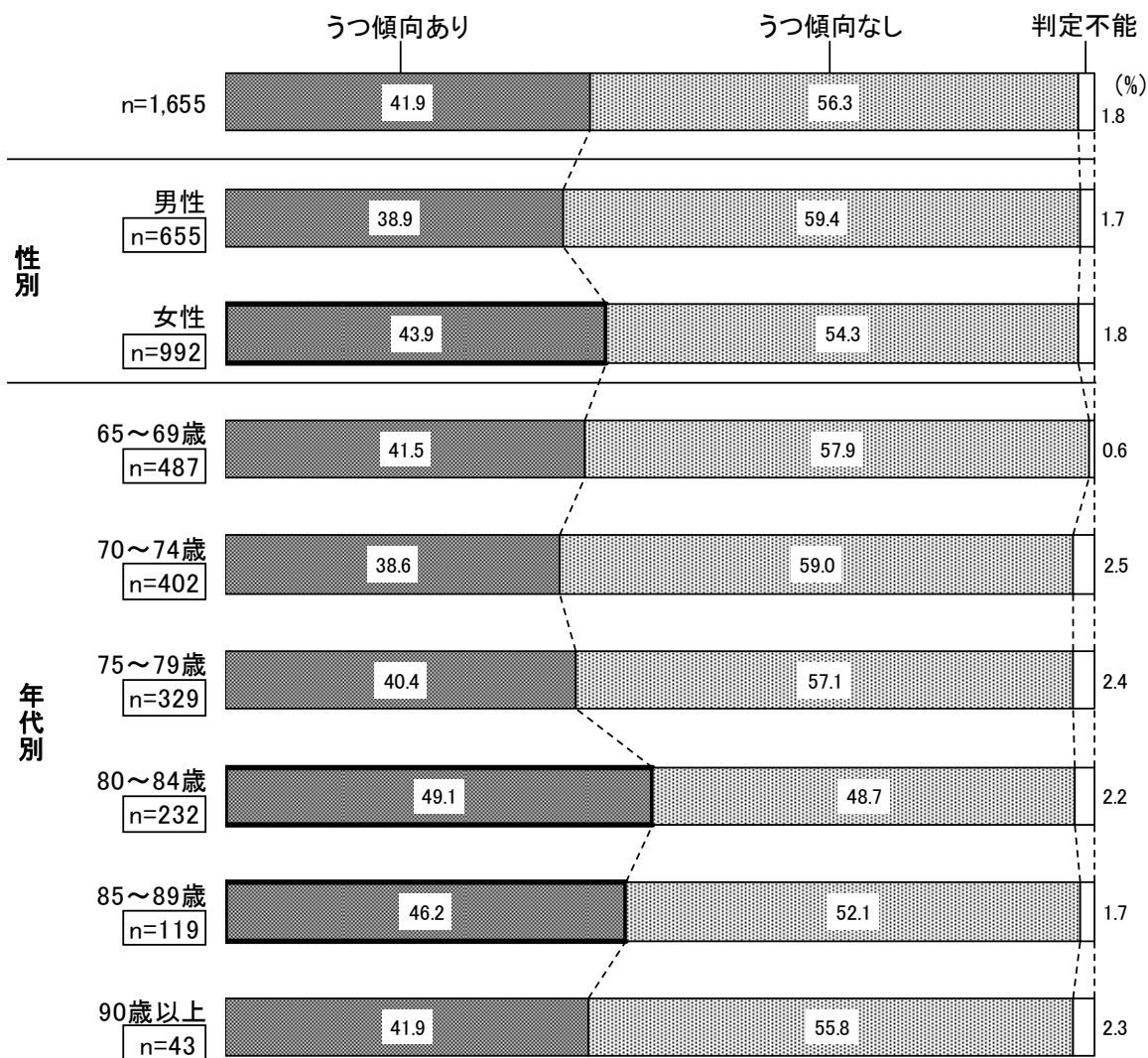
■うつ傾向の評価

問 56、問 57 のいずれかで「はい」と回答された場合、うつ傾向であると評価

設 問	該当項目
問 56：この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「はい」
問 57：この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	

●うつ傾向の人は全体の41.9%

うつ傾向の評価（全体・性別・年代別）



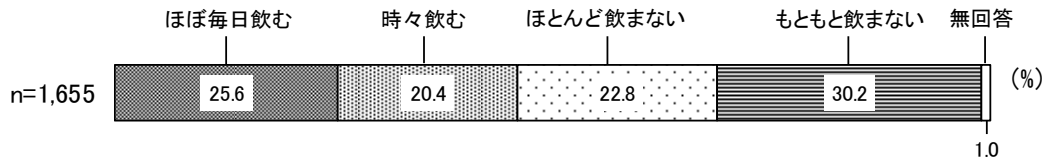
性別で見ると、女性は男性と比べて、「うつ傾向あり」の割合が高い。

また、年代別で見ると、80～89歳は他の年代に比べて、「うつ傾向あり」の割合が高い。

(4) 飲酒・タバコの習慣

① 飲酒の状況

問 58：お酒は飲みますか。



飲酒の状況（主観的健康感別）

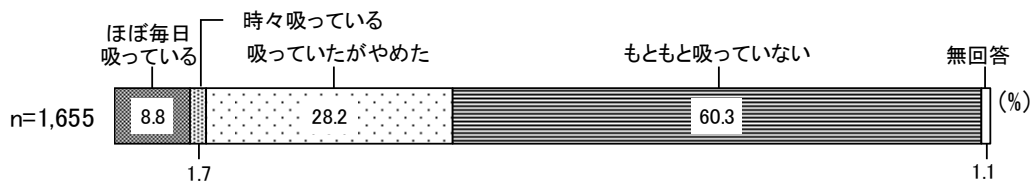
上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		全体	1 ほぼ毎日飲む	2 時々飲む	3 ほとんど飲まない	4 もともと飲まない	無回答
全体		1,655 100.0	423 25.6	338 20.4	377 22.8	500 30.2	17 1.0
主観的 健康感別	とてもよい	283 100.0	79 27.9	64 22.6	53 18.7	87 30.7	0 0.0
	まあよい	1,090 100.0	294 27.0	232 21.3	251 23.0	311 28.5	2 0.2
	あまりよくない	226 100.0	41 18.1	37 16.4	64 28.3	84 37.2	0 0.0
	よくない	30 100.0	5 16.7	3 10.0	7 23.3	15 50.0	0 0.0

主観的健康感別で見ると、よくないと回答した人は「もともと飲まない」の割合が高い。

② 喫煙の状況

問 59：タバコは吸っていますか。



喫煙の状況（主観的健康感別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

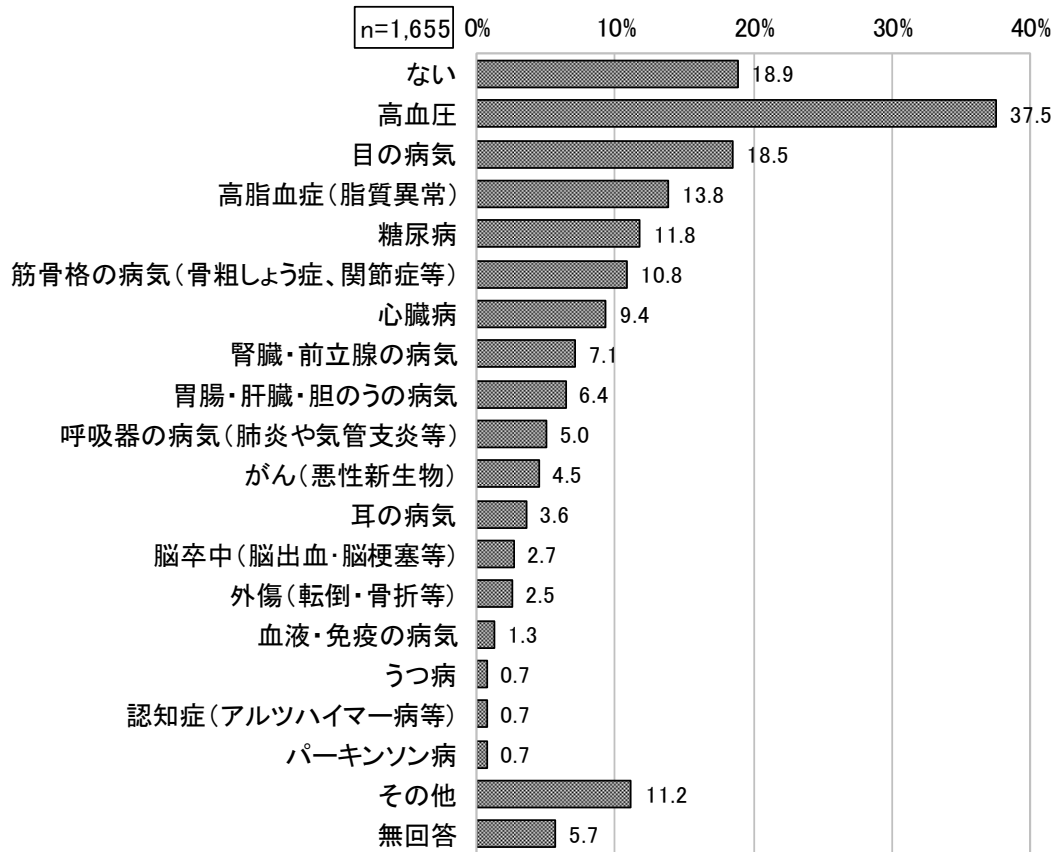
		全体	1 ほぼ毎日吸っている	2 時々吸っている	3 吸っていたがやめた	4 もともと吸っていない	無回答
全体		1,655 100.0	145 8.8	28 1.7	466 28.2	998 60.3	18 1.1
主観的 健康感別	とてもよい	283 100.0	18 6.4	1 0.4	82 29.0	181 64.0	1 0.4
	まあよい	1,090 100.0	96 8.8	23 2.1	308 28.3	661 60.6	2 0.2
	あまりよくない	226 100.0	28 12.4	4 1.8	63 27.9	131 58.0	0 0.0
	よくない	30 100.0	3 10.0	0 0.0	10 33.3	17 56.7	0 0.0

主観的健康感別で見ると、とてもよいと回答した人は「もともと吸っていない」の割合が高い。

(5) 疾病

問 60：現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【複数回答】

●「高血圧」（37.5%）が最も多い



<その他の回答>

- 虫歯 ○腰部脊柱管狭窄症 ○甲状腺の病気 ○リウマチ ○骨折

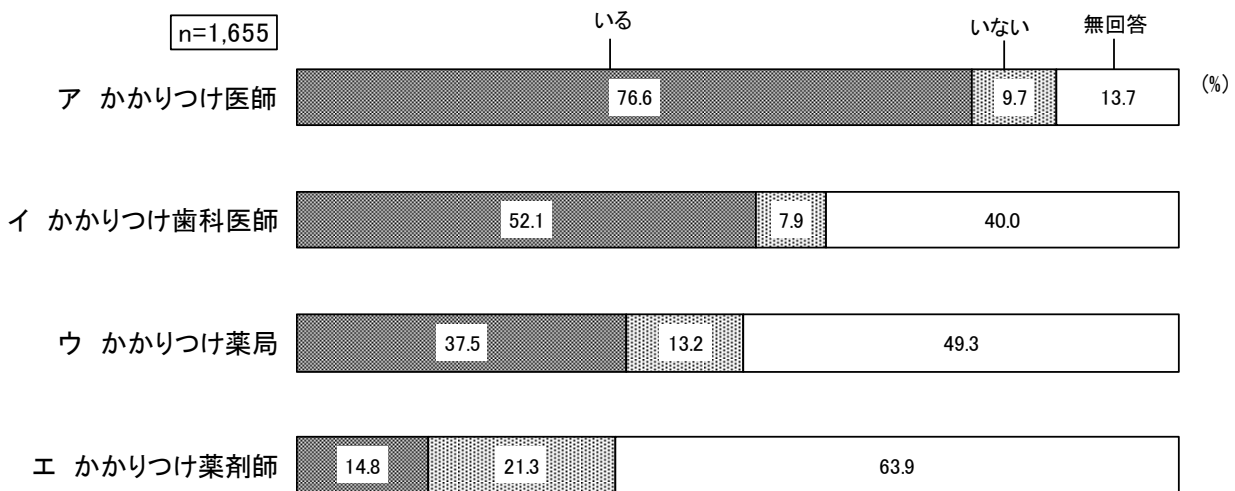
9. 医療

(1) かかりつけ医等

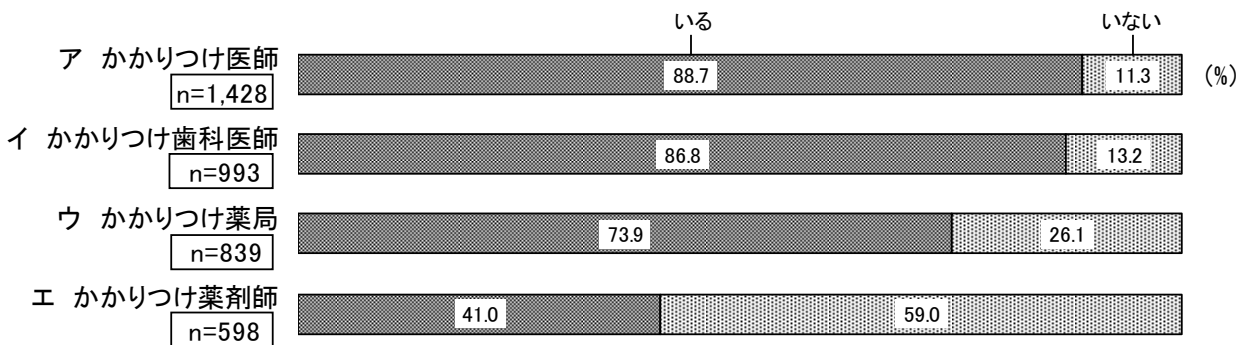
① かかりつけ医師等の有無

問 61 あなたは、普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談・指導を受けることができる、かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師がいますか。

● 「いる」割合は、医師が76.6%で最も高く、歯科医師では52.1%、薬局では37.5%、薬剤師では14.8%



かかりつけ医師等の有無（無回答を除いた集計）



【問 61 で「かかりつけ医師がいる」と回答の方】（問 61-1、61-2）

② 医療機関の種類

問 61-1：かかりつけの医師がいる病院・診療所の種類は何ですか。

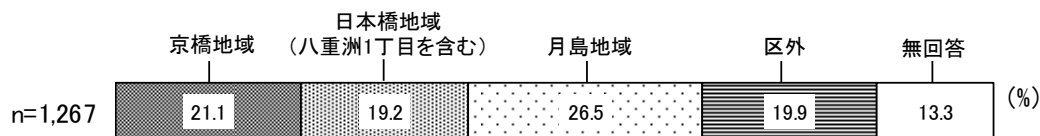
●「診療所」が 43.0%、「病院」が 39.0%



③ かかりつけ医療機関の所在地

問 61-2：病院・診療所の所在地はどこですか。

●病院・診療所の所在地が居住地と同じ地域である割合は、京橋地域（69.1%）が最も高いが、3地域で大きな差は見られない



かかりつけ医療機関の所在地（居住地域別）

		全体	所在地			
			1 京橋地域	2 日本橋地域 (八重洲1丁目を含む)	3 月島地域	4 区外
全体		1,098 100.0	267 24.3	243 22.1	336 30.6	252 23.0
居住地域別	京橋地域	282 100.0	195 69.1	15 5.3	6 2.1	66 23.4
	日本橋地域	320 100.0	16 5.0	219 68.4	6 1.9	79 24.7
	月島地域	486 100.0	54 11.1	8 1.6	320 65.8	104 21.4

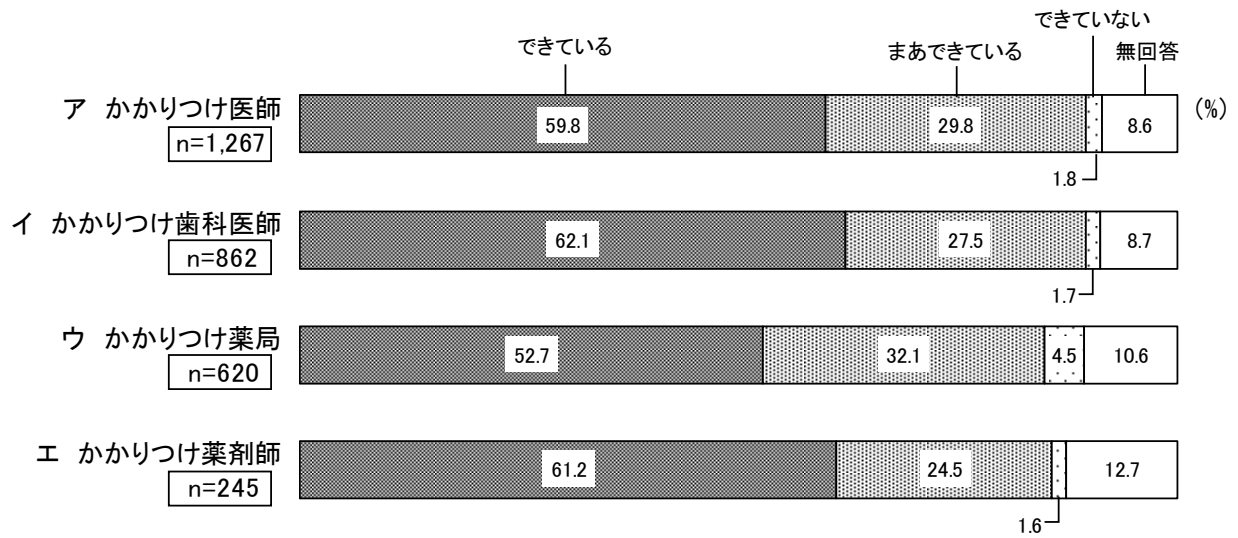
居住地域別で見ると、かかりつけ医療機関の所在地が居住地と同じ地域である割合及び区外である割合ともに、3地域とも大きな差は見られない。

④ かかりつけ医等との相談

【問 61 で「1. いる」と回答の方】

問 61-3 かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師から治療・服薬方法などについての説明や日常の健康についての相談・指導を十分に受けられていると思いますか。

● 「できている」のは「かかりつけ薬局」が 52.7%とやや低いが、その他は 60%前後と同程度

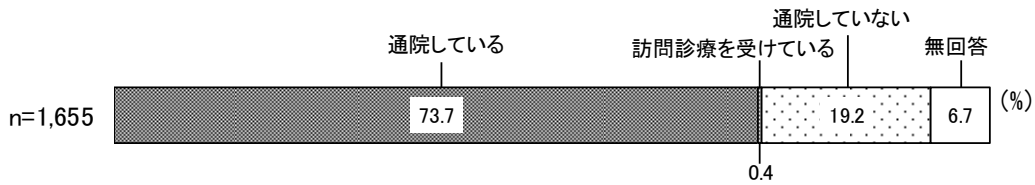


(2) 医療機関の受診状況

① 受診方法

問 62：あなたは現在、病院・診療所に通院していますか。

●「通院している」が73.7%



② 受診の頻度

【問 62 で「1. 通院している」、「2. 訪問診療を受けている」と回答の方】

問 62-1：その頻度をお聞きします。

●受診の頻度は「月1回程度」（45.6%）が最も多い

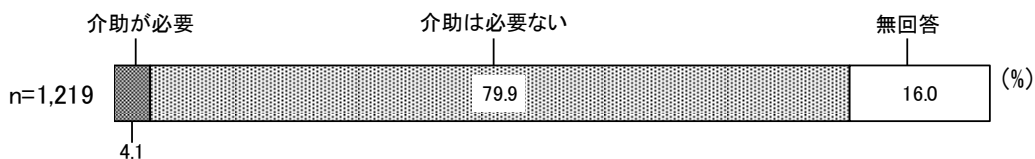


③ 通院時の介助の要否

【問 62 で「1. 通院している」と回答の方】

問 62-2：通院に介助は必要ですか。

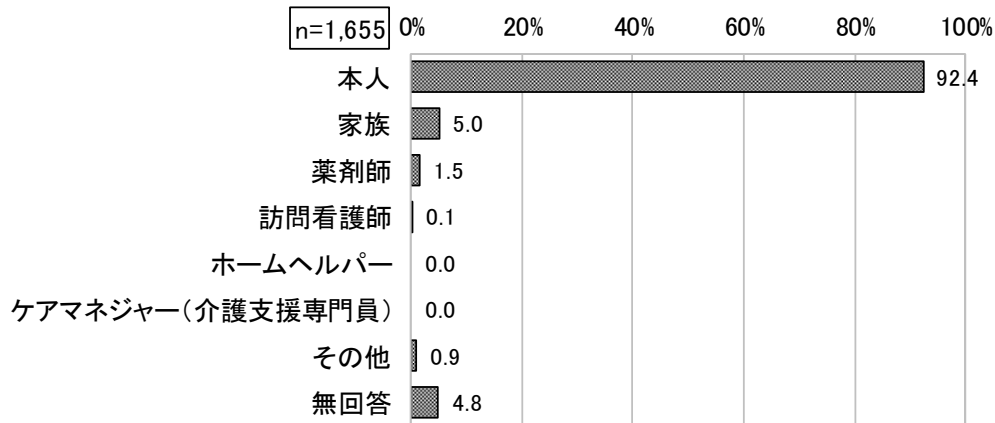
●通院に「介助が必要」は4.1%



(3) 服薬管理

問 63：あなたの服薬の管理はどなたが行っていますか。【複数回答】

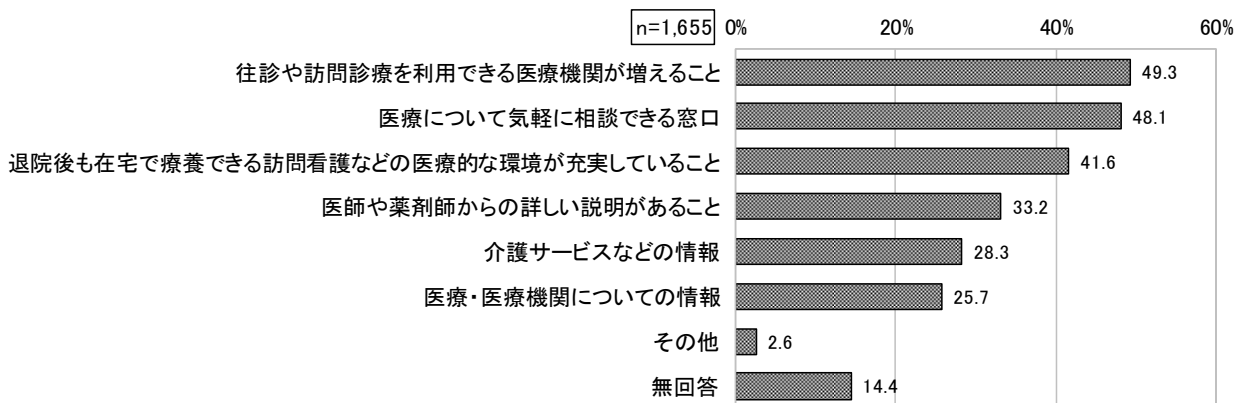
●服薬管理をしているのは「本人」が 92.4%



(4) 在宅療養する上であれば良いこと

問 64：在宅で医療処置を受けたり、医療機関を利用するときに、あなたはどのようなことがあれば良いと思いますか。【複数回答】

●「往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること」（49.3%）が最も多く、次いで「医療について気軽に相談できる窓口」（48.1%）



<その他の回答>

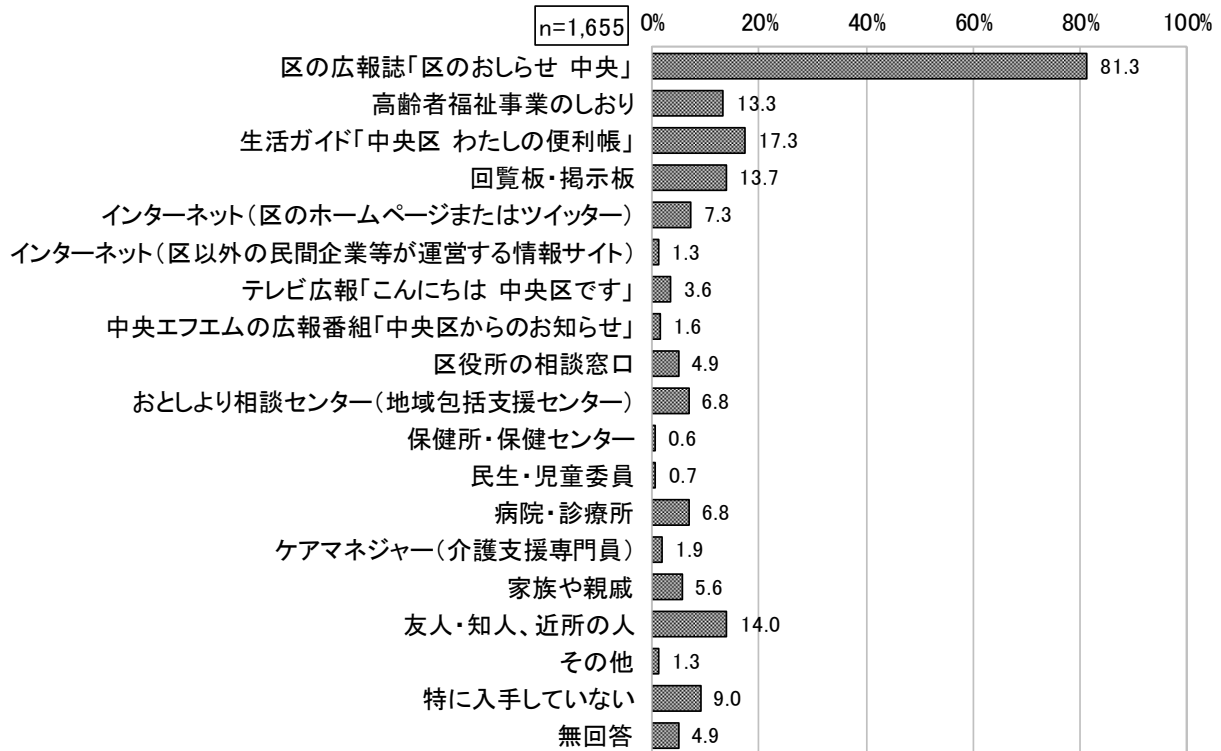
- 夜間の対応 ○土日の体制 ○信頼できる医師がいること
- いざとなったときに入院できること

10. 相談や権利擁護

(1) 区からの情報の入手先

問 65：あなたは、中央区からの情報は主にどこから入手していますか。【複数回答：3つまで】

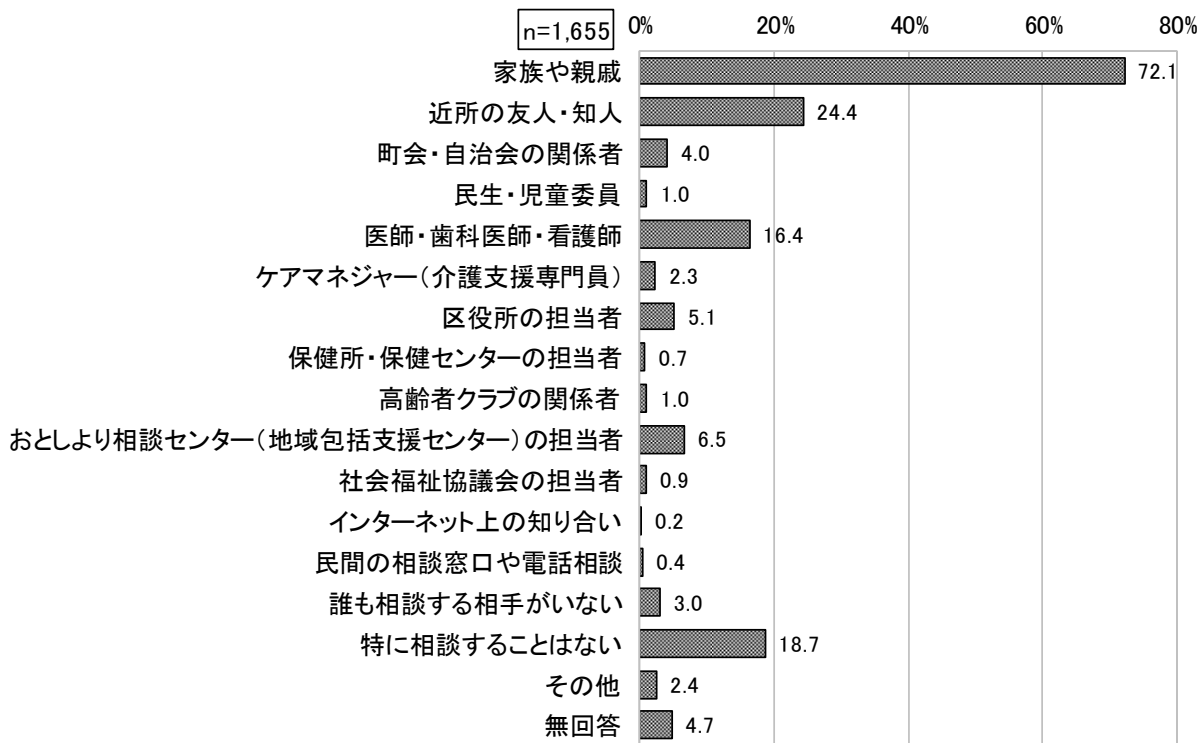
● 「区の広報誌」（81.3%）が最も多い



(2) 困ったときの相談相手

問 66：あなたは、普段の生活で困ったとき、誰に相談していますか。【複数回答：3つまで】

- 「家族や親戚」（72.1%）が最も多く、次いで「近所の友人・知人」（24.4%）、「特に相談することはない」（18.7%）

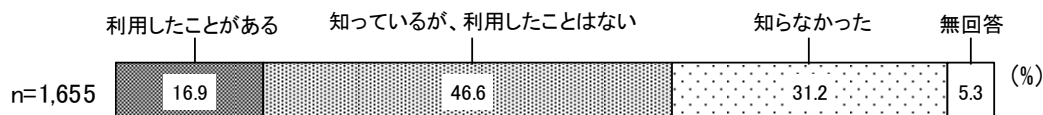


(3) おとしより相談センターの認知度・利用状況

① おとしより相談センターの利用の有無

問 67：あなたは、「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」をご存知ですか。

●認知度は 63.5%、「利用したことがある」は 16.9%



「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた認知度は 63.5% である。

おとしより相談センターの利用の有無（性別・年代別・地域別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		全体	1	2	3	無回答
			利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らなかった	
全体		1,655 100.0	279 16.9	771 46.6	517 31.2	88 5.3
性別	男性	655 100.0	79 12.1	292 44.6	252 38.5	32 4.9
	女性	992 100.0	199 20.1	478 48.2	262 26.4	53 5.3
年代別	65～69歳	487 100.0	49 10.1	208 42.7	212 43.5	18 3.7
	70～74歳	402 100.0	48 11.9	203 50.5	134 33.3	17 4.2
	75～79歳	329 100.0	63 19.1	163 49.5	84 25.5	19 5.8
	80～84歳	232 100.0	65 28.0	111 47.8	41 17.7	15 6.5
	85～89歳	119 100.0	38 31.9	46 38.7	23 19.3	12 10.1
	90歳以上	43 100.0	11 25.6	20 46.5	9 20.9	3 7.0
地域別	京橋地域	430 100.0	68 15.8	178 41.4	156 36.3	28 6.5
	日本橋地域	465 100.0	83 17.8	219 47.1	138 29.7	25 5.4
	月島地域	747 100.0	126 16.9	372 49.8	216 28.9	33 4.4

「知らなかった」の割合が高いのは、性別では男性、年代別では 65～69 歳、地域別では京橋地域である。

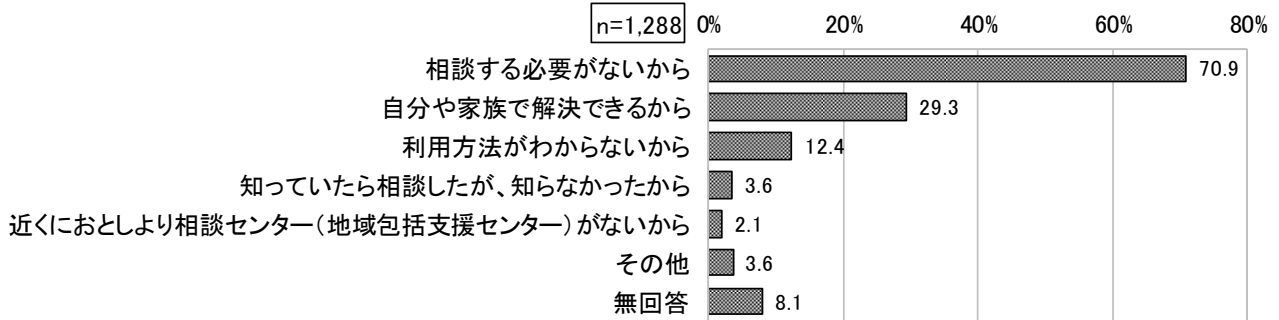
また、「利用したことがある」の割合は、性別では女性、年代別では 80 歳以上で高い。

② 利用したことがない理由

【問 67 で「2. 知っているが、利用したことはない」、「3. 知らなかった」と回答の方】

問 67-1 : 「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」を利用したことがない主な理由は何ですか。【複数回答】

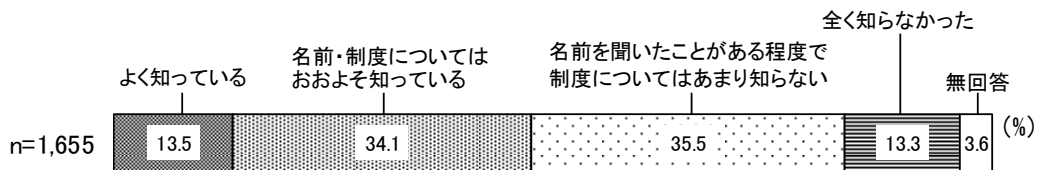
●利用したことがない理由は「相談する必要があるから」が 70.9%



(4) 成年後見制度の認知度

問 68 : あなたは、「成年後見制度」について内容をどの程度ご存知ですか。

●「よく知っている」と「名前・制度についてはおおよそ知っている」を合わせると 47.6%

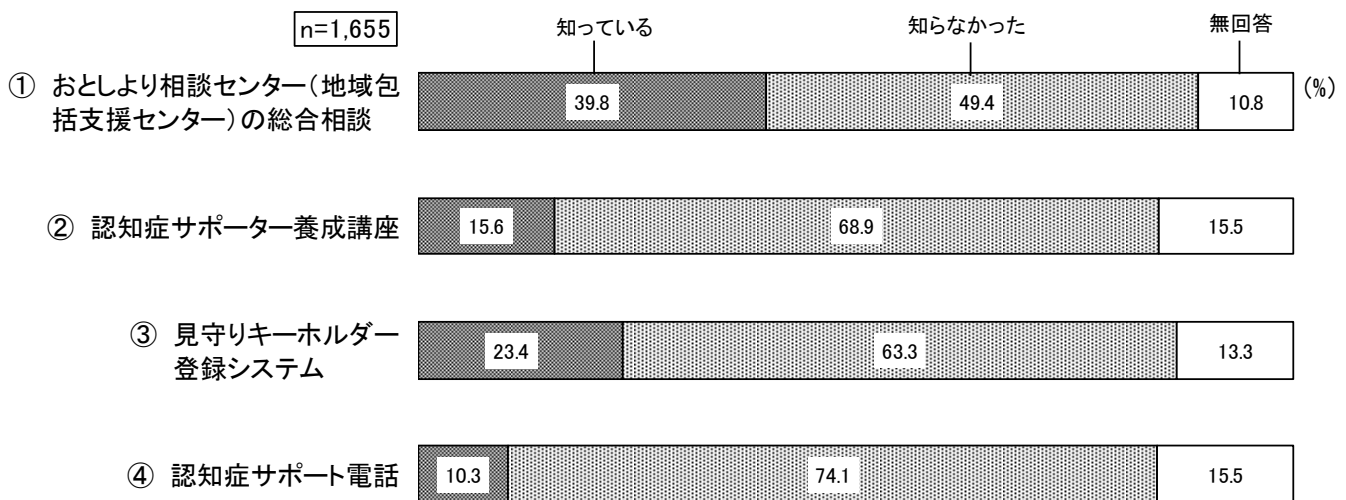


11. 認知症

(1) 認知症に関する取り組みの認知度

問 69：中央区では、おとしより相談センター（地域包括支援センター）などとともに認知症についてさまざまな取り組みを行っています。あなたは次のような取り組みをご存知ですか。

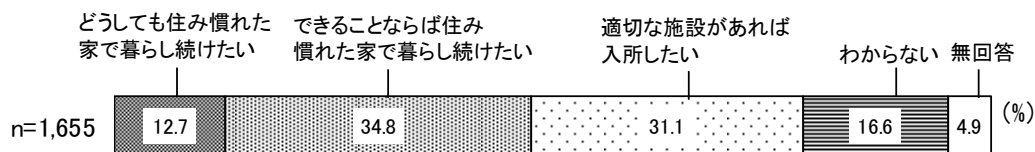
●「おとしより相談センター（地域包括支援センター）の総合相談」（39.8%）が最も高く、次いで「見守りキーホルダー登録システム」（23.4%）



(2) 在宅生活の継続意向

問 70：あなたは、認知症になっても、住み慣れた家で暮らし続けたいと思いますか。

●住み慣れた家で暮らし続けたい人は47.5%

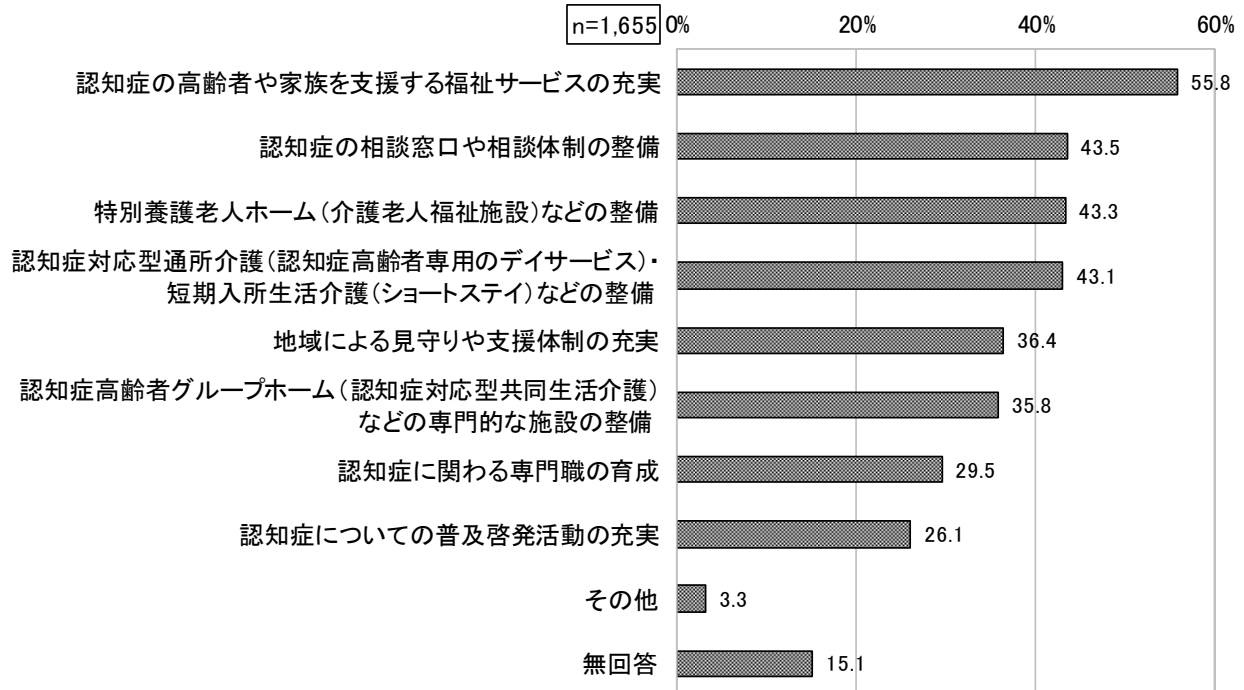


「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」と「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」を合わせた、住み慣れた家で暮らし続けたいと回答した人は47.5%である。一方、「適切な施設があれば入所したい」は31.1%である。

(3) 地域で暮らし続けるために必要なこと

問 71：あなたは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには何が必要だと思いますか。【複数回答】

● 「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」（55.8%）が最も多い



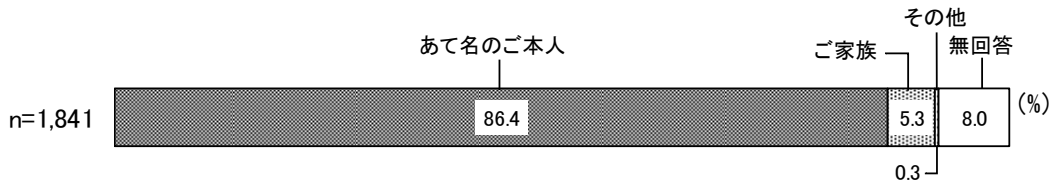
**ウ 健康づくりと介護予防に関する調査
(調査C)**

本調査は、基本チェックリストにより生活機能に低下が見られた者及び要支援認定者（施設サービス利用者を除く）【調査Bで抽出した方を除く全数】2,561人を対象としており、有効回答数は1,841件、回収率は71.9%であった。

1. 回答者の属性

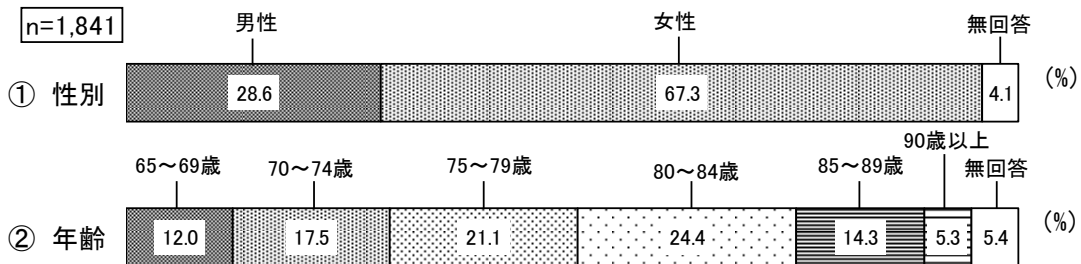
(1) 調査票の記入者

問1：調査票を記入されたのはどなたですか。



(2) 性別・年齢

問2：あなたの性別と、平成28年11月1日現在の満年齢を記入してください。

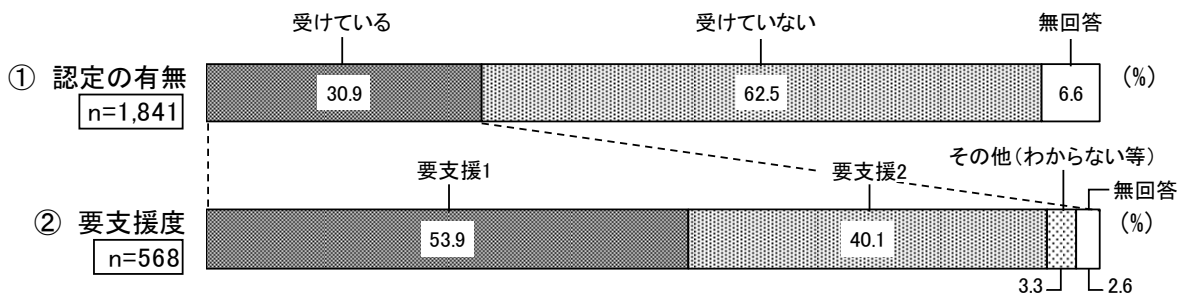


(3) 要介護認定の状況

問3：あなたは要介護・要支援認定を受けていますか。

【問3で「1.受けている」と回答の方】

問3-1：現在の要介護・要支援度をお聞きします。



(4) 居住地域

問4：現在あなたのお住まいになっている地域はどこですか。

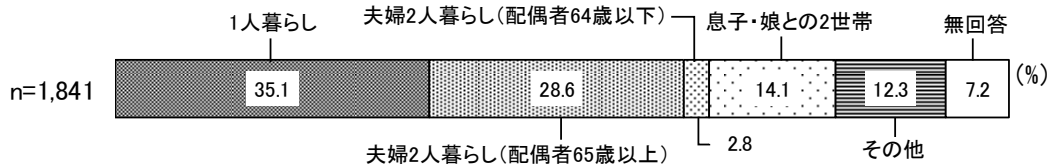


2. 世帯や経済状況

(1) 世帯状況

問5：あなたの家族構成をお教えてください。

●「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」を合わせた高齢者のみの世帯が63.7%

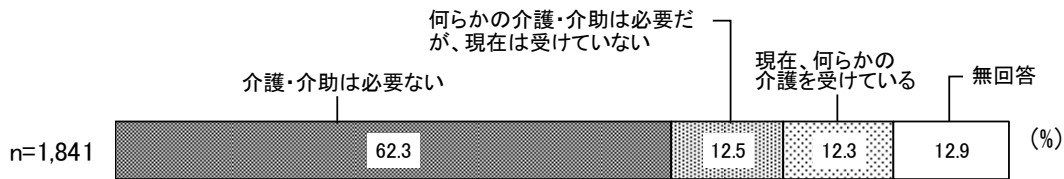


(2) 介護・介助の状況

① 介護・介助の有無

問6：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

●介護・介助が必要な人は24.8%



「介護・介助は必要ない」(62.3%)が最も多く、一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」及び「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた、介護・介助が必要な人の割合は24.8%である。

介護・介助の有無（家族構成別）

		全体	上段:実数(人)			下段:構成比(%)
			1 介護・介助は必要ない	2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	3 現在、何らかの介護を受けている	
全体		1,841	1,147	230	227	237
		100.0	62.3	12.5	12.3	12.9
家族構成別	1人暮らし	647	378	85	90	94
		100.0	58.4	13.1	13.9	14.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	526	352	63	61	50
		100.0	66.9	12.0	11.6	9.5
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	51	38	3	1	9
		100.0	74.5	5.9	2.0	17.6
	息子・娘との2世帯	259	164	30	33	32
	100.0	63.3	11.6	12.7	12.4	
	その他	226	152	35	19	20
	100.0	67.3	15.5	8.4	8.8	

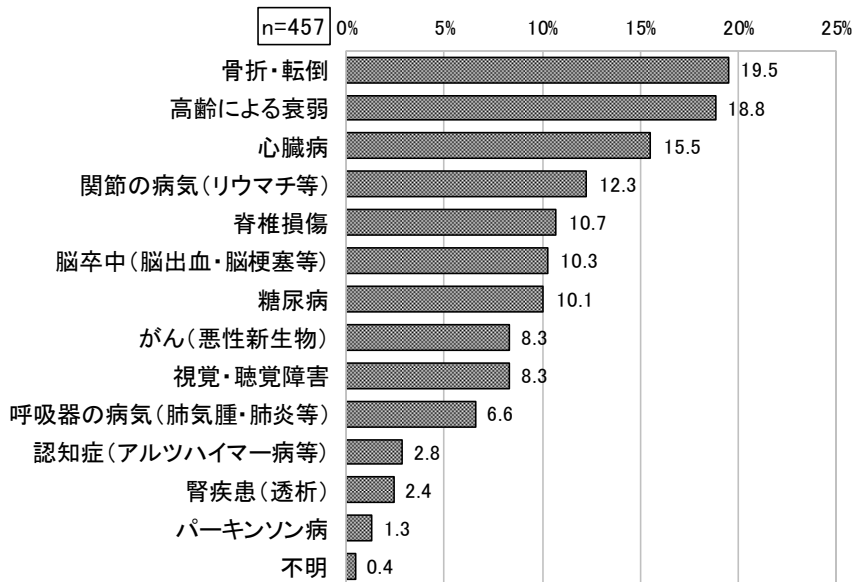
家族構成別で見ると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）は全体と比べて、「介護・介助の必要はない」の割合が高い。

【問6で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答の方】（問6-1、6-2）

② 介護・介助が必要になった原因

問6-1：介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。【複数回答】

●介護・介助が必要となった原因は「骨折・転倒」（19.5%）が最も多く、次いで「高齢による衰弱」（18.8%）



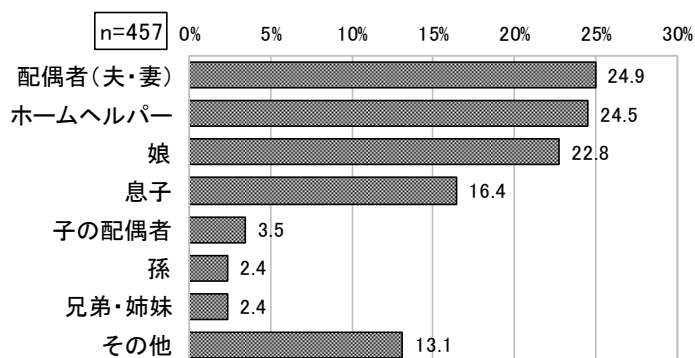
<その他の回答>

- 変形性関節症
- 脊柱管狭窄症
- 高血圧症

③ 主な介護・介助者

問6-2 主にどなたの介護、介助を受けていますか。【複数回答】

●「配偶者（夫・妻）」（24.9%）が最も多く、次いで「ホームヘルパー」（24.5%）



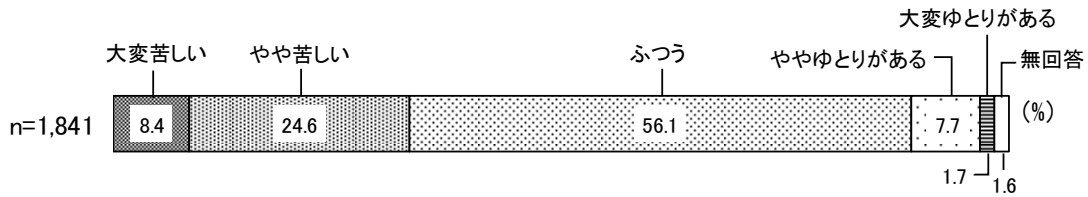
<その他の回答>

- 訪問看護師
- デイサービス
- リハビリセンター
- 友人
- ボランティア
- 虹のサービス

(3) 主観的な経済状況

問7：あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

●「ふつう」(56.1%) が最も多く、次いで「やや苦しい」(24.6%)



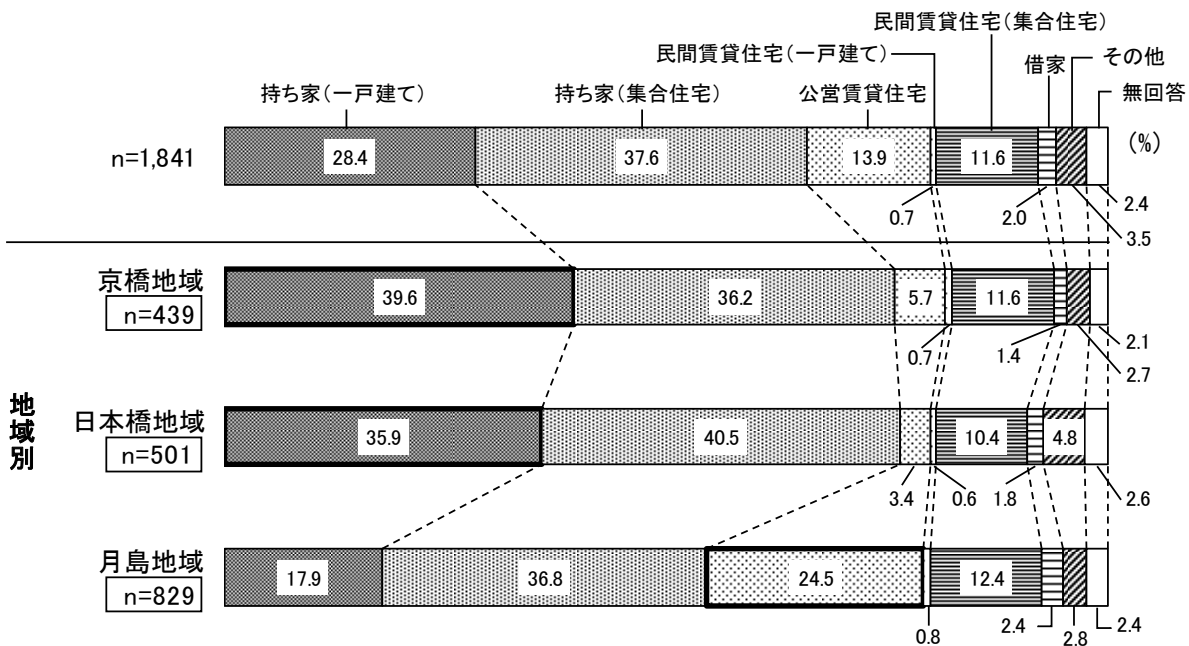
「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると 33.0%である。

(4) 住まい

問8：あなたのお住まいは、一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

●住まいは、集合住宅が 63.1%、一戸建てが 29.1%

住まい（全体・地域別）



「持ち家（集合住宅）」、「公営賃貸住宅」、「民間賃貸住宅（集合住宅）」を合わせた集合住宅の割合は 63.1%である。「持ち家（一戸建て）」と「民間賃貸住宅（一戸建て）」を合わせた一戸建ての割合は 29.1%である。また、全体の 66.0%が持ち家である。

地域別で見ると、京橋地域、日本橋地域は全体と比べて、「持ち家（一戸建て）」の割合が高い。一方、月島地域は全体と比べて、「持ち家（一戸建て）」の割合が低く、「公営賃貸住宅」の割合が高い。

3. 交流サロン・趣味の講座・サークル活動への参加状況

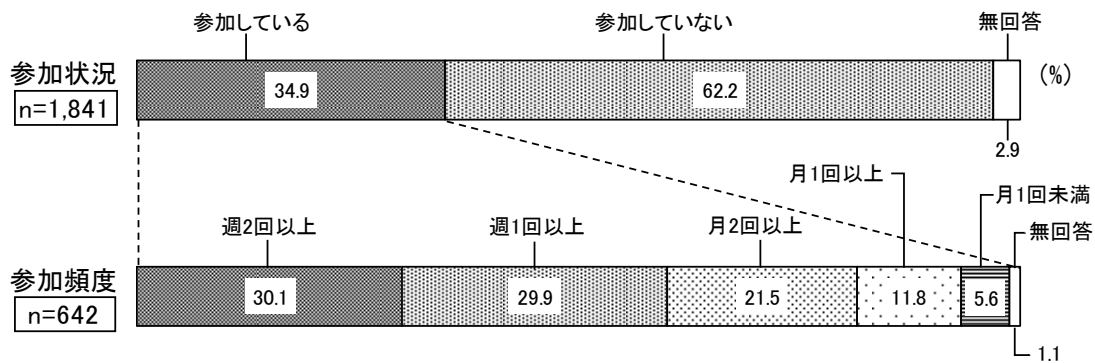
(1) 参加状況

問9:あなたは、友達づくりや生きがいのために地域住民同士が集う交流サロンや趣味の講座、サークル活動等に参加していますか。

【問9で「1.参加している」と回答の方】

問9-1:参加頻度は、どの程度ですか。

●「参加している」が34.9%、そのうち参加頻度は「週2回以上」と「週1回以上」がそれぞれ30%程度



参加状況（性別・年代別・地域別）

		全体	参加状況		
			1 参加している	2 参加していない	無回答
全体		1,841 100.0	642 34.9	1,145 62.2	54 2.9
性別	男性	526 100.0	130 24.7	383 72.8	13 2.5
	女性	1,239 100.0	479 38.7	721 58.2	39 3.1
年代別	65～69歳	220 100.0	58 26.4	162 73.6	0 0.0
	70～74歳	322 100.0	101 31.4	217 67.4	4 1.2
	75～79歳	389 100.0	144 37.0	232 59.6	13 3.3
	80～84歳	450 100.0	176 39.1	259 57.6	15 3.3
	85～89歳	263 100.0	89 33.8	161 61.2	13 4.9
	90歳以上	98 100.0	35 35.7	57 58.2	6 6.1
地域別	京橋地域	439 100.0	145 33.0	282 64.2	12 2.7
	日本橋地域	501 100.0	189 37.7	296 59.1	16 3.2
	月島地域	829 100.0	277 33.4	529 63.8	23 2.8

性別で見ると、男性は女性と比べて、「参加していない」の割合が高い。

年代別で見ると、65～74歳は全体と比べて、「参加していない」の割合が高い。

また、地域別で見ると、日本橋地域は他の地域と比べて、「参加している」の割合がやや高い。

(2) 理想の参加頻度

問 10：あなたが参加したい理想の頻度はどの程度ですか。

●「週1回以上」（22.4%）が最も多く、「週2回以上」から「月1回以上」までを合わせると60.2%

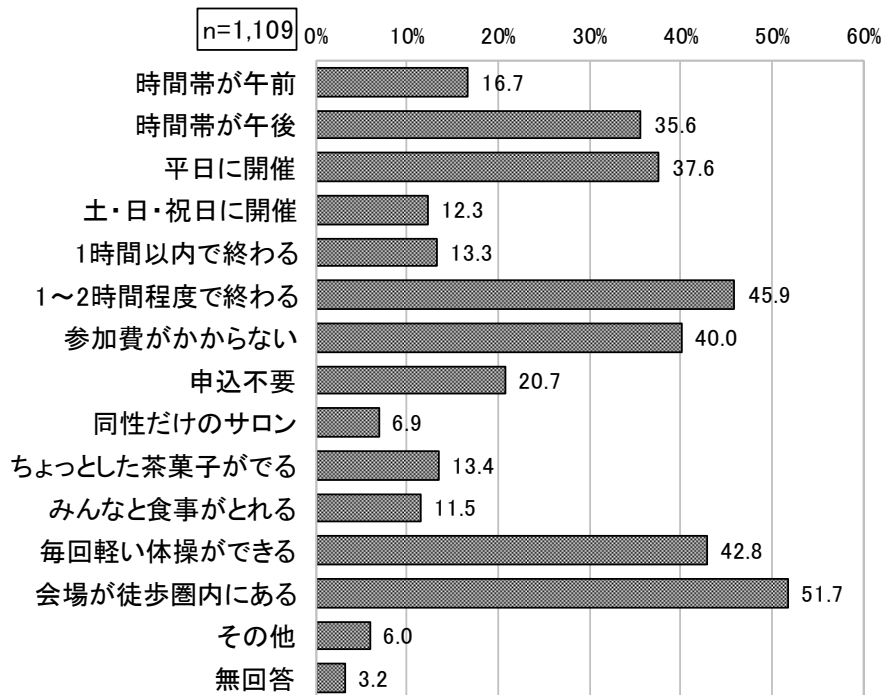


(3) 参加条件

【問 10 で「週 2 回以上」、「週 1 回以上」、「月 2 回以上」、「月 1 回以上」と回答の方】

問 10-1：地域住民同士が集う交流サロンや趣味の講座、サークル活動等に参加しようと思う条件は何ですか。【複数回答】

●「会場が徒歩圏内にある」が51.7%



<その他の回答>

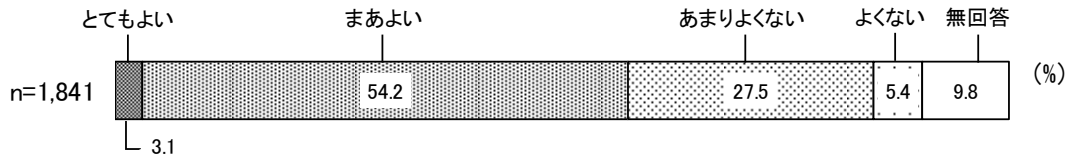
○時間帯が夜間 ○無料送迎サービスがある ○少額の参加費

4. 健康・医療

(1) 主観的健康感

問 11：現在のあなたの健康状態はいかがですか。

●「とてもよい」と「まあよい」を合わせると 57.3%

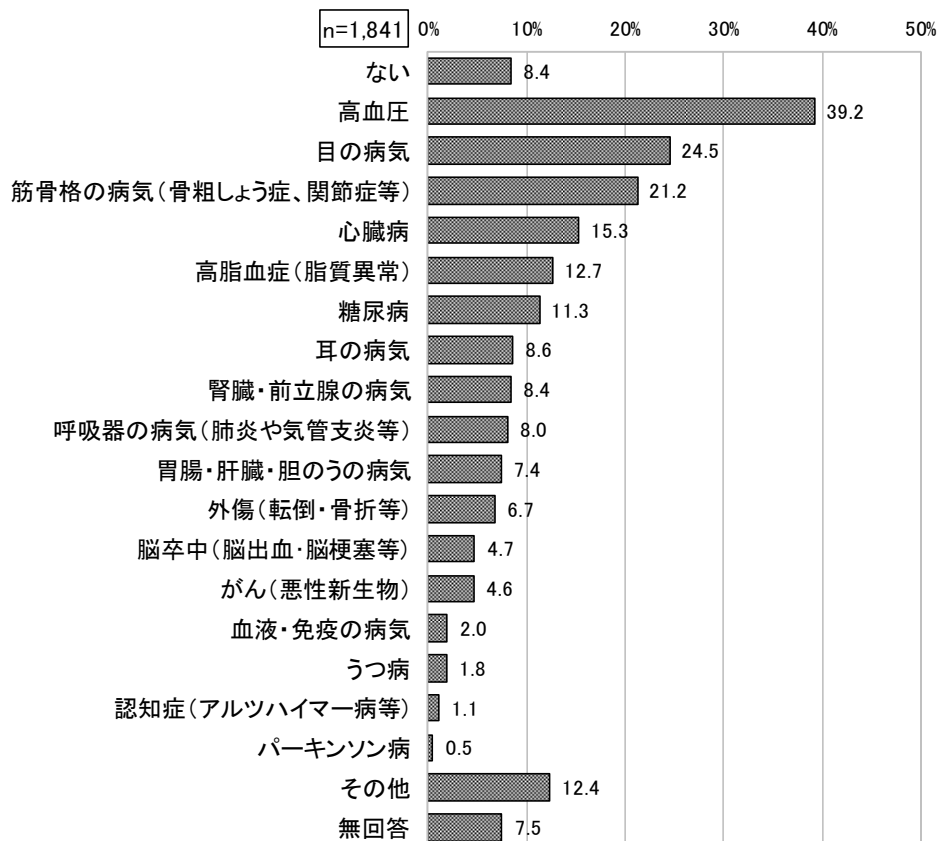


「あまりよくない」と「よくない」を合わせると 32.9%である。

(2) 疾病

問 12：あなたは現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【複数回答】

●「高血圧」(39.2%) が最も多く、次いで「目の病気」(24.5%)、「筋骨格の病気」(21.2%)



<その他の回答>

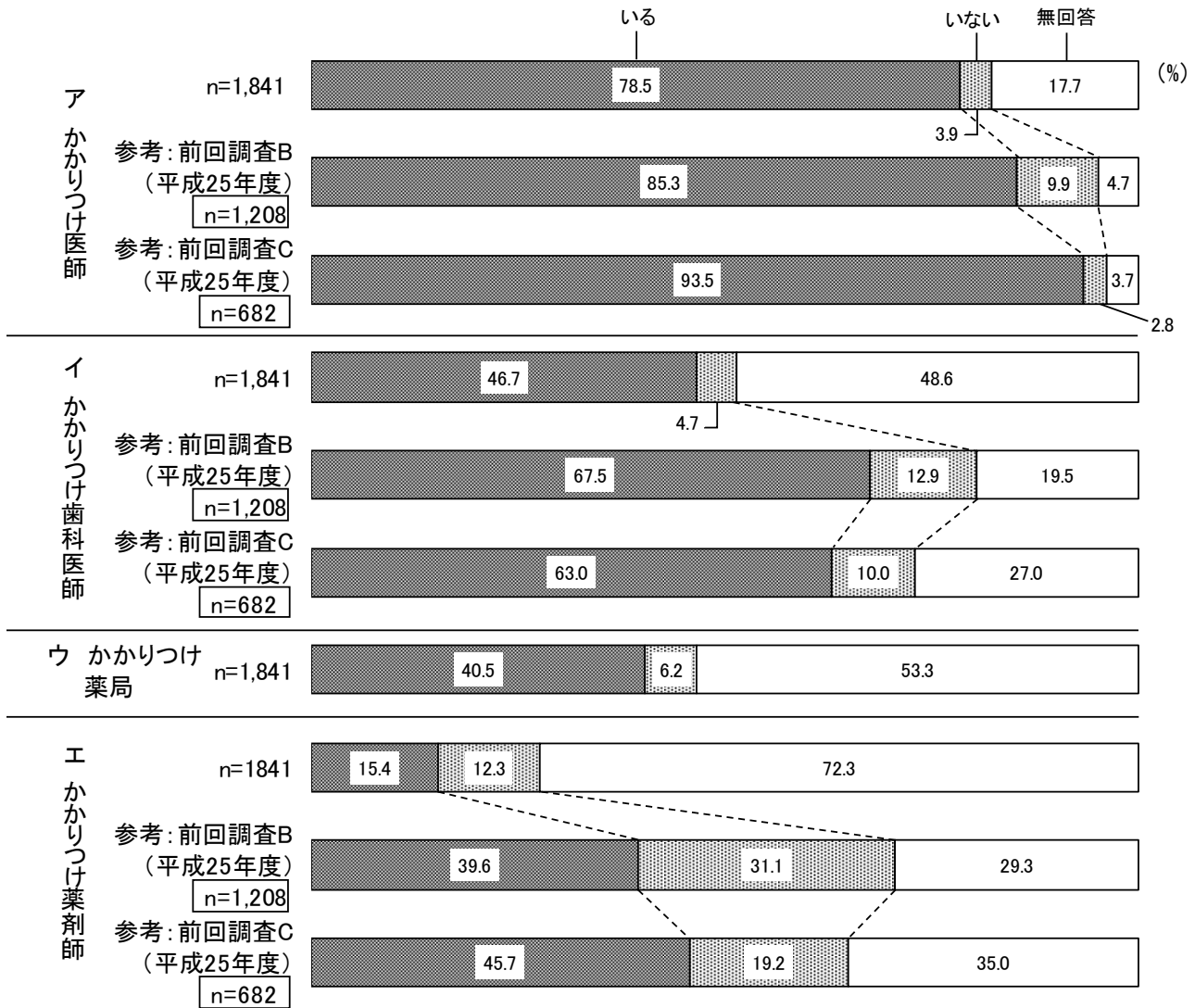
- 帯状疱疹 ○甲状腺機能低下 ○リウマチ ○膠原病 ○脊柱管狭窄症 ○椎間板ヘルニア
○腰痛 ○メニエール病

(3) かかりつけ医等

① かかりつけ医等の有無

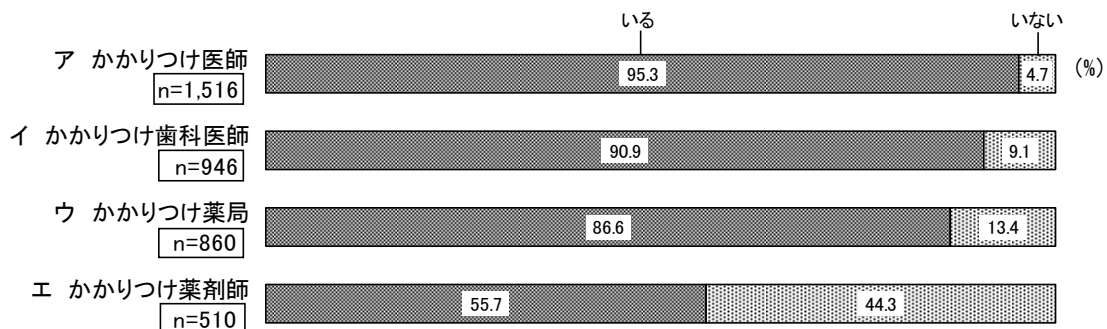
問 13：あなたは、普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談・指導を受けることができる、かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師がいますか。

● 「いる」割合は医師が 78.5%と最も多い



※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。

<参考：無回答を除いて集計>



【問13で「かかりつけの医師がいる」と回答の方】（問13-1、13-2）

② 医療機関の種類

問13-1：かかりつけの医師がいる病院・診療所の種類は何ですか。

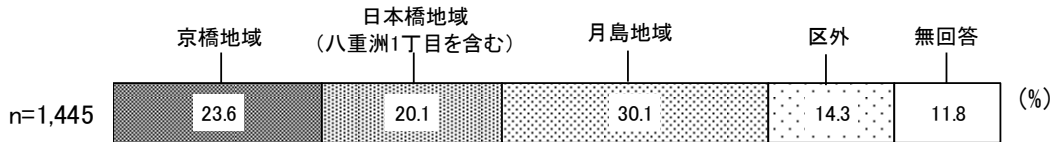
● 「病院」が37.8%、「診療所」が43.9%



③ かかりつけ医療機関の所在地

問13-2：病院・診療所の所在地はどこですか。

● 医療機関の所在地が居住地と同じ地域である割合は、「京橋地域」が70.3%と高い



かかりつけ医療機関の所在地（居住地域別）

		全体	1 2 3 4				無回答
			京橋地域	日本橋地域 (八重洲1丁目を含む)	月島地域	区外	
全体		1,445 100.0	341 23.6	291 20.1	435 30.1	207 14.3	171 11.8
居住地域別	京橋地域	357 100.0	251 70.3	13 3.6	9 2.5	45 12.6	39 10.9
	日本橋地域	388 100.0	19 4.9	263 67.8	1 0.3	61 15.7	44 11.3
	月島地域	644 100.0	61 9.5	9 1.4	412 64.0	83 12.9	79 12.3

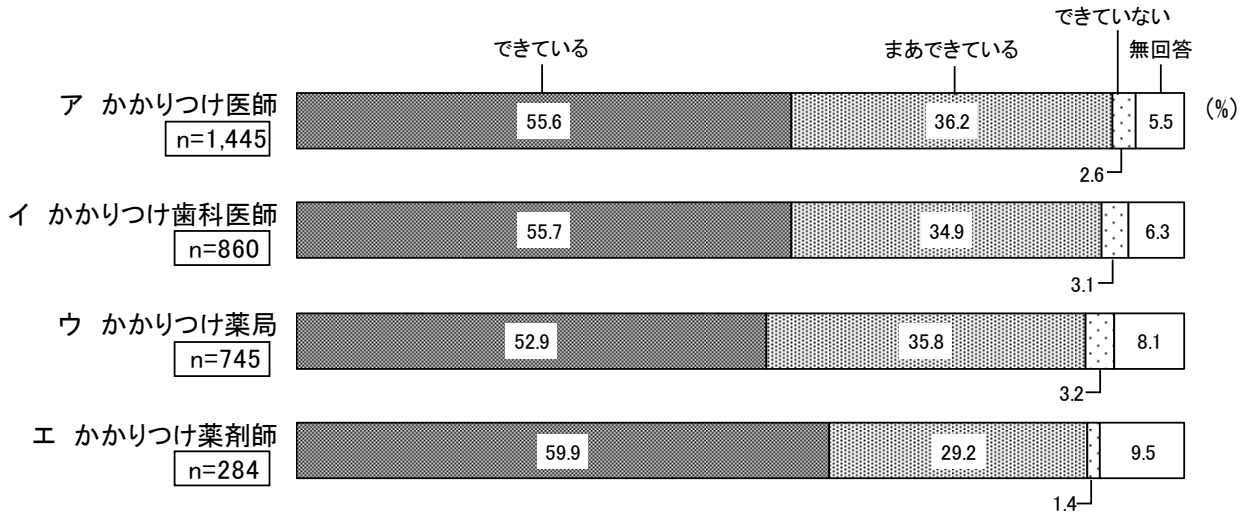
居住地域別で見ると、かかりつけ医療機関の所在地が居住地と同じ地域である割合は、「京橋地域」が70.3%と高く、「日本橋地域」は67.8%、「月島地域」は64.0%である。

④ かかりつけ医等との相談

【問 13 で「1. いる」と回答の方】

問 13-3：かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師から治療・服薬方法などについての説明や日常の健康についての相談・指導を十分に受けられていると思いますか。

●相談・指導を十分に受けられている割合は「かかりつけ薬剤師」（59.9%）がやや高い



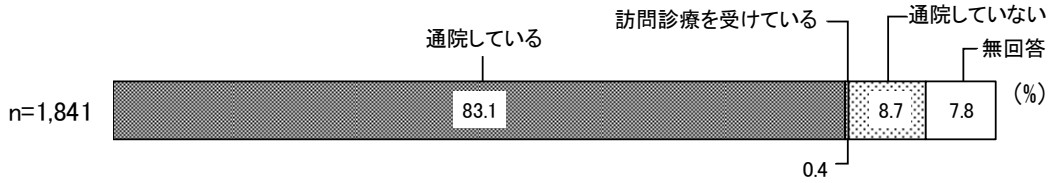
「できている」と「まあできている」を合わせた割合は同程度であるが、「できている」の割合はかかりつけ薬剤師で 59.9%とやや高い。

(4) 医療機関の受診状況

① 受診方法

問 14：あなたは現在、病院・診療所に通院していますか。

● 「通院している」が 83.1%

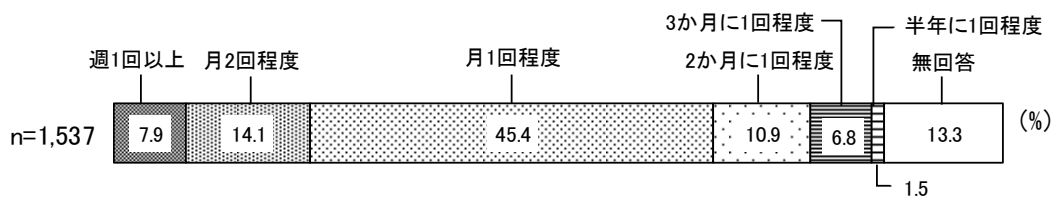


② 通院・訪問診療の頻度

【問 14 で「1. 通院している」、「2. 訪問診療を受けている」と回答の方】

問 14-1：その頻度をお聞きします。

● 「月 1 回程度」(45.4%) が最も多い

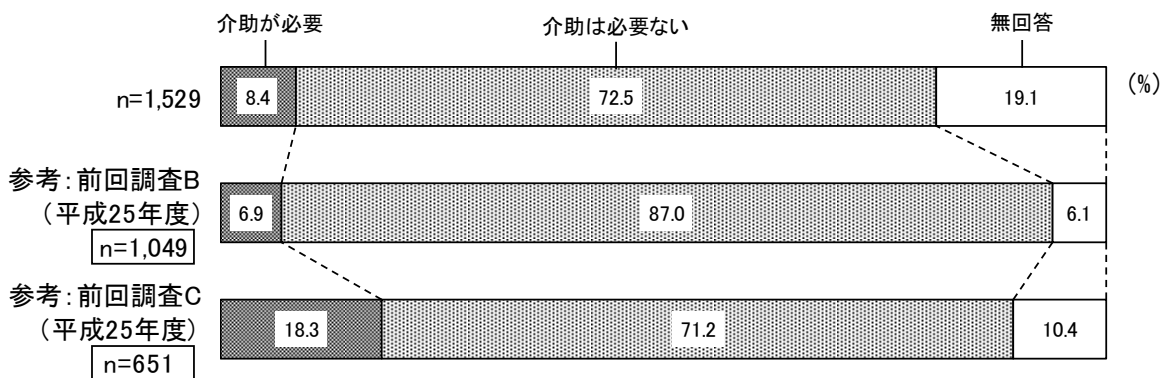


③ 通院時の介助の要否

【問 14 で「1. 通院している」と回答の方】

問 14-2：通院に介助は必要ですか。

● 「介助が必要」は 8.4%

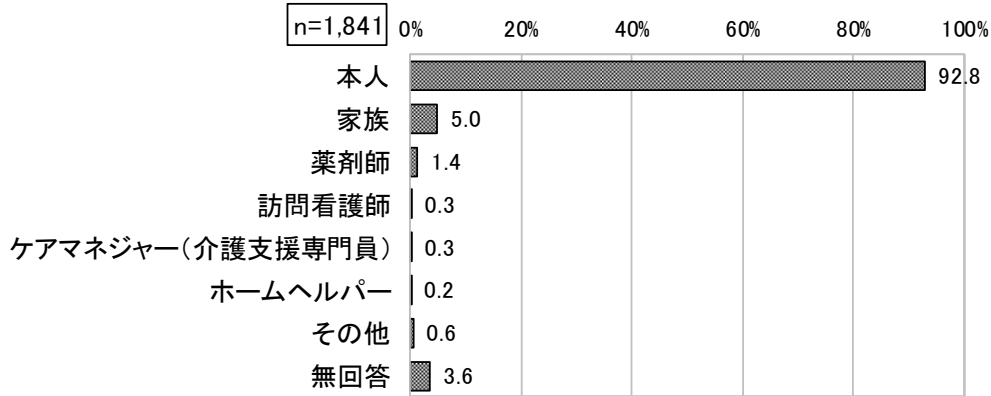


※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。

(5) 服薬管理

問 15：あなたの服薬の管理はどなたが行っていますか。【複数回答】

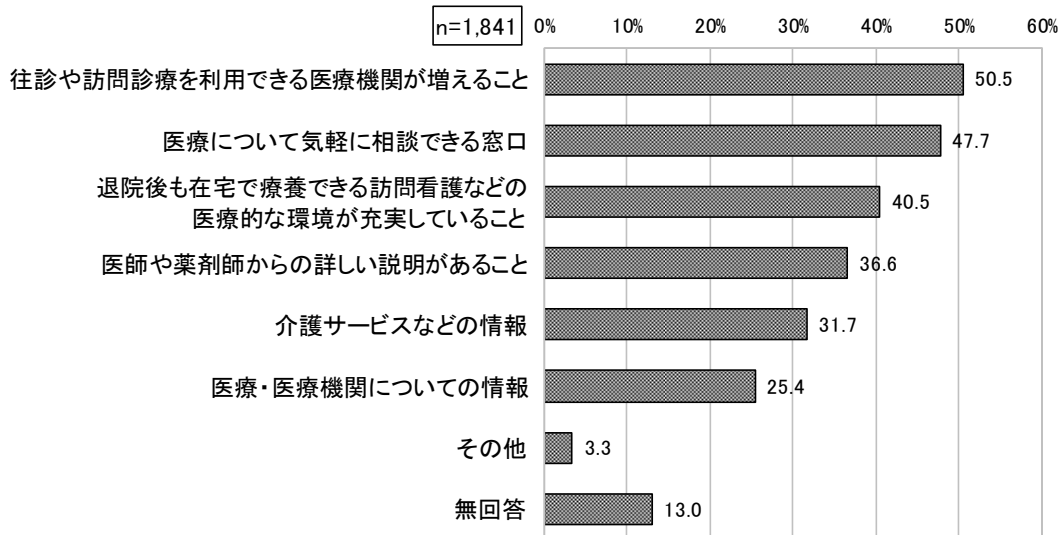
●「本人」が 92.8%



(6) 在宅療養する上であれば良いこと

問 16：在宅で医療処置を受けたり、医療機関を利用するときに、あなたはどのようなことがあれば良いと思いますか。【複数回答】

●「往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること」(50.5%) が最も多く、次いで「医療について気軽に相談できる窓口」(47.7%)



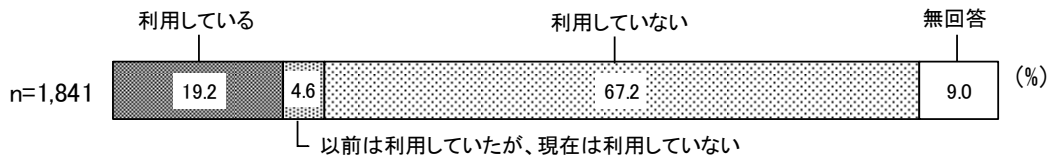
5. 介護予防のサービス

(1) 介護予防のサービス

① 介護予防のサービス利用の有無

問 17：あなたは現在、介護予防のサービスを利用していますか。

●介護予防のサービスを「利用している」人は 19.2%

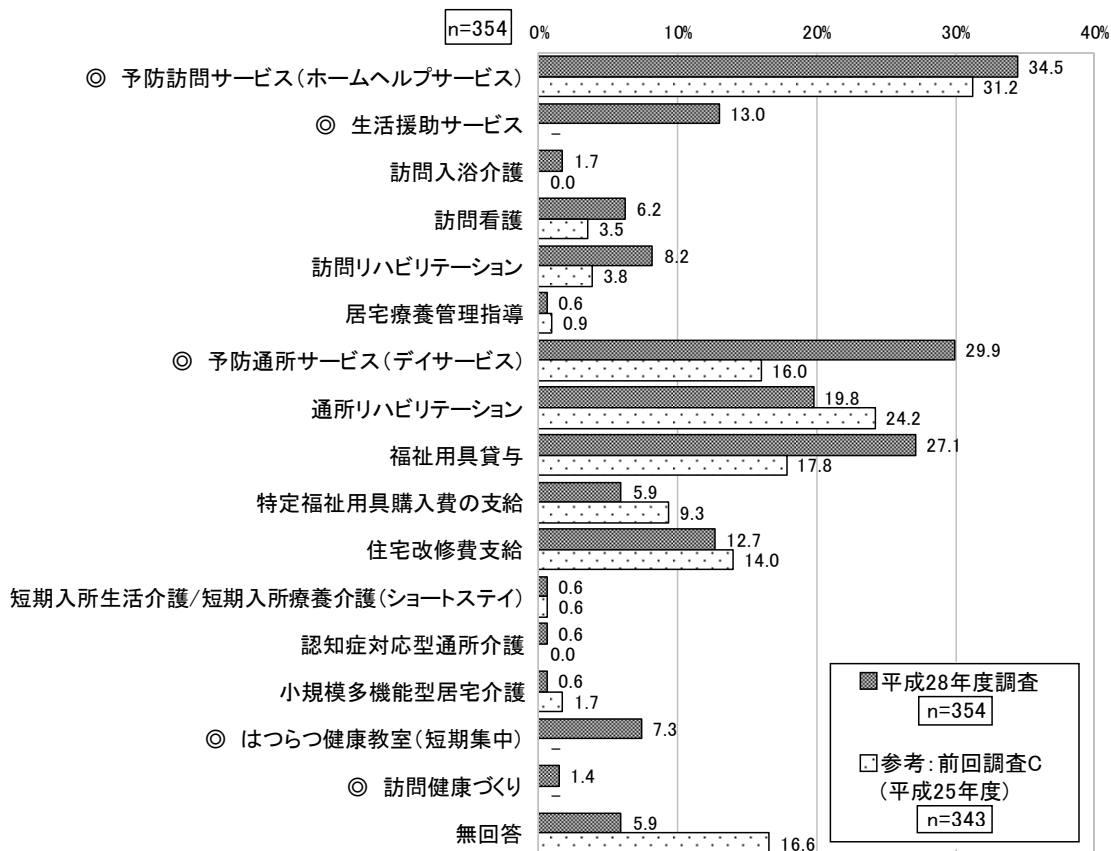


【問 17 で「1. 利用している」と回答の方】（問 17-1、17-2）

② 利用している介護予防サービスの種類

問 17-1：利用している介護予防のサービスは何ですか。【複数回答】

●「予防訪問サービス（ホームヘルプサービス）」（34.5%）が最も多く、次いで「予防通所サービス（デイサービス）」（29.9%）、「福祉用具貸与」（27.1%）



◎：中央区介護予防・日常生活支援総合事業のサービス

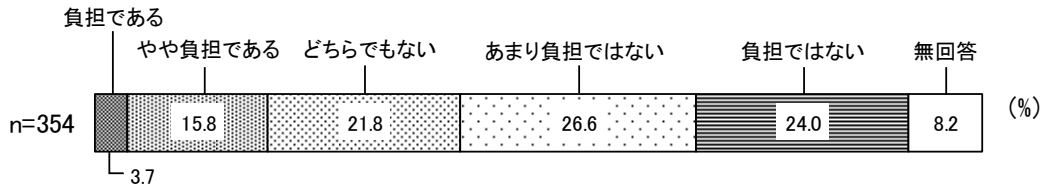
※図中「-」は調査時にたずねていない項目のため数値がないことを表している。

※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。

③ 利用料の負担感

問 17-2：現在利用されている介護予防のサービスの利用料は、あなたにとってどの程度負担ですか。

● 「あまり負担ではない」（26.6%）が最も多い



「負担である」と「やや負担である」を合わせると 19.5%である。

利用料の負担感（要介護度別・家族構成別）

		全体	1 2 3 4 5					無回答
			負担である	やや負担である	どちらでもない	あまり負担ではない	負担ではない	
全体		354 100.0	13 3.7	56 15.8	77 21.8	94 26.6	85 24.0	29 8.2
要介護度別	要支援1	153 100.0	8 5.2	18 11.8	36 23.5	41 26.8	40 26.1	10 6.5
	要支援2	142 100.0	5 3.5	27 19.0	29 20.4	41 28.9	30 21.1	10 7.0
家族構成別	1人暮らし	162 100.0	6 3.7	24 14.8	35 21.6	40 24.7	43 26.5	14 8.6
	夫婦2人暮らし	97 100.0	2 2.1	20 20.6	20 20.6	31 32.0	17 17.5	7 7.2
	息子・娘との2世帯	39 100.0	4 10.3	2 5.1	11 28.2	10 25.6	9 23.1	3 7.7

要介護度別で見ると、要支援1、2ともに大きな差は見られない。

家族構成別で見ると、夫婦2人暮らしは全体と比べて、「やや負担である」の割合が高い一方、「あまり負担ではない」の割合も高い。

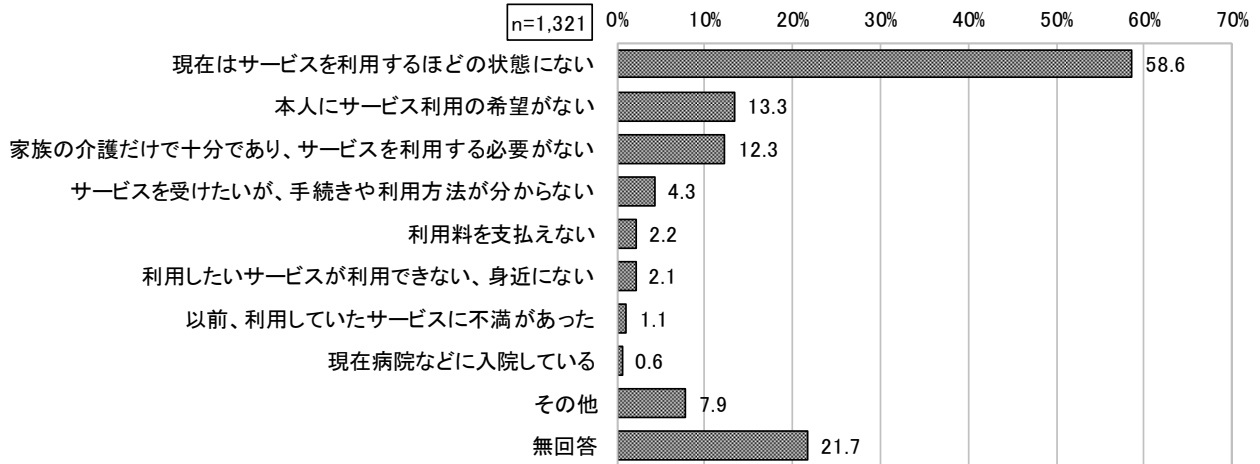
④ 利用していない理由

【問 17 で「2. 以前は利用していたが、現在は利用していない」、「3. まだ利用したことはない」と回答の方】

問 17-3：介護予防のサービスを現在利用していない主な理由は何ですか。

【複数回答：3つまで】

● 「現在はサービスを利用するほどの状態にない」が 58.6%



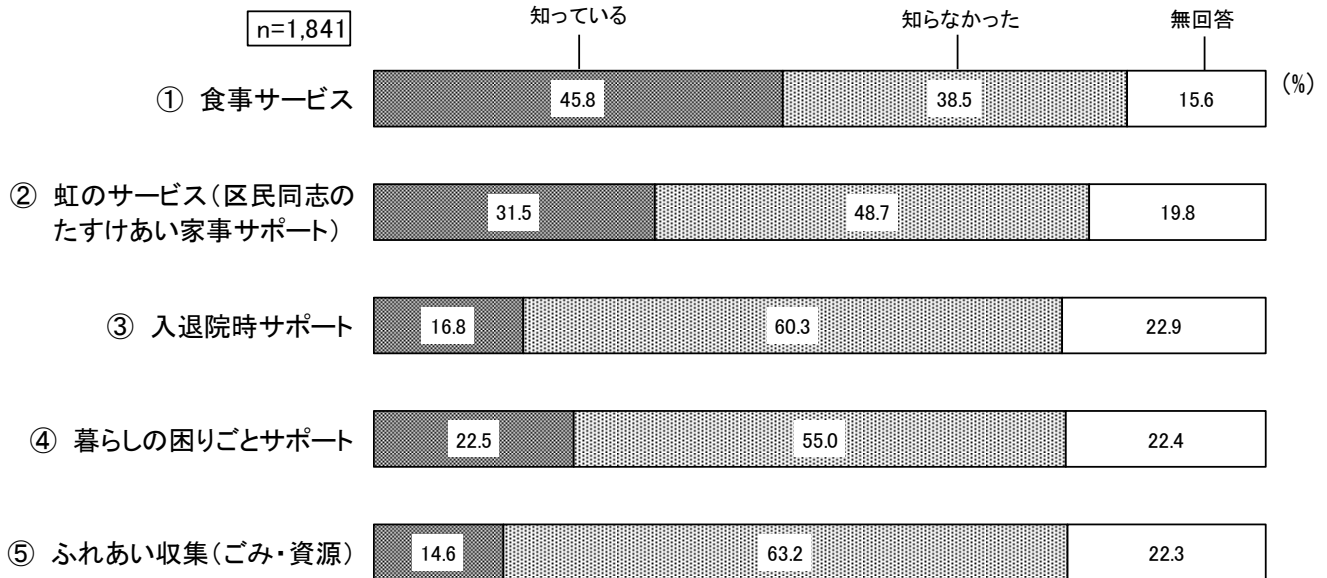
<その他の回答>

- どこのサービス事業所が良いか分からない
- スポーツクラブに行っている
- 具合が悪い時に頼みたいが、他人に家に入られるのが嫌で我慢している

(2) 日常生活を支援するサービスの認知度

問 18：中央区では、社会福祉協議会などとともに日常生活を支援するサービスを提供しています。あなたは、次のようなサービスをご存知ですか。

●認知度が最も高いのは「食事サービス」（45.8%）、次いで「虹のサービス」（31.5%）



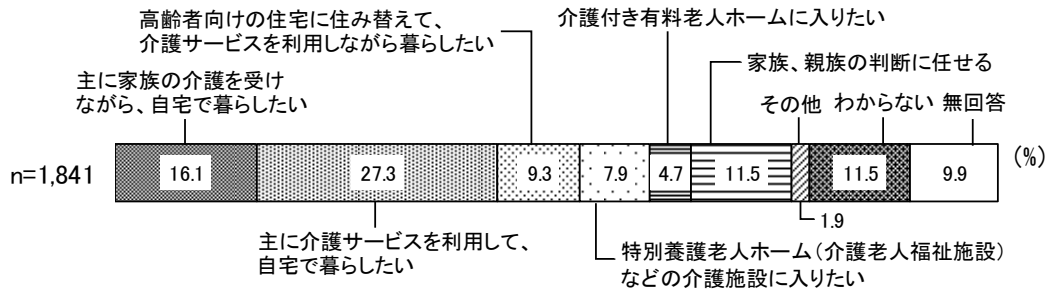
①食事サービスは「知っている」（45.8%）が「知らなかった」（38.5%）より多いが、他のサービスは認知度はあまり高くない。「知っている」と回答したのは、順に②虹のサービスが31.5%、④暮らしの困りごとサポートが22.5%、③入退院時サポートが16.8%、⑤ふれあい収集が14.6%である。

6. 今後の介護の希望等

(1) 今後希望する介護

問 19：あなたは、今後、どのような介護を希望しますか。

●43.4%が自宅での介護を希望



自宅での介護を希望する「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」(27.3%)と「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(16.1%)を合わせると43.4%である。

また、「家族、親族の判断に任せる」と「わからない」がともに11.5%である。

今後の希望する介護（性別）

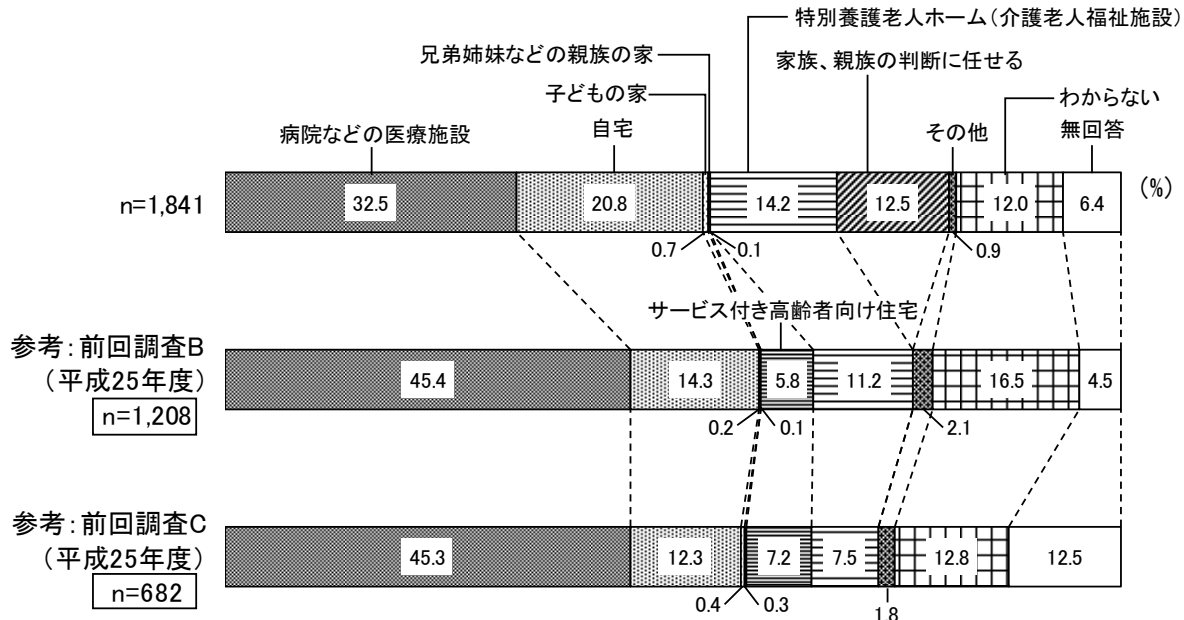
		上段:実数(人) 下段:構成比(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8		
全体		主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスを利用しながら暮らしたい	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)などの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	家族、親族の判断に任せる	その他	わからない	無回答	
全体	1,841 100.0	297 16.1	502 27.3	171 9.3	145 7.9	86 4.7	212 11.5	35 1.9	211 11.5	182 9.9	
性別	男性	526 100.0	121 23.0	129 24.5	41 7.8	35 6.7	22 4.2	58 11.0	9 1.7	59 11.2	52 9.9
	女性	1,239 100.0	166 13.4	356 28.7	123 9.9	100 8.1	60 4.8	149 12.0	26 2.1	144 11.6	115 9.3

性別で見ると、男性は女性と比べて、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が高い。一方、女性は男性と比べて「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」の割合がやや高い。

(2) 終末期に介護を受けたい場所

問 20：あなたは、病気が治る可能性がなくなり、終末期になった場合、どこで介護を受けたいと思いますか。

●「病院などの医療施設」で受けたい人（32.5%）が最も多い



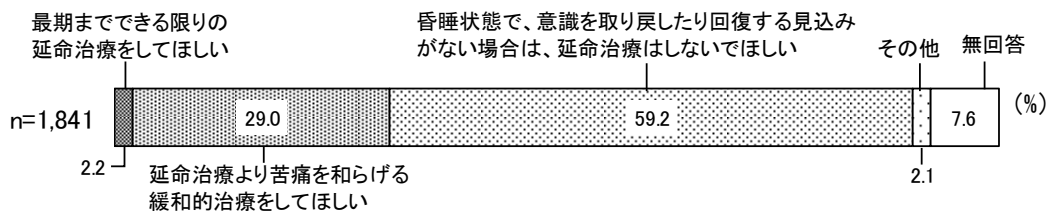
※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。
 ※平成28年度調査と平成25年度調査では一部選択肢が異なる。

前回調査と比べると、「病院などの医療施設」の割合が12ポイント程度減っている。一方、「自宅」の割合が6～8ポイント増えている。

(3) 延命治療について

問 21：あなたは、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。

●「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」(59.2%)が最も多い

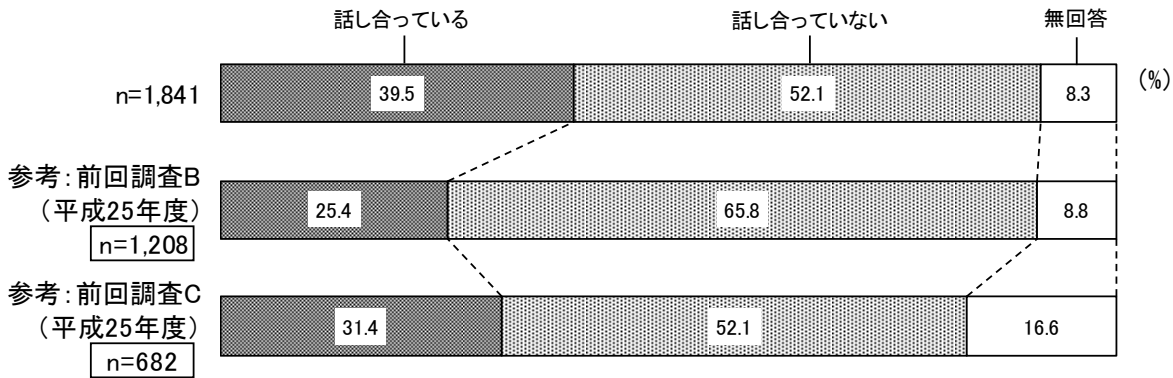


「最期までできる限りの延命治療をしてほしい」は2.2%である。

(4) 家族や周囲へ意向を伝えたかどうか

問 22：あなたは、今後の医療や介護について自分が望むことを、ご家族や周囲の方と話し合っていますか。

●医療や介護について望むことを家族や周囲と「話し合っていない」(52.1%) が、「話し合っている」(39.5%) より多い



※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。

前回調査と比べると、「話し合っている」の割合が増えている。

家族や周囲へ意向を伝えたかどうか (性・年代別・介護の必要性別)

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)		
			1 話し合っている	2 話し合っていない	無回答
全体		1,841 100.0	728 39.5	960 52.1	153 8.3
性・年代別	男性 65～74歳	185 100.0	61 33.0	112 60.5	12 6.5
	男性 75～84歳	232 100.0	90 38.8	124 53.4	18 7.8
	男性 85歳以上	99 100.0	43 43.4	45 45.5	11 11.1
	女性 65～74歳	356 100.0	117 32.9	223 62.6	16 4.5
	女性 75～84歳	607 100.0	255 42.0	311 51.2	41 6.8
	女性 85歳以上	260 100.0	122 46.9	98 37.7	40 15.4
介護の必要性別	介護の必要性なし	1,147 100.0	436 38.0	640 55.8	71 6.2
	介護が必要だが受けていない	230 100.0	97 42.2	119 51.7	14 6.1
	介護を受けている	227 100.0	120 52.9	88 38.8	19 8.4

性・年代別で見ると、男女ともに65～74歳で「話し合っていない」割合が高く、年代が上がるにつれて「話し合っている」割合が高くなる。

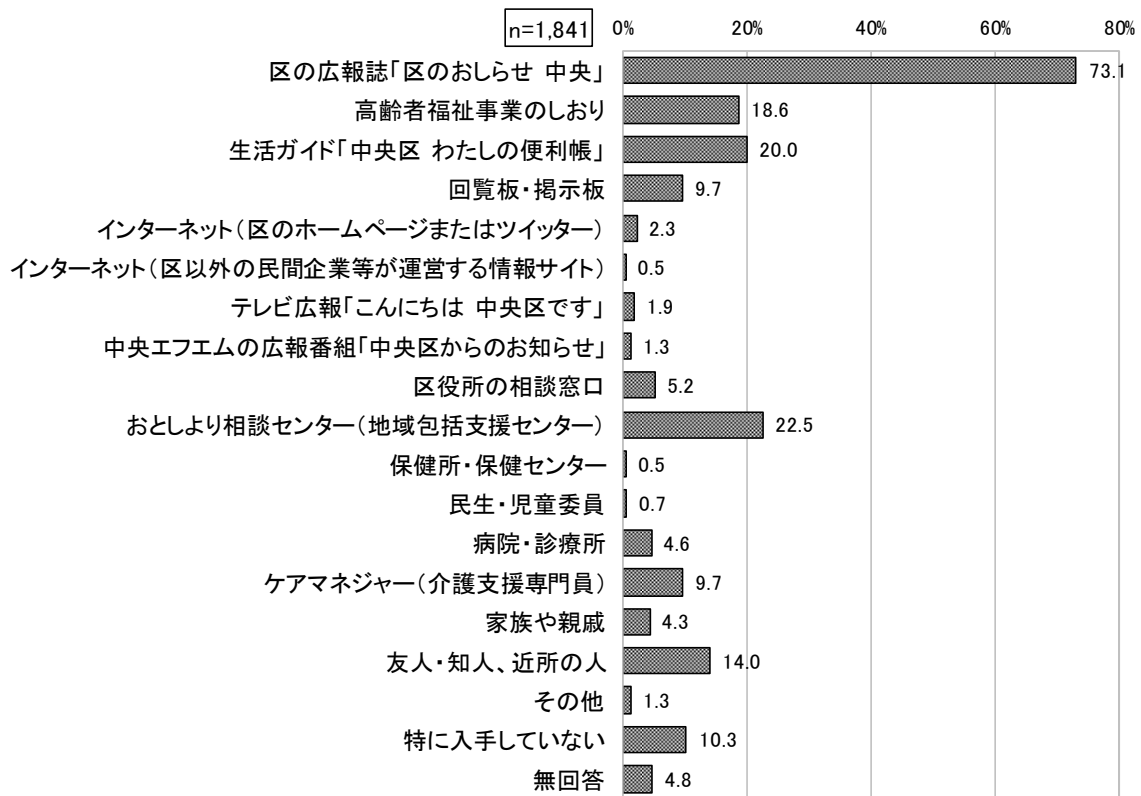
介護の必要性別で見ると、介護を受けている人は全体と比べて「話し合っている」割合が高い。

7. 相談や権利擁護

(1) 区からの情報の入手先

問 23：あなたは、中央区からの情報は主にどこから入手していますか。【複数回答：3 つまで】

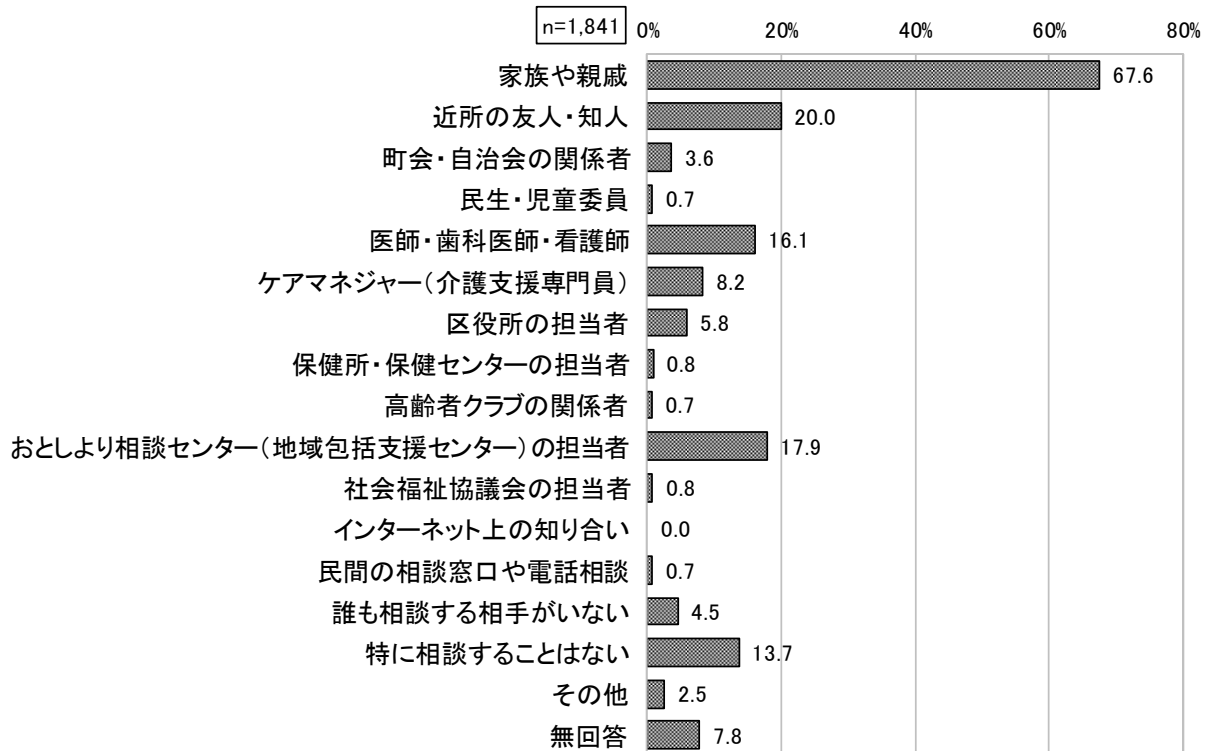
● 「区の広報誌」（73.1%）が最も多く、次いで「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」（22.5%）



(2) 困ったときの相談相手

問 24：あなたは、普段の生活で困ったとき、誰に相談していますか。【複数回答：3つまで】

- 「家族や親戚」（67.6%）が最も多く、次いで「近所の友人・知人」（20.0%）、「おとしより相談センター（地域包括支援センター）の担当者」（17.9%）

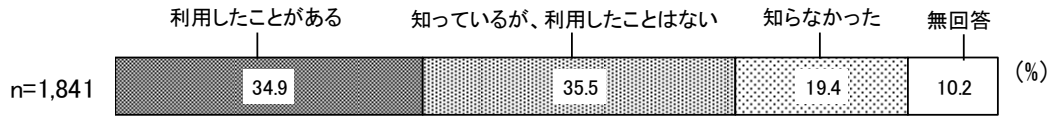


(3) おとしより相談センターの認知度・利用状況

① 認知度・利用状況

問 25：あなたは、「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」をご存知ですか。

●認知度は70.4%、「利用したことがある」は34.9%



「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた割合は70.4%である。

認知度・利用状況（性・年代別・地域別・介護の必要性別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		全体	1	2	3	無回答
			利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らなかった	
全体		1,841 100.0	642 34.9	653 35.5	358 19.4	188 10.2
性・年代別	男性 65～74歳	185 100.0	33 17.8	72 38.9	61 33.0	19 10.3
	男性 75～84歳	232 100.0	76 32.8	80 34.5	58 25.0	18 7.8
	男性 85歳以上	99 100.0	40 40.4	31 31.3	16 16.2	12 12.1
	女性 65～74歳	356 100.0	97 27.2	141 39.6	96 27.0	22 6.2
	女性 75～84歳	607 100.0	245 40.4	212 34.9	85 14.0	65 10.7
	女性 85歳以上	260 100.0	115 44.2	82 31.5	28 10.8	35 13.5
地域別	京橋地域	439 100.0	154 35.1	164 37.4	83 18.9	38 8.7
	日本橋地域	501 100.0	155 30.9	170 33.9	116 23.2	60 12.0
	月島地域	829 100.0	306 36.9	297 35.8	150 18.1	76 9.2
介護の必要性別	介護の必要性なし	1,147 100.0	293 25.5	472 41.2	286 24.9	96 8.4
	介護が必要だが受けていない	230 100.0	118 51.3	64 27.8	28 12.2	20 8.7
	介護を受けている	227 100.0	154 67.8	37 16.3	13 5.7	23 10.1

性・年代別で見ると、男女ともに65～74歳は全体と比べて「知らなかった」割合が高く、男性では85歳以上、女性では75歳以上で「利用したことがある」割合が高い。

また、地域別で見ると、日本橋地域は他の地域と比べて「知らなかった」割合がやや高い。

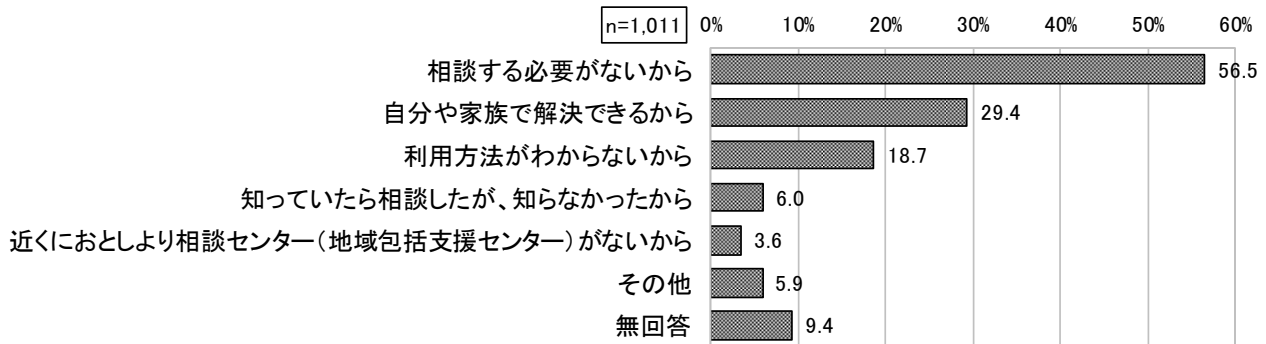
介護の必要性別で見ると、介護が必要だが受けていない人及び介護を受けている人は全体と比べて「利用したことがある」割合が高い。一方、介護の必要性がない人は「知っているが利用したことはない」割合が高い。

② 利用していない理由

【問 25 で「2. 知っているが、利用したことはない」、「3. 知らなかった」と回答の方】

問 25-1：「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」を利用したことがない主な理由は何ですか。【複数回答】

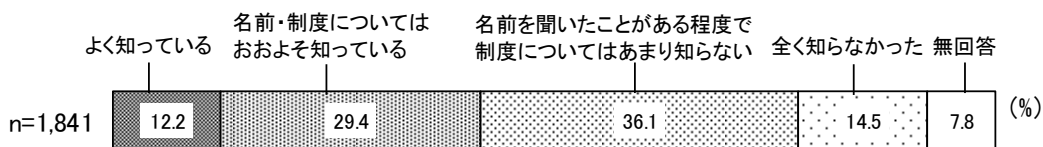
●「相談する必要があるから」（56.5%）に次いで、「自分や家族で解決できるから」（29.4%）



(4) 成年後見制度の認知度

問 26：あなたは、「成年後見制度」について内容をどの程度ご存知ですか。

●「よく知っている」と「名前・制度についてはおおよそ知っている」を合わせると 41.6%



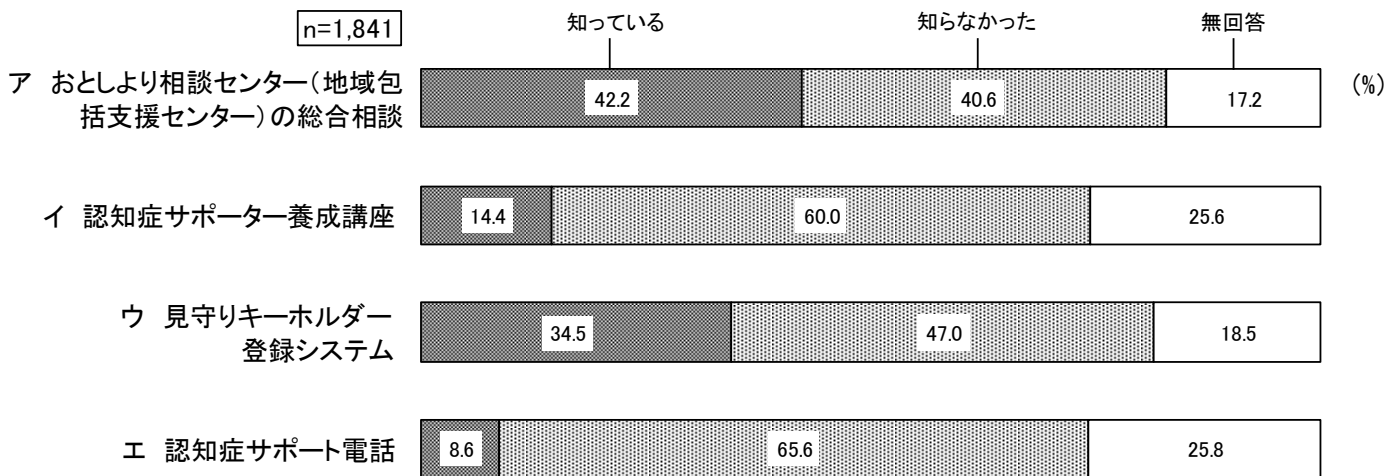
「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない」（36.1%）が最も多く、「全く知らなかった」（14.5%）と合わせると 50.6%である。

8. 認知症

(1) 認知症に関する取り組みの認知度

問 27：中央区では、おとしより相談センター（地域包括支援センター）などとともに、認知症についてさまざまな取り組みを行っています。あなたは次のような取り組みをご存知ですか。

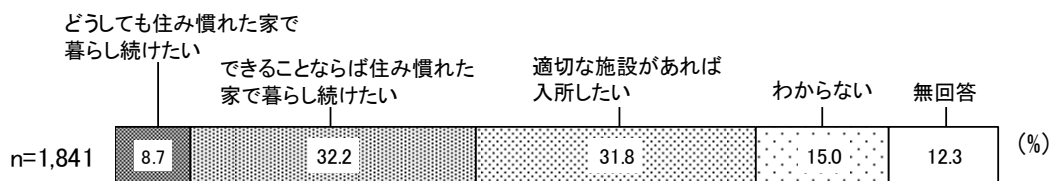
●おとしより相談センター（地域包括支援センター）の総合相談（42.2%）、見守りキーホルダー登録システム（34.5%）の認知度はやや高いが、認知症サポーター養成講座（14.4%）、認知症サポート電話（8.6%）の認知度は低い



(2) 在宅生活の継続意向

問 28：あなたは、認知症になっても、住み慣れた家で暮らし続けたいと思いますか。

●住み慣れた家で暮らし続けたい人は 40.9%

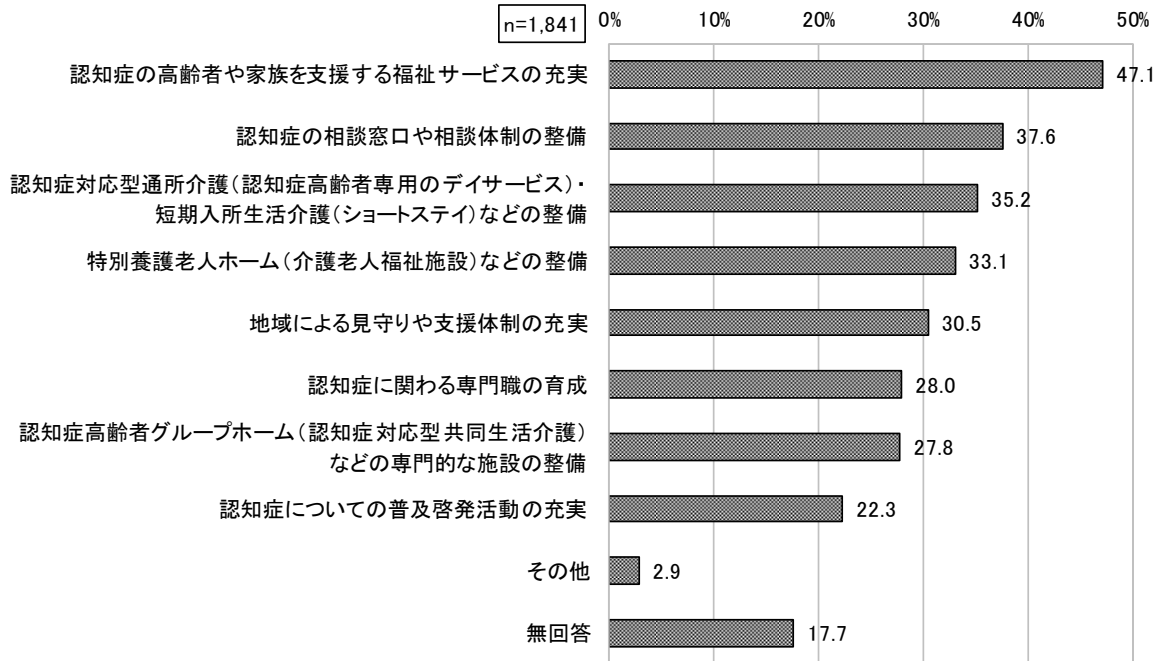


「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(32.2%)が最も多く、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(8.7%)と合わせると40.9%である。次いで「適切な施設があれば入所したい」(31.8%)、「わからない」(15.0%)である。

(3) 地域で暮らし続けるために必要なこと

問 29：あなたは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには何が必要だと思いますか。【複数回答】

● 「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(47.1%) が最も多い



<その他の回答>

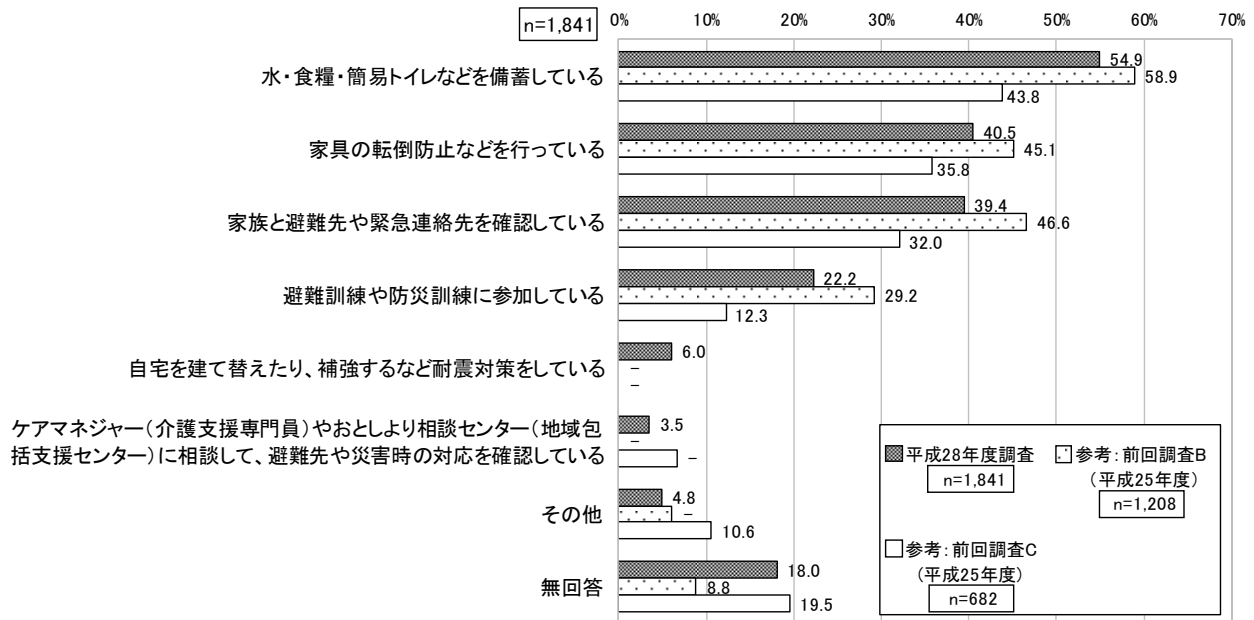
- ご近所からの声かけ
- 関連サービスを明記した手帳のようなものを配布してほしい
- 考えたことがない
- わからない

9. 災害時の対応

(1) 災害への備え

問 30：あなたは、地震などの災害に備えてどのようなことをしていますか。【複数回答】

●「水・食糧・簡易トイレなどを備蓄している」（54.9%）が最も多い



※図中「-」は調査時にたずねていない項目のため数値がないことを表している。

※前回の調査Bは生活機能に低下が見られた者、調査Cは要支援認定者を対象としている。

(2) 「中央区災害時地域たすけあい名簿」の認知度

問 31：あなたは、「中央区災害時地域たすけあい名簿」についてご存知ですか。

●「知らなかった」が 66.6%



中央区災害時たすけあい名簿

災害時に自力で避難したり生活することが困難な方を登録し、安否確認や避難誘導等の支援及び支援のための体制づくりに役立てることを目的とした名簿。

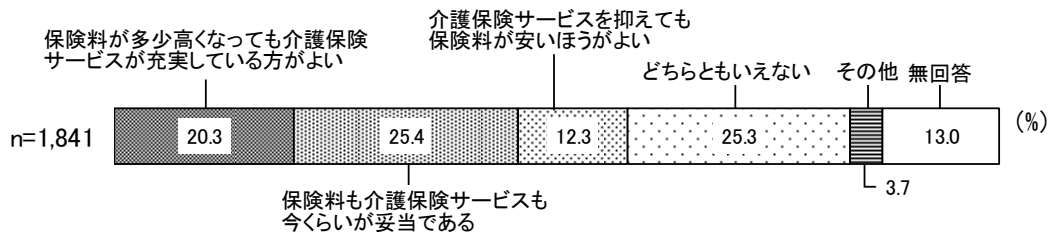
本人の同意がある方の名簿情報を、警察、消防、民生・児童委員、防災区民組織、介護サービス事業者に平常時からあらかじめ提供している。

10. 今後の高齢者保健福祉施策

(1) 介護保険サービスと介護保険料のあり方

問 32：今後、高齢者が増加していくにつれて介護保険料が高くなることが想定されますが、あなたは、今後の介護保険料のあり方についてどう思いますか。

●「今くらいが妥当である」（25.4%）及び「どちらともいえない」（25.3%）の割合が高い



介護保険サービスと介護保険料のあり方（性別・年代別・介護の必要性別）

		全体	1 2 3 4 5					上段:実数(人) 下段:構成比(%)		
			保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい	保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	介護保険サービスを抑えても保険料が安いほうがよい	どちらともいえない	その他	無回答		
全体		1,841 100.0	373 20.3	468 25.4	226 12.3	465 25.3	69 3.7	240 13.0		
年代別	65～69歳	220 100.0	37 16.8	46 20.9	22 10.0	71 32.3	12 5.5	32 14.5		
	70～74歳	322 100.0	51 15.8	80 24.8	43 13.4	93 28.9	20 6.2	35 10.9		
	75～79歳	389 100.0	79 20.3	89 22.9	62 15.9	107 27.5	11 2.8	41 10.5		
	80～84歳	450 100.0	83 18.4	129 28.7	59 13.1	112 24.9	11 2.4	56 12.4		
	85～89歳	263 100.0	75 28.5	76 28.9	28 10.6	42 16.0	5 1.9	37 14.1		
	90歳以上	98 100.0	26 26.5	22 22.4	3 3.1	22 22.4	4 4.1	21 21.4		
介護の必要性別	介護の必要性なし	1,147 100.0	224 19.5	277 24.1	150 13.1	309 26.9	51 4.4	136 11.9		
	介護が必要だが受けていない	230 100.0	55 23.9	51 22.2	25 10.9	65 28.3	8 3.5	26 11.3		
	介護を受けている	227 100.0	53 23.3	74 32.6	20 8.8	46 20.3	6 2.6	28 12.3		

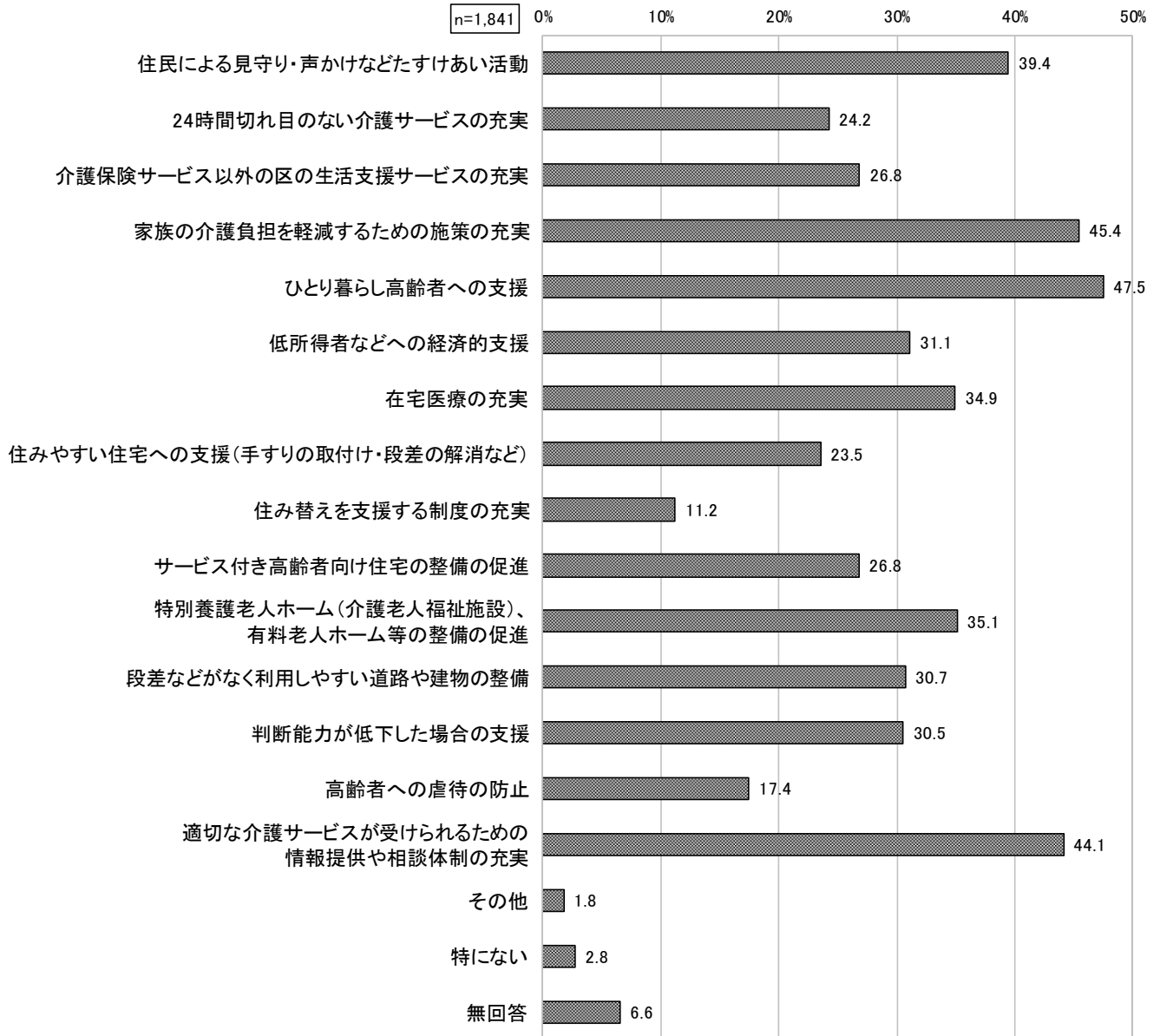
年代別で見ると、65～69歳は全体と比べて「どちらともいえない」の割合が高く、85歳以上では「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」の割合が高い。

また、介護の必要性別で見ると、介護を受けている人は「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」の割合が高い。

(2) 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策

問 33：住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で中央区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。【複数回答】

● 「ひとり暮らし高齢者への支援」(47.5%) や 「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」(45.4%)、「適切な介護サービスが受けられるための情報提供や相談体制の充実」(44.1%) の割合が高い



（3）高齢者向けサービスに関する意見

問 34：高齢者向けのサービスなどに関するご意見をご自由にお書きください。【自由記述】

【① 健康づくり（介護予防）教室等について】

- はつらつ健康教室に参加でき、体力の回復にとっても役立った。毎日の生活にも自信が持てた。このような教室が短期間ではなく継続して利用させてもらえると嬉しい。
- パートなどで働いている人が参加できる体操教室等がない。どれも午前中の時間が多く、時間のある人向けの体操教室やサークルばかりだ。
- 高齢者の活性化、老化予防などのために3つの敬老施設は大いに役立っていると思うが、9時～5時といった開館時間では不十分。折角の施設、設備がもったいない。開館時間の拡大を図り、もっと多くの人を利用できるようにすべきである。

【② サービスについて】

- サービスに従事する人員が絶対的に不足している。この点が今後一番重要な課題だと思う。
- 要支援1だが、大地震に備えて家具の転倒防止の工事が安く出来ればありがたい。

【③ 相談支援・情報提供について】

- 65歳から高齢者といっても、75歳位まで元気で働ける人が多い。高齢者でも働ける仕事の情報提供や相談窓口をもっと周知してほしい。
- 「どんなサービスがあるかわからない」となった時に、いろいろ探したり相談したりしても人によって意見が違ふ。話を聞いてもわかりにくく、文章を読んでもたくさん書いてあると全部読めず、難しい単語が出てきたらそれだけでわからなくなり諦めてしまう。高齢者やその家族にわかりやすい説明の仕方、対処方法を考えてほしい。
- 電気、水道、ガスの支払いや故障時の対応が難しく、インターネットなどを使いこなせない高齢者にとって住みにくい世の中だと思う。
- 地域に集うサークルや趣味の講座等に身上相談の方がいたら安心。
- 末期の医療について希望を綴るポイント手引書を作ってほしい。
- 自宅近くに親切に相談にのってもらえる医療機関を見つけることができず困っている。以前住んでいた場所がかかっていた医師のところまで電車で通う状態が続いている。

【④ 家族介護について】

- ヘルパーをして感じたことだが、家族が介護を受けるようになった時、ヘルパー派遣と同時に家族がいる人には介護の講習を受けてもらうことも必要だと思う。介護の方法を知らないのでは体力的にも精神的にも大変だと感じてしまう。
- 老老介護で家族内での問題が増えてきている。親の介護の為に仕事を退職しなければならない状態になった場合、雇用主は区へ届け、区はそれに対して支援していくべき。

【⑤ 認知症高齢者の支援について】

- 認知症の判定を医療機関で行い、後見人を公正に選任する機関が必要。

【⑥ 地域の見守り、支え合いについて】

- 宅配便の方が、上階に住んでいる一人暮らしの男性の方の様子が心配だと聞いて調べたところ、亡くなっていたことが分かった。一人暮らしの方を気にかけて下さった運送会社の方に感謝したい。
- サービスに依存する事だけでなく、高齢者にふさわしい軽作業や支援協力など、社会に役立つことを実践するものをつくってはどうか。
- マンションが増えて隣近所のコミュニケーションがなく、住みにくい町だ。

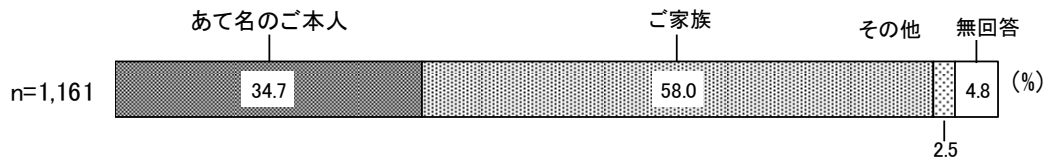
**エ 介護保険サービス利用状況等調査
【居宅サービス利用者】（調査D-1）**

本調査は、要介護認定を受けている居宅サービス利用者（施設サービス利用者を除く）【全数】2,278人を対象としており、有効回答数は1,161件、回収率は51.0%であった。

1. 回答者の属性

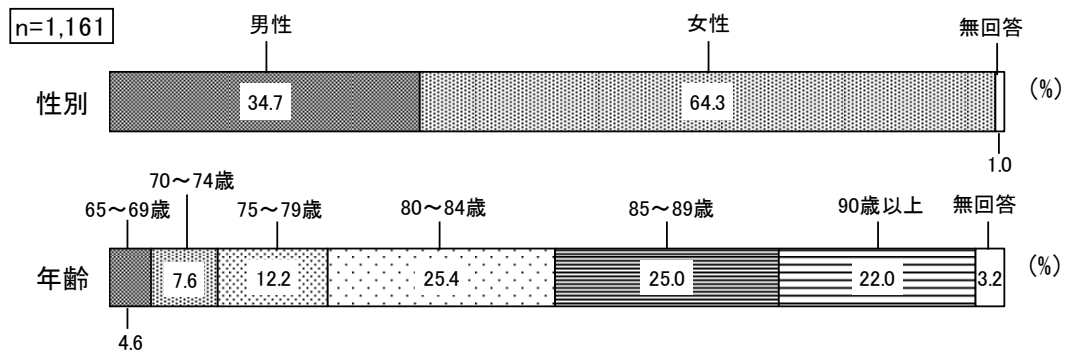
(1) 調査票の記入者

問1：調査票を記入されたのはどなたですか。



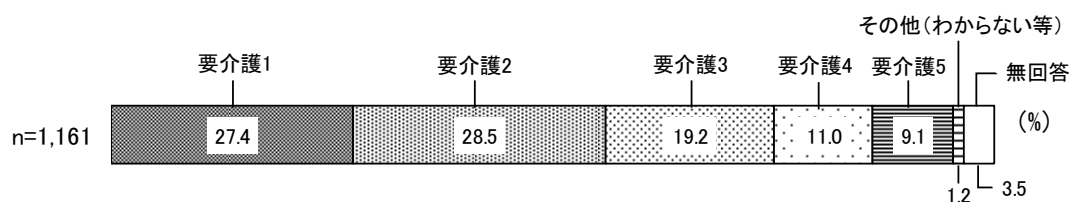
(2) 性別・年齢

問2：あなたの性別と、平成28年11月1日現在の満年齢を記入してください。



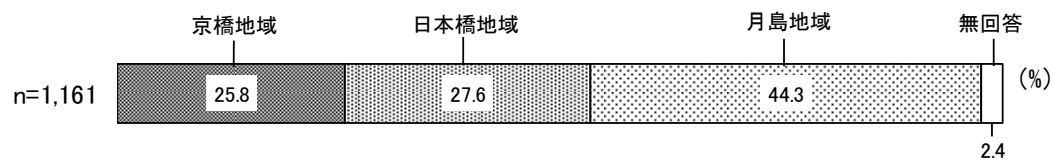
(3) 要介護度

問3：あなたの現在の要介護度は何ですか。



(4) 居住地

問4：現在あなたのお住まいになっている地域はどこですか。

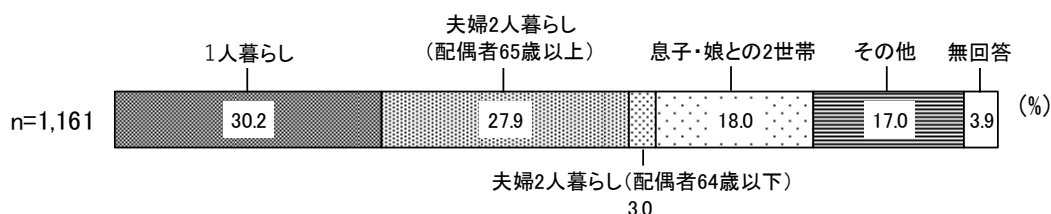


2. 世帯・生活の状況

(1) 家族構成

問5：あなたの家族構成をお教えてください。

●高齢者のみの世帯が58.1%、そのうち「1人暮らし」は30.2%



家族構成（性別・年代別・要介護度別）

		全体	上段:実数(人)					下段:構成比(%)	
			1	2	3	4	5	無回答	
			1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他	無回答	
全体		1,161	351	324	35	209	197	45	
			100.0	30.2	27.9	3.0	18.0	17.0	3.9
性別	男性	403	80	187	24	46	55	11	
		100.0	19.9	46.4	6.0	11.4	13.6	2.7	
性別	女性	746	270	134	10	163	142	27	
		100.0	36.2	18.0	1.3	21.8	19.0	3.6	
年代別	65～69歳	53	14	11	8	5	14	1	
		100.0	26.4	20.8	15.1	9.4	26.4	1.9	
	70～74歳	88	29	33	3	9	13	1	
		100.0	33.0	37.5	3.4	10.2	14.8	1.1	
	75～79歳	142	28	63	4	19	23	5	
		100.0	19.7	44.4	2.8	13.4	16.2	3.5	
年代別	80～84歳	295	85	104	11	49	35	11	
		100.0	28.8	35.3	3.7	16.6	11.9	3.7	
年代別	85～89歳	290	103	67	4	56	52	8	
		100.0	35.5	23.1	1.4	19.3	17.9	2.8	
年代別	90歳以上	256	84	33	4	68	57	10	
		100.0	32.8	12.9	1.6	26.6	22.3	3.9	
要介護度別	要介護1	318	123	95	9	37	36	18	
		100.0	38.7	29.9	2.8	11.6	11.3	5.7	
	要介護2	331	121	85	11	48	57	9	
		100.0	36.6	25.7	3.3	14.5	17.2	2.7	
	要介護3	223	46	64	6	54	46	7	
	100.0	20.6	28.7	2.7	24.2	20.6	3.1		
要介護度別	要介護4	128	20	41	3	37	26	1	
		100.0	15.6	32.0	2.3	28.9	20.3	0.8	
要介護度別	要介護5	106	23	24	4	26	27	2	
		100.0	21.7	22.6	3.8	24.5	25.5	1.9	

性別で見ると、男性は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が46.4%、女性は「1人暮らし」が36.2%と多い。

年代別で見ると、70歳～84歳は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が高く、90歳以上は全体と比べて「息子・娘との2世帯」の割合が高い。

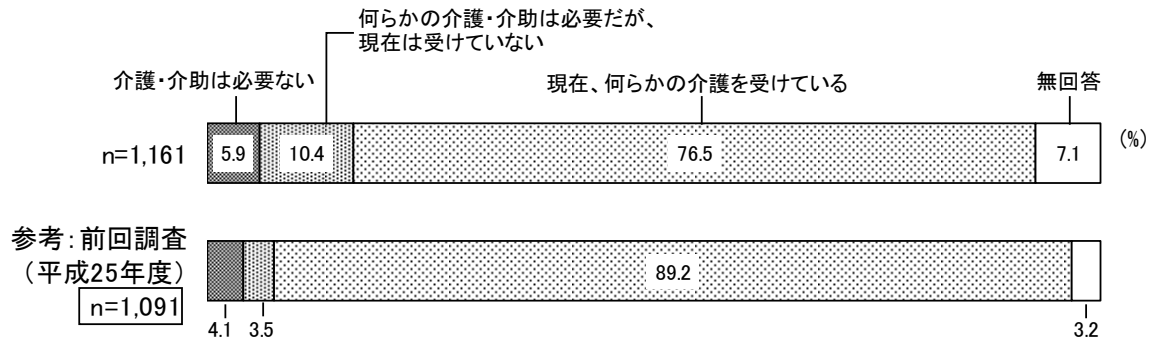
要介護度別で見ると、要介護1・2は「1人暮らし」の割合が高く、要介護3以上は全体と比べて「息子・娘との2世帯」の割合が高い。

(2) 介護・介助の状況

① 介護・介助の有無

問 6：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

●「現在、何らかの介護を受けている」が76.5%



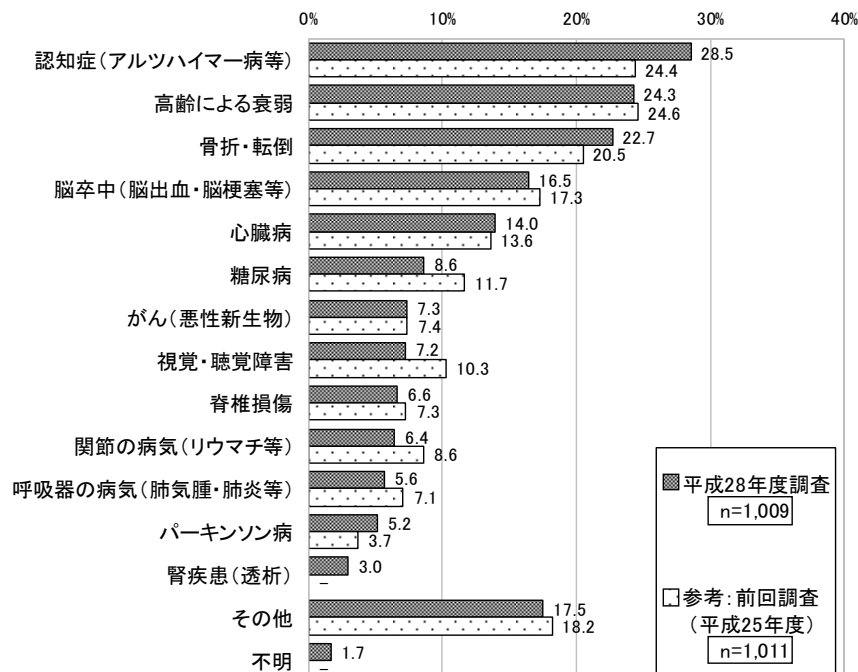
「現在、何らかの介護を受けている」（76.5%）が最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（10.4%）である。一方、「介護・介助は必要ない」が5.9%である。前回調査と比べて、「現在、何らかの介護を受けている」が12.7ポイント減り、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.9ポイント増えている。

② 介護・介助が必要になった原因

【問6で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答の方】

問 6-1：介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。【複数回答】

●介護・介助が必要になった原因は「認知症」（28.5%）が最も多い



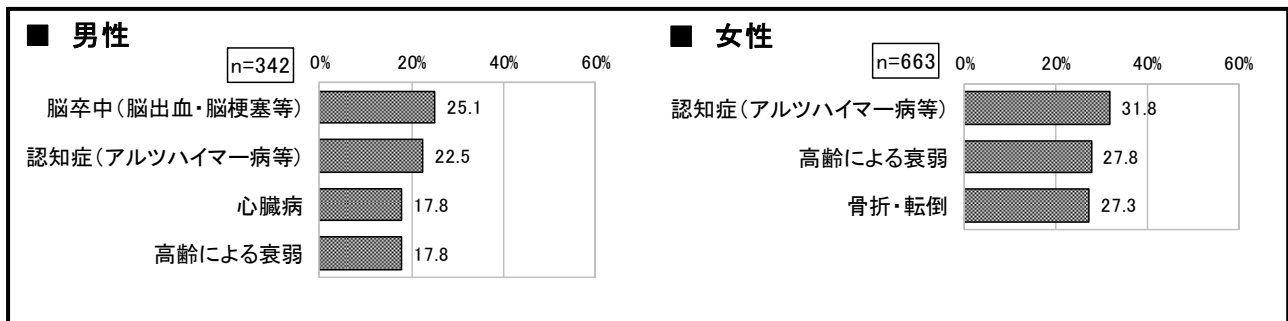
※図中「-」は調査時にたずねていない項目のため数値がないことを表している。

<その他の回答>

○脊柱管狭窄症 ○うつ病 ○めまい ○歩行困難

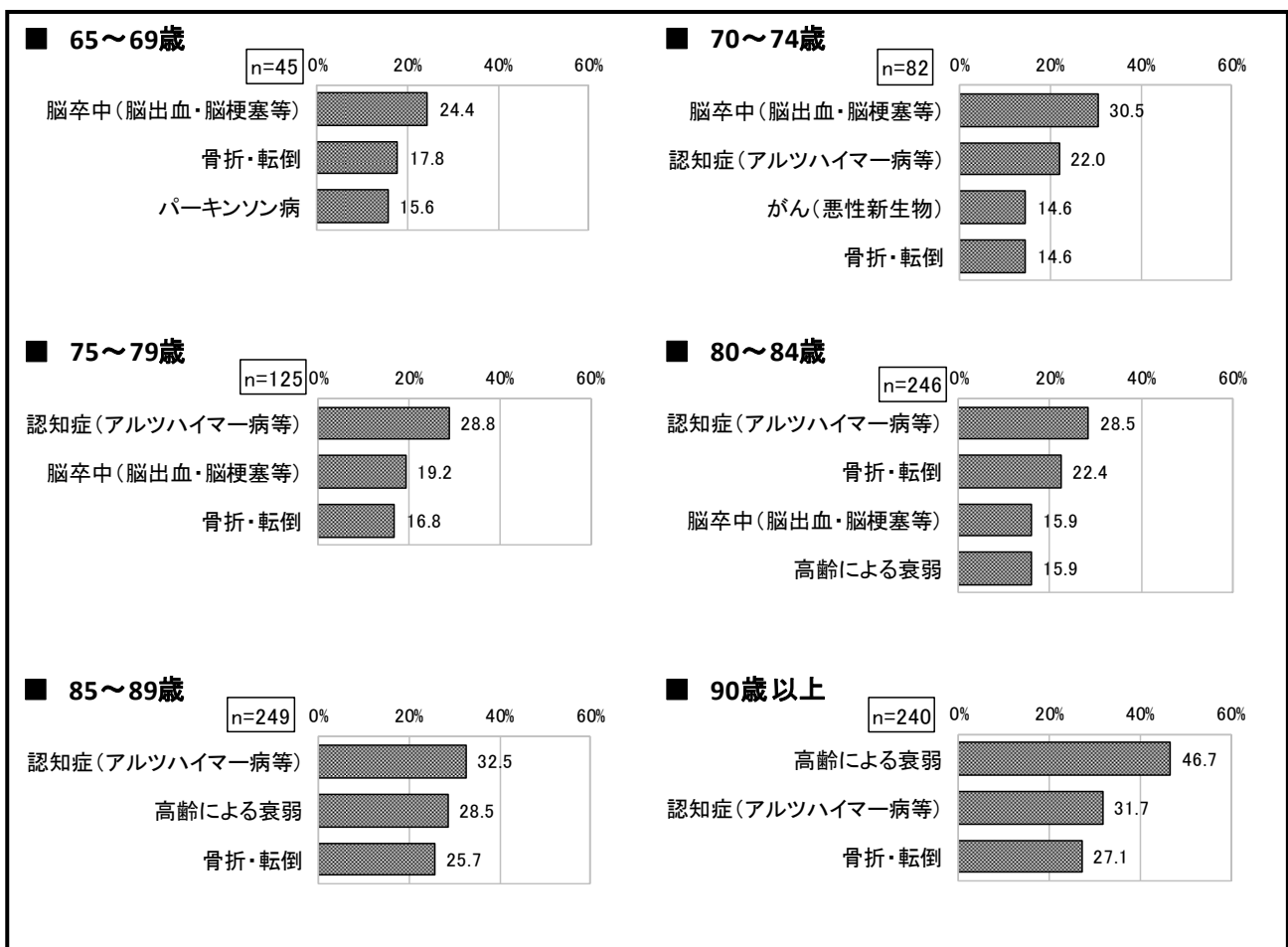
介護・介助が必要となった原因（上位3項目）

（性別）



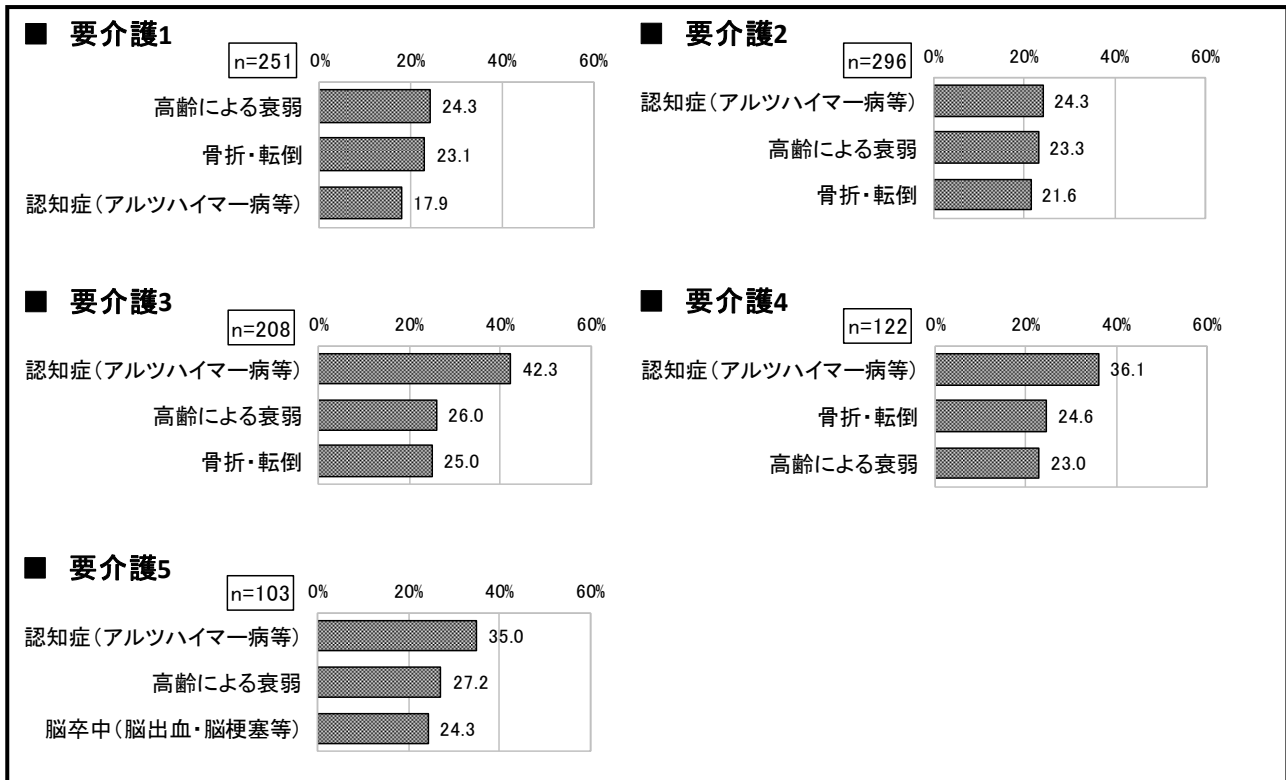
性別で見ると、男性は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が最も高く、女性は「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が最も高い。

（年代別）



年代別で見ると、65歳から74歳までは「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が高く、75歳以上になると「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が高い。

（要介護度別）

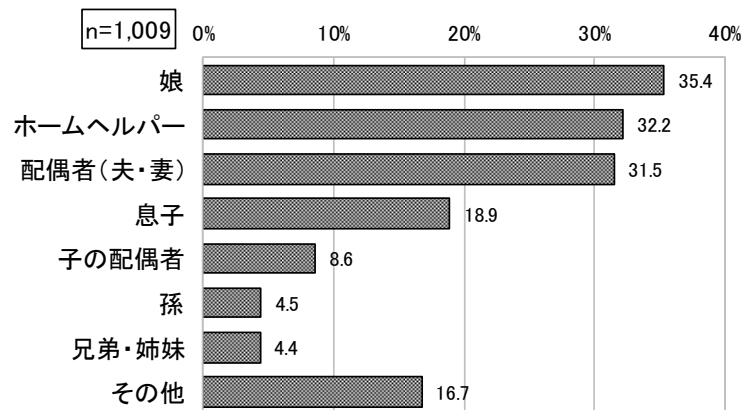


要介護度別で見ると、要介護度 2～5 では「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が最も高く、次いで「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」が多い。

③ 介護・介助者

問 6-2：主にどなたの介護、介助を受けていますか。【複数回答】

●主な介護者・介助者は「娘」（35.4%）が最も多く、次いで「ホームヘルパー」（32.2%）、「配偶者」（31.5%）



介護・介助者（性別）

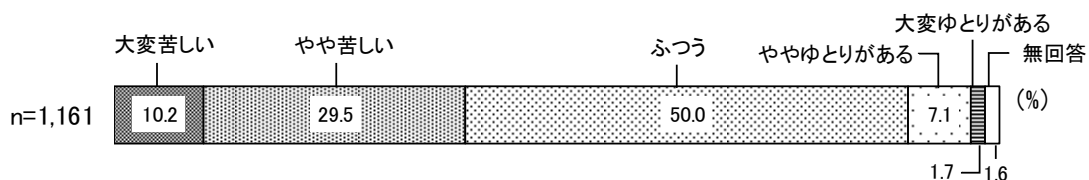
		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)								
			1 配偶者 (夫・妻)	2 息子	3 娘	4 子の 配偶者	5 孫	6 兄弟・姉妹	7 ホーム ヘルパー	8 その他	無回答
全体		1,009 100.0	318 31.5	191 18.9	357 35.4	87 8.6	45 4.5	44 4.4	325 32.2	169 16.7	21 2.1
性別	男性	342 100.0	197 57.6	47 13.7	77 22.5	11 3.2	5 1.5	14 4.1	89 26.0	55 16.1	6 1.8
	女性	663 100.0	118 17.8	144 21.7	279 42.1	76 11.5	40 6.0	29 4.4	235 35.4	114 17.2	15 2.3

性別で見ると、全体と比べて男性では「配偶者」の割合が高く、女性では「娘」の割合が高い。

(3) 主観的な経済状況

問 7：あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

●「ふつう」（50.0%）が最も多く、次いで「やや苦しい」（29.5%）



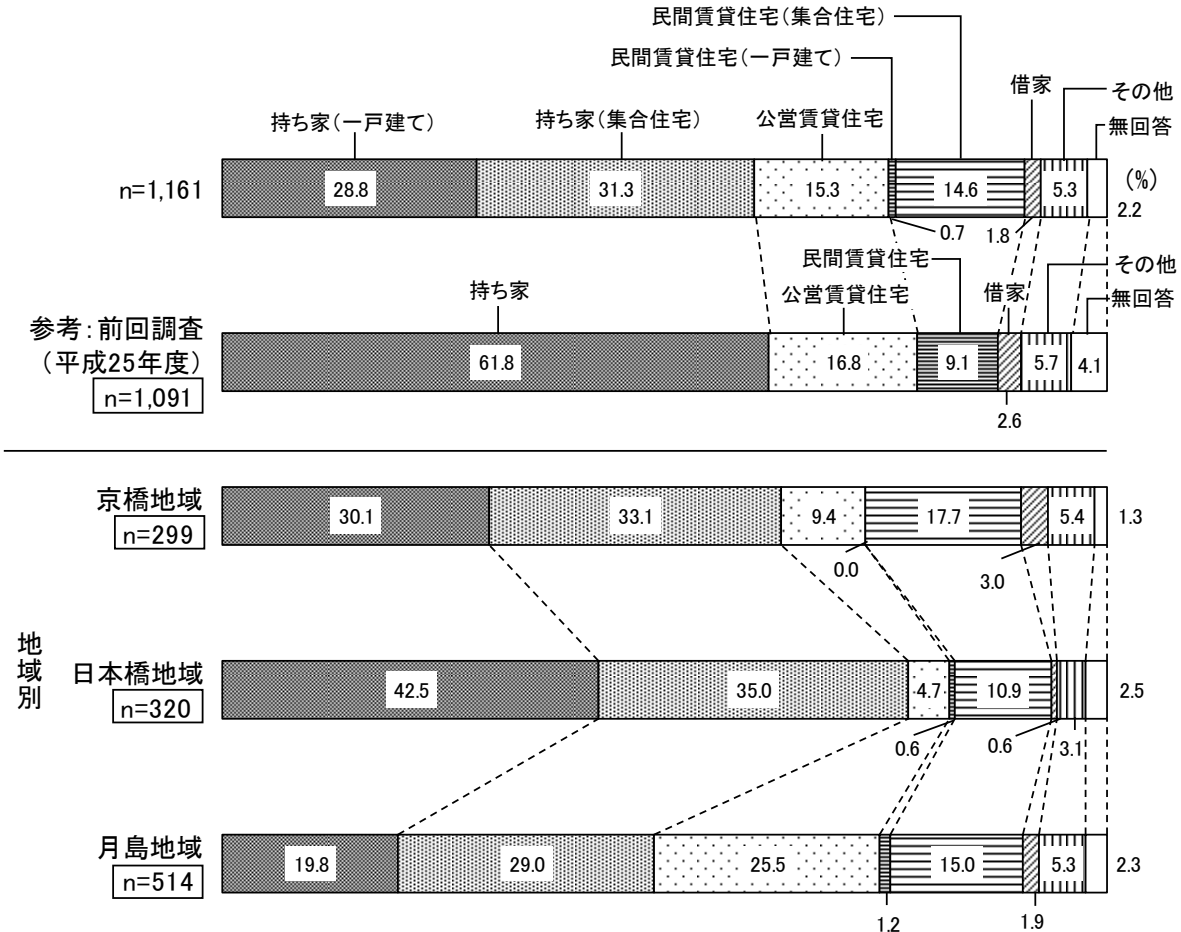
「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると 39.7%である。

(4) 住まい

問8：あなたのお住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

●集合住宅が61.2%、一戸建ては29.5%

住まい（全体・地域別）



※平成28年度調査と平成25年度調査では一部選択肢が異なる。

「持ち家（集合住宅）」、「公営賃貸住宅」及び「民間賃貸住宅（集合住宅）」を合わせた集合住宅は61.2%、一方「持ち家（一戸建て）」、「民間賃貸住宅（一戸建て）」を合わせた一戸建ては29.5%である。また、持ち家は全体で見ると60.1%である。

地域別で見ると、日本橋地域では「持ち家（一戸建て）」の割合が高く、月島地域では「公営賃貸住宅」の割合が他の地域と比べて高い。

また、前回調査と比べると、持ち家の割合は大きな差は見られない。一方、民間賃貸住宅は6.2ポイント増えている。

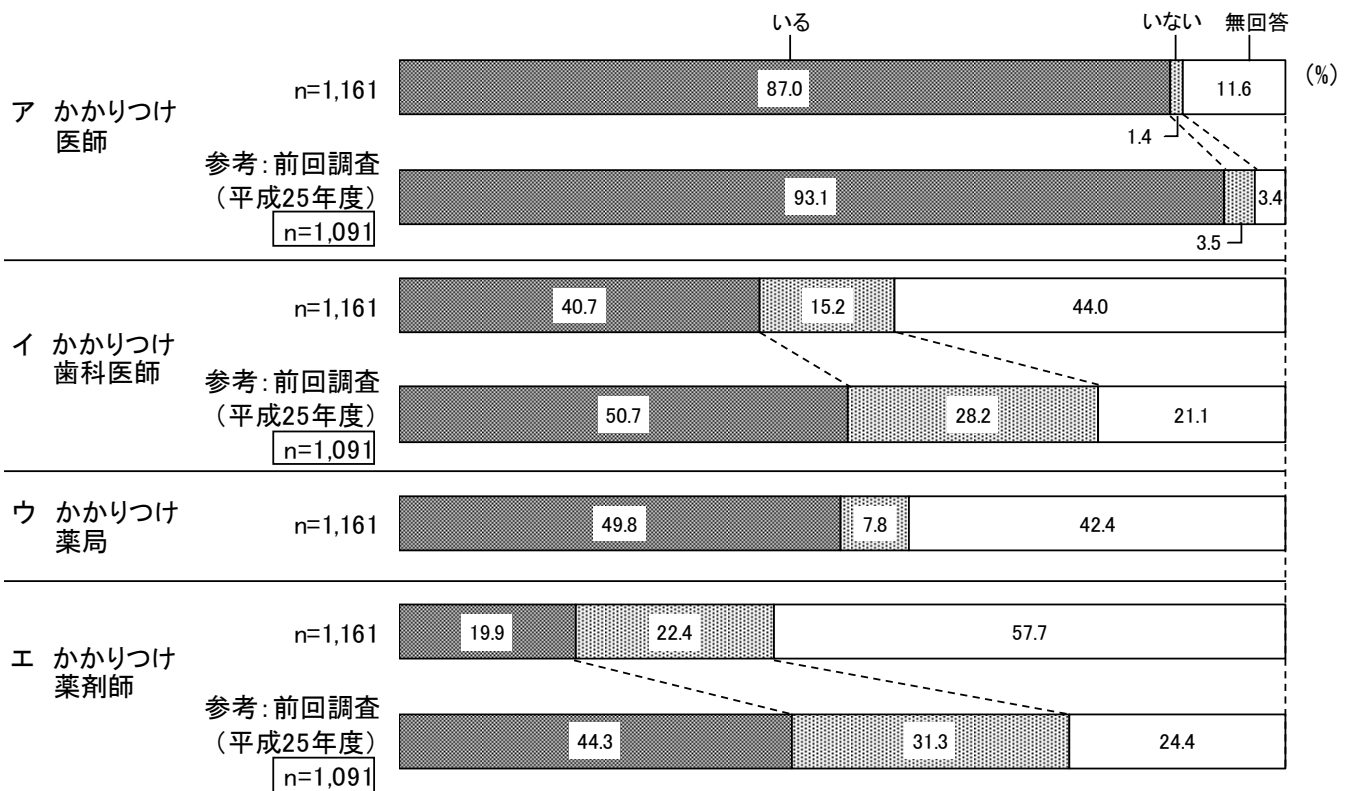
3. 健康・医療

(1) かかりつけ医等

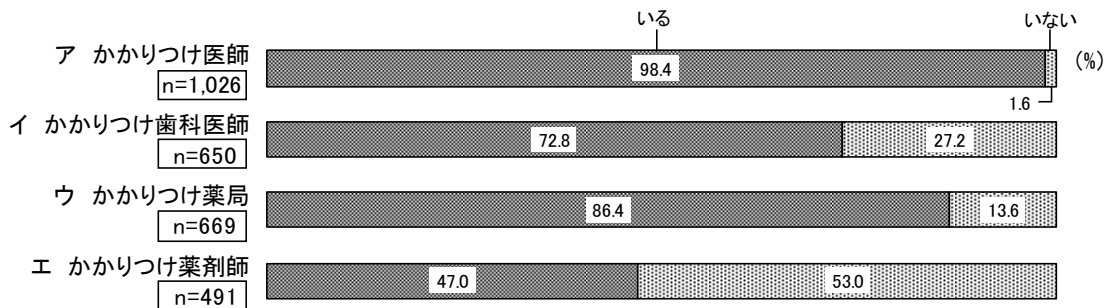
① かかりつけ医等の有無

問 9：あなたは、普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談・指導を受けたりすることができる、かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師がいますか。

● 「いる」割合は医師が 87.0%と最も高く、歯科医師では 40.7%、薬局では 49.8%、薬剤師では 19.9%



かかりつけ医等の有無（※無回答を除き集計）



【問9でかかりつけ医師が「いる」と回答の方】（問9-1、9-2）

② 医療機関の種類

問9-1：かかりつけの医師がいる病院・診療所の種類は何ですか。

●「病院」が41.5%、「診療所」が38.7%



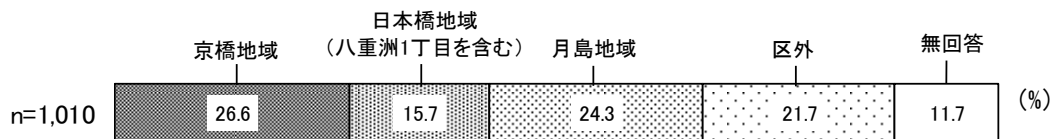
<その他の回答>

○クリニック ○医院 ○訪問（医師）

③ かかりつけ医療機関の所在地

問9-2：病院・診療所の所在地はどこですか。

●かかりつけ医療機関の所在地が居住地と同じ地域である割合は、「京橋地域」が78.2%と高い



かかりつけ医療機関の所在地（居住地域別）

		全体	所在地			
			1 京橋地域	2 日本橋地域 (八重洲1丁目を含む)	3 月島地域	4 区外
全体		1,010 100.0	269 26.6	159 15.7	245 24.3	219 21.7
居住 地域別	京橋地域	256 100.0	176 78.2	2 0.9	5 2.2	42 18.7
	日本橋地域	285 100.0	17 6.7	147 58.1	8 3.2	81 32.0
	月島地域	445 100.0	73 18.7	8 2.0	228 58.3	82 21.0

※無回答を除く構成比

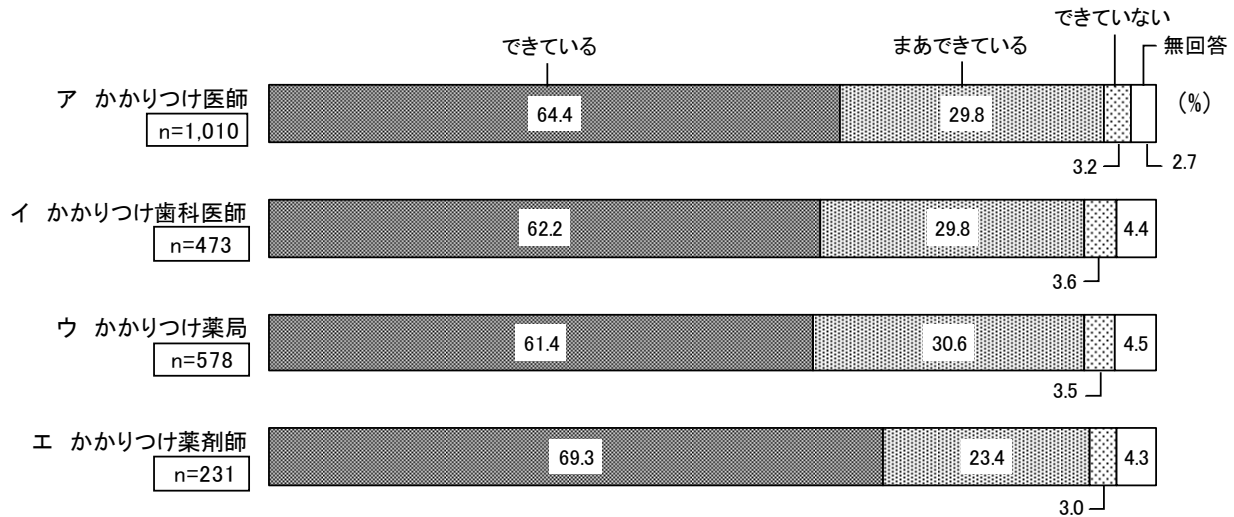
かかりつけ医療機関の所在地が居住地と同じ地域である割合は、京橋地域が78.2%と高く、日本橋地域が58.1%、月島地域が58.3%である。一方、「区外」にある割合は、日本橋地域が32.0%と最も高く、次いで月島地域が21.0%、京橋地域が18.7%である。

④ かかりつけ医等との相談

【問9で「1. いる」と回答の方】

問 9-3：かかりつけの医師、歯科医師、薬局、薬剤師から治療・服薬方法などについての説明や日常の健康についての相談・指導を十分に受けられていると思いますか。

●相談・指導を十分に受けられている割合は「かかりつけ薬剤師」（69.3%）がやや高い

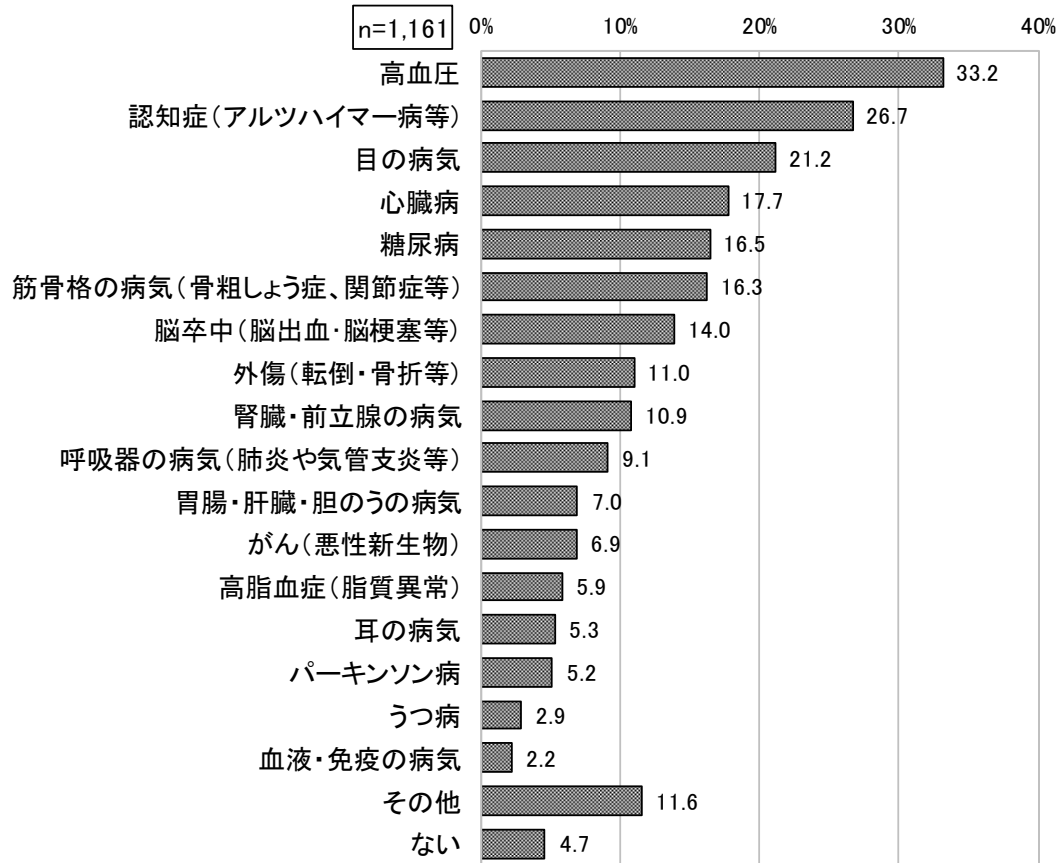


「できている」は、かかりつけ薬剤師の割合が 69.3%と、やや高い。

(2) 疾病

問 10：あなたは現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【複数回答】

● 「高血圧」（33.2%）が最も多く、次いで「認知症」（26.7%）

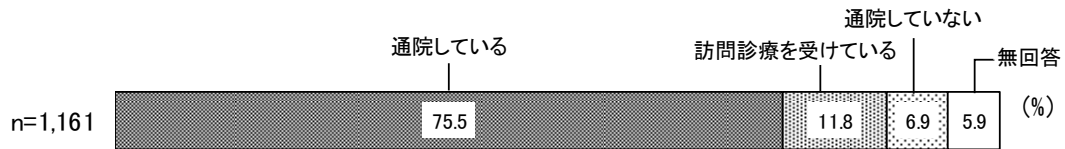


(3) 医療機関の受診状況

① 受診方法

問 11：あなたは現在、病院・診療所に通院していますか。

● 「通院している」が75.5%、「訪問診療を受けている」が11.8%



受診方法（要介護度別）

		全体	上段:実数(人) 下段:構成比(%)			
			1 通院している	2 訪問診療を受けている	3 通院していない	無回答
全体		1,161 100.0	876 75.5	137 11.8	80 6.9	68 5.9
要介護度別	要介護1	318 100.0	282 88.7	14 4.4	10 3.1	12 3.8
	要介護2	331 100.0	267 80.7	23 6.9	24 7.3	17 5.1
	要介護3	223 100.0	164 73.5	27 12.1	17 7.6	15 6.7
	要介護4	128 100.0	89 69.5	25 19.5	9 7.0	5 3.9
	要介護5	106 100.0	37 34.9	45 42.5	14 13.2	10 9.4

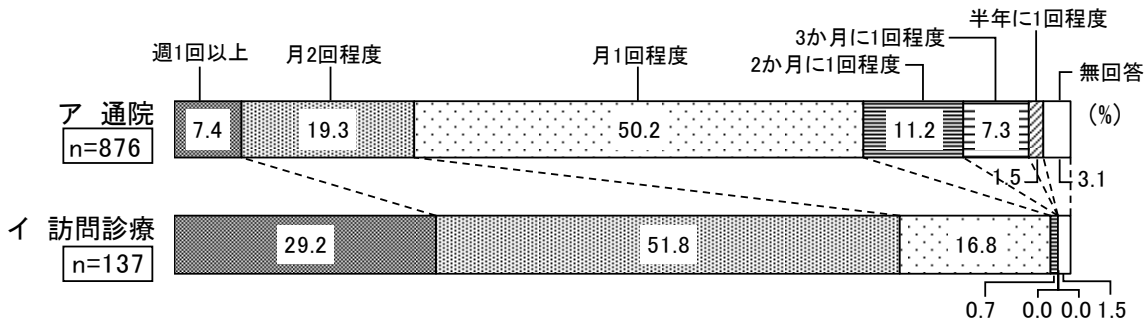
要介護度別で見ると、要介護4以上になると訪問診療の割合が高く、特に要介護5では訪問診療（42.5%）が通院（34.9%）を上回っている。

② 受診の頻度

【問 11 で「1. 通院している」、「2. 訪問診療を受けている」と回答の方】

問 11-1：その頻度をお聞きします。

●通院では「月 1 回程度」（50.2%）、訪問診療では「月 2 回程度」（51.8%）が最も多い



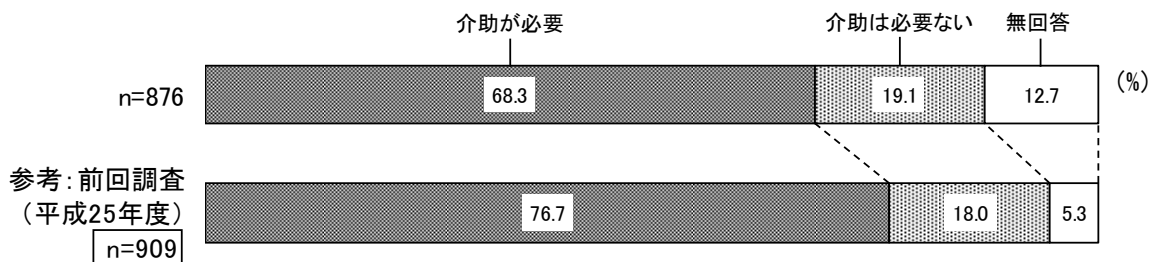
通院は、「月 1 回程度」（50.2%）が最も多く、次いで「月 2 回程度」（19.3%）である。一方、訪問診療は、「月 2 回程度」（51.8%）が最も多く、次いで「週 1 回以上」（29.2%）である。

③ 通院時の介助の要否

【問 11 で「1. 通院している」と回答の方】

問 11-2：通院に介助は必要ですか。

●「介助が必要」が 68.3%

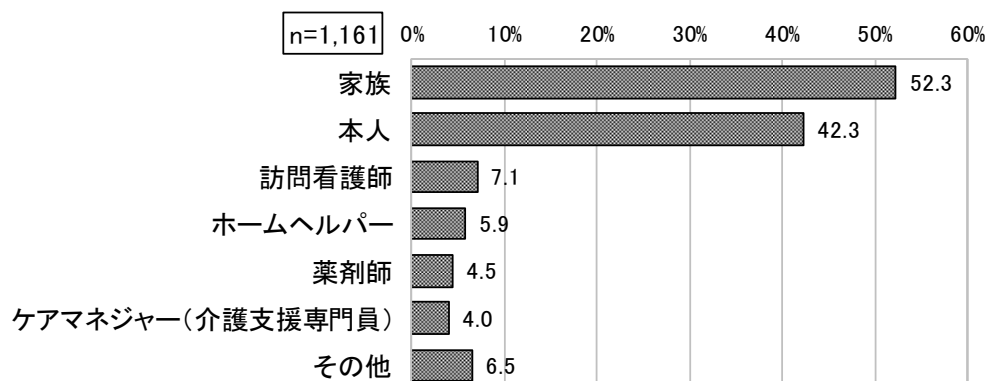


通院時に介助が必要な人は 68.3% で、前回調査の 76.7% と比べて 8.4 ポイント減っている。

(4) 服薬管理

問 12：あなたの服薬の管理はどなたが行っていますか。【複数回答】

●服薬管理は「家族」が 52.3%、「本人」は 42.3%



<その他の回答>

- 訪問医 ○病院 ○施設の看護師
○ショートステイやデイサービスのスタッフ ○お手伝いさん

服薬管理（要介護度別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7		
全体		本人	家族	訪問看護師	ホームヘルパー	薬剤師	ケアマネジャー(介護支援専門員)	その他	無回答	
全体		1,161 100.0	491 42.3	607 52.3	82 7.1	68 5.9	52 4.5	47 4.0	76 6.5	32 2.8
要介護度別	要介護1	318 100.0	209 65.7	112 35.2	17 5.3	7 2.2	13 4.1	9 2.8	11 3.5	7 2.2
	要介護2	331 100.0	169 51.1	166 50.2	23 6.9	24 7.3	14 4.2	14 4.2	21 6.3	9 2.7
	要介護3	223 100.0	43 19.3	158 70.9	16 7.2	15 6.7	11 4.9	10 4.5	14 6.3	7 3.1
	要介護4	128 100.0	24 18.8	88 68.8	13 10.2	7 5.5	6 4.7	4 3.1	14 10.9	2 1.6
	要介護5	106 100.0	7 6.6	69 65.1	10 9.4	12 11.3	4 3.8	9 8.5	14 13.2	2 1.9

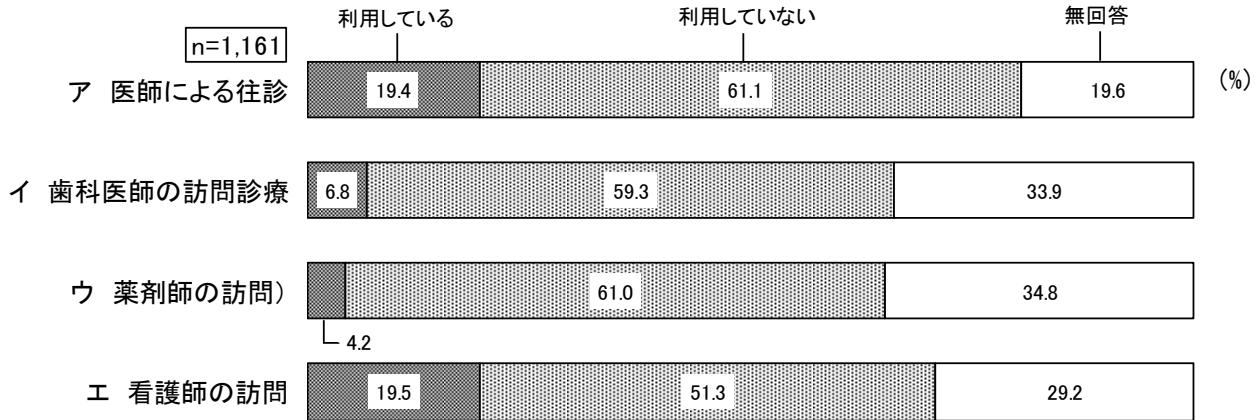
要介護度別で見ると、要介護3以上になると「本人」の割合が低くなり、「家族」など本人以外の割合が高い。

(5) 在宅医療

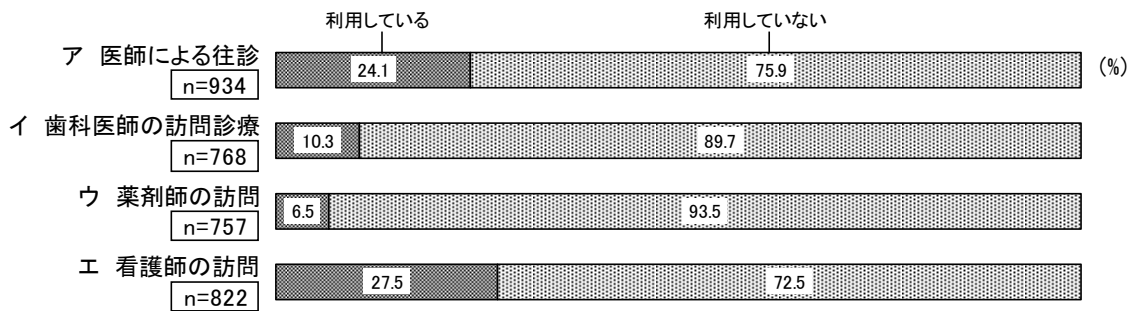
① 在宅医療サービスの利用状況

問 13：あなたは、次の医療サービスを利用していますか。

●利用状況は「医師による往診」が19.4%、「看護師の訪問」が19.5%



参考：在宅医療サービスの利用状況（※無回答を除く構成比）



在宅医療サービスの利用状況（要介護度別・地域別）

	全体	①医師による往診		【再掲】 問11 訪問診療を受けている	②歯科医師の訪問診療		③薬剤師の訪問		④看護師の訪問		
		1	2		1	2	1	2	1	2	
		利用している	利用していない	利用している	利用していない	利用している	利用していない	利用している	利用していない		
全体	1,161 100.0	225 24.1	709 75.9	137 12.5	79 10.3	689 89.7	49 6.5	708 93.5	226 27.5	596 72.5	
要介護度別	要介護1	318 100.0	30 11.7	226 88.3	14 4.6	7 3.3	203 96.7	7 3.3	208 96.7	36 15.7	194 84.3
	要介護2	331 100.0	51 19.2	214 80.8	23 7.3	11 5.0	207 95.0	14 6.4	204 93.6	52 22.5	179 77.5
	要介護3	223 100.0	40 22.6	137 77.4	27 13.0	15 9.7	139 90.3	13 8.5	140 91.5	50 30.1	116 69.9
	要介護4	128 100.0	37 33.9	72 66.1	25 20.3	14 15.6	76 84.4	3 3.6	81 96.4	35 38.0	57 62.0
	要介護5	106 100.0	59 62.1	36 37.9	45 46.9	31 40.8	45 59.2	12 17.6	56 82.4	48 60.0	32 40.0
地域別	京橋地域	299 100.0	62 25.8	178 74.2	34 11.9	16 8.6	169 91.4	15 8.1	171 91.9	61 29.6	145 70.4
	日本橋地域	320 100.0	52 19.6	213 80.4	28 9.3	20 8.9	204 91.1	8 3.7	211 96.3	49 20.8	187 79.2
	月島地域	514 100.0	103 25.2	306 74.8	72 14.9	40 11.6	305 88.4	25 7.4	313 92.6	114 31.3	250 68.7

※無回答を除いた構成比

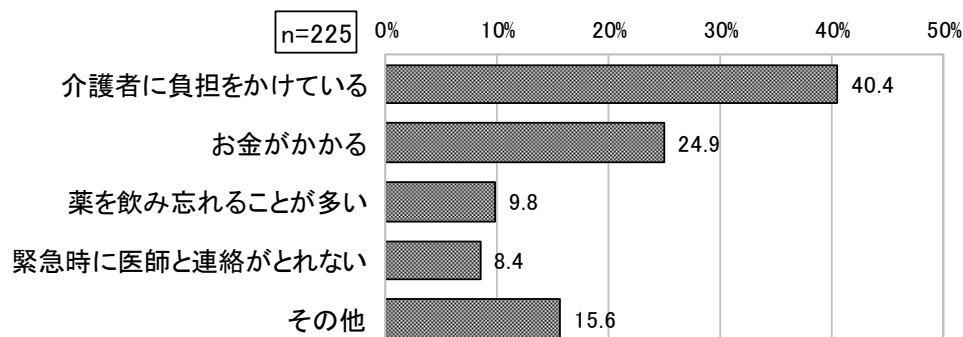
要介護度別で見ると、要介護4は医師による往診、訪問診療及び看護師の訪問を利用している割合が高くなり、要介護5は全てにおいて高い割合である。また、地域別で見ると、全体と比べて日本橋地域で在宅医療サービスを「利用している」割合が低い。

② 在宅療養上困っていること

【問13で「1.利用している」と回答の方】

問13-1：在宅療養を送るうえで困っていることは何ですか。【複数回答】

● 「介護者に負担をかけている」（40.4%）が最も多い



<その他の回答>

- 介護者がいなければ、薬が飲めない、食事もできない ○通院ができない（歩行困難）
- 介護者が外出のとき、介護者に心配をかける

在宅療養上困っていること（家族構成別・要介護度別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		全体	1 薬を飲み忘れることが多い	2 緊急時に医師と連絡がとれない	3 お金がかかる	4 介護者に負担をかけている	5 その他	無回答
全体		225 100.0	22 9.8	19 8.4	56 24.9	91 40.4	35 15.6	53 23.6
家族構成別	1人暮らし	75 100.0	7 9.3	7 9.3	13 17.3	18 24.0	14 18.7	27 36.0
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	50 100.0	4 8.0	5 10.0	13 26.0	25 50.0	7 14.0	10 20.0
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	7 100.0	2 28.6	2 28.6	3 42.9	3 42.9	0 0.0	1 14.3
	息子・娘との2世帯	45 100.0	3 6.7	3 6.7	15 33.3	22 48.9	8 17.8	7 15.6
	その他	44 100.0	5 11.4	1 2.3	10 22.7	21 47.7	6 13.6	8 18.2
	要介護度別	要介護1	30 100.0	4 13.3	3 10.0	7 23.3	6 20.0	3 10.0
要介護2	51 100.0	8 15.7	4 7.8	10 19.6	11 21.6	11 21.6	13 25.5	
要介護3	40 100.0	3 7.5	3 7.5	9 22.5	20 50.0	6 15.0	7 17.5	
要介護4	37 100.0	3 8.1	1 2.7	9 24.3	20 54.1	5 13.5	7 18.9	
要介護5	59 100.0	2 3.4	7 11.9	18 30.5	33 55.9	9 15.3	13 22.0	

家族構成別で見ると、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で「介護者に負担をかけている」の割合が高い。

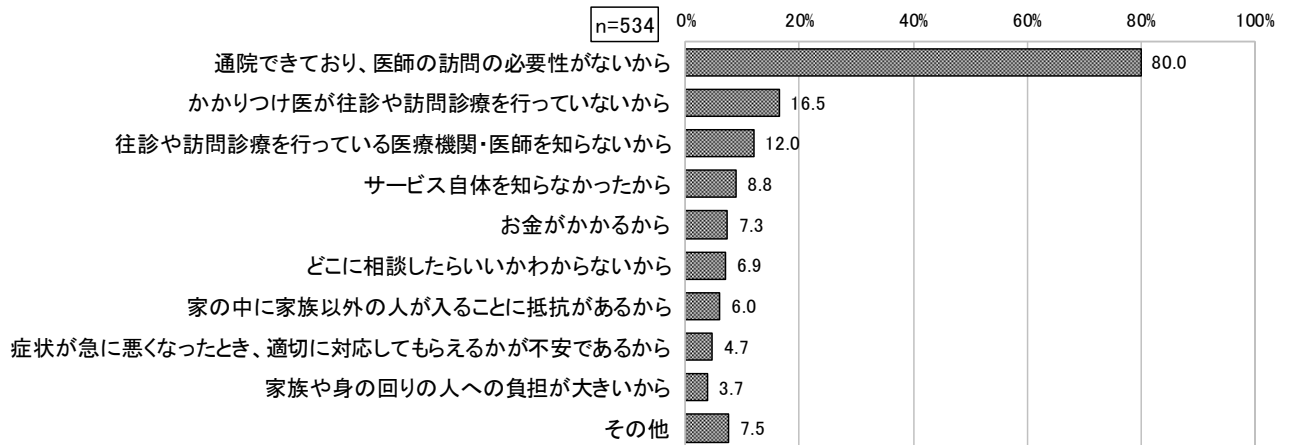
要介護度別で見ると、要介護1・2で「介護者に負担をかけている」の割合が20%程度であるのに対し、要介護3以上では50%台と大きな差が見られる。

③ 在宅医療サービスを利用していない理由

【問 13 の医療サービスすべて「2. 利用していない」と回答の方】

問 13-2：在宅で利用できる医療サービスを利用していない理由は何ですか。【複数回答】

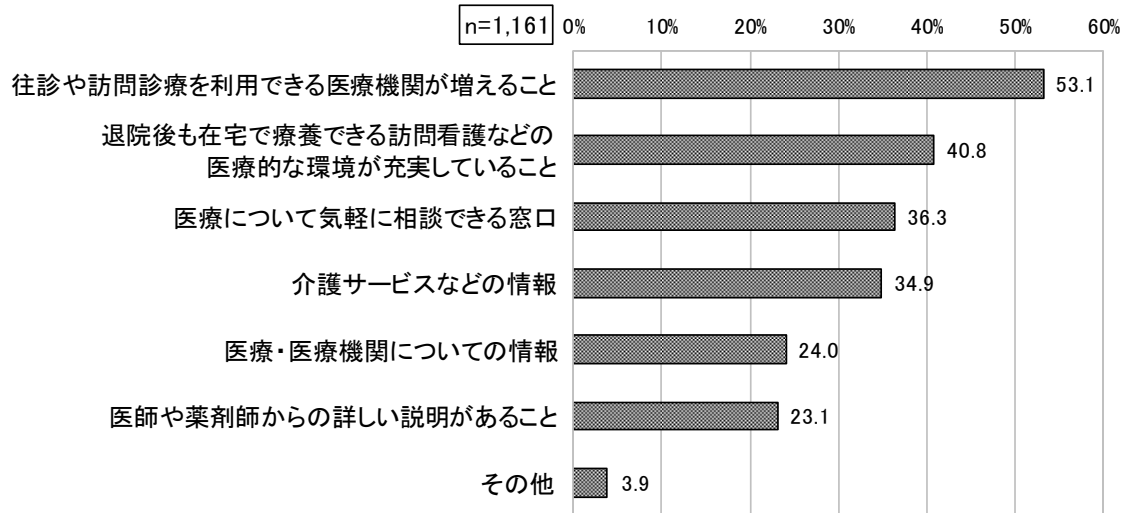
●「通院できており、医師の訪問の必要性がないから」（80.0%）が最も多く、次いで「かかりつけ医が往診や訪問診療を行っていないから」（16.5%）



(6) 在宅療養する上であれば良いこと

問 14：在宅で医療処置を受けたり、医療機関を利用したりするときに、あなたはどのようなことがあれば良いと思いますか。【複数回答】

● 「往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること」（53.1%）が最も多い



在宅療養する上であれば良いこと（家族構成別・地域別）

		上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)							
		1	2	3	4	5	6	7	
全体		往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること	退院後も在宅で療養できる訪問看護などの医療的な環境が充実していること	医師や薬剤師からの詳しい説明があること	介護サービスなどの情報	医療・医療機関についての情報	医療について気軽に相談できる窓口	その他	
全体	1,161 100.0	617 61.1	474 47.0	268 26.6	405 40.1	279 27.7	422 41.8	45 4.5	
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	180 58.4	140 45.5	90 29.2	120 39.0	73 23.7	119 38.6	20 6.5
	夫婦2人暮らし	359 100.0	181 60.3	131 43.7	78 26.0	134 44.7	93 31.0	135 45.0	10 3.3
	息子・娘との2世帯	209 100.0	112 60.5	99 53.5	42 22.7	68 36.8	58 31.4	79 42.7	9 4.9
	その他	197 100.0	124 67.0	88 47.6	50 27.0	71 38.4	51 27.6	78 42.2	4 2.2
地域別	京橋地域	299 100.0	152 57.8	109 41.4	63 24.0	99 37.6	66 25.1	110 41.8	15 5.7
	日本橋地域	320 100.0	197 69.4	146 51.4	60 21.1	120 42.3	81 28.5	110 38.7	9 3.2
	月島地域	514 100.0	261 58.9	212 47.9	136 30.7	176 39.7	126 28.4	194 43.8	20 4.5

※無回答を除く構成比

家族構成別で見ると、息子・娘との2世帯で全体と比べて「退院後も在宅で療養できる訪問看護などの医療的な環境が充実していること」の割合が高い。

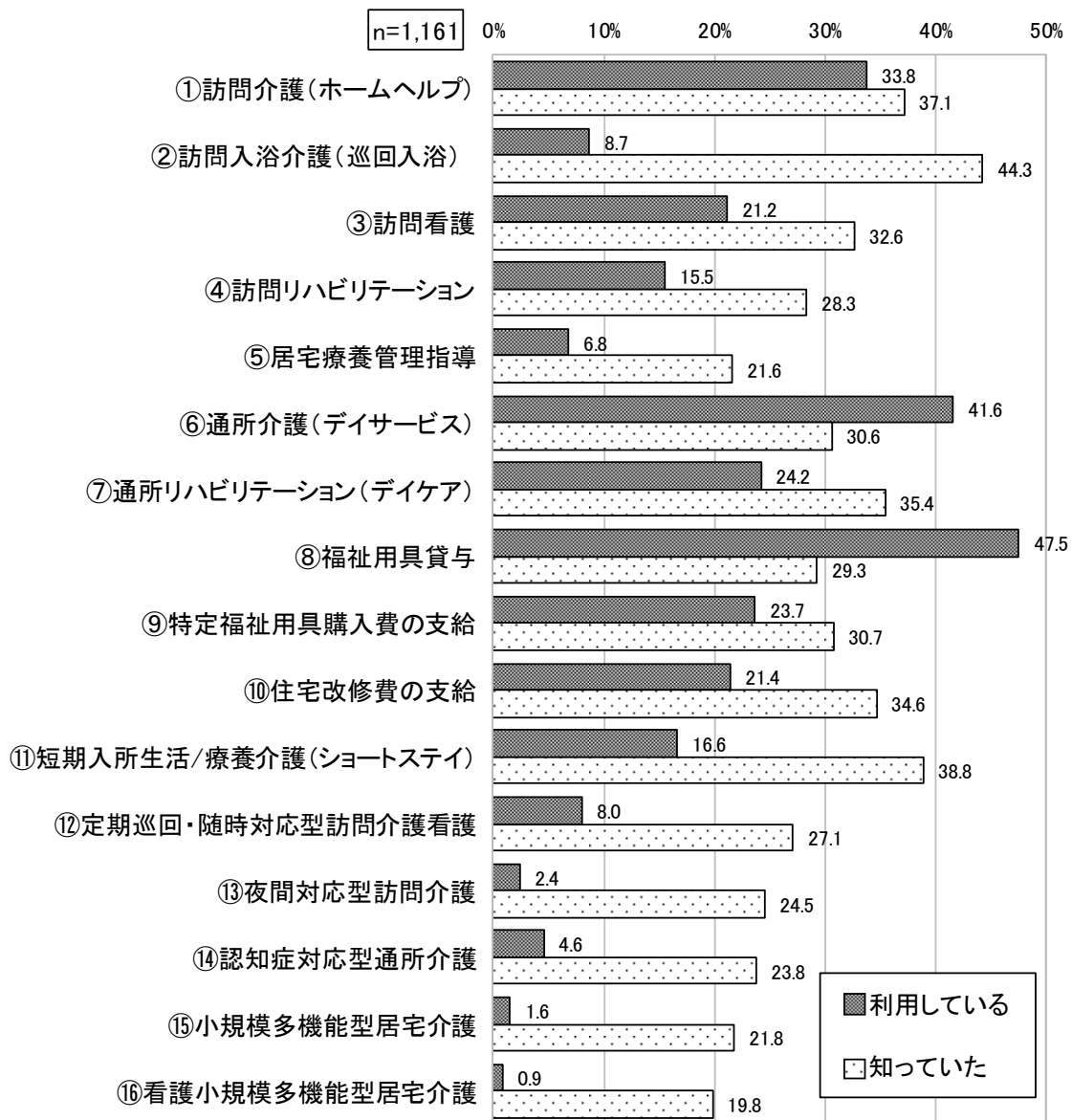
また、地域別で見ると、日本橋地域で「往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること」の割合が高い。

4. 介護保険サービス

(1) 介護保険サービスの利用・認知状況

問 15：現在、あなたが利用している介護保険サービスは何ですか。また、ご存知の介護保険サービスは何ですか。

●利用している介護保険サービスは、順に「福祉用具貸与」（47.5%）、「通所介護（デイサービス）」（41.6%）、「訪問介護（ホームヘルプ）」（33.8%）の割合が高い



利用している割合が高いサービスは、「⑧福祉用具貸与」（47.5%）、「⑥通所介護（デイサービス）」（41.6%）、「①訪問介護（ホームヘルプ）」（33.8%）である。

一方、認知度が高いのは、「②訪問入浴介護（巡回入浴）」（44.3%）、「⑪短期入所生活/療養介護（ショートステイ）」（38.8%）、「①訪問介護（ホームヘルプ）」（37.1%）である。

(2) 利用料の負担感

問 16: 現在利用されている介護保険サービスの利用料は、あなたにとってどの程度負担ですか。

●利用料は「やや負担である」（30.2%）が最も多い



「やや負担である」（30.2%）が最も多く、次いで「どちらでもない」（22.7%）である。また、「負担である」と「やや負担である」を合わせると43.6%である。

●利用料の負担感が高いのは要介護度別では「要介護3～5」、家族構成別では「息子・娘との2世帯」

介護保険サービス利用料の負担感（要介護度別・家族構成別）

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

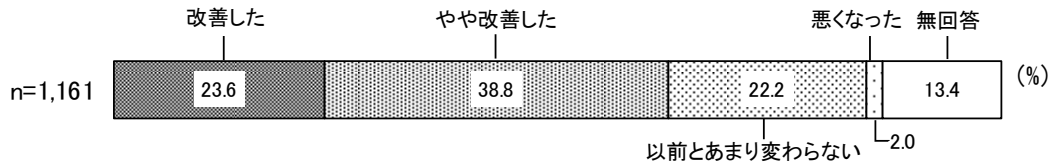
	全体	1	2	3	4	5	無回答	
		負担である	やや負担である	どちらでもない	あまり負担ではない	負担ではない		
全体	1,161 100.0	156 13.4	351 30.2	263 22.7	132 11.4	126 10.9	133 11.5	
要介護度別	要介護1	318 100.0	33 10.4	63 19.8	82 25.8	50 15.7	43 13.5	47 14.8
	要介護2	331 100.0	33 10.0	111 33.5	79 23.9	46 13.9	33 10.0	29 8.8
	要介護3	223 100.0	37 16.6	81 36.3	50 22.4	18 8.1	21 9.4	16 7.2
	要介護4	128 100.0	27 21.1	47 36.7	23 18.0	7 5.5	15 11.7	9 7.0
	要介護5	106 100.0	23 21.7	38 35.8	17 16.0	7 6.6	9 8.5	12 11.3
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	38 10.8	81 23.1	94 26.8	52 14.8	54 15.4	32 9.1
	夫婦2人暮らし	359 100.0	54 15.0	102 28.4	67 18.7	39 10.9	39 10.9	58 16.2
	息子・娘との2世帯	209 100.0	30 14.4	77 36.8	54 25.8	17 8.1	18 8.6	13 6.2

全体と比べて負担感が高い（「負担である」または「やや負担である」）のは、要介護度別では要介護3～5、家族構成別では、息子・娘との2世帯の割合が高い。

(3) サービス利用後の状態

問 17：介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの生活環境や身体状況はどのようになりましたか。

● 「改善した」と「やや改善した」を合わせると 62.4%



サービス利用後の状態（要介護度別・家族構成別）

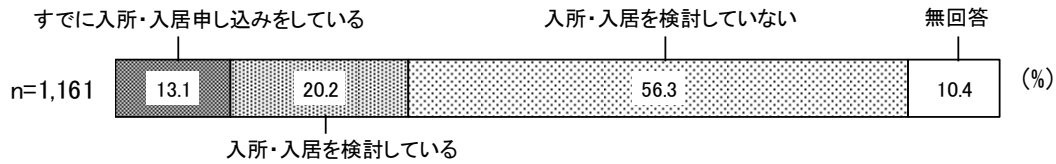
		全体	上段:実数(人)				下段:構成比(%)
			1	2	3	4	
			改善した	やや改善した	以前とあまり変わらない	悪くなった	無回答
全体		1,161 100.0	274 23.6	451 38.8	258 22.2	23 2.0	155 13.4
要介護度別	要介護1	318 100.0	64 20.1	119 37.4	78 24.5	4 1.3	53 16.7
	要介護2	331 100.0	77 23.3	136 41.1	74 22.4	7 2.1	37 11.2
	要介護3	223 100.0	56 25.1	93 41.7	53 23.8	1 0.4	20 9.0
	要介護4	128 100.0	38 29.7	50 39.1	24 18.8	5 3.9	11 8.6
	要介護5	106 100.0	32 30.2	42 39.6	15 14.2	6 5.7	11 10.4
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	111 31.6	131 37.3	67 19.1	5 1.4	37 10.5
	夫婦2人暮らし	359 100.0	52 14.5	157 43.7	79 22.0	7 1.9	64 17.8
	息子・娘との2世帯	209 100.0	55 26.3	86 41.1	44 21.1	5 2.4	19 9.1

要介護度別では要介護4・5、家族構成別では1人暮らしで全体と比べて「改善した」割合が高い。

(4) 施設入所の検討状況

問 18：あなたは、施設等への入所・入居を検討していますか。

● 「すでに入所・入居申し込みをしている」は 13.1%、「入所・入居を検討している」は 20.2%



施設入所の検討状況（要介護度別・家族構成別）

		全体	検討状況			無回答
			1	2	3	
全体		1,161 100.0	152 13.1	234 20.2	654 56.3	121 10.4
要介護度別	要介護1	318 100.0	19 6.0	54 17.0	212 66.7	33 10.4
	要介護2	331 100.0	30 9.1	74 22.4	192 58.0	35 10.6
	要介護3	223 100.0	47 21.1	45 20.2	109 48.9	22 9.9
	要介護4	128 100.0	30 23.4	33 25.8	57 44.5	8 6.3
	要介護5	106 100.0	24 22.6	17 16.0	56 52.8	9 8.5
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	49 14.0	89 25.4	178 50.7	35 10.0
	夫婦2人暮らし	359 100.0	30 8.4	58 16.2	217 60.4	54 15.0
	息子・娘との2世帯	209 100.0	33 15.8	41 19.6	125 59.8	10 4.8

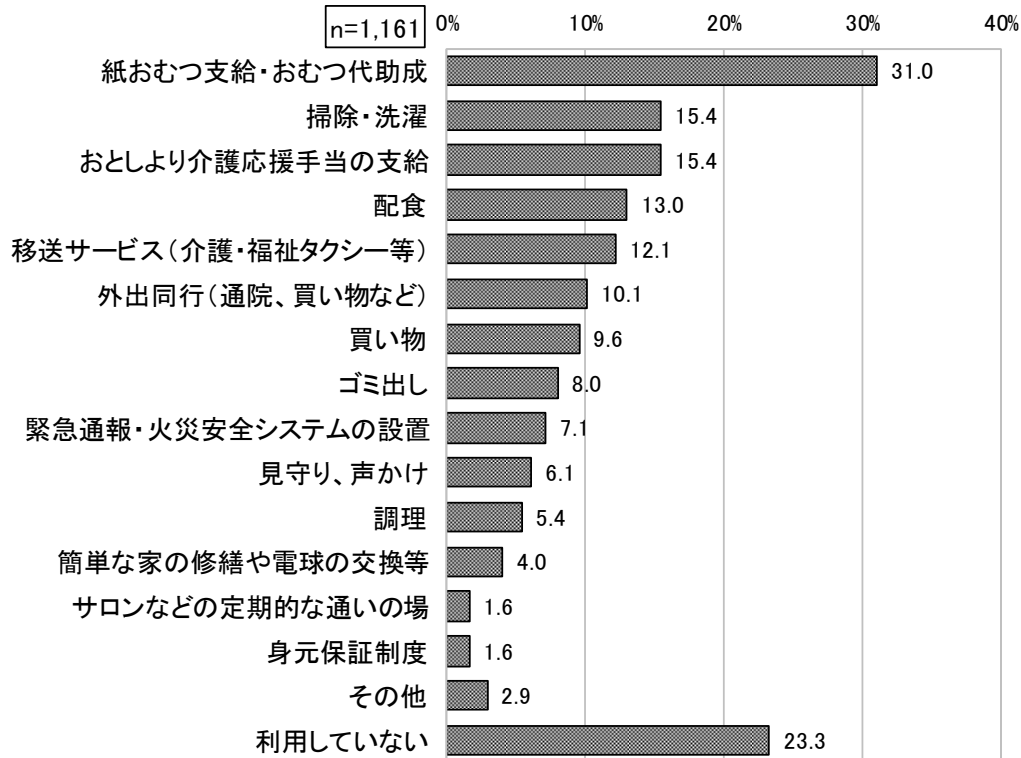
要介護度別で見ると、全体と比べて要介護3以上で「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が高い。

また、家族構成別で見ると、全体と比べて1人暮らしで「入所・入居を検討している」の割合が高い。

(5) 保険外サービスの利用状況

問 19：あなたが、現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスは何ですか。
【複数回答】

● 「紙おむつ支給・おむつ代助成」（31.0%）が最も多い



「紙おむつ支給・おむつ代助成」（31.0%）が最も多く、次いで「掃除・洗濯」、「おとしより介護応援手当の支給」がともに 15.4%である。また、「利用していない」が 23.3%である。

保険外サービスの利用状況（家族構成別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		配食	調理	掃除・洗濯	買い物	外出同行 (通院、買い物など)	ゴミ出し	見守り、声かけ	緊急通報の・設置	通いの場 などの定期的な	
全体		1,161 100.0	151 13.0	63 5.4	179 15.4	111 9.6	117 10.1	93 8.0	71 6.1	83 7.1	19 1.6
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	79 22.5	27 7.7	90 25.6	56 16.0	51 14.5	55 15.7	34 9.7	41 11.7	3 0.9
	夫婦2人暮らし	359 100.0	28 7.8	16 4.5	52 14.5	23 6.4	24 6.7	18 5.0	15 4.2	15 4.2	4 1.1
	息子・娘との2世帯	209 100.0	16 7.7	8 3.8	15 7.2	15 7.2	22 10.5	4 1.9	10 4.8	14 6.7	4 1.9

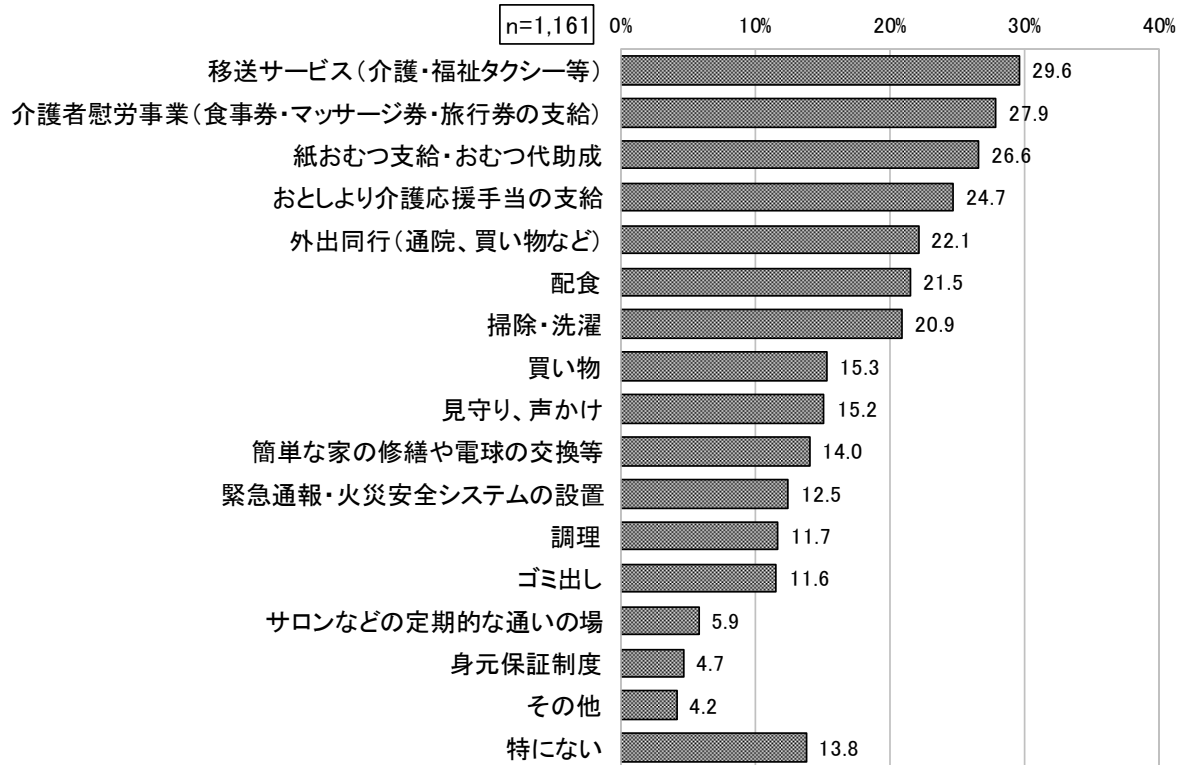
		10	11	12	13	14	15	16		
		福祉サービス等 (介護・移送サービス等)	簡単な家の修繕や電球の交換等	身元保証制度	おとしより介護応援 手当の支給	紙おむつ支給・おむつ代助成	その他	利用していない	無回答	
全体		1,161 100.0	141 12.1	47 4.0	19 1.6	179 15.4	360 31.0	34 2.9	270 23.3	207 17.8
家族構成別	1人暮らし	351 100.0	37 10.5	19 5.4	6 1.7	28 8.0	71 20.2	14 4.0	65 18.5	50 14.2
	夫婦2人暮らし	359 100.0	41 11.4	14 3.9	5 1.4	47 13.1	103 28.7	10 2.8	84 23.4	87 24.2
	息子・娘との2世帯	209 100.0	26 12.4	2 1.0	1 0.5	53 25.4	88 42.1	4 1.9	62 29.7	26 12.4

家族構成別で見ると、1人暮らしでは全体と比べて「配食」、「掃除・洗濯」、「買い物」、「ゴミ出し」を利用している割合が高い。また息子・娘との2世帯では全体と比べて「おとしより介護応援手当の支給」、「紙おむつ支給・おむつ代助成」を利用している割合が高い。

(6) 在宅生活の継続に必要なサービス

問 20：あなたが、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）は何ですか。【複数回答】

● 「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（29.6%）が最も多い



「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（29.6%）が最も多く、次いで「介護者慰労事業（食事券・マッサージ券・旅行券の支給）」（27.9%）、「紙おむつ支給・おむつ代助成」（26.6%）、「おとしより介護応援手当の支給」（24.7%）である。

在宅生活の継続に必要なサービス（要介護度別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		配食	調理	掃除・洗濯	買い物	外出同行 (通院、買い物など)	ゴミ出し	見守り、声かけ	緊急通報の・設置	通いの場 サロンなどの定期的な	
全体		1161 100.0	250 21.5	136 11.7	243 20.9	178 15.3	257 22.1	135 11.6	176 15.2	145 12.5	68 5.9
要介護度別	要介護1	318 100.0	69 21.7	35 11.0	72 22.6	56 17.6	73 23.0	40 12.6	51 16.0	34 10.7	21 6.6
	要介護2	331 100.0	72 21.8	50 15.1	77 23.3	62 18.7	90 27.2	43 13.0	49 14.8	45 13.6	24 7.3
	要介護3	223 100.0	62 27.8	26 11.7	52 23.3	32 14.3	51 22.9	25 11.2	38 17.0	33 14.8	9 4.0
	要介護4	128 100.0	24 18.8	12 9.4	21 16.4	16 12.5	27 21.1	12 9.4	17 13.3	17 13.3	9 7.0
	要介護5	106 100.0	19 17.9	9 8.5	13 12.3	6 5.7	12 11.3	7 6.6	12 11.3	12 11.3	1 0.9

		10	11	12	13	14	15	16	17		
		福祉サービス等（介護・福祉タクシー等）	簡単な家の修繕や電球の交換等	身元保証制度	おとしより介護応援手当の支給	紙おむつ支給・おむつ代助成	介護者慰労事業（食事券・マッサージ券・旅行券の支給）	その他	特になし	無回答	
全体		1161 100.0	344 29.6	163 14.0	55 4.7	287 24.7	309 26.6	324 27.9	49 4.2	160 13.8	175 15.1
要介護度別	要介護1	318 100.0	72 22.6	44 13.8	15 4.7	39 12.3	44 13.8	59 18.6	8 2.5	63 19.8	40 12.6
	要介護2	331 100.0	95 28.7	54 16.3	18 5.4	75 22.7	73 22.1	89 26.9	18 5.4	45 13.6	49 14.8
	要介護3	223 100.0	84 37.7	32 14.3	11 4.9	79 35.4	85 38.1	79 35.4	12 5.4	19 8.5	28 12.6
	要介護4	128 100.0	51 39.8	18 14.1	5 3.9	52 40.6	61 47.7	53 41.4	5 3.9	15 11.7	13 10.2
	要介護5	106 100.0	32 30.2	7 6.6	4 3.8	35 33.0	37 34.9	36 34.0	6 5.7	11 10.4	21 19.8

要介護度別で見ると、全体と比べて要介護3・4では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、要介護3以上で「おとしより介護応援手当の支給」、「紙おむつ支給・おむつ代助成」、「介護者慰労事業（食事券・マッサージ券・旅行券の支給）」が必要だと思う割合が高い。

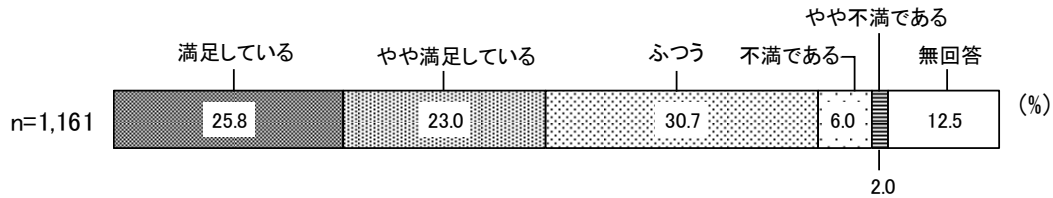
5. サービスのあり方

(1) ケアプランについて

① 満足度

問 21：あなたは、現在のケアプランに満足していますか。

●「満足している」と「やや満足している」を合わせると 48.8%

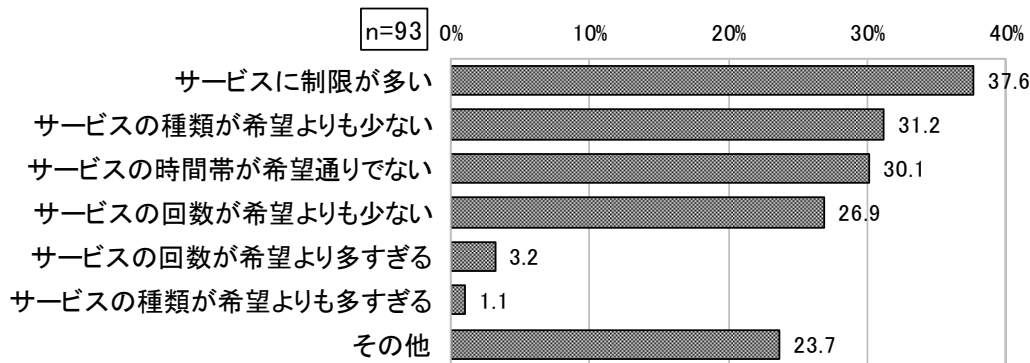


② 不満の理由

【問 21 で「4. やや不満である」、「5. 不満である」と回答の方】

問 21-1：不満の理由は何ですか。【複数回答】

●「サービスに制限が多い」（37.6%）が最も多い



<その他の回答>

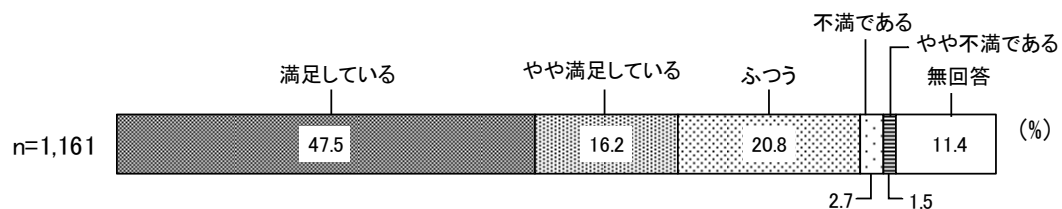
- 決められたサービスの一回の利用時間が短すぎる
- 人の変更が多い
- ホームヘルパーのスキル不足

(2) ケアマネジャーに対する満足度

① 満足度

問 22：あなたは、ケアマネジャー（介護支援専門員）に満足していますか。

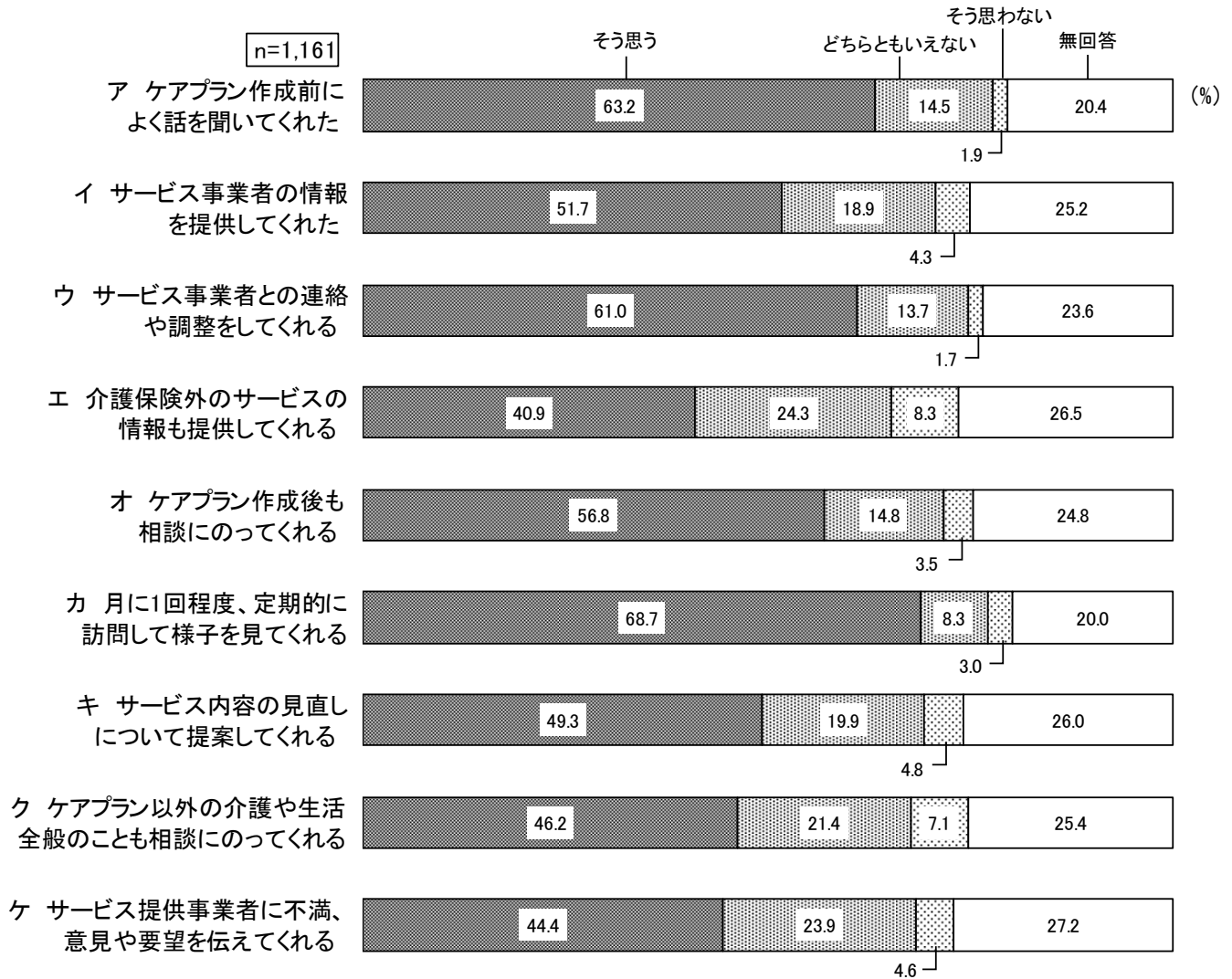
●「満足している」と「やや満足している」を合わせると 63.7%



② マネジメントに対する評価

問 23：あなたは、ケアマネジャー（介護支援専門員）について、どのように感じていますか。

● 『月に1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる』、『ケアプラン作成前によく話を聞いてくれた』を「そう思う」と回答した割合が高い一方で、『介護保険外のサービスの情報も提供してくれる』を8.3%が「そう思わない」と回答



「そう思う（できている）」の割合が高い項目は、「カ 月に1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる」（68.7%）、「ア ケアプラン作成前によく話を聞いてくれた」（63.2%）、「ウ サービス事業者との連絡や調整をしてくれる」（61.0%）、「オ ケアプラン作成後も相談にのってくれる」（56.8%）である。

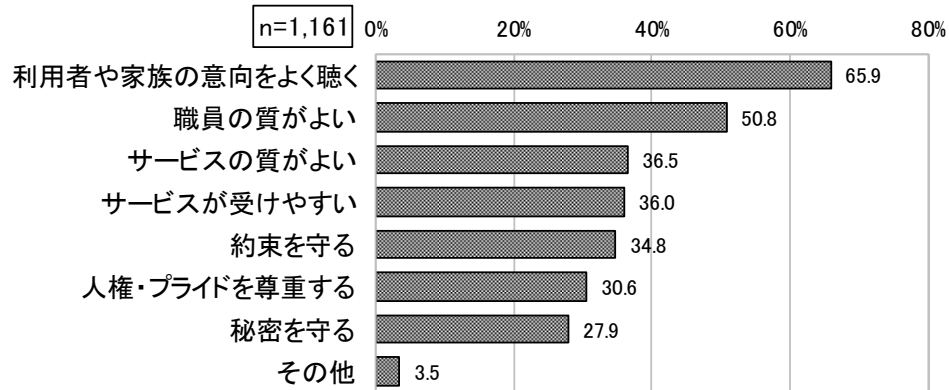
一方、「そう思わない（できていない）」の割合が全体と比べて高い項目は、「エ 介護保険外のサービスの情報も提供してくれる」（8.3%）、「ク ケアプラン以外の介護や生活全般のことも相談にのってくれる」（7.1%）である。

(3) 介護サービス事業者について

① 評価する点

問 24：あなたが、介護サービス提供事業者を評価する点はどのようなことですか。【複数回答】

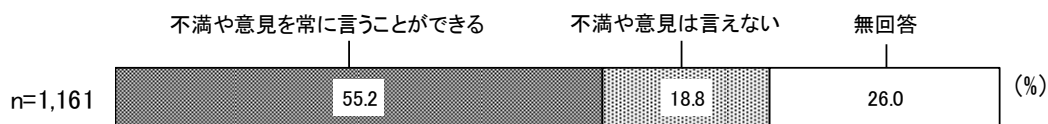
- 「利用者や家族の意向をよく聴く」（65.9%）が最も多く、次いで「職員の質がよい」（50.8%）



② 不満等を言えるか

問 25：あなたは、介護サービス提供事業者の提供するサービスに不満がある場合に、不満や意見を事業者に訴えることができますか。

- 「不満や意見は言えない」が 18.8%

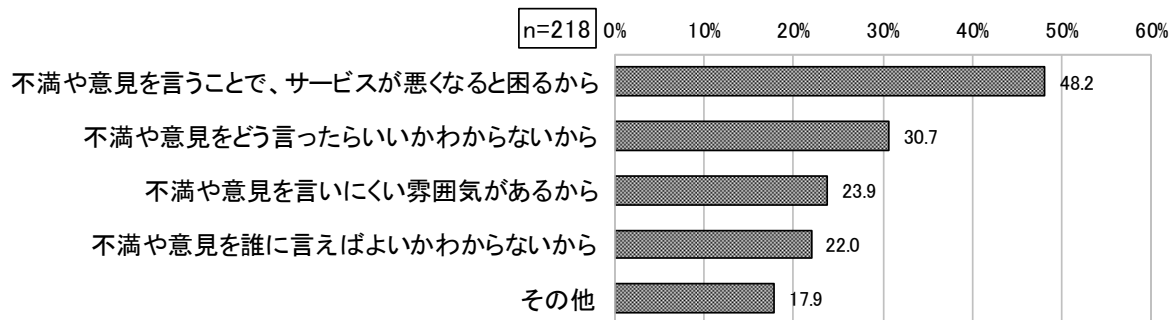


③ 不満等を言えない理由

【問 25 で「2. 不満や意見は言えない」と回答の方】

問 25-1：不満や意見を言えない理由は何ですか。【複数回答】

- 「不満や意見を言うことで、サービスが悪くなると困るから」（48.2%）が最も多い



<その他の回答>

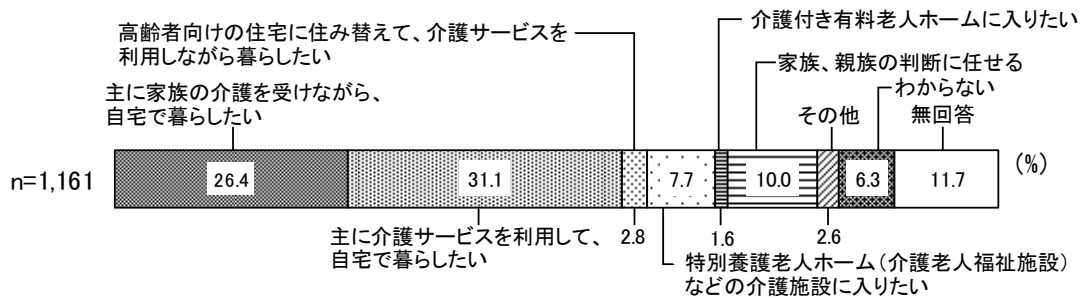
○ケアマネを通じて言う ○苦情だと思われてしまう ○言っても伝わらない

6. 今後の介護の希望等

(1) 今後希望する介護

問 26：あなたは、今後、どのような介護を希望しますか。

●57.5%が自宅で暮らしたいと回答



「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」(31.1%)が最も多く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(26.4%)、「家族、親族の判断に任せる」(10.0%)である。

今後希望する介護（性別・要介護度別）

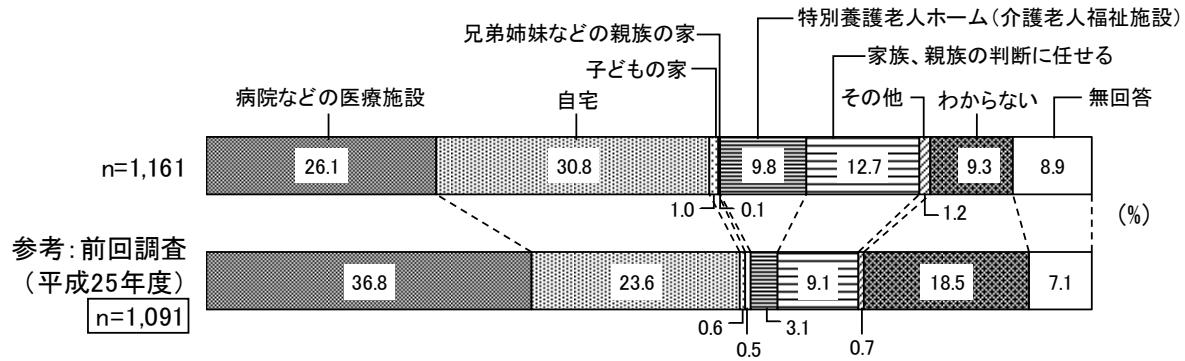
	全体	今後希望する介護									
		1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	
		主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスを利用して暮らしたい	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)などの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	家族、親族の判断に任せる	その他	わからない	無回答	
全体	1,161 100.0	306 26.4	361 31.1	32 2.8	89 7.7	18 1.6	116 10.0	30 2.6	73 6.3	136 11.7	
性別	男性	403 100.0	114 28.3	127 31.5	14 3.5	19 4.7	7 1.7	33 8.2	6 1.5	25 6.2	58 14.4
	女性	746 100.0	189 25.3	233 31.2	18 2.4	70 9.4	11 1.5	81 10.9	24 3.2	46 6.2	74 9.9
要介護度別	要介護1	318 100.0	79 24.8	106 33.3	7 2.2	14 4.4	7 2.2	29 9.1	9 2.8	30 9.4	37 11.6
	要介護2	331 100.0	80 24.2	110 33.2	12 3.6	25 7.6	6 1.8	33 10.0	8 2.4	21 6.3	36 10.9
	要介護3	223 100.0	63 28.3	69 30.9	6 2.7	24 10.8	1 0.4	24 10.8	4 1.8	9 4.0	23 10.3
	要介護4	128 100.0	38 29.7	33 25.8	4 3.1	17 13.3	0 0.0	14 10.9	4 3.1	7 5.5	11 8.6
	要介護5	106 100.0	34 32.1	31 29.2	2 1.9	6 5.7	3 2.8	11 10.4	4 3.8	1 0.9	14 13.2

要介護度別で見ると、全体と比べて要介護4は「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）などの介護施設に入りたい」の割合が高く、要介護5は「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が高い。

(2) 終末期に介護を受けたい場所

問 27：あなたは、病気が治る可能性がなくなり、終末期になった場合、どこで介護を受けたいと思いますか。

●「自宅」（30.8%）が最も多い



「自宅」（30.8%）が最も多く、次いで「病院などの医療施設」が26.1%、「家族、親族の判断に任せる」が12.7%である。

また、前回調査と比べると、「病院などの医療施設」は10.7ポイント、「わからない」は9.2ポイント減り、一方で「自宅」は7.2ポイント増えている。

終末期に介護を受けたい場所（要介護度別）

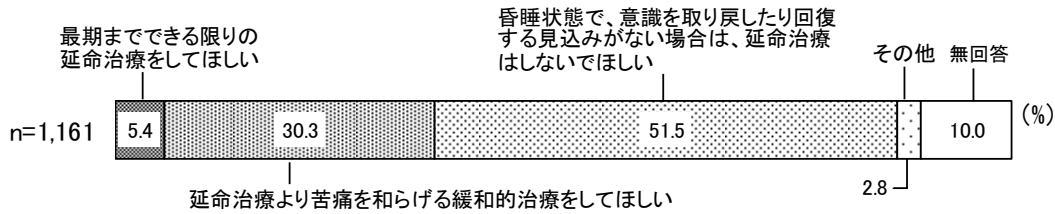
		上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
		病院などの医療施設	自宅	子どもの家	兄弟姉妹などの親族の家	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	家族、親族の判断に任せる	その他	わからない	無回答
全体	全体	1,161	358	12	1	114	148	14	108	103
	全体	100.0	30.8	1.0	0.1	9.8	12.7	1.2	9.3	8.9
要介護度別	要介護1	318	95	4	0	29	39	5	26	24
		100.0	30.2	1.3	0.0	9.1	12.3	1.6	8.2	7.5
	要介護2	331	88	2	0	33	36	4	31	36
		100.0	30.5	0.6	0.0	10.0	10.9	1.2	9.4	10.9
	要介護3	223	70	2	0	27	33	2	25	15
		100.0	22.0	31.4	0.9	0.0	12.1	14.8	0.9	11.2
要介護4	128	45	1	0	11	23	1	13	6	
	100.0	21.9	35.2	0.8	0.0	8.6	18.0	0.8	10.2	4.7
要介護5	106	46	2	0	13	13	1	5	11	
	100.0	14.2	43.4	1.9	0.0	12.3	12.3	0.9	4.7	10.4

要介護度別で見ると、要介護4・5は全体と比べて「自宅」の割合が高い。一方、「病院などの医療施設」は、要介護度が低いほど高くなる傾向が見られる。

(3) 延命治療について

問 28：あなたは、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。

●「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」（51.5%）が最も多い

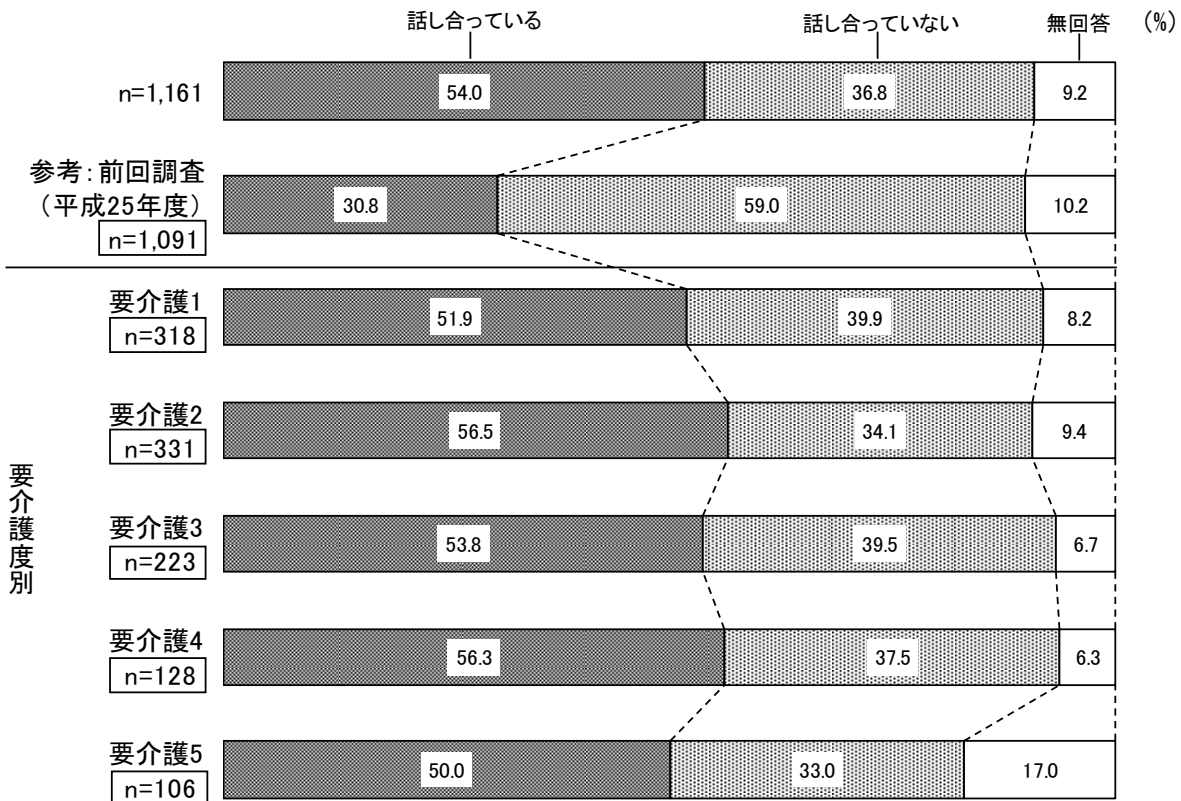


(4) 家族・周囲へ意向を伝えたかどうか

問 29：あなたは、今後の医療や介護について自分が望むことを、ご家族や周囲の方と話し合っていますか。

●「話し合っている」（54.0%）が「話し合っていない」（36.8%）より多い

家族・周囲へ意向を伝えたかどうか（全体・要介護度別）



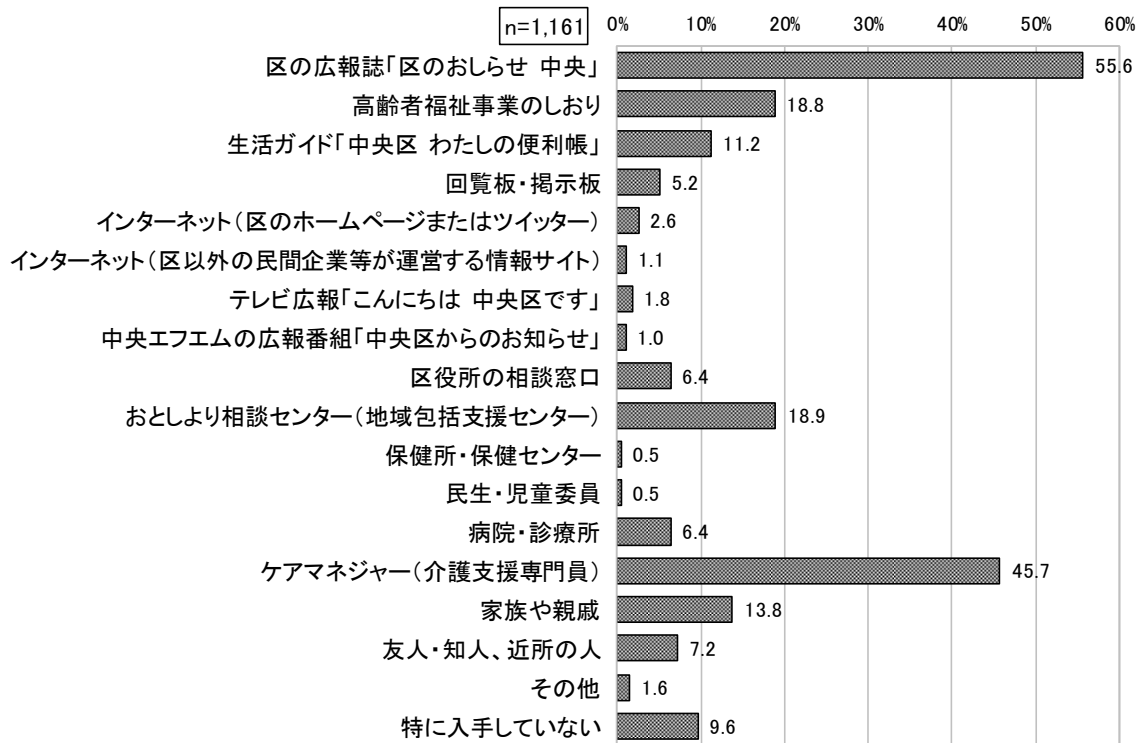
前回調査と比べると、「話し合っている」が23.2ポイント増えている。
また、要介護度別で見ると、大きな差は見られない。

7. 相談や権利擁護

(1) 区からの情報の入手先

問 30：あなたは、中央区からの情報は主にどこから入手していますか。【複数回答：3 つまで】

● 「区の広報誌」（55.6%）が最も多く、次いで「ケアマネジャー」（45.7%）

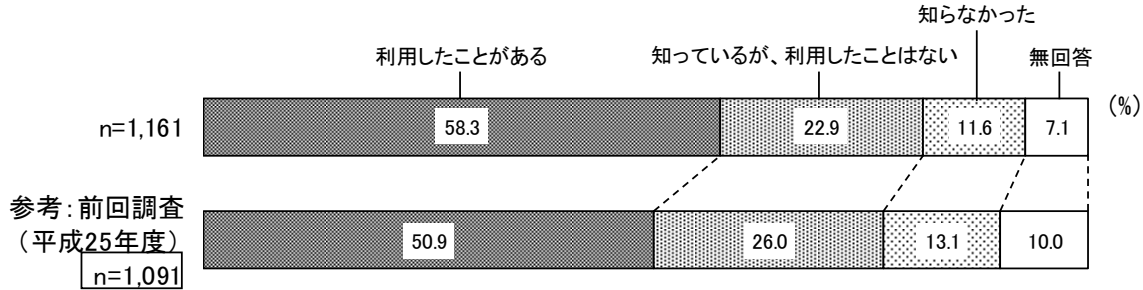


(2) おとしより相談センターの認知度及び利用状況

① 認知度及び利用状況

問 31：あなたは、「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」をご存知ですか。

●認知度は81.2%、「利用したことがある」が58.3%



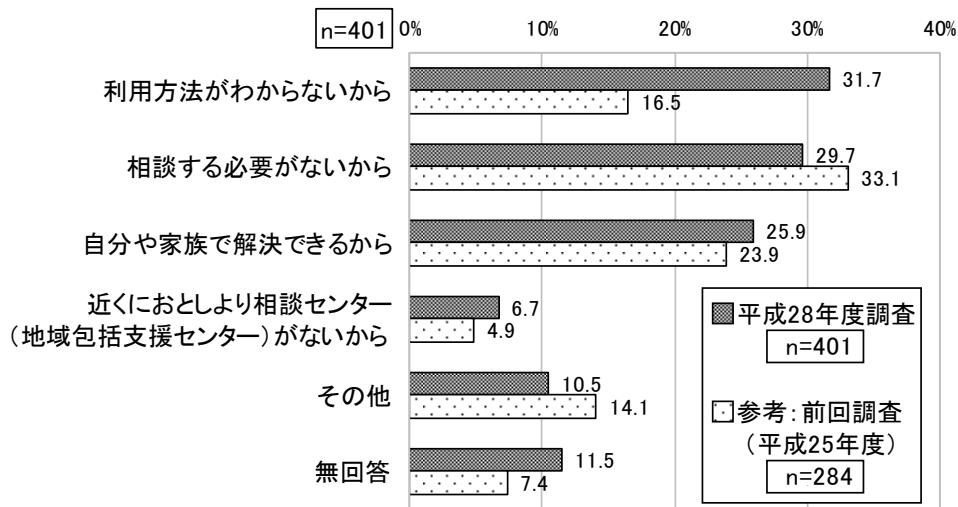
前回調査と比べると、「利用したことがある」が7.4ポイント増えている。

② 利用したことがない理由

【問 31 で「2. 知っているが、利用したことはない」、「3. 知らなかった」と回答の方】

問 31-1：「おとしより相談センター（地域包括支援センター）」を利用したことがない主な理由は何ですか。【複数回答】

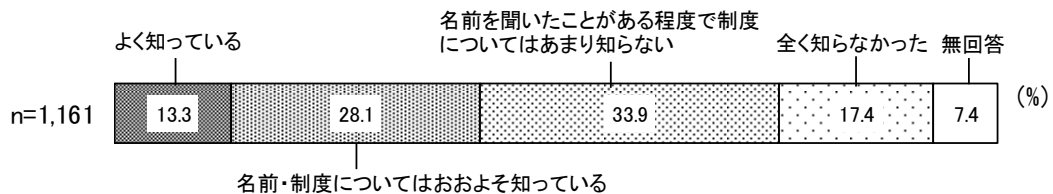
●利用したことがないのは「利用方法がわからないから」が31.7%



(3) 成年後見制度の認知度

問 32：あなたは、「成年後見制度」について内容をどの程度ご存知ですか。

●「よく知っている」と「名前・制度についてはおおよそ知っている」を合わせると41.4%

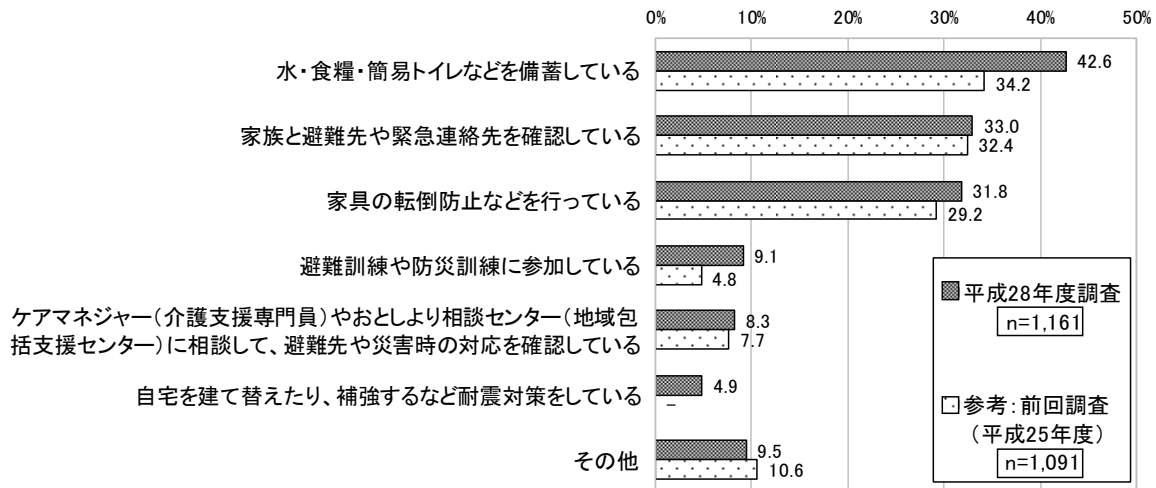


8. 災害時の対応

(1) 災害への備え

問 33：あなたは、地震などの災害に備えてどのようなことをしていますか。【複数回答】

●「水・食糧・簡易トイレなどを備蓄している」（42.6%）が最も多い



※図中「-」は調査時にたずねていない項目のため数値がないことを表している。

<その他の回答>

- 家では家族、デイケア・ショートではスタッフに任せる
- 近隣の知り合いに頼んでいる
- 気にしているが具体的には、ほとんど何もしていない

前回調査と比べると、「水・食糧・簡易トイレなどを備蓄している」が8.4ポイント増えている。

(2) 「中央区災害時地域たすけあい名簿」の認知度

問 34：あなたは、「中央区災害時地域たすけあい名簿」についてご存知ですか。

●「知らなかった」が62.6%



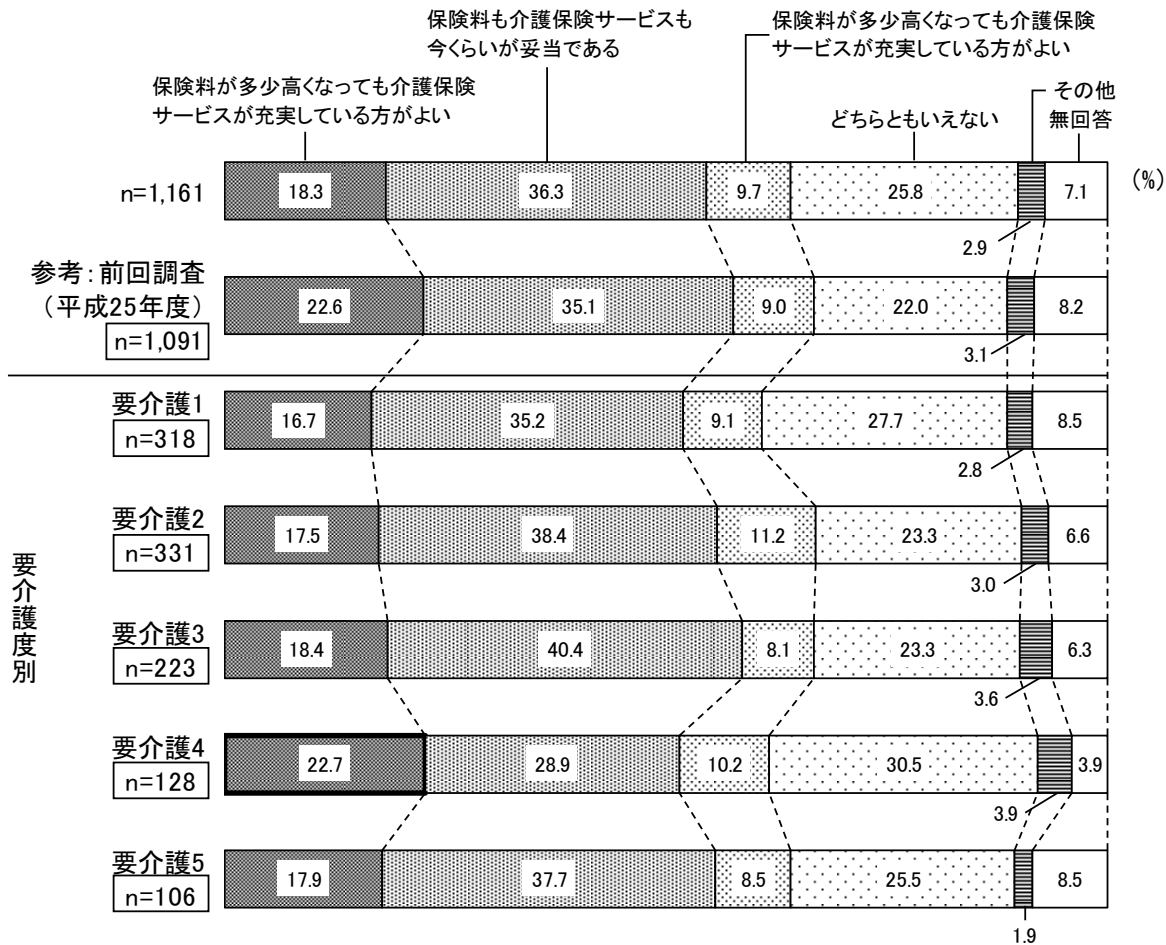
9. 今後の高齢者保健福祉施策

(1) 介護保険サービスと介護保険料のあり方

問 35：今後、高齢者が増加していくにつれて介護保険料が高くなることが想定されますが、あなたは、今後の介護保険料のあり方についてどう思いますか。

●「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」（36.3%）が最も多い

介護保険サービスと介護保険料のあり方（全体・要介護度別）



「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」（36.3%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（25.8%）、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」（18.3%）である。

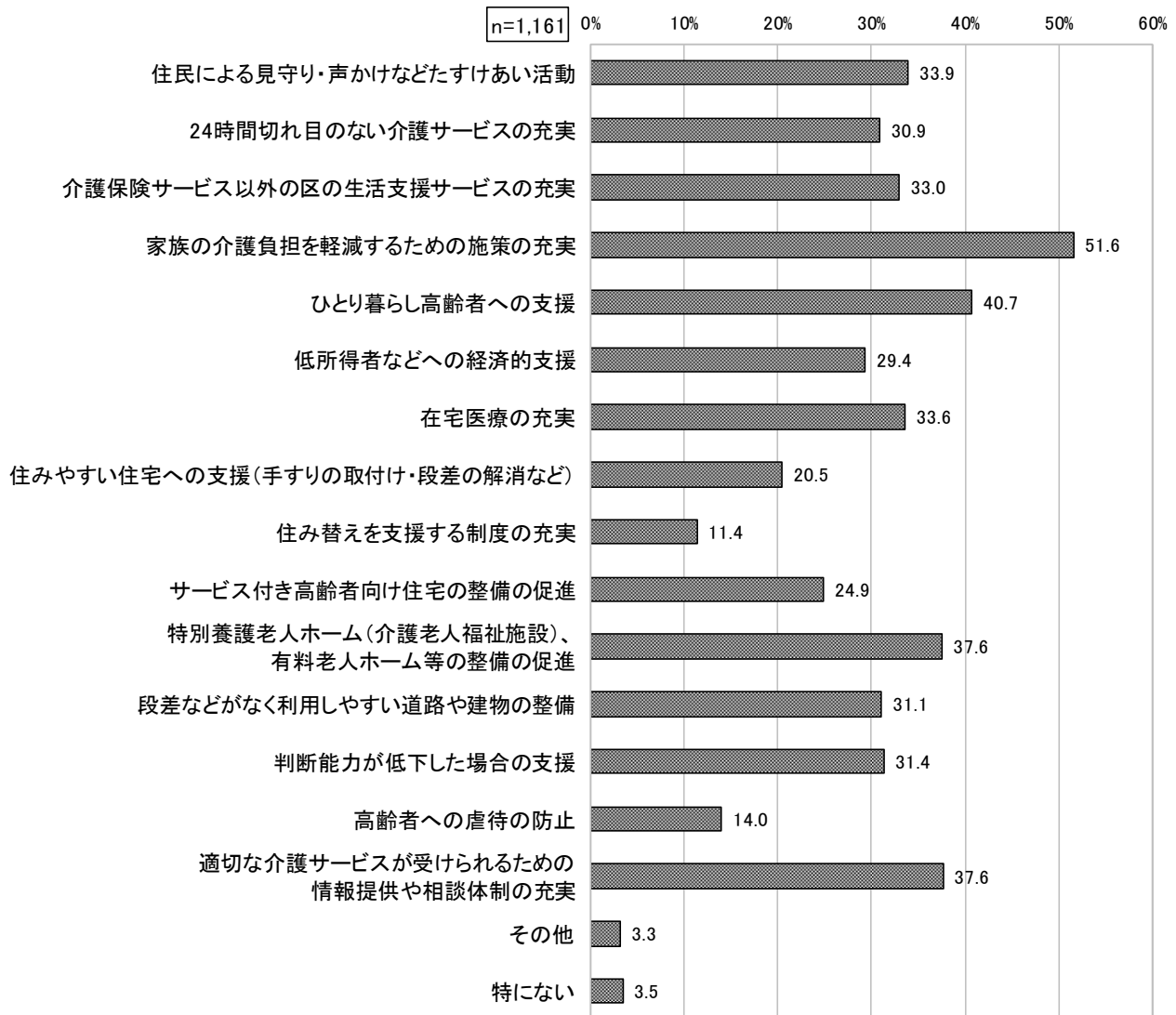
前回調査と比べると、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が4.3ポイント減り、「どちらともいえない」が3.8ポイント増えている。

要介護度別で見ると、要介護4は全体と比べて、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」の割合がやや高い。

(2) 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策

問 36：住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で中央区が力を入れていくべきものは何だと思いませんか。【複数回答】

●「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」（51.6%）が最も多い



<その他の回答>

- ショートステイの増設
- 昼間ひとり暮らしの高齢者への支援
- 高齢者であっても自立（生きるたのしみ等）できる環境の整備
- 各事業者に対するチェック体制及び強化

「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」（51.6%）が最も多く、次いで「ひとり暮らし高齢者への支援」（40.7%）、「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備の促進」と「適切な介護サービスが受けられるための情報提供や相談体制の充実」がそれぞれ 37.6%である。

(3) 高齢者向けサービスに関する意見

問 37 高齢者向けのサービスなどに関するご意見をご自由にお書きください。

【① ケアマネジメントやサービスの質に関すること】

- ケアマネジャーの資質によるところが大きいので、他のケアマネジャーの意見を聴く機会があるとよいと思う。
- 介護従事者の待遇を改善して担い手を増やしていくべきだ。

【② 各種情報について】

- 「おとしより相談センター」の方が、とても親身になって相談にのってくれ、有難く思っている。今後、高齢者が増え、サービスが受けにくくなるのではないかと不安。
- 介護サービス提供事業所を選ぶ際の情報及び評価（口コミ）の整備、充実が必要。どう選んでよいかわからないので困る。
- 特養など区内の施設を見学させてほしい。

【③ 家族介護に関すること】

- 在宅介護する家族の為に、介護の知識の講座があるといいと思う。（おむつ換え、食事のこと、床ずれをしない工夫等）
- 特養に入るのに100人以上待っている状態の中、介護なしでは厳しくなり、入れなければ仕事を続けていくこともできず不安。早く入れるようにしてほしい。
- 家族の見守りができない人のため、夜間サービスを増やしてほしい。
- 一人暮らしの高齢者への対応と同時に、親を一人で介護している二人暮らしの家庭が虐待に陥らない（被害者・加害者とならない）ための対応をすることは急務。
- 在宅介護で自分が倒れるかと思った。夜のサービスをお願いしても人手がないと言われ、対応してもらえず、勤めもあり会社は休めないため、身を切る思いだった。
- 痰の吸引など、24時間介護が必要な場合、家族は外出もままならない。

【④ 在宅医療に関すること】

- 在宅介護では「かかりつけ医」がいても、往診、夜間対応はできないので、区で指定医療機関を作してほしい。ほとんどが勤務医なので、常に不安を感じる。
- 1年に1回でも在宅で困っている医療の必要などを書面ではなく聞いてほしい。

【⑤ 地域の見守り、地域交流に関すること】

- 集合住宅で生活している一人暮らしの高齢者の見守り。
- 高齢者というくくりだけでなく、高齢者と子供のように相方にメリットがあるような交流の場があればいいと思う。
- 行政主導型では行き詰まりがあると思う。

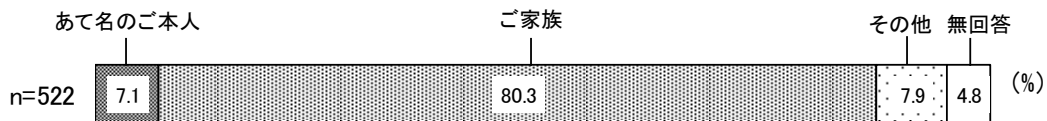
**オ 介護保険サービス利用状況等調査
【施設サービス利用者】（調査E）**

本調査は、要支援・要介護認定を受けている中央区の被保険者のうち都内の施設サービス利用者【全数】956人を対象としており、有効回答数は522件、回収率は54.6%であった。

1. 回答者の属性

(1) 調査票の記入者

問1：調査票を記入されたのはどなたですか。

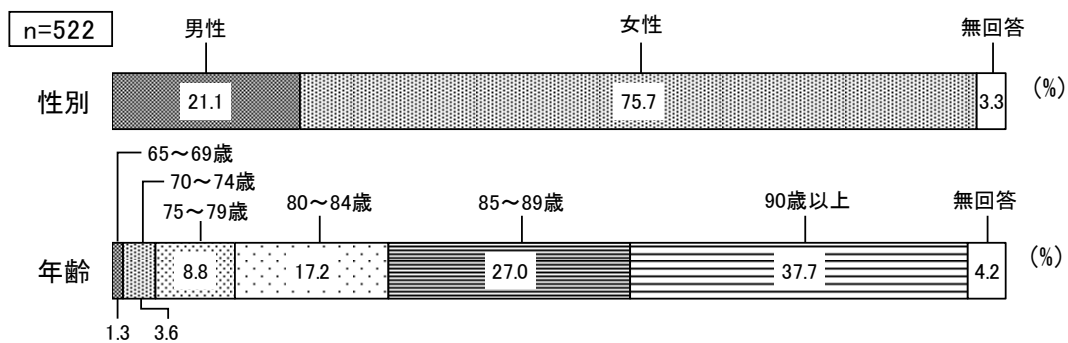


<その他の回答>

○介護施設職員 ○成年後見人 ○保佐人 ○担当ケアマネジャー

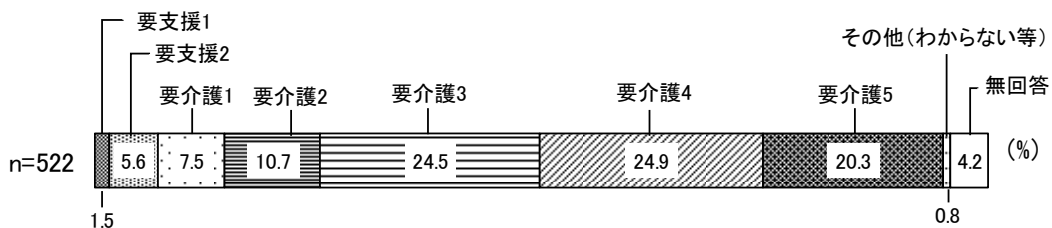
(2) 性別・年齢

問2：あなたの性別と平成28年11月1日現在の満年齢を記入してください。



(3) 要支援・要介護度

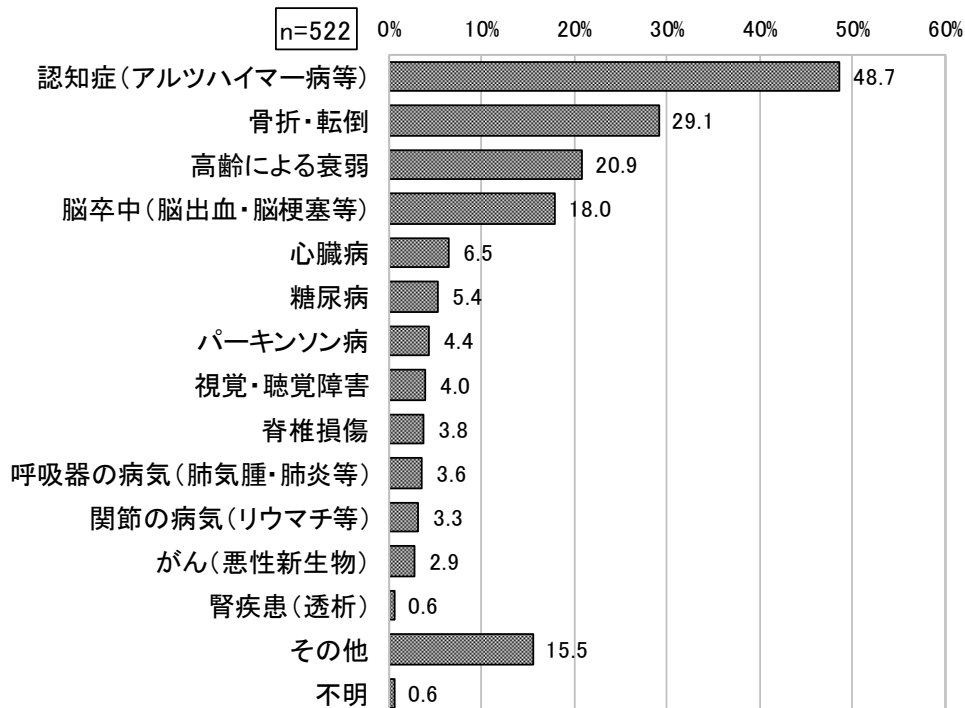
問3：あなたの現在の要介護度は何ですか。



(4) 介護・介助が必要になった原因

問4：介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。【複数回答】

● 「認知症（アルツハイマー病等）」（48.7%）が最も多い



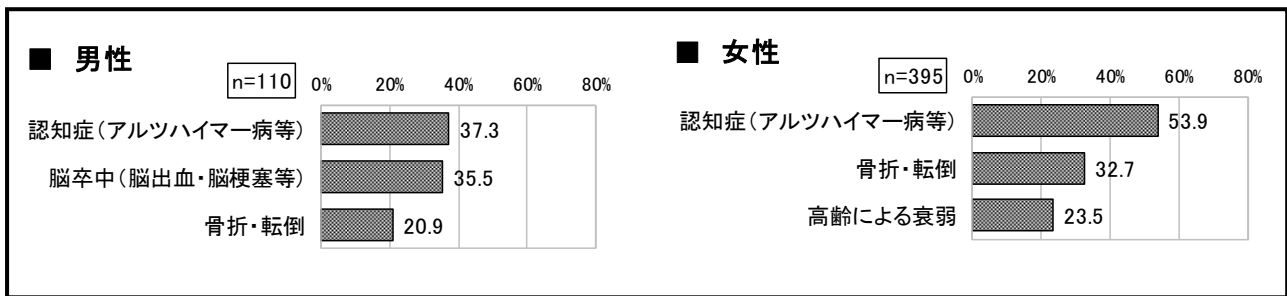
「認知症（アルツハイマー病等）」（48.7%）が最も多く、次いで「骨折・転倒」（29.1%）、「高齢による衰弱」（20.9%）である。

<その他の回答>

○歩行困難 ○脊柱管狭窄症 ○多系統萎縮症 ○うつ病 ○歩行と手の震えで自分で食事がとれない

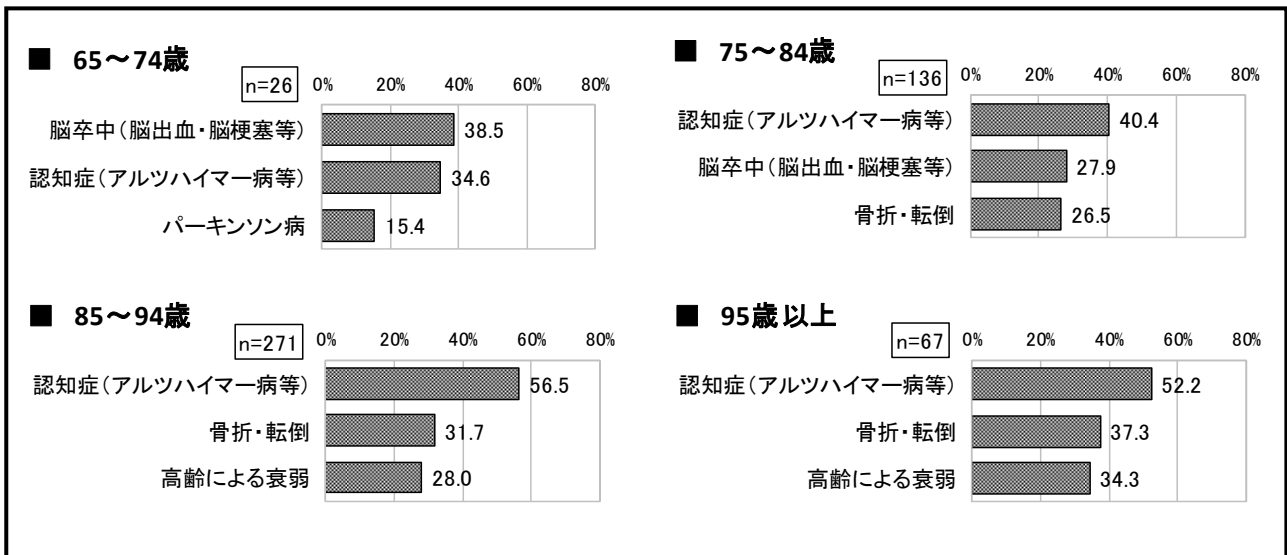
介護・介助が必要となった主な原因（上位3項目）

(性別)



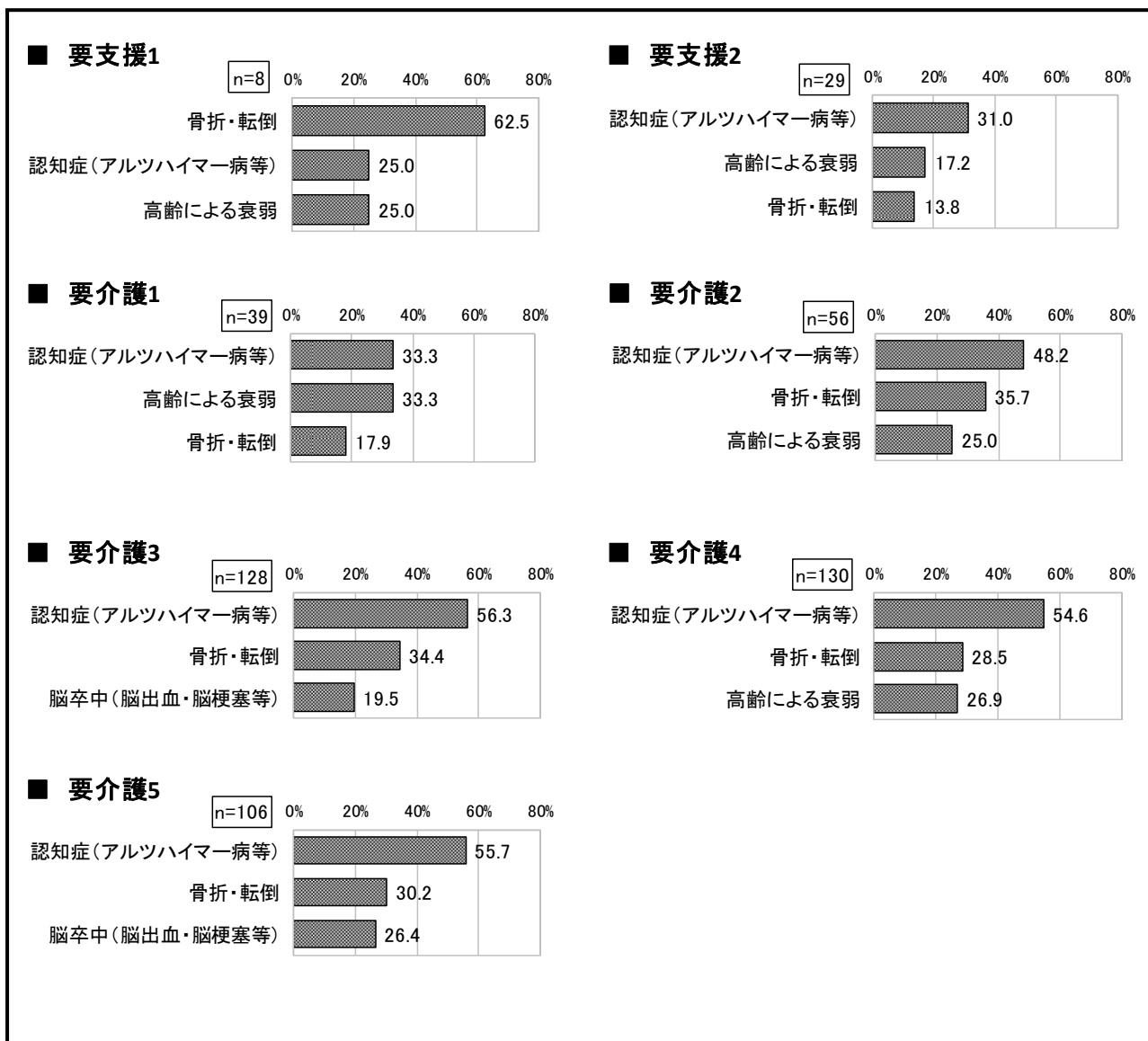
性別で見ると、男女ともに「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が最も高い。次いで、男性は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、女性は「骨折・転倒」の割合が高い。

(年代別)



年代別で見ると、75歳以上において「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が最も高い。また、65～84歳では、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が高く、85歳以上では「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」の割合が高い。

（要介護度別）



要介護度別で見ると、要支援1は「骨折・転倒」の割合が高い。要支援2以上で「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が最も高く、要介護3以上では5割を超える。また、全ての介護度で「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」の割合が高い。

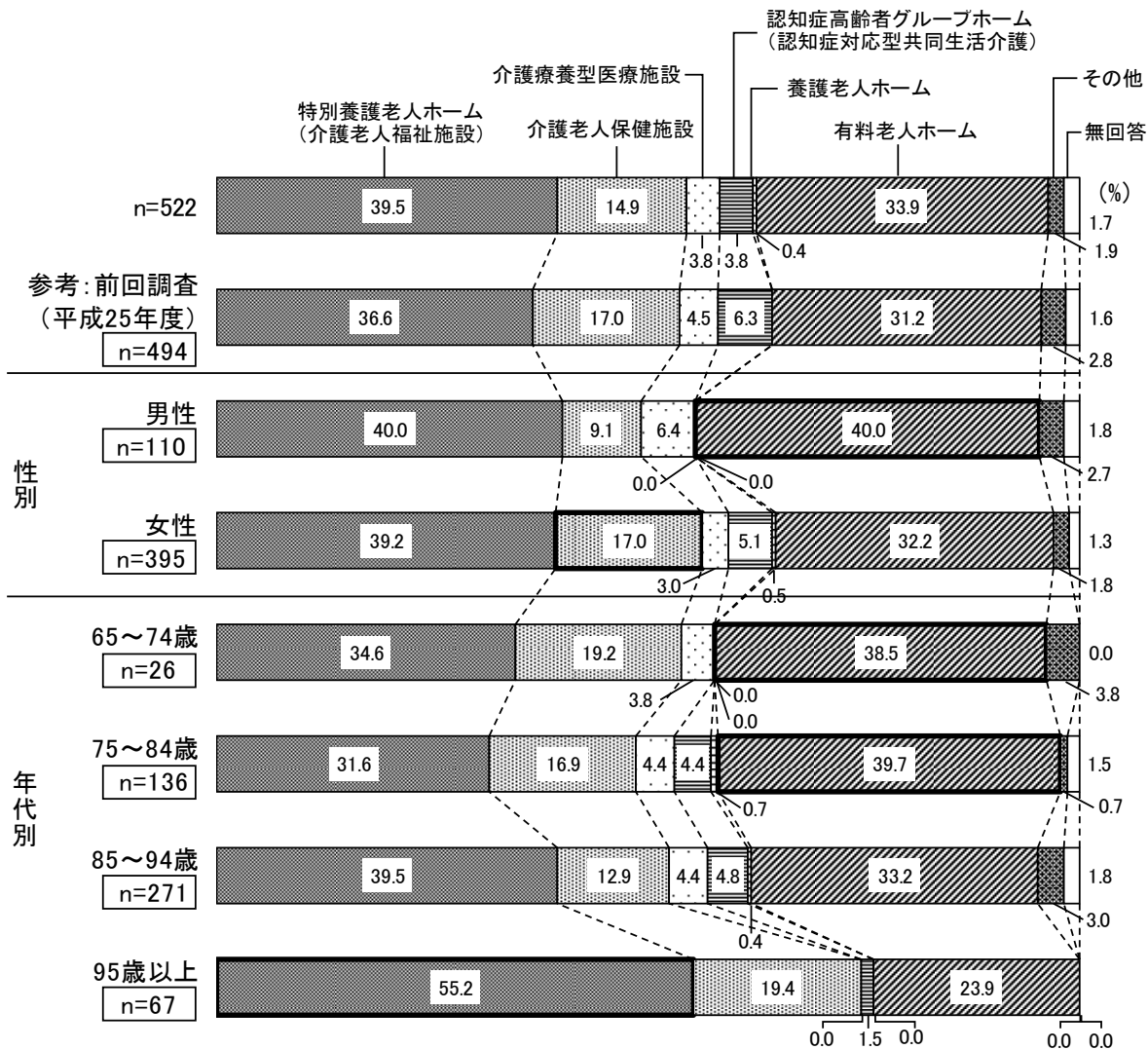
2. 入所施設及び家族や生活状況

(1) 現在の入所施設の種別

問5：あなたが、入所している施設は何ですか。

●「特別養護老人ホーム」(39.5%)が最も多く、次いで「有料老人ホーム」(33.9%)

入所施設の種別(全体・性別・年代別)

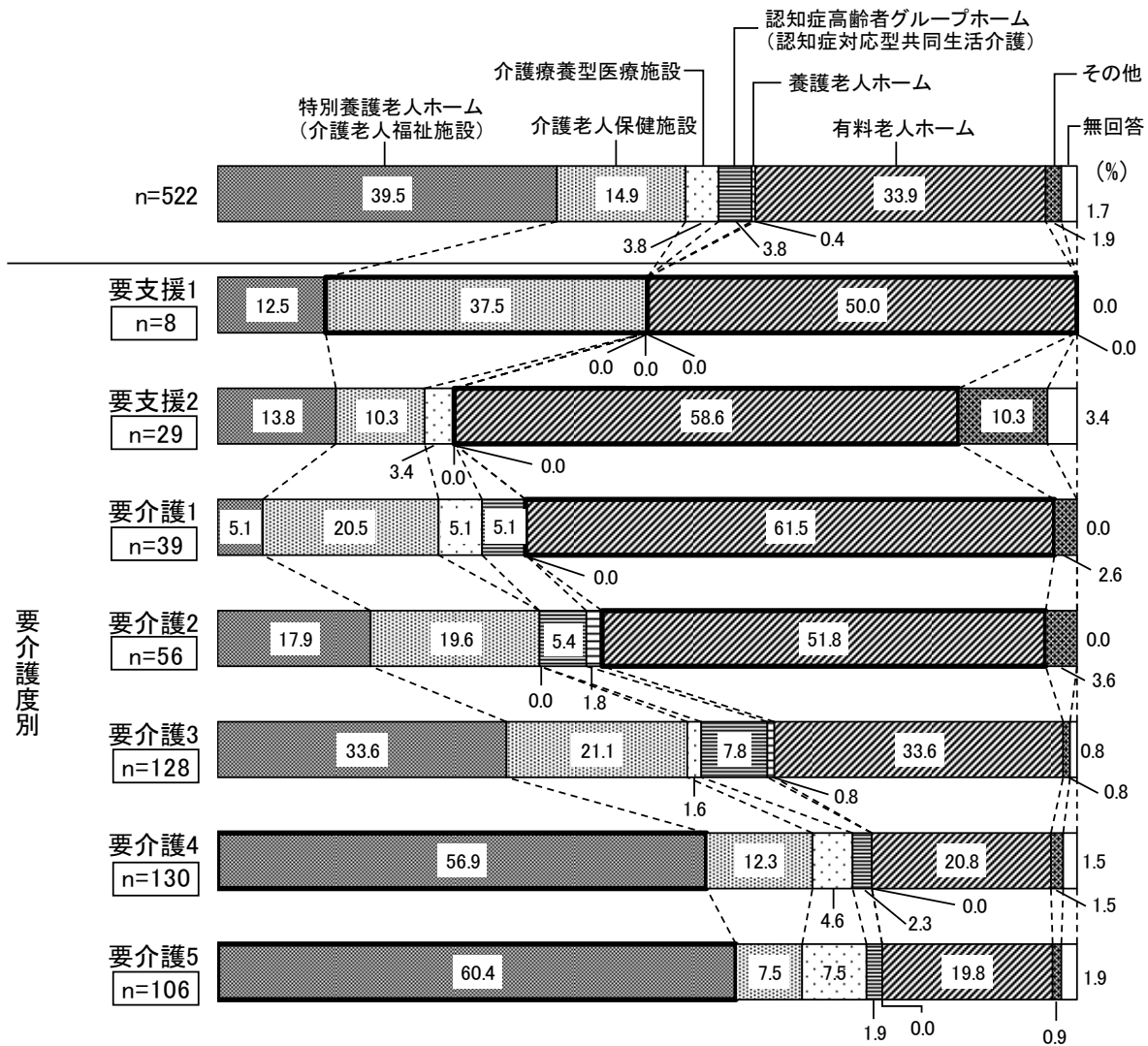


前回調査と比べると、大きな差は見られないが、「特別養護老人ホーム」の割合がやや高くなり、一方で「認知症高齢者グループホーム」及び「介護老人保健施設」の割合がやや低くなっている。

また、性別で見ると、男性は女性と比べて「有料老人ホーム」、女性は男性と比べて「介護老人保健施設」の割合が高い。

年代別で見ると、65~84歳は全体と比べて、「有料老人ホーム」の割合が高く、95歳以上では「特別養護老人ホーム」の割合が高い。

現在の入所施設の種別（全体・要介護度別）



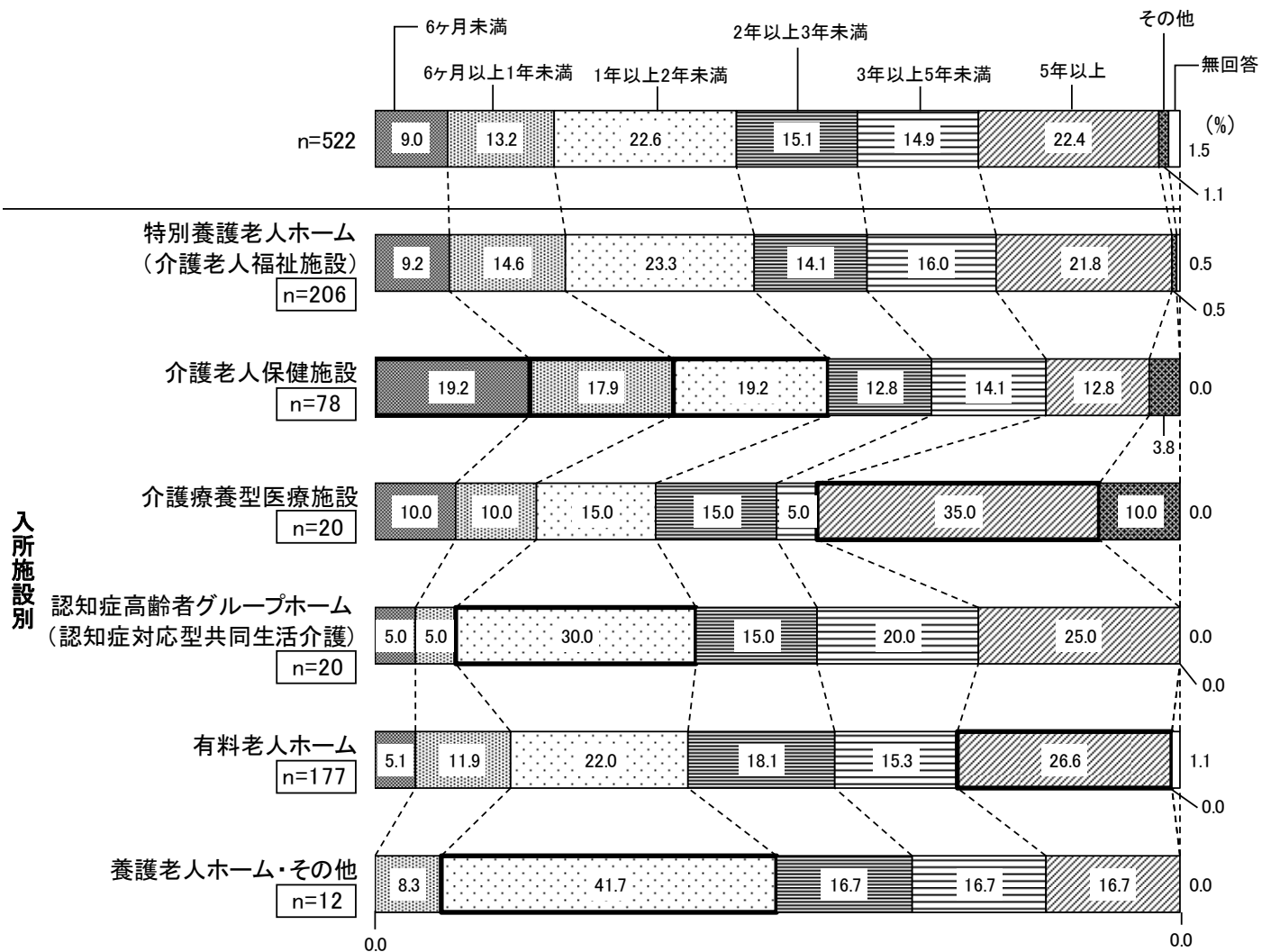
要介護度別で見ると、要支援1は全体と比べて「介護老人保健施設」の割合が高い。要支援1～要介護2は全体と比べて「有料老人ホーム」の方の割合が高く、要介護4及び5は全体と比べて「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」の割合が高い。

(2) 入所年数

問6：あなたの施設への入所年数についてお聞きします。

●「1年以上2年未満」(22.6%)が最も多く、次いで「5年以上」(22.4%)

入所年数(全体・入所施設別)



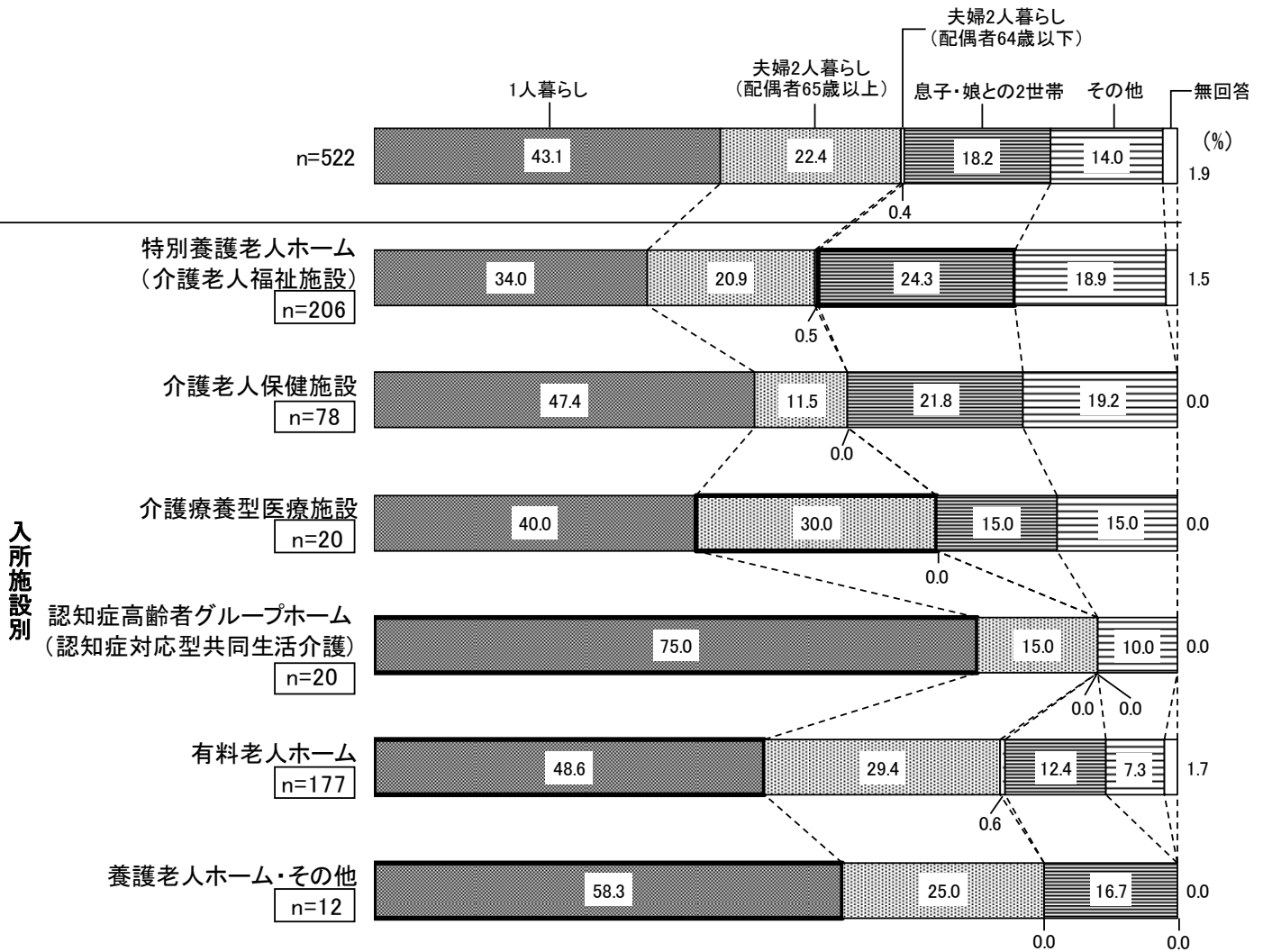
入所施設別で見ると、介護老人保健施設は全体と比べて、2年未満の短期間の割合が高く、認知症高齢者グループホーム及び養護老人ホーム・その他は全体と比べて「1年以上2年未満」の割合が高い。また、介護療養型医療施設及び有料老人ホームは全体と比べて「5年以上」の割合が高い。

(3) 入所前の家族構成

問7：施設に入所する前のあなたの家族構成をお教えてください。

●入所前の家族構成は「1人暮らし」(43.1%)が最も多い

入所前の家族構成(全体・家族構成別)



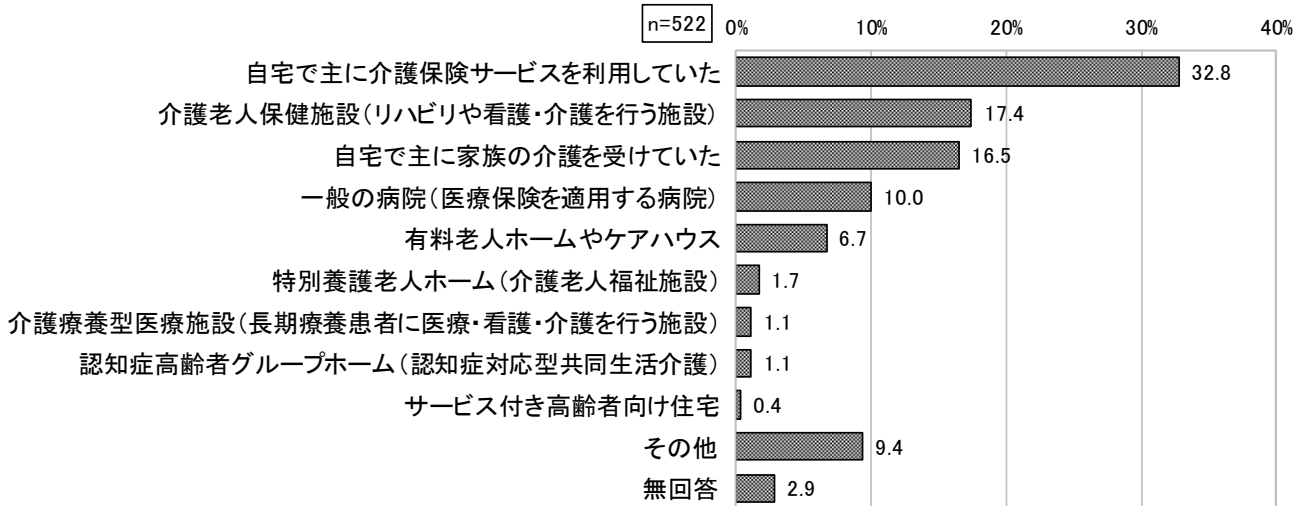
入所施設別で見ると、特別養護老人ホームは全体と比べて、入所する前は「息子・娘との2世帯」の割合が高く、介護療養型医療施設は全体と比べて、入所する前は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が高い。また、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム及び養護老人ホーム・その他は全体と比べて、入所する前は「1人暮らし」の割合が高い。

3. 入所までの経緯等

(1) 入所前に介護を受けていた場所

問8：あなたは、現在の施設に入所する直前は、主にどこで介護を受けていましたか。

●「自宅で主に介護保険サービスを利用していた」(32.8%)が最も多い



「自宅で主に介護保険サービスを利用していた」(32.8%)が最も多く、次いで「介護老人保健施設」(17.4%)、「自宅で主に家族の介護を受けていた」(16.5%)である。

入所前に介護を受けていた場所（入所施設別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	
		自宅で主に介護保険サービスを利用していた	自宅で主に家族の介護を受けていた	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）	介護老人保健施設（リハビリや看護・介護を行う施設）	介護療養型医療施設（長期療養患者に医療・看護・介護を行う施設）	一般の病院（医療保険を適用する病院）	
全体		522 100.0	171 32.8	86 16.5	9 1.7	91 17.4	6 1.1	52 10.0
入所施設別	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）	206 100.0	65 31.6	23 11.2	4 1.9	66 32.0	4 1.9	12 5.8
	介護老人保健施設	78 100.0	25 32.1	15 19.2	2 2.6	9 11.5	0 0.0	14 17.9
	介護療養型医療施設	20 100.0	3 15.0	3 15.0	2 10.0	3 15.0	1 5.0	3 15.0
	認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	20 100.0	12 60.0	3 15.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0
	有料老人ホーム	177 100.0	62 35.0	37 20.9	1 0.6	11 6.2	1 0.6	21 11.9
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	2 16.7	4 33.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3

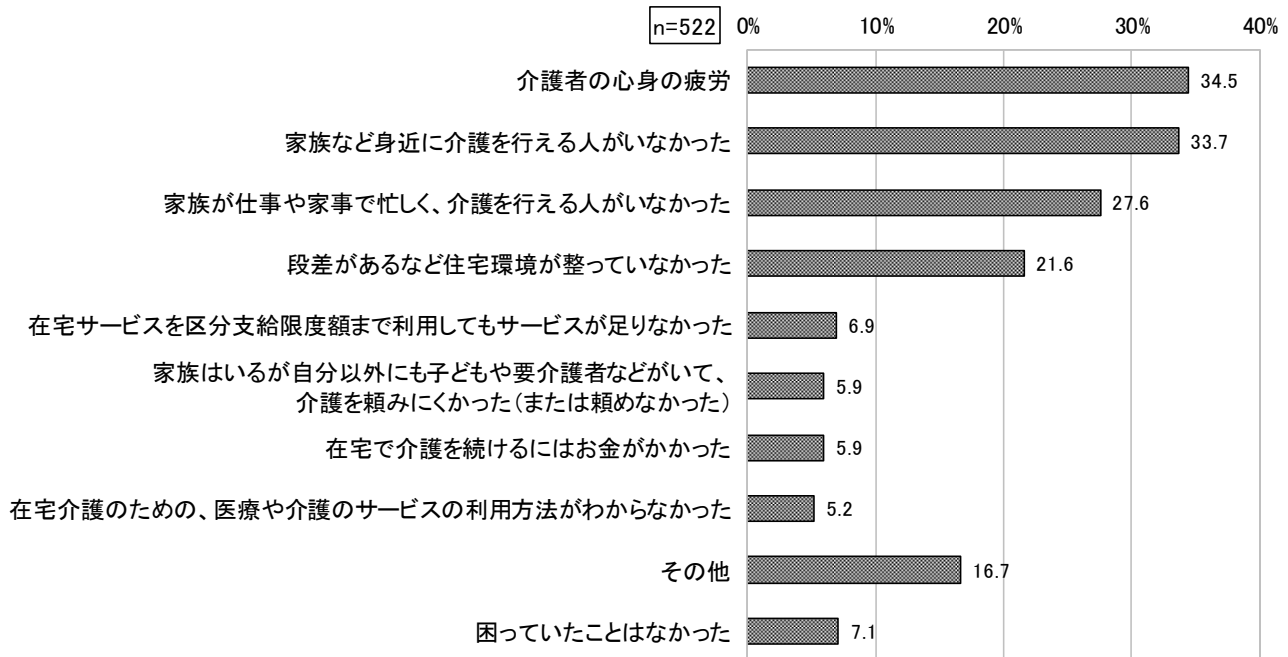
		7	8	9	10		
		有料老人ホームやケアハウス	サービス付き高齢者向け住宅	（認知症高齢者対応型共同生活介護）	その他	無回答	
全体		522 100.0	35 6.7	2 0.4	6 1.1	49 9.4	15 2.9
入所施設別	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）	206 100.0	17 8.3	0 0.0	4 1.9	9 4.4	2 1.0
	介護老人保健施設	78 100.0	3 3.8	1 1.3	1 1.3	8 10.3	0 0.0
	介護療養型医療施設	20 100.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 15.0
	認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	20 100.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	11 6.2	1 0.6	0 0.0	29 16.4	3 1.7
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	2 16.7

入所前に介護を受けていた場所を入所施設別で見ると、特別養護老人ホームの入所者は全体と比べて、「介護老人保健施設」の割合が高く、介護老人保健施設の入所者は全体と比べて、「一般の病院」の割合が高い。また、認知症高齢者グループホームの入所者は全体と比べて、「自宅で主に介護保険サービスを利用していた」割合が高い。

(2) 入所前の在宅生活での困りごと

問9：あなたが、現在の施設に入所する前までに在宅生活を送るうえで困っていたことは何ですか。
【複数回答】

●「介護者の心身の疲労」(34.5%)が最も多く、次いで「家族など身近に介護を行える人がいなかった」(33.7%)



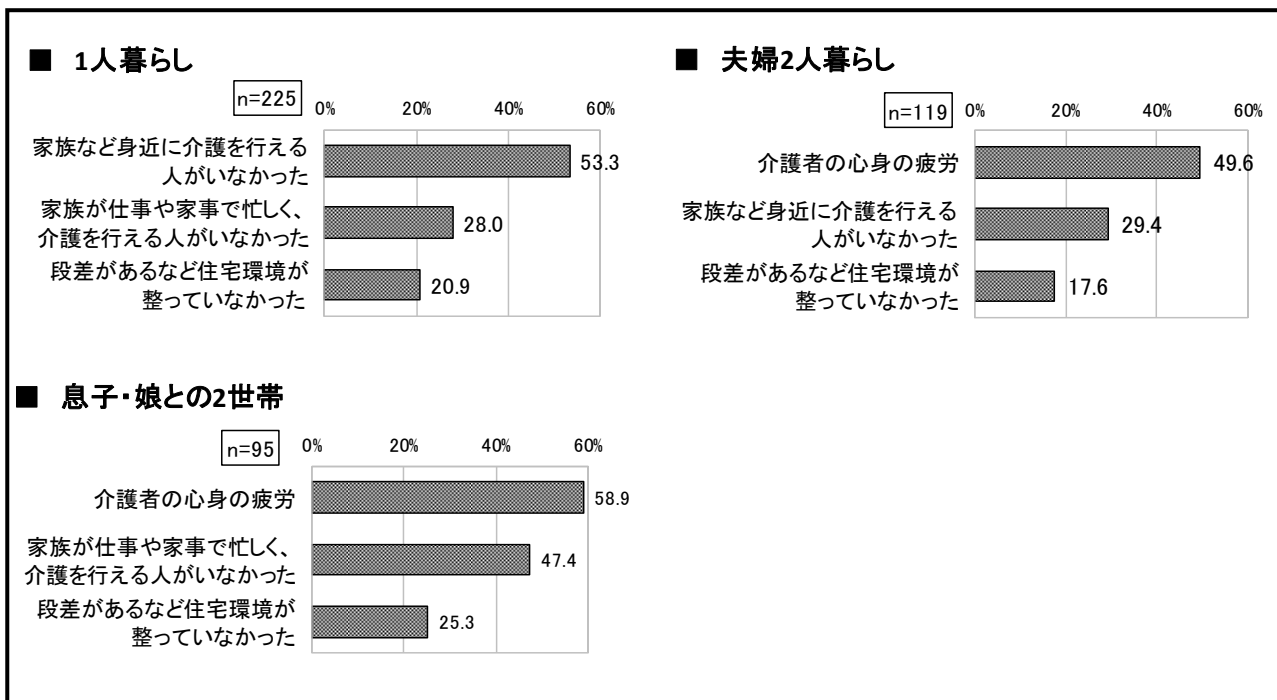
<その他の回答>

- 身のまわりの事、金銭管理ができなくなった。
- 認知症がひどくなり生活に支障があった。
- 移動に介助が必要だったが、マンションで車椅子が使いえなかった。
- 介護サービスを受けるまでは掃除、入浴に困った。
- 家族の通い介護に限界を感じた。

「介護者の心身の疲労」(34.5%)が最も多く、次いで「家族など身近に介護を行える人がいなかった」(33.7%)、「家族が仕事や家事で忙しく、介護を行える人がいなかった」(27.6%)である。

入所前までの在宅生活での困りごと（上位3項目）

（入所前の家族構成別）



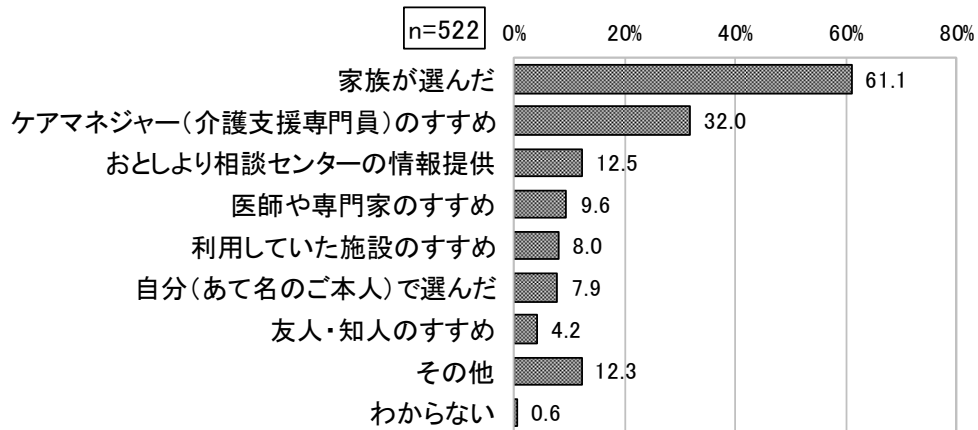
※「夫婦2人暮らし」は選択肢「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以下）」を合わせたもの。

入所前の家族構成別で見ると、1人暮らしは「家族など身近に介護を行える人がいなかった」の割合が最も高い。また、夫婦2人暮らし及び息子・娘との2世帯は「介護者の心身の疲労」の割合が最も高い。

(3) 施設の選択方法

問10：あなたは、現在入所している施設をどのようにして選びましたか。【複数回答】

●「家族が選んだ」(61.1%)が最も多く、次いで「ケアマネジャー(介護支援専門員)のすすめ」(32.0%)



<その他の回答>

○成年後見人 ○老人ホーム紹介所 ○親戚が入所している

「家族が選んだ」(61.1%)が最も多く、次いで「ケアマネジャー(介護支援専門員)のすすめ」(32.0%)、「おとしより相談センターの情報提供」(12.5%)である。

施設の選択方法(入所施設別)

上段:実数(人)
下段:構成比(%)

			1 自分 選んだ (あて 名のご 本人) で	2 家族 が選 んだ	3 おと しよ り相 談セ ンタ ーの 情 報提 供	4 ケア マネ ジャ ー(介 護支 援専 門員) のす すめ	5 友 人・ 知 人の す すめ
全体		522 100.0	41 7.9	319 61.1	65 12.5	167 32.0	22 4.2
入所施設 別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	10 4.9	127 61.7	33 16.0	81 39.3	8 3.9
	介護老人保健施設	78 100.0	1 1.3	46 59.0	14 17.9	34 43.6	7 9.0
	介護療養型医療施設	20 100.0	2 10.0	10 50.0	1 5.0	5 25.0	0 0.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	0 0.0	13 65.0	1 5.0	12 60.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	26 14.7	113 63.8	15 8.5	30 16.9	5 2.8
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	1 8.3	7 58.3	1 8.3	3 25.0	2 16.7

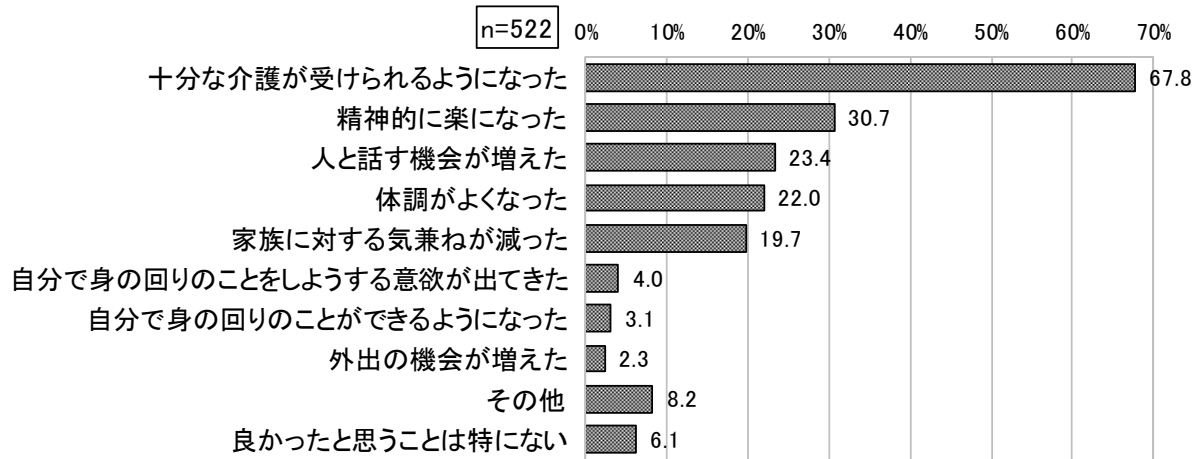
			6 医 師 や 専 門 家 の す す め	7 利 用 し て い た 施 設 の す す め	8 そ の 他	9 わ か ら な い	無 回 答
全体		522 100.0	50 9.6	42 8.0	64 12.3	3 0.6	8 1.5
入所施設 別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	16 7.8	29 14.1	30 14.6	1 0.5	1 0.5
	介護老人保健施設	78 100.0	8 10.3	5 6.4	4 5.1	0 0.0	0 0.0
	介護療養型医療施設	20 100.0	5 25.0	2 10.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	2 10.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	18 10.2	4 2.3	23 13.0	2 1.1	2 1.1
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	0 0.0	2 16.7	3 25.0	0 0.0	0 0.0

入所施設別で見ると、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及び認知症高齢者グループホームは全体と比べて、「ケアマネジャー（介護支援専門員）のすすめ」と回答した割合が高い。また、介護療養型医療施設は「医師や専門家のすすめ」、有料老人ホームは「自分で選んだ」と回答した割合が高い。

(4) 入所して良かったこと

問11：あなたにとって、現在の施設に入所して良かったと思うことは何ですか。【複数回答】

● 「十分な介護を受けられるようになった」(67.8%) が最も多い



<その他の回答>

○1人でいても安心 ○医師の手当がすぐに受けられる ○突然の病気や怪我に対応してもらえる

「十分な介護を受けられるようになった」(67.8%)が最も多く、次いで「精神的に楽になった」(30.7%)、「人と話す機会が増えた」(23.4%)である。

入所して良かったこと（入所施設別）

上段：実数(人)
下段：構成比(%)

		1	2	3	4	5	6	
		よ う な な っ た	精 神 的 に 楽 に な っ た	減 家 族 に 対 す る 気 兼 ね が	外 出 の 機 会 が 増 え た	人 と 話 す 機 会 が 増 え た	し 自 分 で す る 身 の 回 り の こ と を 意 欲 が 出 て き た	
全体		522 100.0	354 67.8	160 30.7	103 19.7	12 2.3	122 23.4	21 4.0
入所施設別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	159 77.2	57 27.7	34 16.5	4 1.9	31 15.0	12 5.8
	介護老人保健施設	78 100.0	50 64.1	28 35.9	23 29.5	0 0.0	26 33.3	3 3.8
	介護療養型医療施設	20 100.0	12 60.0	4 20.0	4 20.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	15 75.0	9 45.0	4 20.0	2 10.0	8 40.0	1 5.0
	有料老人ホーム	177 100.0	107 60.5	56 31.6	34 19.2	5 2.8	49 27.7	4 2.3
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	8 66.7	4 33.3	1 8.3	1 8.3	3 25.0	0 0.0

		7	8	9	10		
		で 自 分 で よ う な 回 り の こ と が	体 調 が よ く な っ た	そ の 他	特 良 に な っ た と 思 う こ と は	無 回 答	
全体		522 100.0	16 3.1	115 22.0	43 8.2	32 6.1	27 5.2
入所施設別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	4 1.9	40 19.4	21 10.2	9 4.4	6 2.9
	介護老人保健施設	78 100.0	5 6.4	23 29.5	6 7.7	1 1.3	5 6.4
	介護療養型医療施設	20 100.0	2 10.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	0 0.0	9 45.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	4 2.3	38 21.5	13 7.3	17 9.6	9 5.1
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	3 25.0	0 0.0

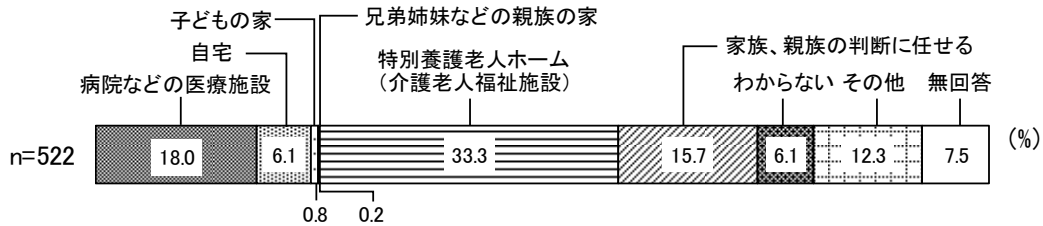
入所施設別で見ると、特別養護老人ホームへの入所者は全体と比べて、「十分な介護を受けられるようになった」と回答した割合が高い。また、介護老人保健施設及び認知症高齢者グループホームへの入所者は全体と比べて、「精神的に楽になった」、「人と話す機会が増えた」及び「体調がよくなった」と回答した割合が高い。

4. 今後の介護の希望等

(1) 終末期に介護を受けたい場所

問 12：あなたは、病気が治る可能性がなくなり、終末期になった場合、どこで介護を受けたいと思いますか。

●「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」（33.3%）が最も多い



<その他の回答>

○現在入居しているグループホーム ○現在入居している有料老人ホーム

「特別養護老人ホーム」（33.3%）が最も多く、次いで「病院などの医療施設」（18.0%）、「家族、親族の判断に任せる」（15.7%）である。

終末期に介護を受けたい場所（入所施設別）

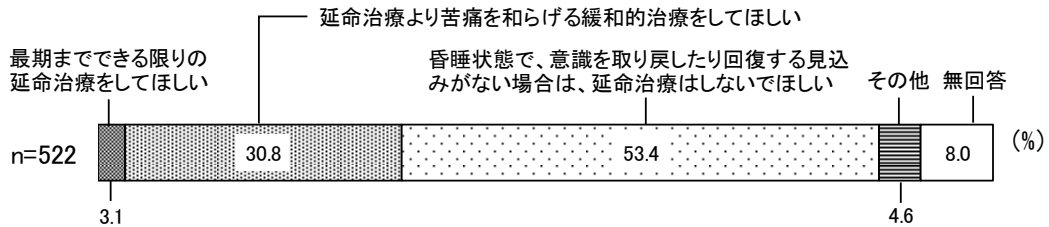
		上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8		
		病院などの医療施設	自宅	子どもの家	兄弟姉妹などの親族の家	(特別養護老人福祉施設)	任せる、親族の判断に	その他	わからない	無回答	
全体		522 100.0	94 18.0	32 6.1	4 0.8	1 0.2	174 33.3	82 15.7	32 6.1	64 12.3	39 7.5
入所施設別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	22 10.7	10 4.9	1 0.5	0 0.0	107 51.9	23 11.2	1 0.5	28 13.6	14 6.8
	介護老人保健施設	78 100.0	13 16.7	9 11.5	0 0.0	0 0.0	28 35.9	15 19.2	1 1.3	5 6.4	7 9.0
	介護療養型医療施設	20 100.0	7 35.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	3 15.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	8 40.0	1 5.0	4 20.0	3 15.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	42 23.7	12 6.8	3 1.7	0 0.0	21 11.9	39 22.0	22 12.4	26 14.7	12 6.8
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	3 25.0	1 8.3	0 0.0

入所施設別で見ると、特別養護老人ホームは全体と比べて、終末期も「特別養護老人ホーム」を希望する人の割合が高い。また、介護療養型医療施設、有料老人ホーム及び養護老人ホーム・その他の入所者は全体と比べて、「病院などの医療施設」の割合が高い。

(2) 延命治療について

問 13：あなたは、延命のために医療を受けることについてどう思いますか。

●「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」
(53.4%) が最も多い



<その他の回答>

- 考えたことがなかったのでわからない
- その時相談したい
- 家族の判断に任せる
- 認知症の進行により本人の意思不明
- 本人の希望分からず

「最期までできる限りの延命治療をしてほしい」は3.1%となっている。

延命治療について（入所施設別）

		上段: 実数(人) 下段: 構成比(%)					
		1	2	3	4	無回答	
		延最 命期 治ま 療で でき るほ 限り の	し和 てら ほげ しる い緩 和り 的 治 療を	はが 戻し ない 場 でほ は復 し、 い延 命見 治込 療み	昏 睡 状 態 で 回 復 す 意 識 を 取 り 戻 さ な い 場 合 は 、 延 命 治 療 は し な い で ほ しい	そ の 他	
全体		522 100.0	16 3.1	161 30.8	279 53.4	24 4.6	42 8.0
入所施設別	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	206 100.0	8 3.9	68 33.0	112 54.4	4 1.9	14 6.8
	介護老人保健施設	78 100.0	4 5.1	21 26.9	42 53.8	6 7.7	5 6.4
	介護療養型医療施設	20 100.0	0 0.0	7 35.0	9 45.0	1 5.0	3 15.0
	認知症高齢者グループホーム (認知症対応型共同生活介護)	20 100.0	1 5.0	5 25.0	13 65.0	1 5.0	0 0.0
	有料老人ホーム	177 100.0	2 1.1	55 31.1	92 52.0	11 6.2	17 9.6
	養護老人ホーム・その他	12 100.0	0 0.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	0 0.0

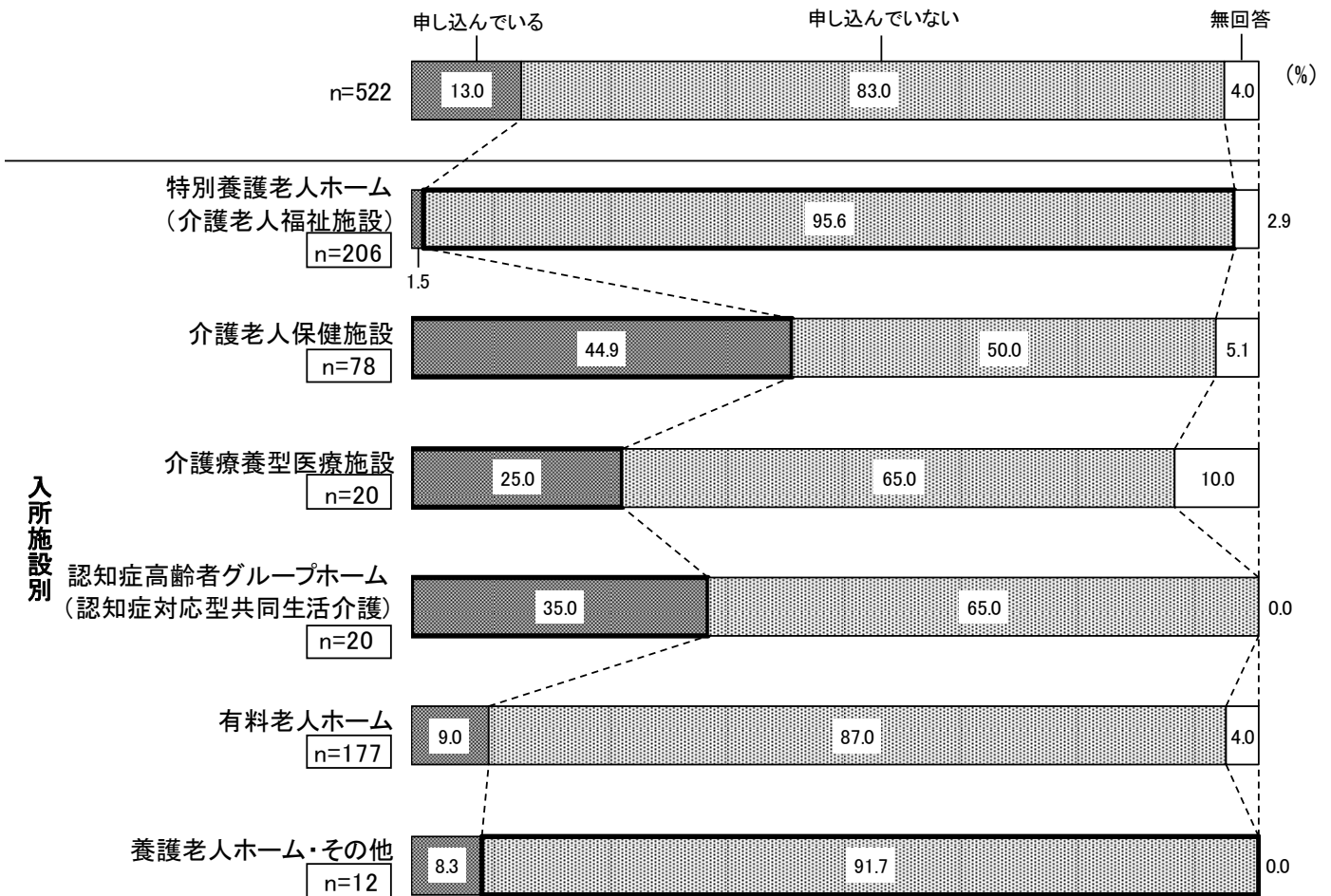
入所施設別で見ると、認知症高齢者グループホームは全体と比べて「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」の割合が高い。

(3) 他の施設への申し込み状況

問 14：あなたは、現在入所している施設以外に入所を申し込んでいますか。

●現在入所している施設以外に入所を「申し込んでいる」のは13.0%

他の施設への申込み状況（全体・入所施設別）



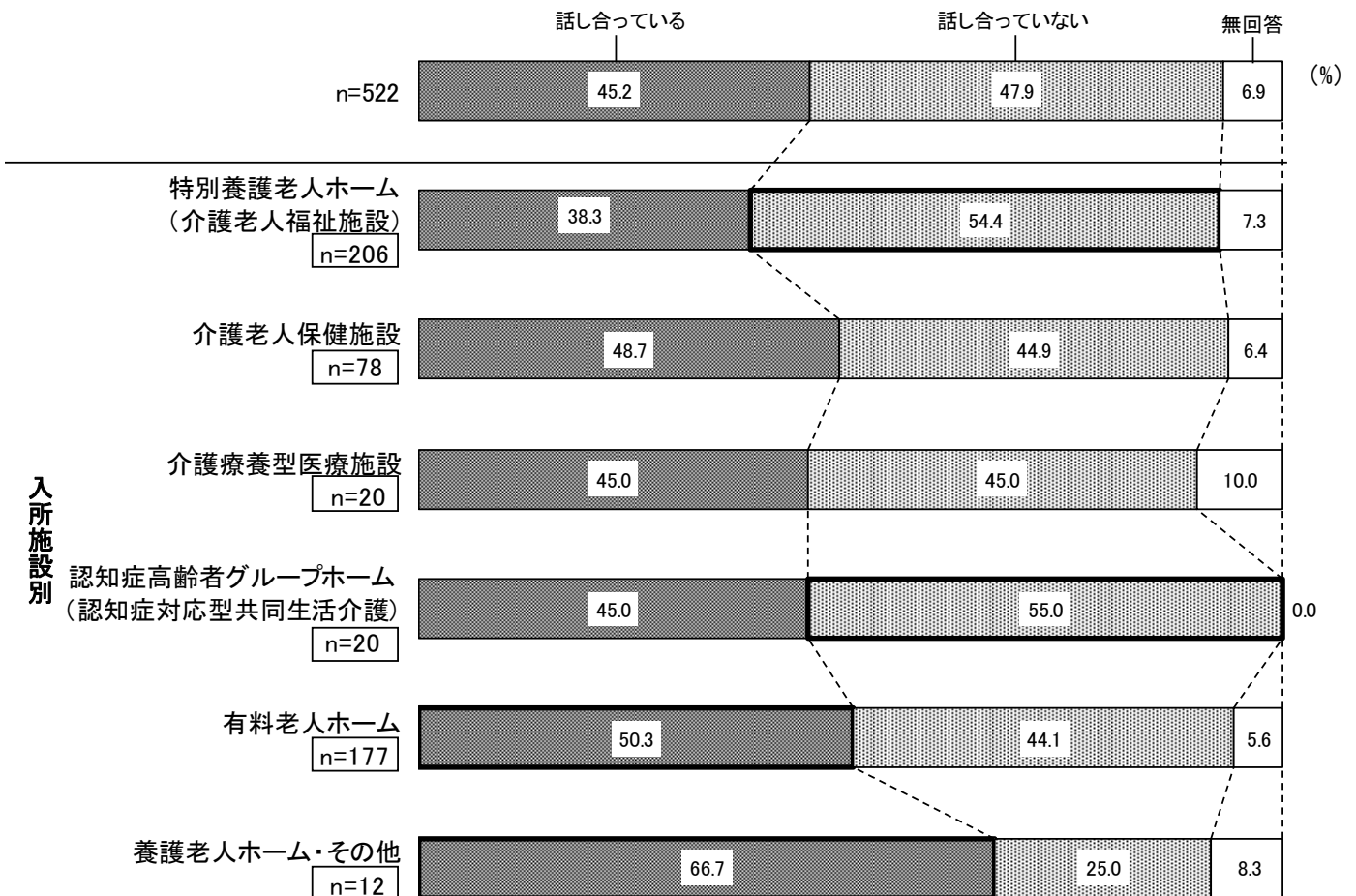
入所施設別で見ると、全体と比べて「申し込んでいない」割合が高いのは、特別養護老人ホーム及び養護老人ホーム・その他の入所者である。一方、「申し込んでいる」の割合が高いのは介護老人保健施設、介護療養型医療施設及び認知症高齢者グループホームへの入所者である。

(4) 家族や周囲へ意向を伝えたかどうか

問 15：あなたは、今後の医療や介護について自分が望むことを、ご家族や周囲の方と話し合っていますか。

● 「話し合っている」（45.2%）より、「話し合っていない」（47.9%）の割合がやや高い

家族や周囲へ意向を伝えたかどうか（全体・入所施設別）



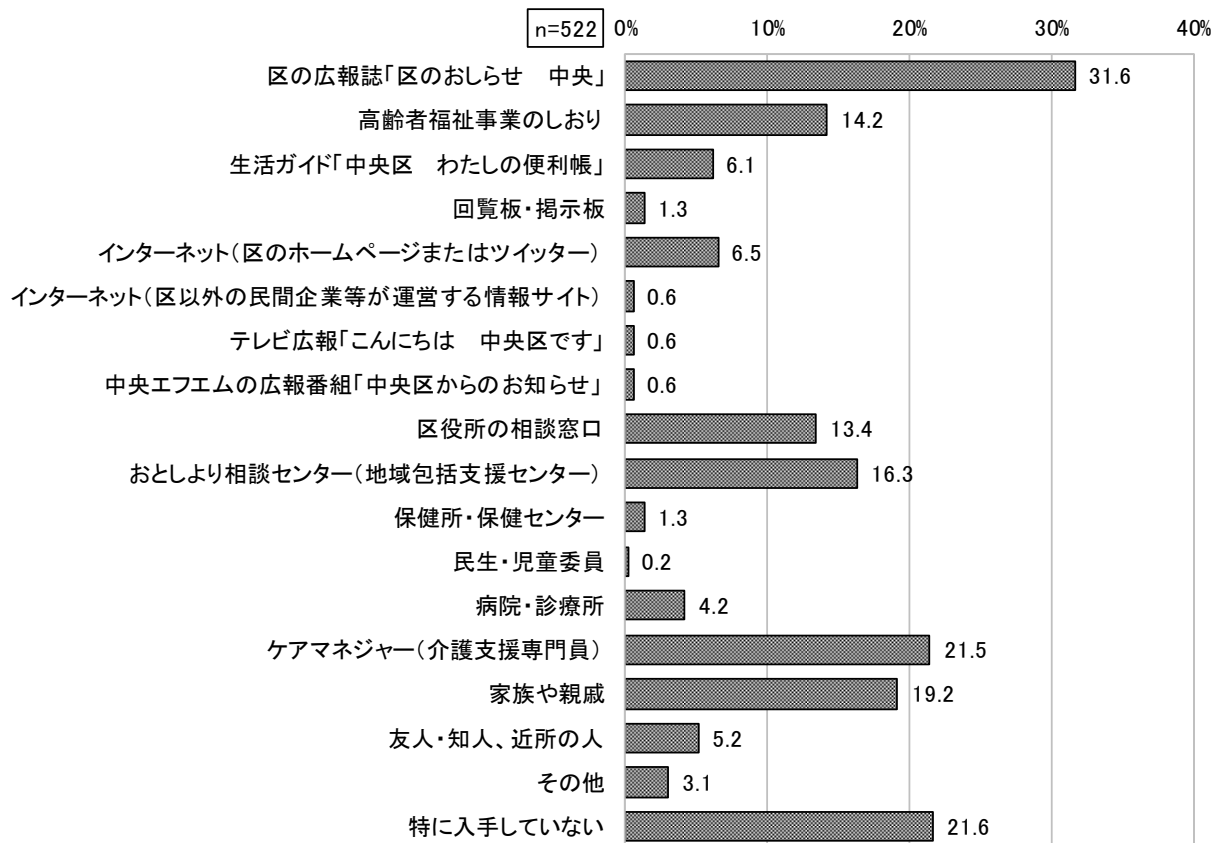
入所施設別で見ると、有料老人ホーム及び養護老人ホーム・その他の入所者は全体と比べて、「話し合っている」の割合が高い。一方、特別養護老人ホーム及び認知症高齢者グループホームの入所者は全体と比べて、「話し合っていない」の割合が高い。

5. 今後の高齢者保健福祉施策

(1) 区からの情報の入手先

問16：あなたは、中央区からの情報は主にどこから入手していますか。【複数回答】

●「区の広報誌」(31.6%)が最も多い



<その他の回答>

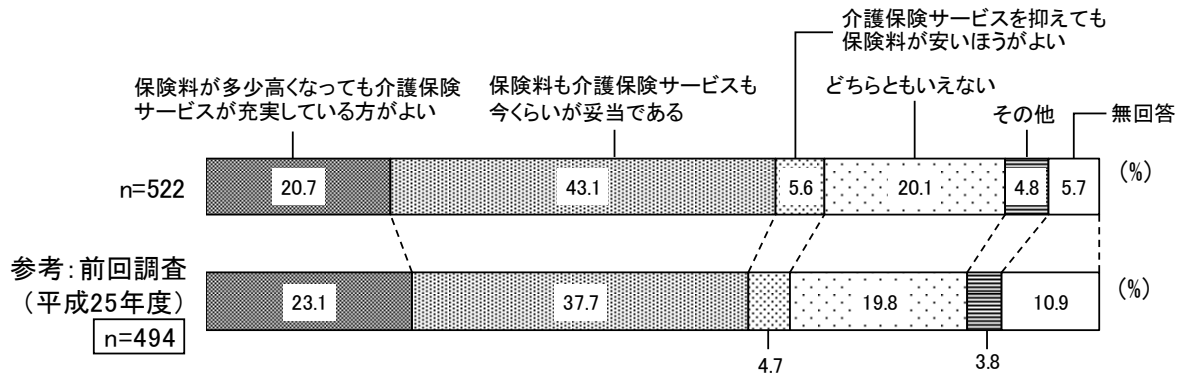
○施設の職員 ○保佐人

「区の広報誌」(31.6%)が最も多く、次いで「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(21.5%)、「家族や親戚」(19.2%)である。なお、「特に入手していない」は21.6%である。

(2) 介護保険サービスと介護保険料のあり方

問 17：今後、高齢者が増加していくにつれて介護保険料が高くなることが想定されますが、あなたは、今後の介護保険料のあり方についてどう思いますか。

●「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」（43.1%）が最も多い



<その他の回答>

- 収入の範囲内で支払うことのできる保険料が妥当
- 保険料とサービスレベルを複数用意し、個々が選べるようにできればよい
- 介護保険料とサービスのバランス（妥当性）が分かりづらく答えられない
- 若い世代に負担が大きくならないようにしてもらいたい
- わからない

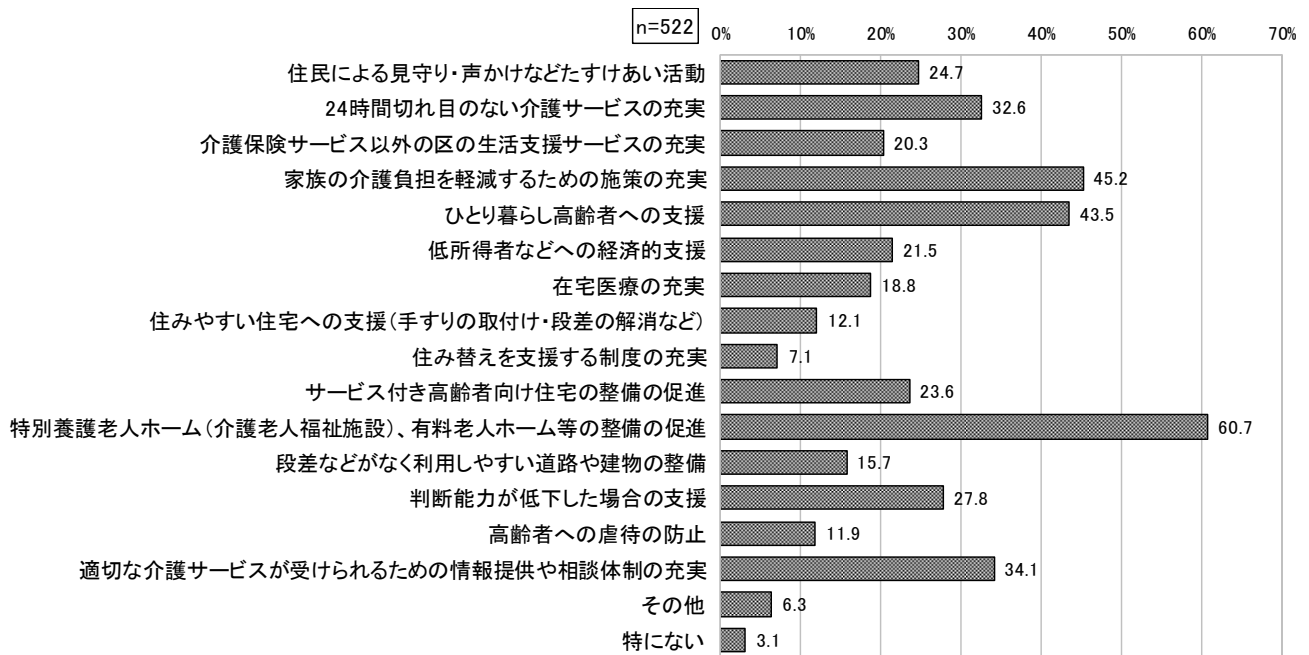
「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」（43.1%）が最も多く、次いで「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」（20.7%）、「どちらともいえない」（20.1%）である。

また、前回調査と比べると、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」は2.4ポイント減り、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」が5.4ポイント増えている。

(3) 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策

問 18 : 住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で中央区が力を入れていくべきものは何だと思いませんか。【複数回答】

●「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備の促進」（60.7%）が最も多い



<その他の回答>

- 介護士がもっと増えるように、待遇の改善を希望
- 介護施設で働く人の大変さを理解し、人数増や給料待遇を良くしてほしい
- 高齢者が低料金で暮らせる施設の整備

「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備の促進」（60.7%）が最も多く、次いで「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」（45.2%）、「ひとり暮らし高齢者への支援」（43.5%）である。

カ 調査の比較【高齢者向け調査】

【調査名及び調査客体】

調査名	調査客体
調査A 高齢者の生活実態調査	区内にお住まいの60歳以上の方【抽出】
調査B 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護認定を受けていない65歳以上の方 (基本チェックリスト該当者※1及び要支援認定者を含む) 【抽出】
調査C 健康づくりと介護予防に関する調査	基本チェックリスト該当者※1及び要支援認定者 (施設サービス利用者※2を除く) 【調査Bで抽出した方を除く全数】
調査D-1 介護保険サービス利用状況等調査 【居宅サービス利用者】	要介護認定を受けている居宅サービス利用者 (施設サービス利用者※2を除く) 【全数】
調査E 介護保険サービス利用状況等調査 【施設サービス利用者】	要支援・要介護認定を受けた都内の施設サービス利用者※2 【全数】

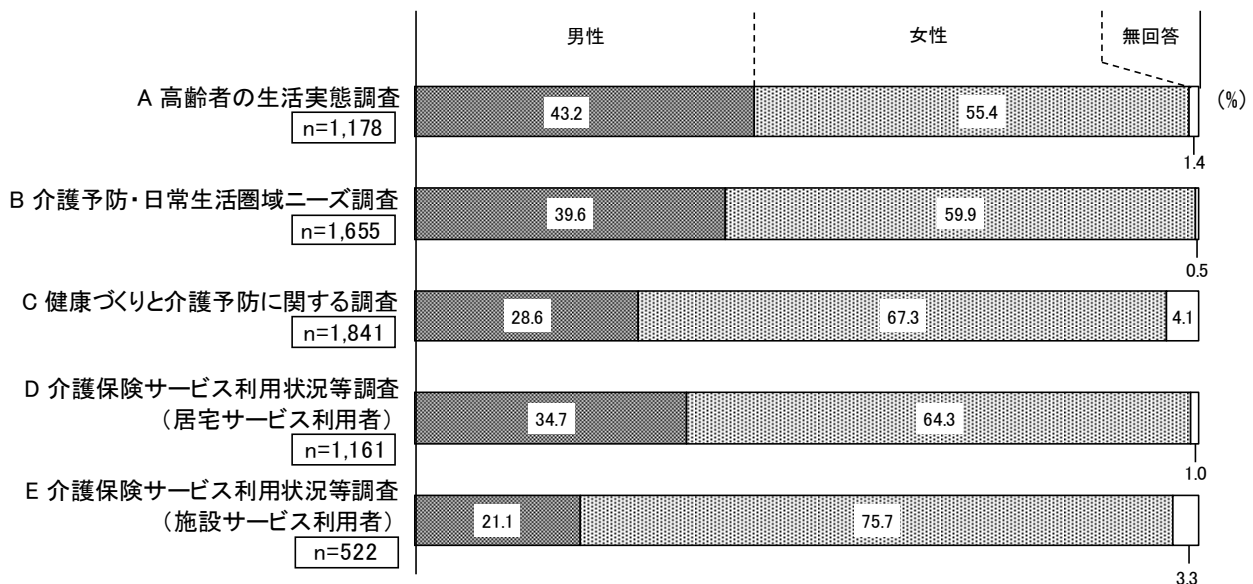
※1 「基本チェックリスト該当者」とは、国が示す生活機能の状態を確認するための「基本チェックリスト」に回答した方で、生活機能に低下が見られた方

※2 「施設サービス利用者」とは、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）、特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）を利用している方

1. 回答者の属性比較

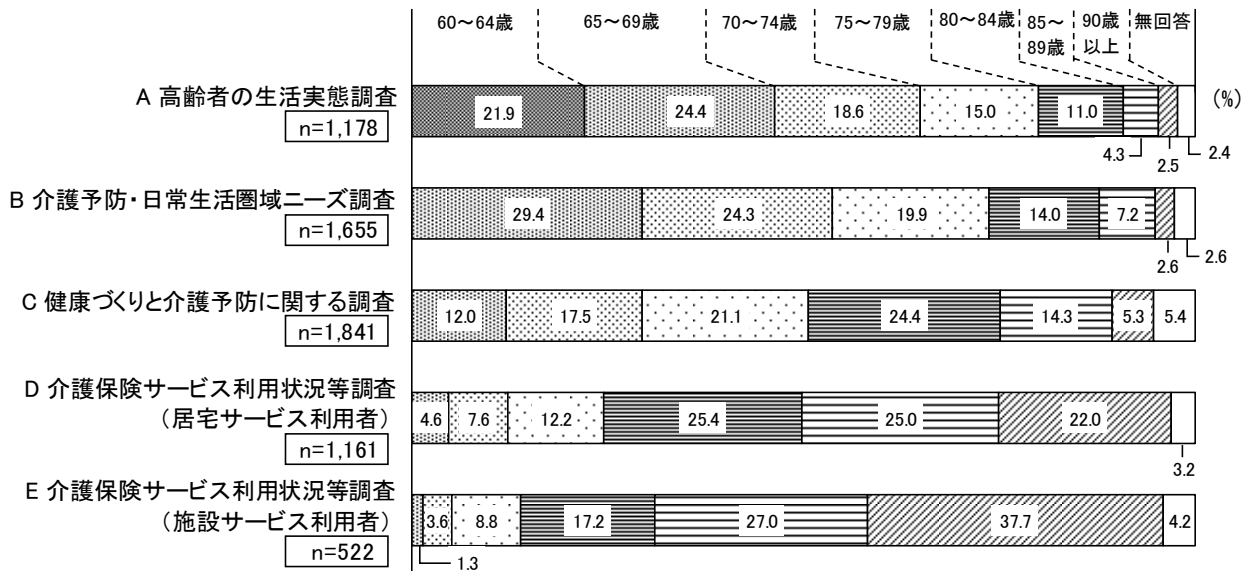
(1) 性別

いずれの調査も女性が男性の割合を上回っている。特に調査Eは75.7%が女性である。



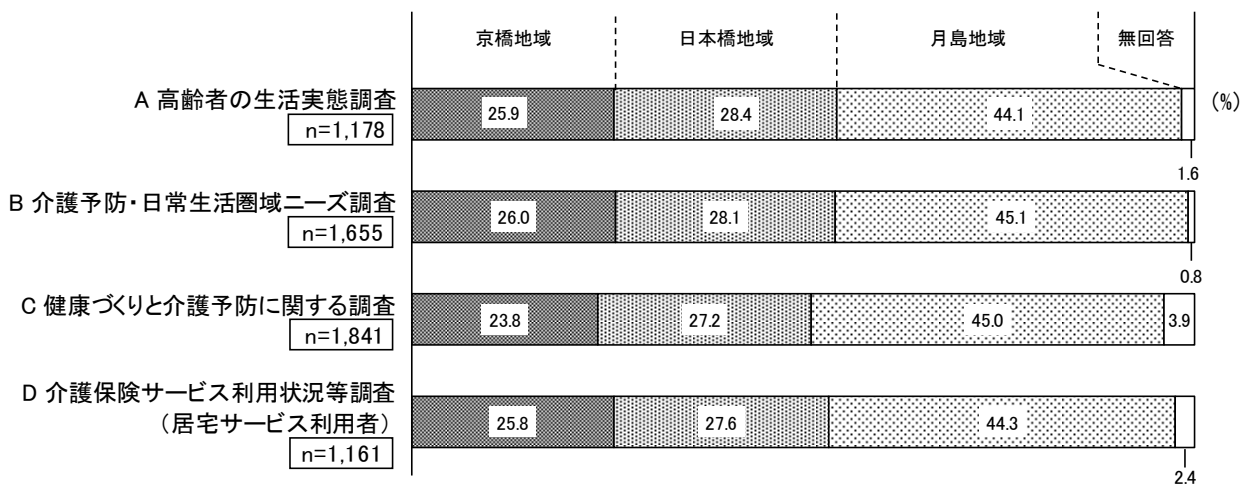
(2) 年齢

調査Aのみが60～64歳の年齢層を調査対象に加えており、60～64歳と65～74歳（前期高齢者）の占める割合が高い。その他の調査は65歳以上が調査対象である。調査Bは65～74歳（前期高齢者）が75歳以上（後期高齢者）をやや上回るのに対し、調査Cは75歳以上が65～74歳を上回り、約7割が後期高齢者である。調査D及び調査Eは介護保険サービスを利用している人が調査対象であるため、後期高齢者が回答者の大半を占める。



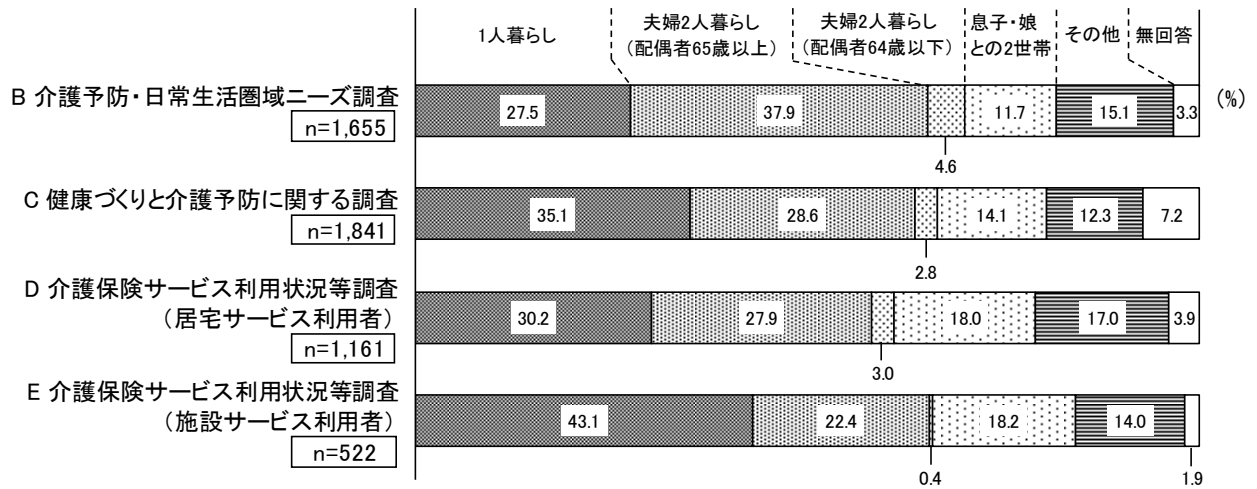
(3) 居住地域

いずれの調査においても構成比に大きな差は見られない。



(4) 家族構成

調査Bは「夫婦2人暮らし」の占める割合が高い。調査Cは「1人暮らし」の占める割合が「夫婦2人暮らし」をやや上回る一方、調査Dは「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし」の割合が同程度である。調査Eは施設に入所する前の家族構成であるが、「1人暮らし」の割合が43.1%である。

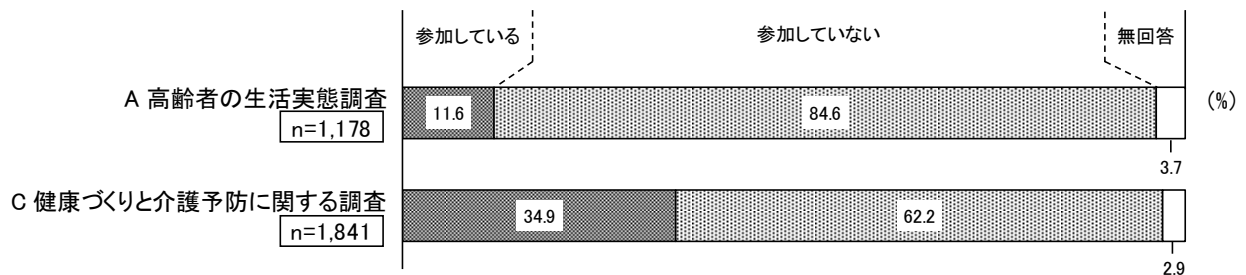


2. 各調査での共通調査項目の比較

(1) 交流サロン・趣味の講座・サークル活動への参加状況

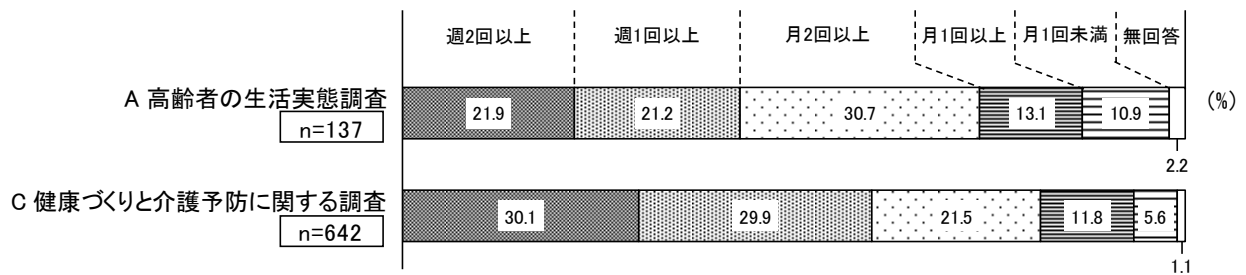
① 参加状況

調査A、調査Cとも「参加していない」の割合が高いが、調査Cは「参加している」が34.9%と、調査Aの約3倍である。



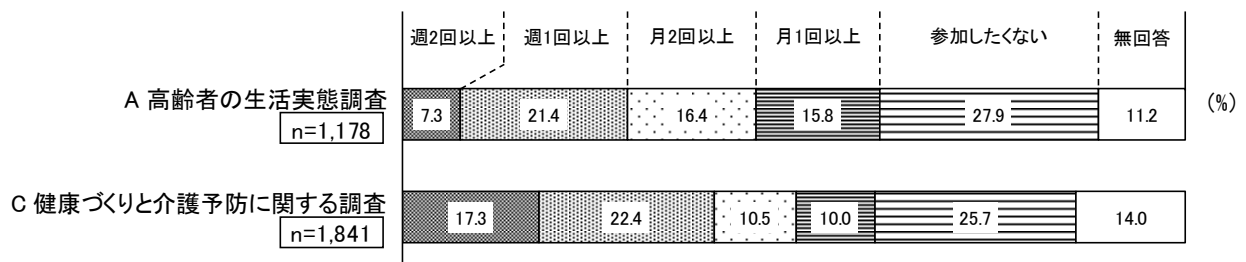
② 参加している人の参加頻度

調査Aは「月2回以上」(30.7%)、調査Cは「週2回以上」(30.1%)が最も多い。



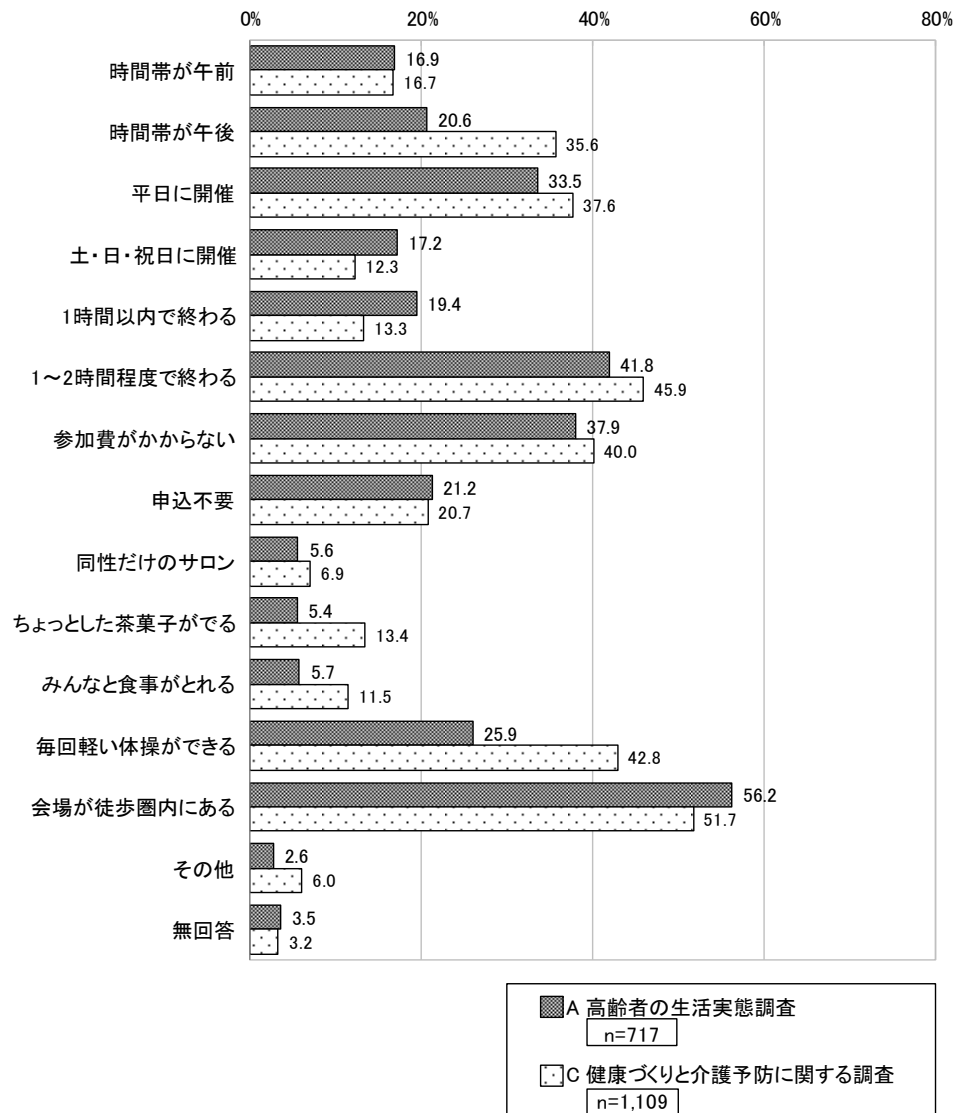
③ 理想の参加頻度

調査A、調査Cともに「週2回以上」～「月1回以上」の参加を希望する割合は6割を超える。



④ 参加条件

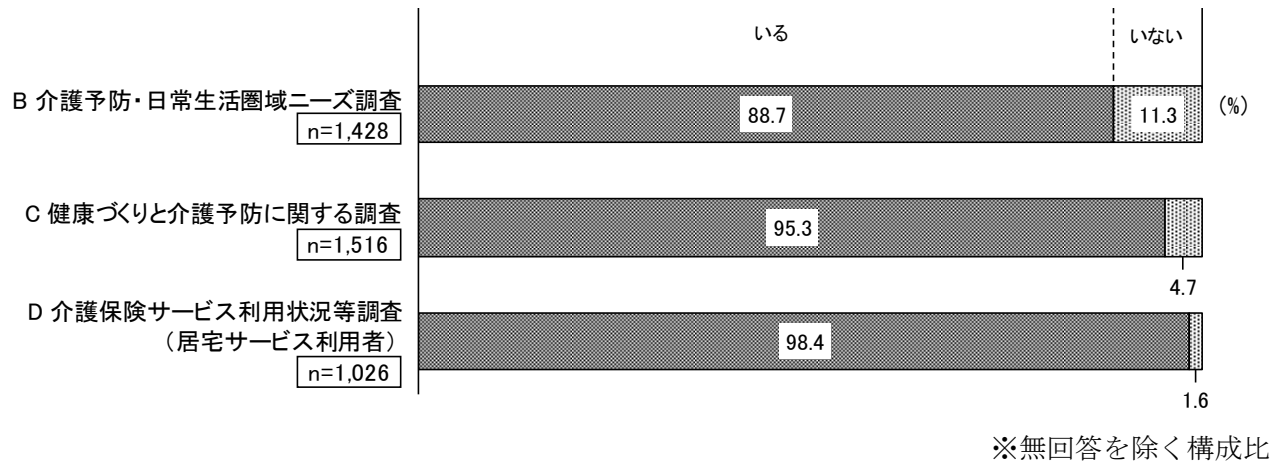
調査A、調査Cともに「会場が徒歩圏内にある」が5割台と最も多く、次いで「1～2時間程度で終わる」が4割台である。



(2) かかりつけ医師等の有無

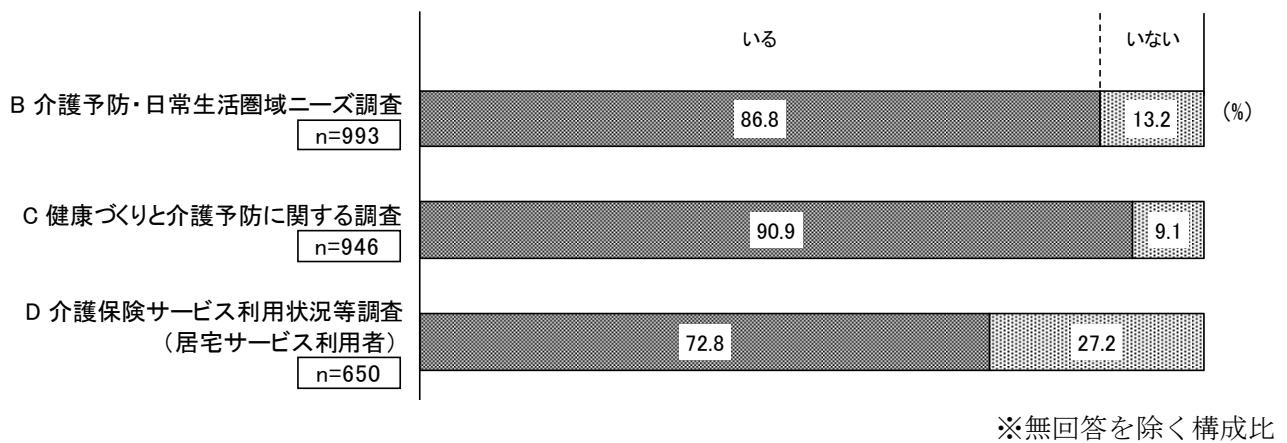
① かかりつけ医師

いずれの調査も「いる」の割合が高く、特に調査C及び調査Dは95%を超えている。



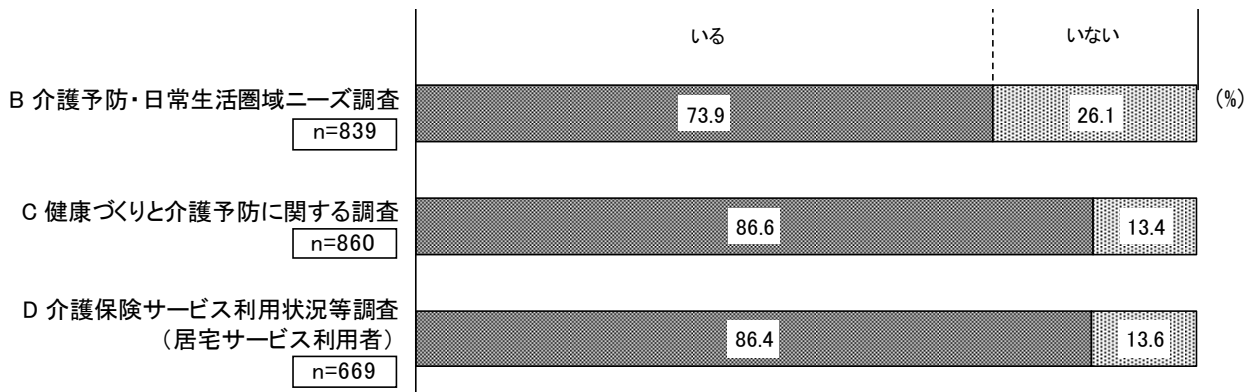
② かかりつけ歯科医師

いずれの調査も「いる」が7割以上で、特に調査Cは90.9%と高い。



③ かかりつけ薬局

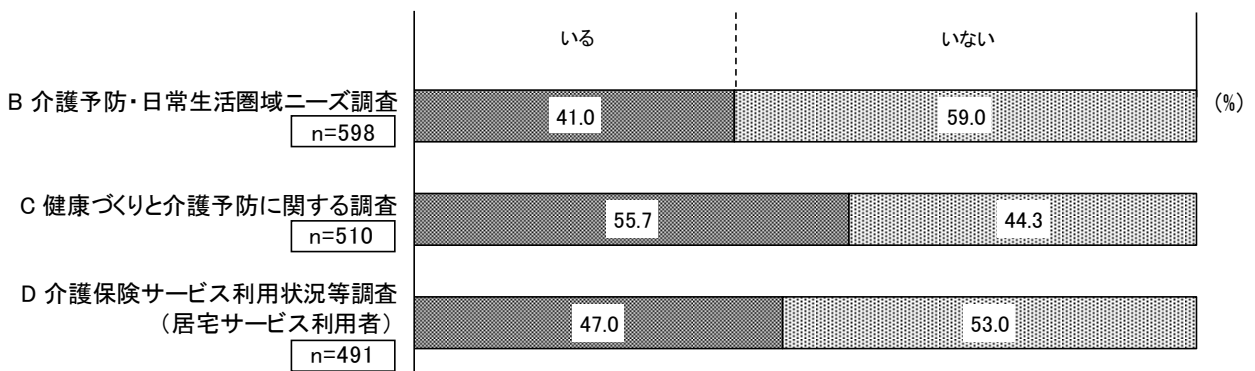
いずれの調査も「いる」が7割以上で、特に調査C及び調査Dは86%程度と高い。



※無回答を除く構成比

④ かかりつけ薬剤師

調査Cは「いる」が55.7%と他の調査に比べてやや高いが、調査B及び調査Dは「いない」が「いる」を上回る。

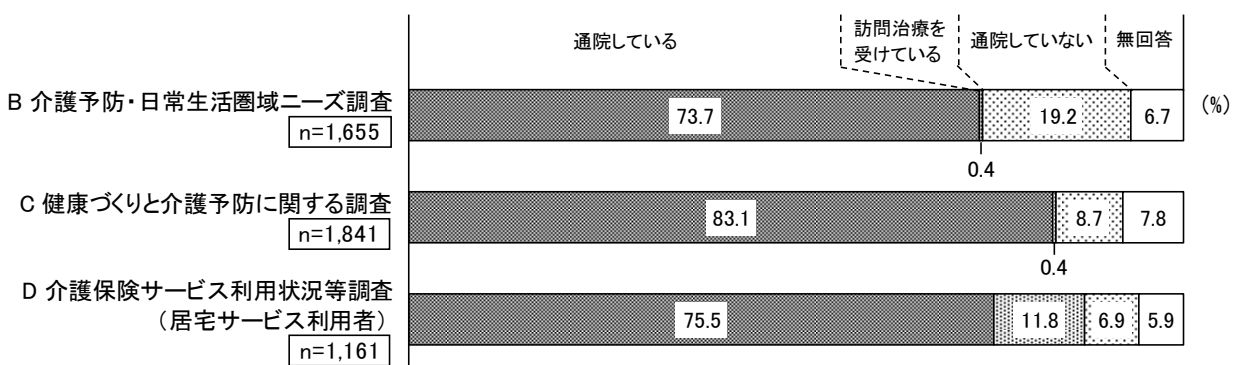


※無回答を除く構成比

(3) 医療機関の受診状況

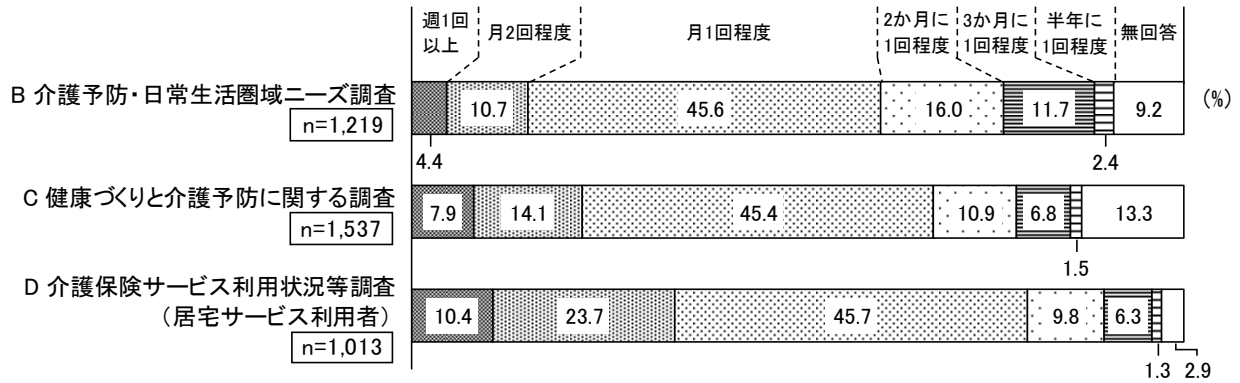
① 受診方法

いずれの調査も「通院している」が7割以上で、特に調査Cは83.1%である。一方、調査Dは、居宅サービスを利用している要介護認定者を調査対象としているため、「訪問診療を受けている」が11.8%と高い。



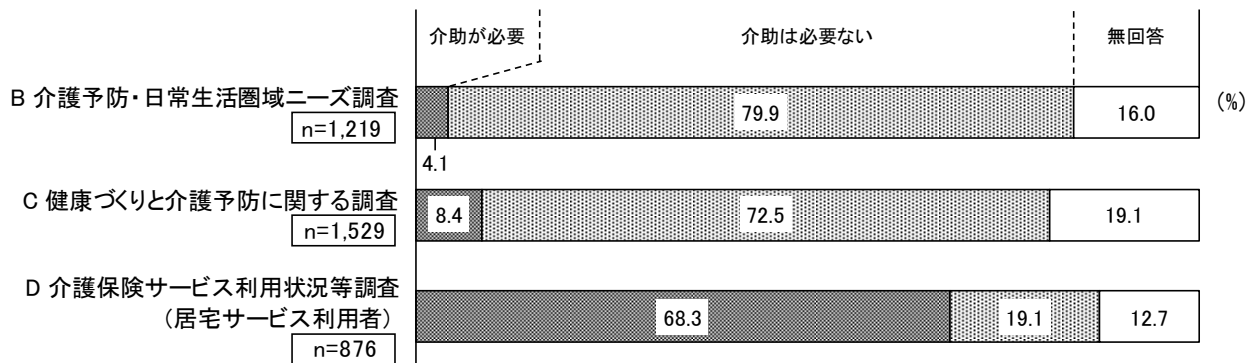
② 受診頻度

いずれの調査も「月1回程度」が45%程度と最も多い。また、調査Dは居宅サービスを利用している要介護認定者を調査対象としているため、「月2回程度」が23.7%で、全体的に受診頻度が高い。



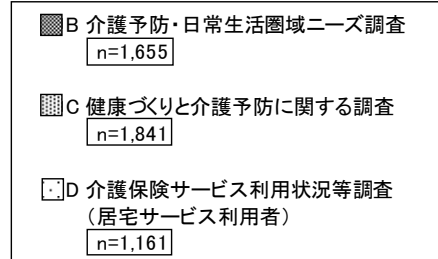
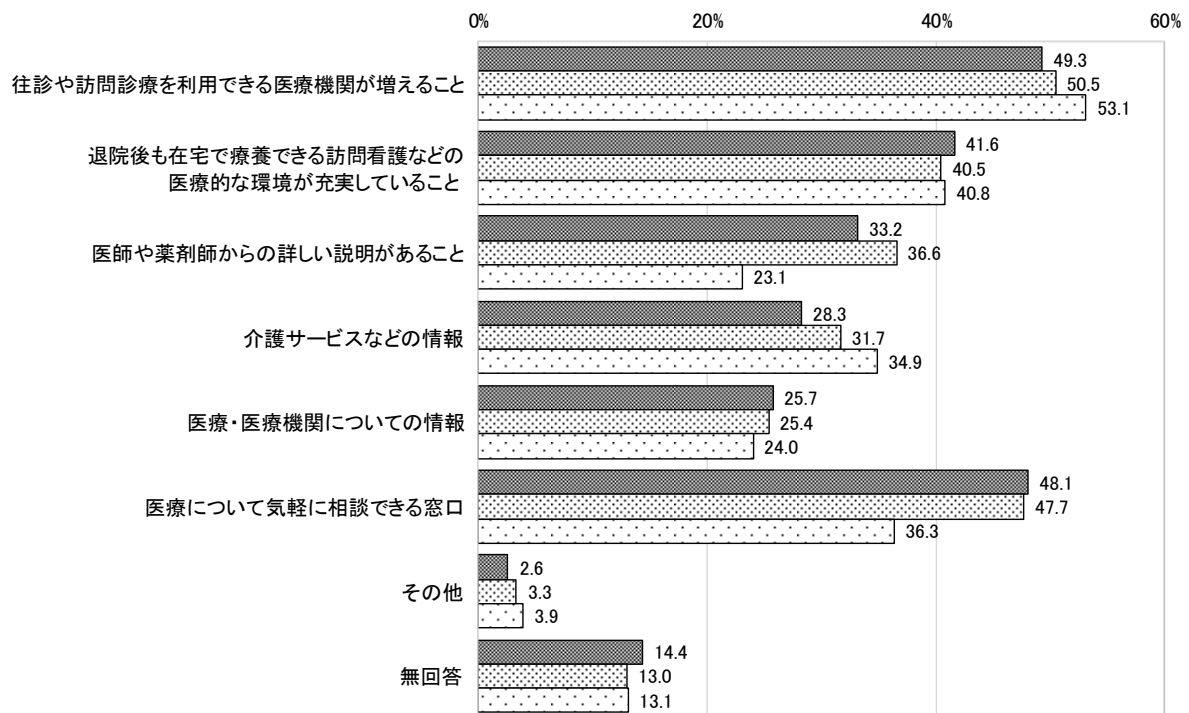
③ 通院時の介助の要否

調査B及び調査Cは「介助は必要ない」が7割以上である。一方、調査Dは居宅サービスを利用している要介護認定者を調査対象としているため、「介助が必要」が68.3%である。



(4) 在宅療養する上であれば良いこと

いずれの調査も「往診や訪問診療を利用できる医療機関が増えること」が最も多く、5割程度である。次いで、調査B及び調査Cは「医療について気軽に相談できる窓口」、調査Dは「退院後も在宅で療養できる訪問看護などの医療的な環境が充実していること」が多い。

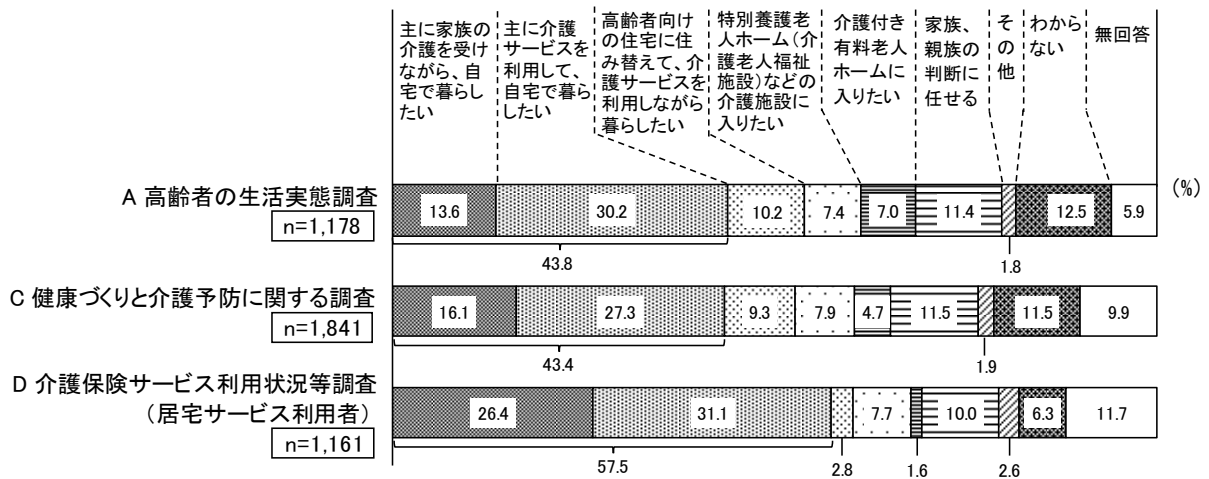


(5) 今後の介護の希望等

① 今後希望する介護

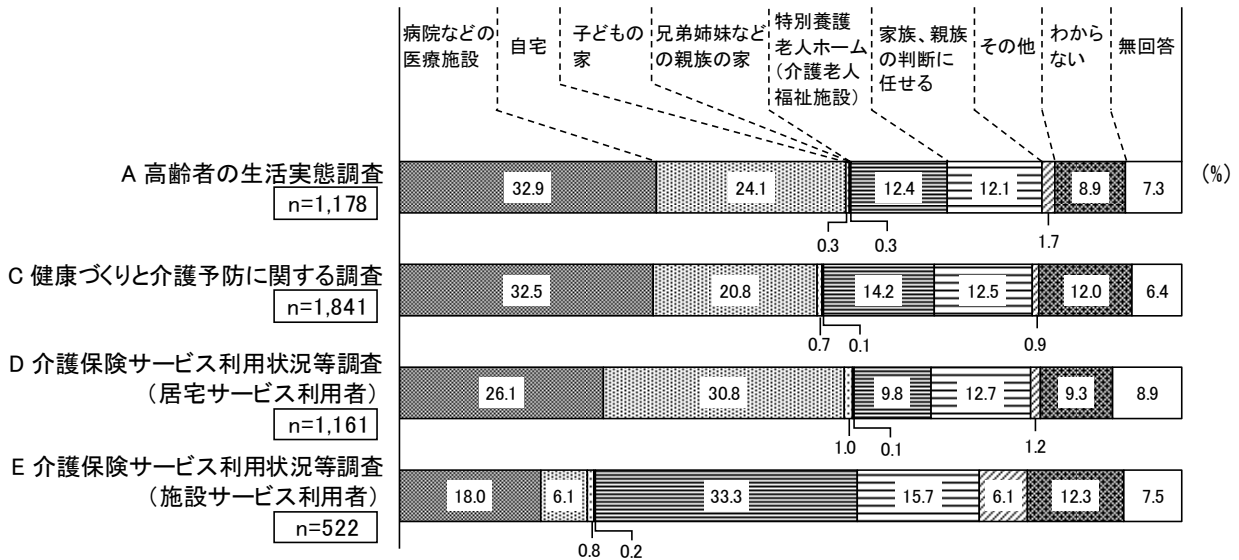
いずれの調査も「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」の割合が3割程度で最も多く、調査Dは「主に家族の介護を受けながら自宅で暮らしたい」が26.4%と他の調査と比べて高い。

調査Aは43.8%、調査Cは43.4%、調査Dは57.5%が、介護が必要になっても自宅で暮らしたいと回答している。



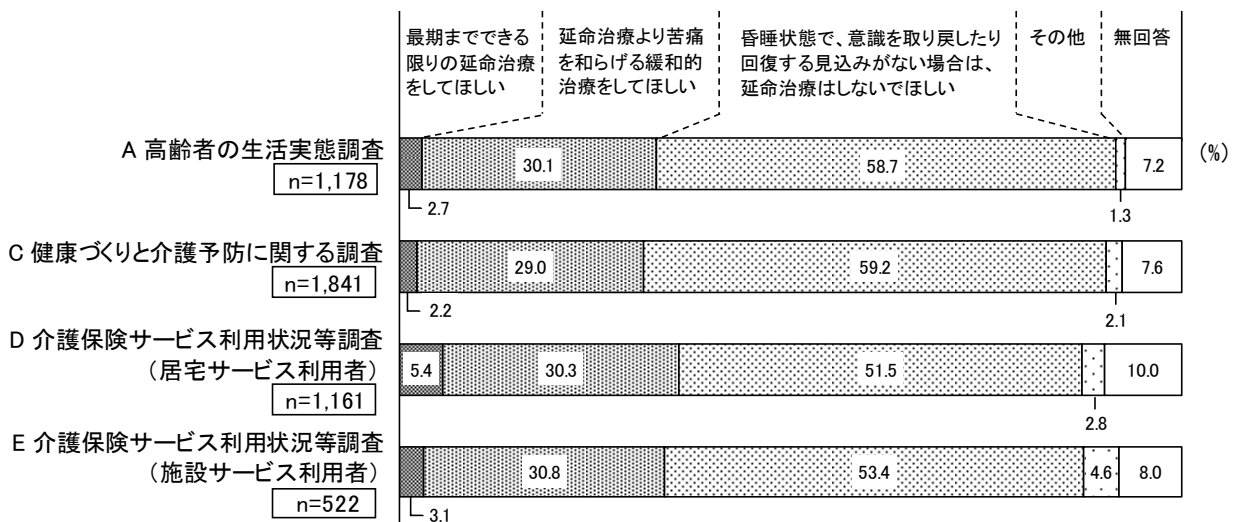
② 終末期に介護を受けたい場所

調査A及び調査Cは「病院などの医療施設」が3割を超えて最も多い。調査Dは「自宅」が、施設サービス利用者を調査対象としている調査Eは「特別養護老人ホーム」が3割を超え最も多い。



③ 延命治療

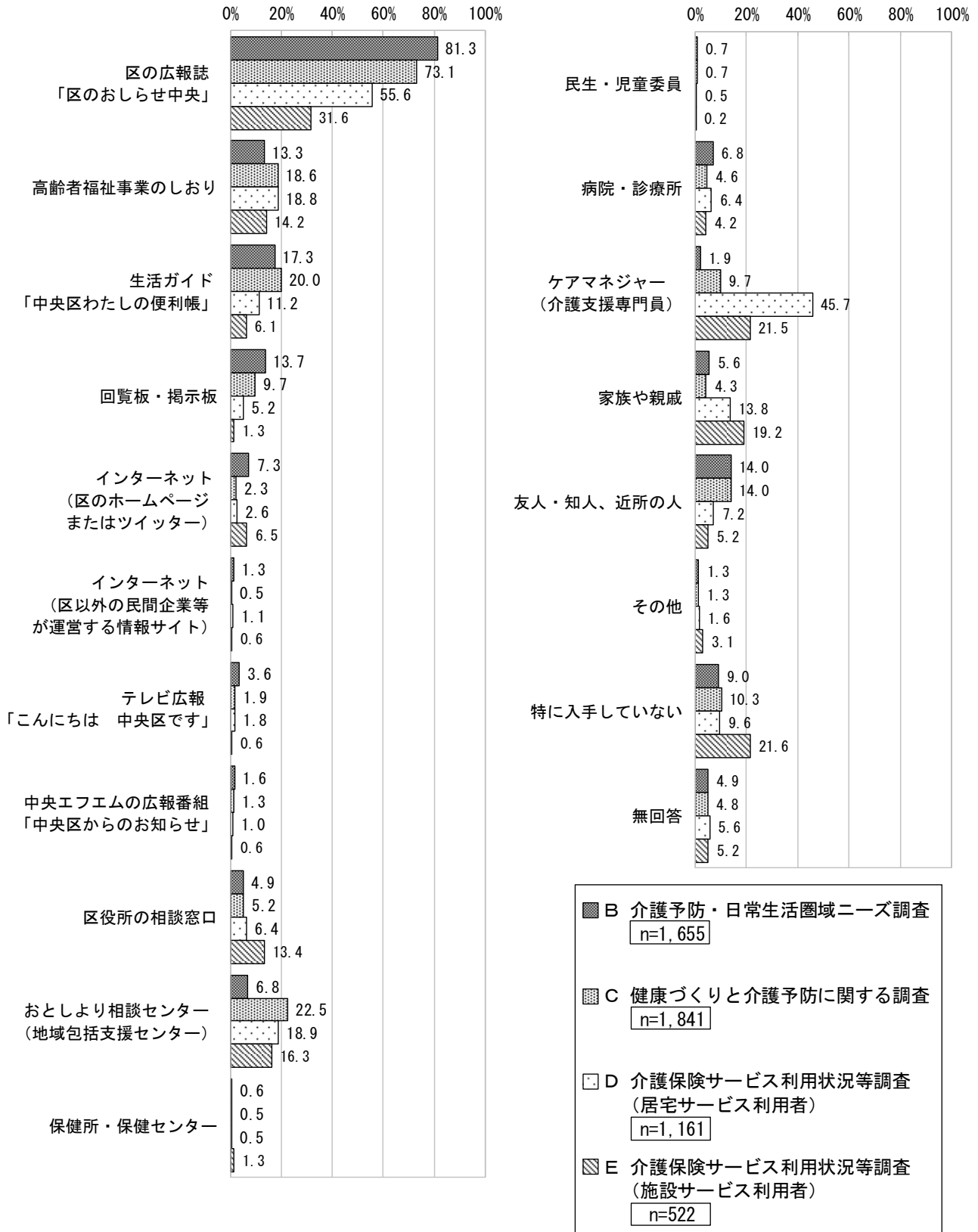
いずれの調査も「昏睡状態で、意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないしてほしい」が5割台で過半数を占める。



(6) 相談や権利擁護

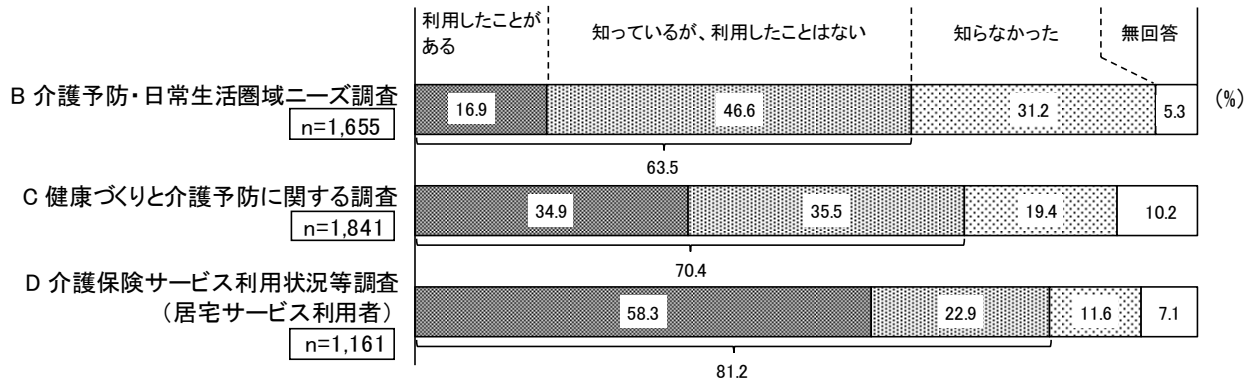
① 区からの情報の入手先

いずれの調査も「区の広報誌」が最も多く、特に調査Bは81.3%である。調査Dは他の調査と比べて「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が45.7%と高い。



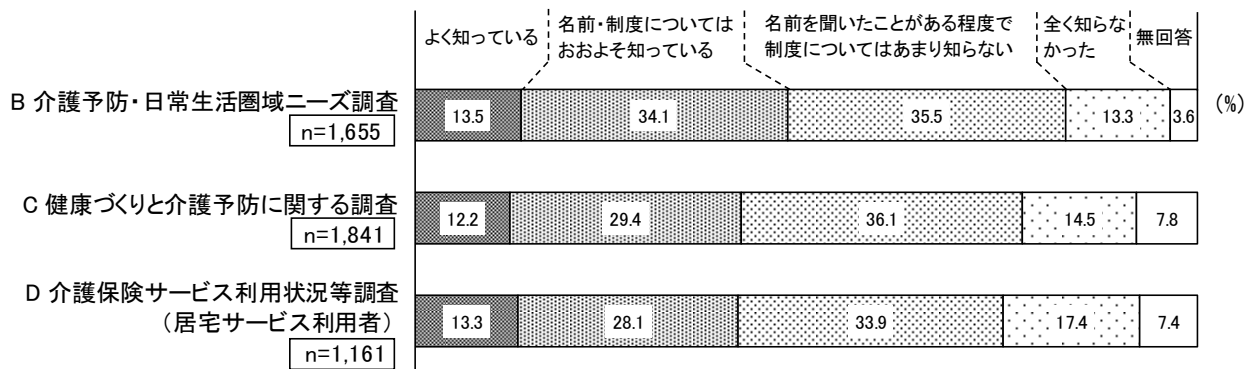
② おとしより相談センターの認知度及び利用状況

認知度は、調査Bが63.5%、調査Cが70.4%、要介護認定者を調査対象としている調査Dは81.2%と高い。また、「利用したことがある」の割合も、調査B(16.9%)、調査C(34.9%)、調査D(58.3%)と順に高い。



③ 成年後見制度の認知度

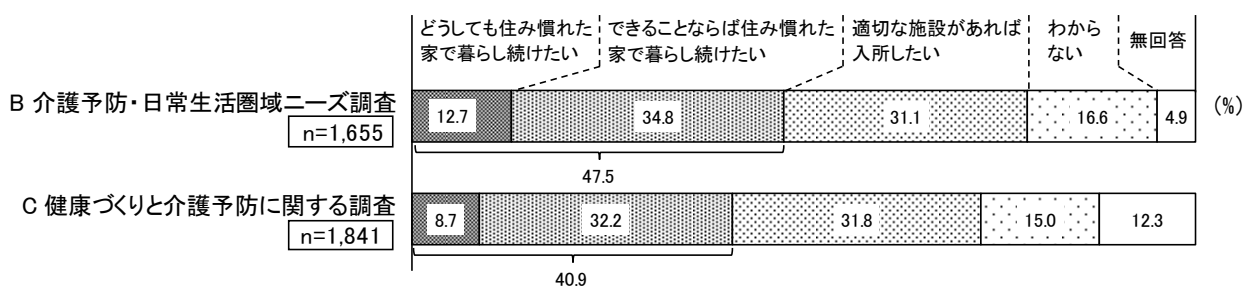
いずれの調査も「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない」が最も高く、次いで「名前・制度についてはおおよそ知っている」となっており、特に調査Bでは34.1%と他の調査と比べて高い。



(7) 認知症

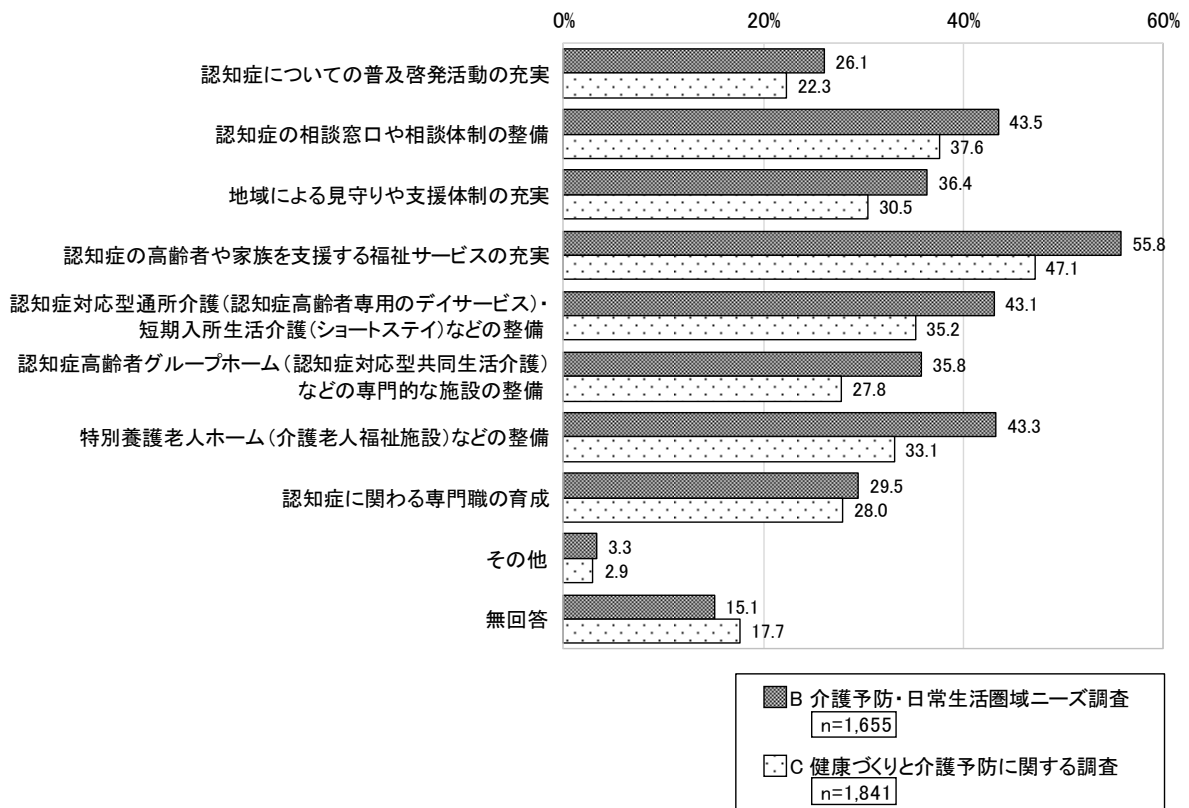
① 在宅生活の継続意向

認知症になっても「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」及び「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」を合わせた、住み慣れた家で暮らし続けたいと回答した人は、調査Bでは47.5%、調査Cでは40.9%である。一方、「適切な施設があれば入所したい」は、ともに3割程度である。



② 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

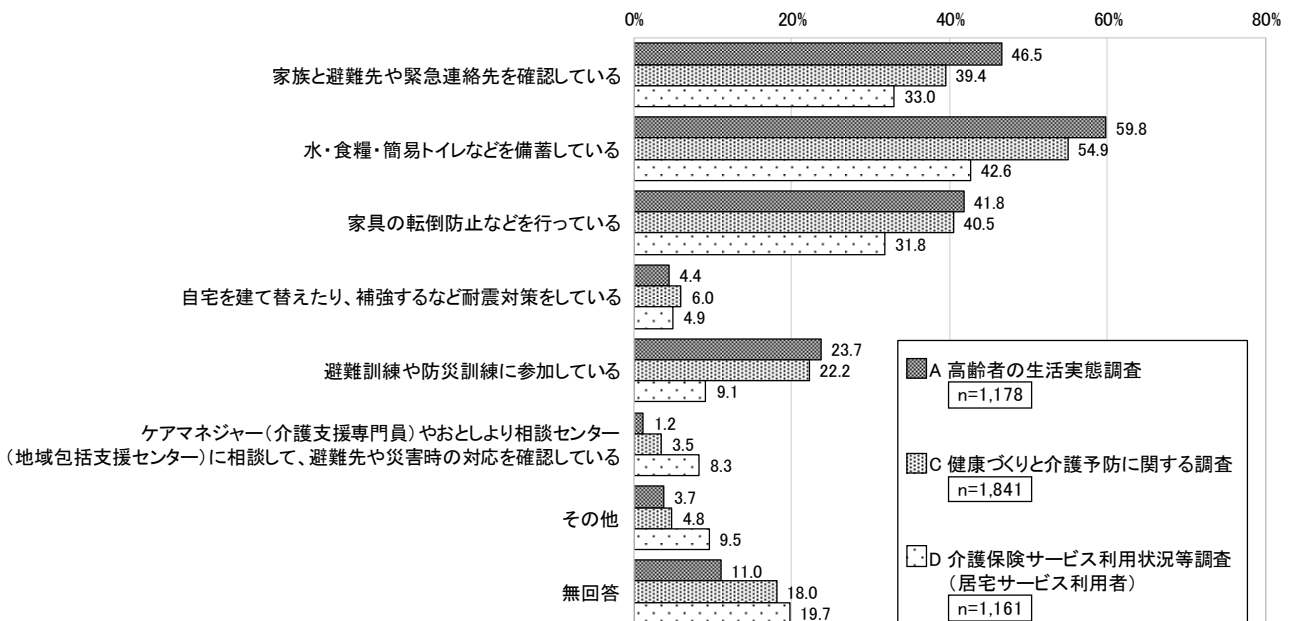
調査B、調査Cともに「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」が最も多く、調査Bでは55.8%、調査Cでは47.1%である。



(8) 災害時の対応

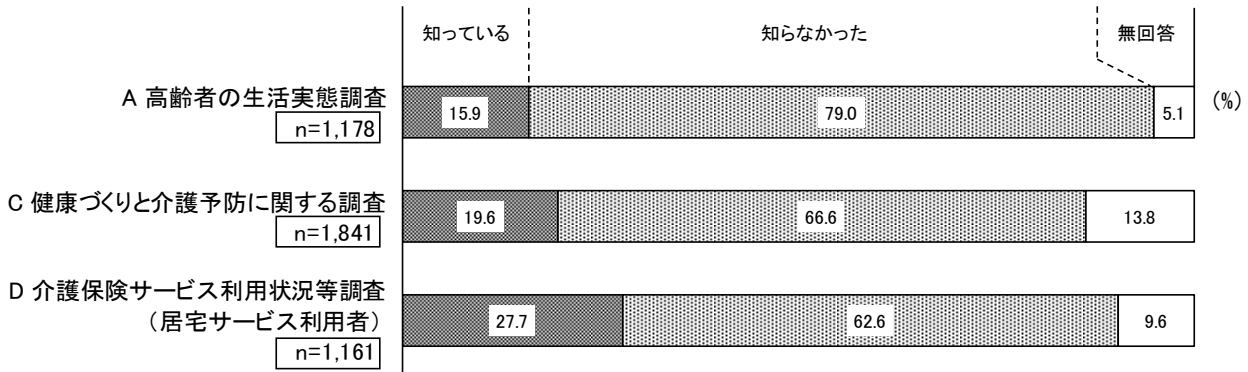
① 災害への備え

いずれの調査も「水・食糧・簡易トイレなどを備蓄している」が最も多く、調査A及び調査Cは5割台である。



② 「中央区災害時地域たすけあい名簿」の認知度

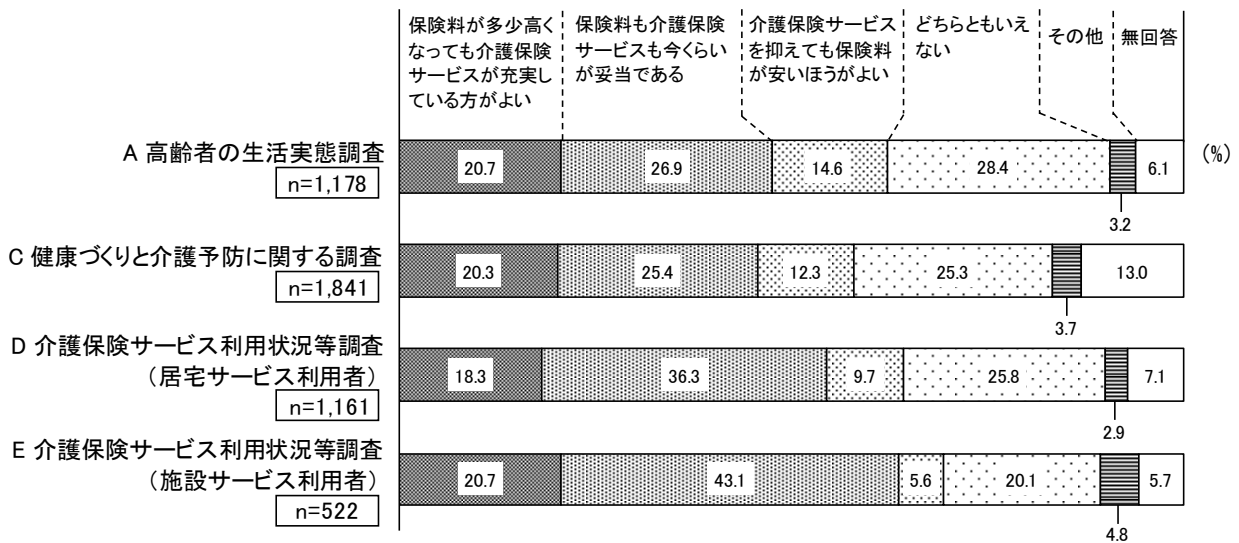
いずれの調査も「知らなかった」が最も多く、6割以上である。調査Dは他の調査と比べて「知っている」(27.7%)の割合が高い。



(9) 今後の高齢者保健福祉施策

① 介護保険サービスと介護保険料のあり方

調査Aは「どちらともいえない」が最も多く、調査C、調査D及び調査Eは「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」が最も多い。また、調査D以外の調査は「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」の回答が2割を超える。



② 今後の高齢者保健福祉施策

いずれの調査も「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」及び「ひとり暮らし高齢者への支援」が4割以上である。また、施設サービス利用者を調査対象としている調査Eは「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、有料老人ホーム等の整備の促進」が60.7%と他の調査と比べて高い。

